

階段1 (内部・直通階段)

構造	RC造
幅員	178.0 cm ≥140cm
蹴上	1-2F 15.8 cm ≤16cm 2-4F 14.8 cm
踏面	28 cm ≥26cm
踊り上り	179.0 cm ≥140cm

両側手すり付H=650

階段2 (内部・直通階段)

構造	RC造
幅員	174.0 cm ≥140cm
蹴上	1-2F 15.8 cm ≤16cm 2-4F 14.8 cm
踏面	28 cm ≥26cm
踊り上り	182.0 cm ≥140cm

両側手すり付H=650

階段3 (内部・直通階段、見違廊下階段エリプ)

構造	S造
幅員	160.0 cm ≥120cm
蹴上	1-2F 15.6 cm ≤20cm
踏面	26 cm ≥24cm
踊り上り	160.0 cm ≥120cm

片側手すり付H=650 手すり幅H=1500

屋外避難階段1

構造	RC造
幅員	100.0 cm ≥90cm
蹴上	1-2F 16.0 cm ≤16cm 2-4F 15.8 cm
踏面	26 cm ≥26cm
踊り上り	100.0 cm ≥90cm

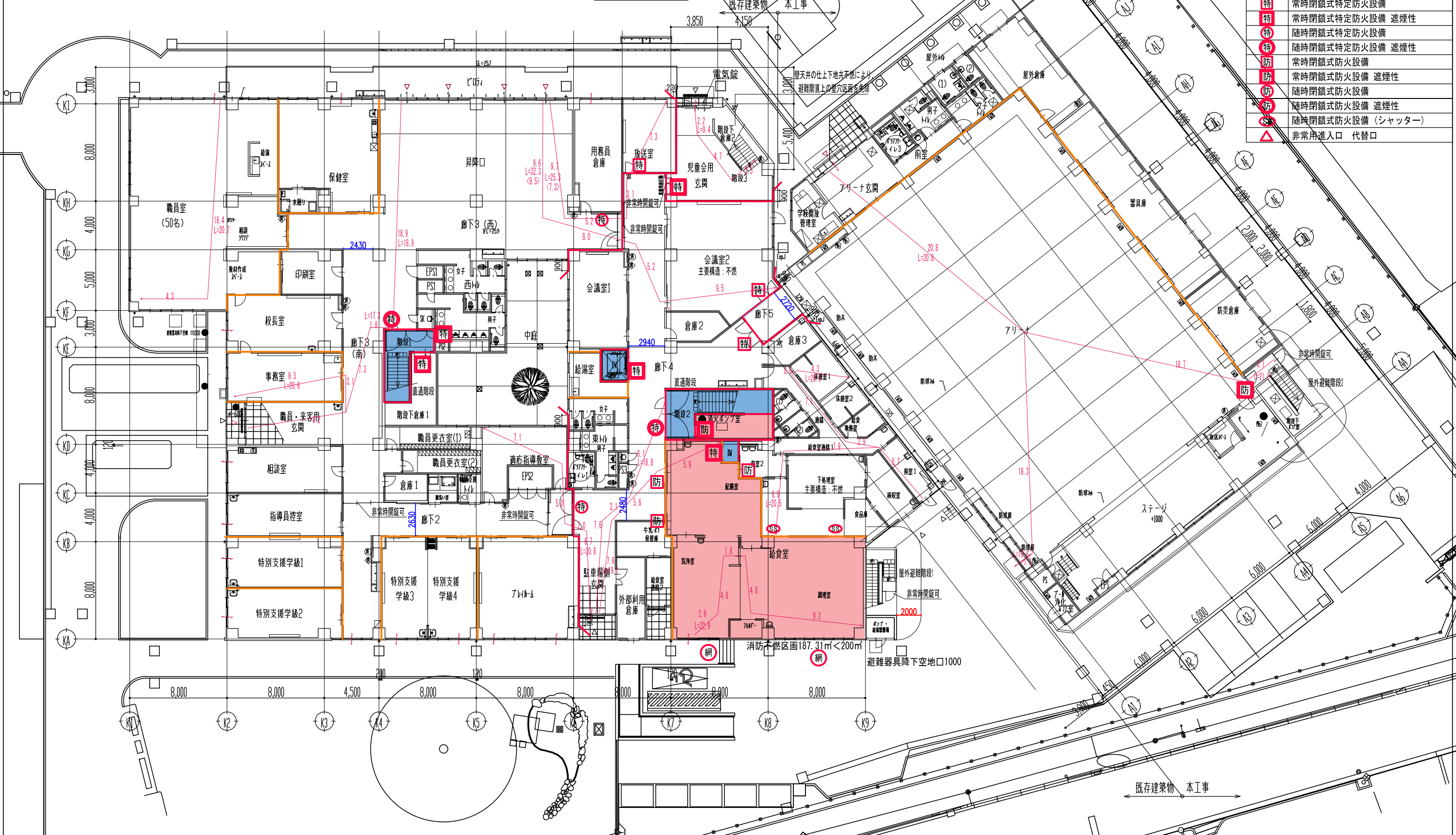
片側手すり付H=1250、踏み面幅は相前

屋外避難階段2

構造	RC造
幅員	119.0 cm ≥90cm
蹴上	1-2F 15.0 cm ≤16cm 2-4F 14.8 cm
踏面	26 cm ≥26cm
踊り上り	120.0 cm ≥90cm

片側手すり付H=1250、踏み面幅は相前

	防火区画 (面積区画)
	防火区画 (堅穴区画・面積区画兼用)
	令114条防火上主要な間仕切り
	不燃区画 (火災予防条例)
	防煙区画
	防煙区画 (垂壁)
	防火設備 (法第2号第9号二口)
	常時閉鎖式特定防火設備
	常時閉鎖式特定防火設備 遮煙性
	随時閉鎖式特定防火設備
	随時閉鎖式特定防火設備 遮煙性
	常時閉鎖式防火設備
	常時閉鎖式防火設備 遮煙性
	随時閉鎖式防火設備
	随時閉鎖式防火設備 遮煙性
	随時閉鎖式防火設備 (シャッター)
	非常用出入口 代替口



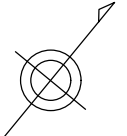
居室の各部分から直通階段までの歩行距離：主要構造部が準耐火構造以上のため、50m以下 (重複距離25.0m以下)
 ○○ 各部分距離 (m)
 ○L=○○/○○ 総長 (重複) (m) (各距離は小数点第二位を繰上り)

⑧：屋内消火栓 ⑨：消火器 ⑩：連絡送水管放水口

株式会社教育施設研究所

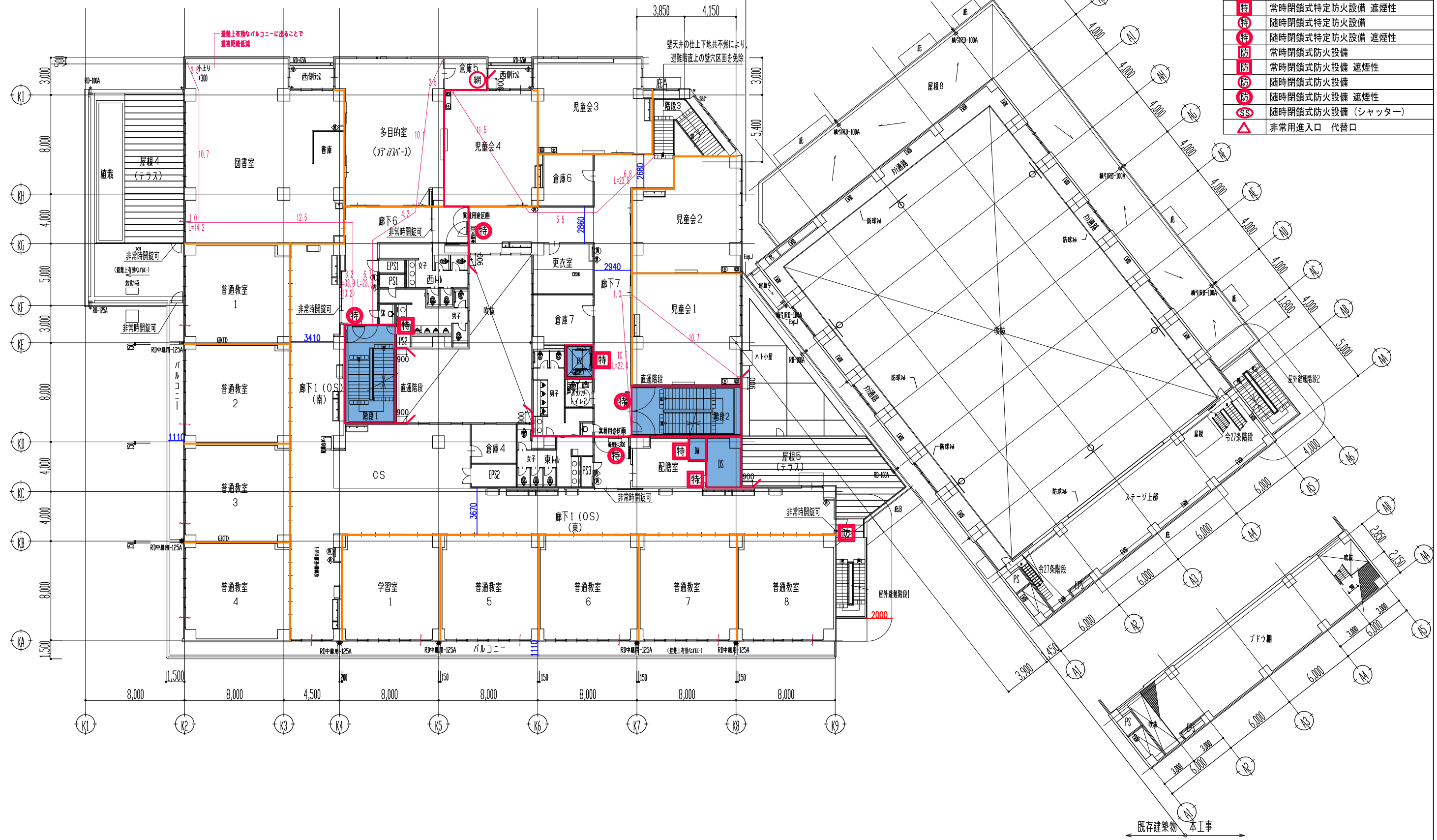
一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
 一級建築士大臣登録 第316710号 宮本 弘毅
 一級建築士大臣登録 第363004号 木戸 直規

工事名称 大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
 【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】
 DATE '22-04-
 DRAWING NO. D-080
 SCALE A1: 1:150 A3: 1:300
 法チェック図 (1)



既存建築物 本工事

	防火区画 (面積区画)
	防火区画 (縦穴区画・面積区画兼用)
	令114条防火上主要な間仕切り
	不燃区画 (火災予防条例)
	防煙区画
	防煙区画 (垂壁)
	防火設備 (法第2号第9号二口)
	常時閉鎖式特定防火設備
	常時閉鎖式特定防火設備 遮煙性
	随時閉鎖式特定防火設備
	随時閉鎖式特定防火設備 遮煙性
	常時閉鎖式防火設備
	常時閉鎖式防火設備 遮煙性
	随時閉鎖式防火設備
	随時閉鎖式防火設備 遮煙性
	随時閉鎖式防火設備 (シャッター)
	非常用出入口 代替口



居室の各部分から直通階段までの歩行距離：主要構造部が準耐火構造以上のため、50m以下 (重複距離25.0m以下)
 ○○ 各線分距離 (m)
 ○○○○ 各距離は小数点第二位を繰り上げ (各距離は小数点第二位を繰り上げ)
 L=○○○○ 総長 (重複) (m)

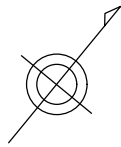
⊙：屋内消火栓 ⊕：消火器 ⊕：連結放水管放水口

株式会社 教育施設研究所

ARCHITECT & OFFICE BRANCH APPR. BY CHKD. BY
 東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
 株式会社 教育施設研究所
 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

工事名称
 大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
 【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】
 DATE '22.04.
 DRAWING NO. D-081
 SCALE A1: 1:150 A3: 1:300
 法チェック図 (2)

一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
 一級建築士大臣登録 第316710号 宮本 弘毅
 一級建築士大臣登録 第363004号 木戸 直規



既存建築物 本工事



	防火区画 (面積区画)
	防火区画 (縦穴区画・面積区画兼用)
	令114条防火上主要な間仕切り
	不燃区画 (火災予防条例)
	防煙区画
	防煙区画 (垂壁)
	防火設備 (法第2号第9号二口)
	常時閉鎖式特定防火設備
	常時閉鎖式特定防火設備 遮煙性
	随時閉鎖式特定防火設備
	随時閉鎖式特定防火設備 遮煙性
	常時閉鎖式防火設備
	常時閉鎖式防火設備 遮煙性
	随時閉鎖式防火設備
	随時閉鎖式防火設備 遮煙性
	随時閉鎖式防火設備 (シャッター)
	非常用進入口 代替口

既存建築物 本工事

居室の各部分から直通階段までの歩行距離：主要構造部が準耐火構造以上のため、50m以下 (重複距離25.0m以下)
 ○○ 各線分距離 (m)
 ○○○○ 各距離は小数点第二位を繰り上げ (各距離は小数点第二位を繰り上げ)

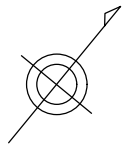
Ⓜ：屋内消火栓 Ⓜ：消火器 Ⓜ：連絡送水管理水口

株式会社 教育施設研究所

ARCHITECT & OFFICE BRANCH APPR. BY CHKD. BY
 東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
 株式会社 教育施設研究所
 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

工事名称
 大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
 【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】
 DATE '22-04-
 DRAWING NO. D-082
 SCALE A1: 1:150 A3: 1:300
 DRAWING TITLE 法チェック図 (3)

一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
 一級建築士大臣登録 第316710号 宮本 弘毅
 一級建築士大臣登録 第363004号 木戸 直規



既存建築物 本工事

既存建築物 本工事

	防火区画 (面積区画)
	防火区画 (縦穴区画・面積区画兼用)
	令114条防火上主要な間仕切り
	不燃区画 (火災予防条例)
	防煙区画
	防煙区画 (垂壁)
	防火設備 (法第2号第9号二 口)
	常時閉鎖式特定防火設備
	常時閉鎖式特定防火設備 遮煙性
	随時閉鎖式特定防火設備
	随時閉鎖式特定防火設備 遮煙性
	常時閉鎖式防火設備
	常時閉鎖式防火設備 遮煙性
	随時閉鎖式防火設備
	随時閉鎖式防火設備 遮煙性
	随時閉鎖式防火設備 (シャッター)
	非常用進入口 代替口



居室の各部分から直通階段までの歩行距離：主要構造部が準耐火構造以上のため、50m以下 (重複距離25.0m以下)

○ 各部分距離 (m)
○ 各距離は小数点第二位を繰上げ

千葉県建築基準法施行条例 第十二条 (四階以上に設ける教室等の禁止) より、4階の各教室から直通階段までの距離：30m以下
4階の普通教室は5・6年生のみが活用

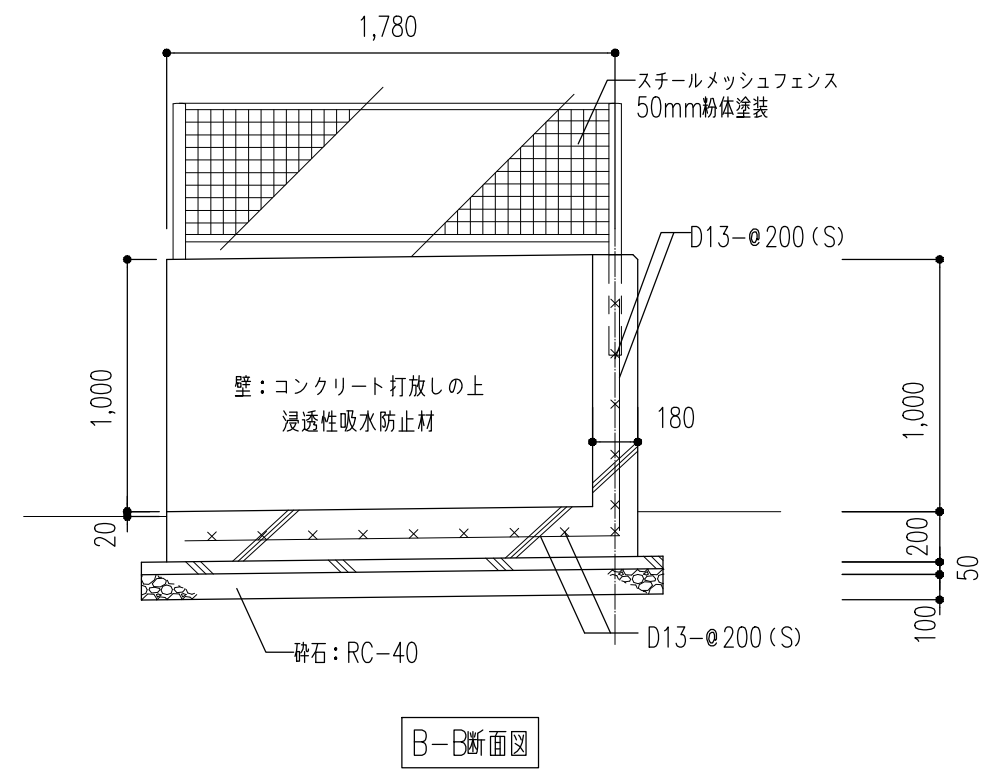
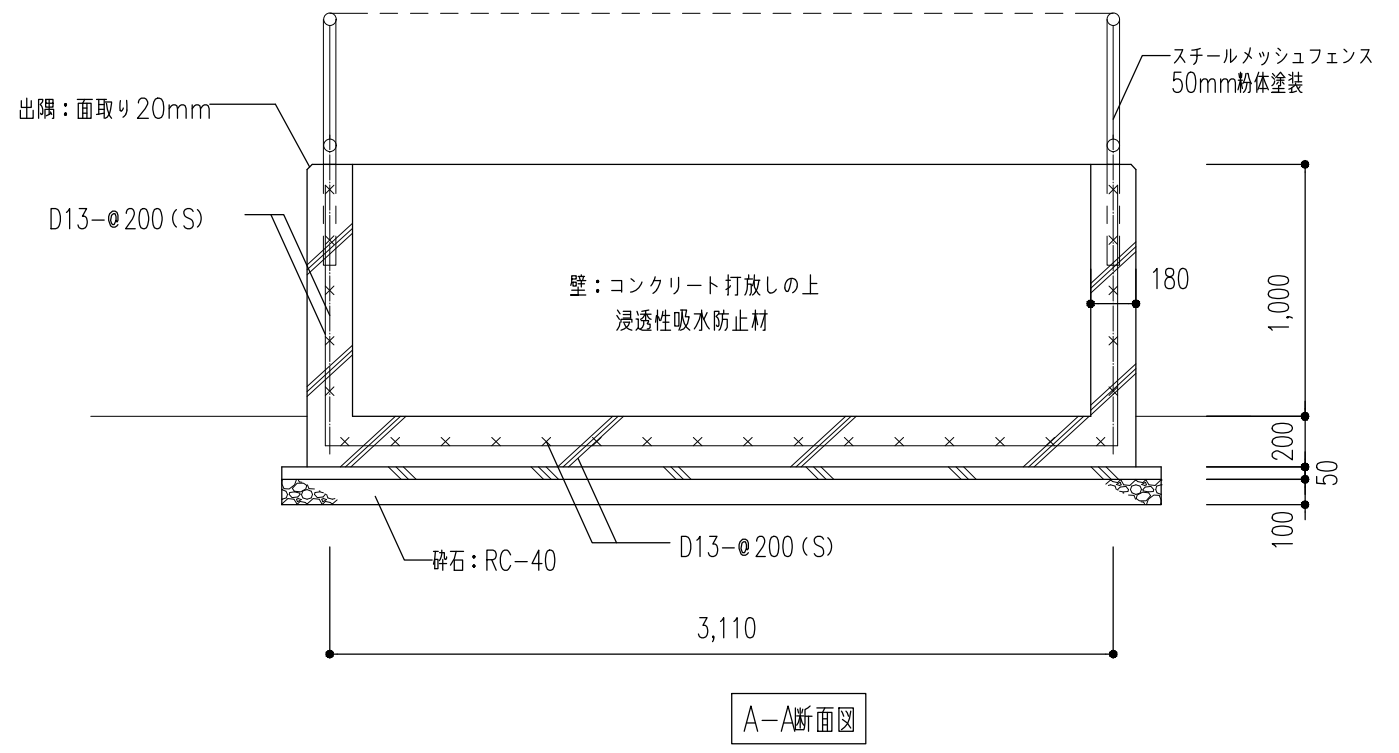
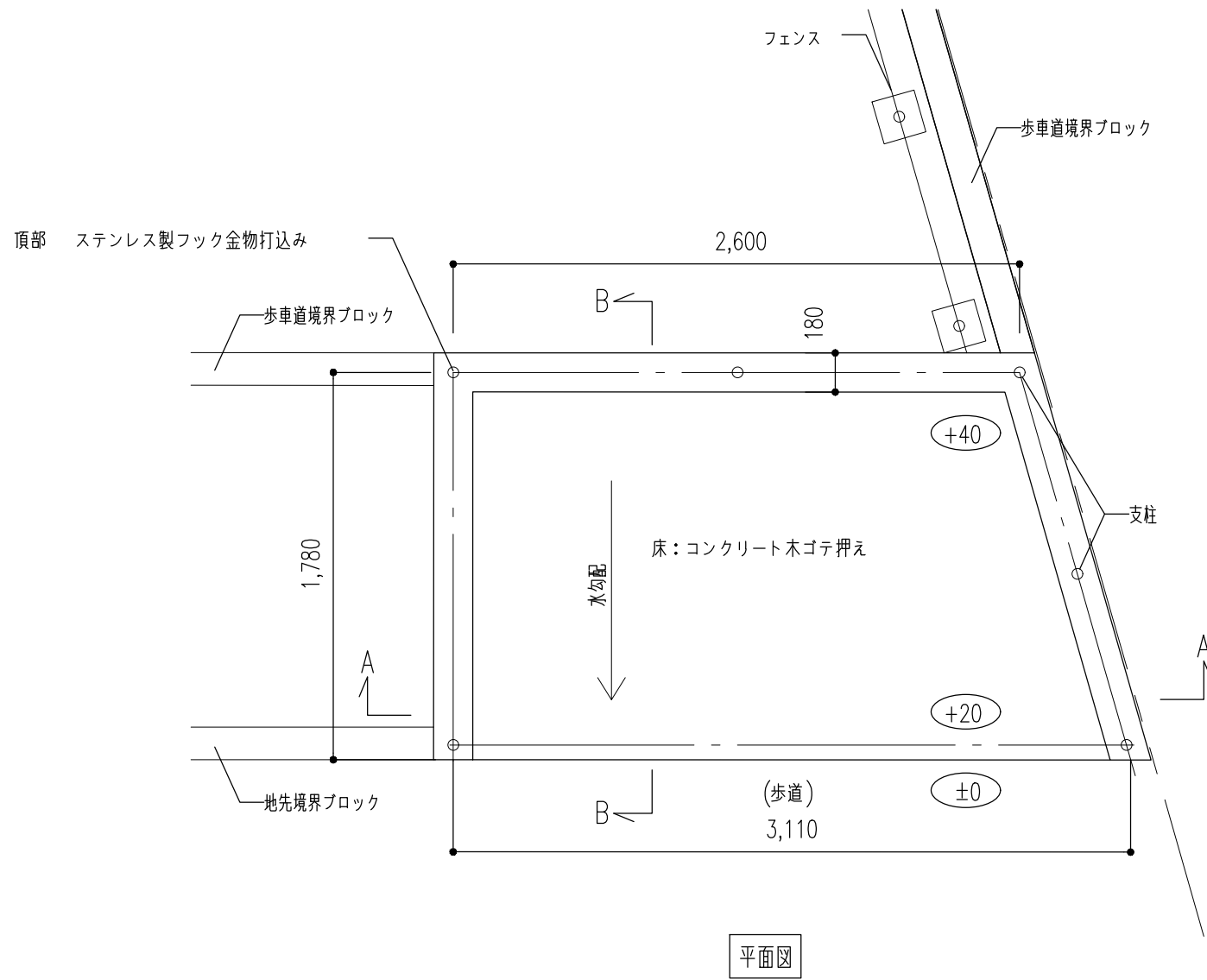
●：屋内消火栓 ●：消火器 ●：連絡送水管取水口

株式会社 教育施設研究所

ARCHITECT & OFFICE BRANCH APPR. BY CHKD. BY
東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
株式会社 教育施設研究所
一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

工事名称	大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事) 【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】	DATE	'22-04-
DRAWING TITLE	法チェック図 (4)	SCALE	A1: 1:150 A3: 1:300
DRAWING NO.	D-083		

一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
一級建築士大臣登録 第316710号 宮本 弘毅
一級建築士大臣登録 第363004号 木戸 直規

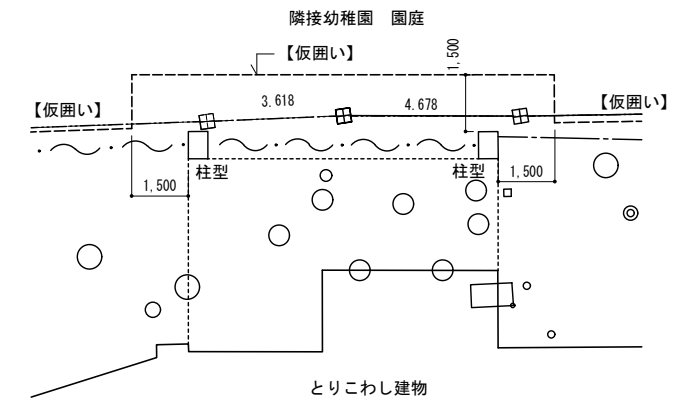


鉄筋SD-295A	株式会社 教育施設研究所	工事名称	DATE
普通コンクリート FC=18N/mm ²		大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事) 【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】	'22-04-
スランブ 15cm	ARCHITECT & OFFICE BRANCH APPR. BY CHKD. BY	DRAWING TITLE	SCALE
	一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦 一級建築士大臣登録 第316710号 宮本 弘毅 一級建築士大臣登録 第363004号 木戸 直規	地域ゴミ置場2詳細図	A1: 1:15 A3: 1:30
	東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号 株式会社 教育施設研究所 一級建築士事務所 東京都知事登録第4894号	DRAWING NO.	D-085

2025年1月上旬～4月下旬

凡例

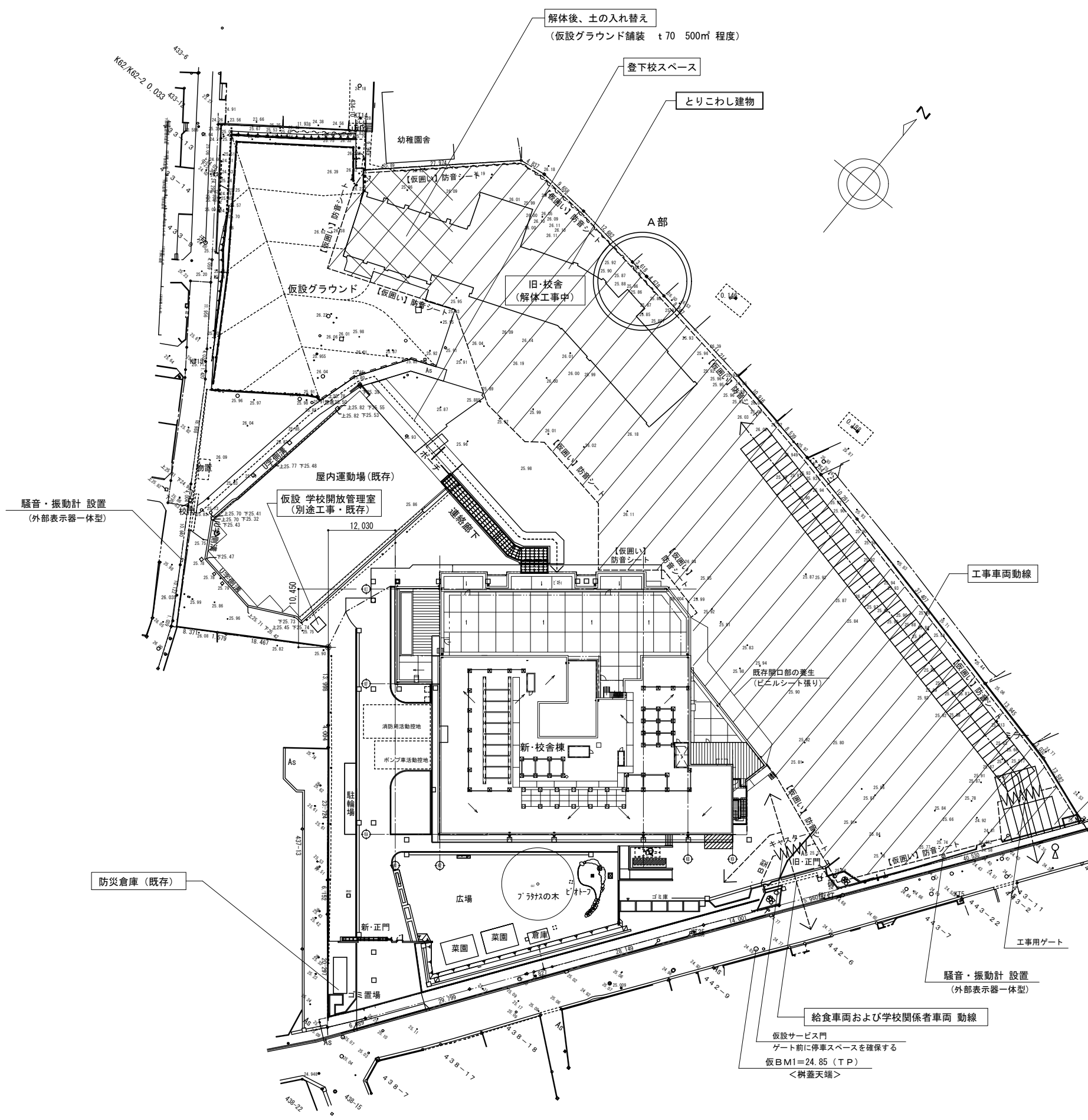
記号	内容	計画数量
	工事範囲	
	シートゲート W6.0m * H4.5m	1箇所
	キャストゲート W6.0m * H1.8m	1箇所
	仮囲い 成形鋼板 H=3.0m +防音シート H=4.0m	387m
	B型 仮囲い ガードフェンス H1.8m	79m
	枠組本足場W900+防音パネル	適宜
	仮設グラウンド舗装 t70 (土の入れ替え共)	500m ² 程度
	鉄板敷き (5×20 厚22) <適宜 盛替え>	63枚
	交通誘導員 (状況により適宜 移動及び増員)	1人
	工事車両動線	
	給食車両動線	
	児童動線	



A部拡大図 1/100

仮設ゴミ置場
(新設ゴミ置場が完成するまでは、
施工者にて仮設ゴミ置場を用意すること)

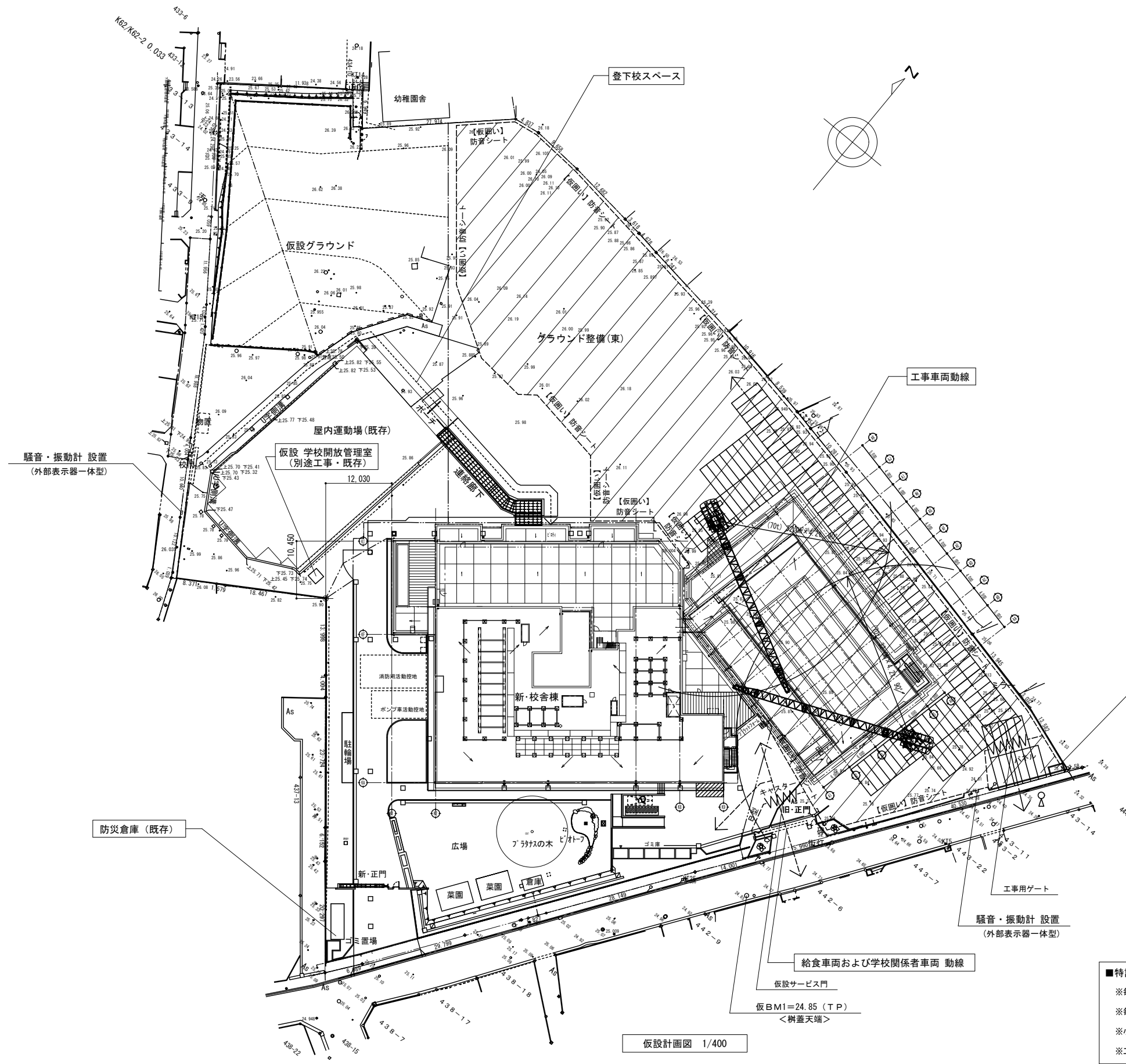
■特記事項
 ※毎年2月上旬～5月下旬は、市内陸上大会のための練習スペース(直線走路60m+予備10m)を確保すること。
 ※毎年5月上旬～11月下旬は、吹奏楽部によるマーチングの練習スペース(30m四方)を確保すること。
 ※小学校敷地内の運動スペースについて、どの時期においても可能な限り広く確保できるよう努めること。
 ※工事期間を通して、敷地西側からの登下校スペースを常時確保すること。



2025年5月～7月

凡例

記号	内容	計画数量
	工事範囲	
	パネルゲート W7.2m * H4.5m	1箇所
	キャスターゲート W6.0m * H1.8m	1箇所
	仮囲い 成形鋼板 H=3.0m +防音シート H=4.0m	352m
	枠組本足場W900+防音パネル	適宜
	鉄板敷き (5ft x 20ft 厚22) <適宜 盛替え>	109枚
	交通誘導員 (状況により適宜 移動及び増員)	1人
	工事車両動線	
	給食車両および学校関係者車両 動線	
	児童動線	
	山留: 親杭 H=300X300 @1,200、L=8,000 矢板 t=40mm ※山留内側: セメント系地盤改良 (50kg/m3内外) 表層 1m程度	



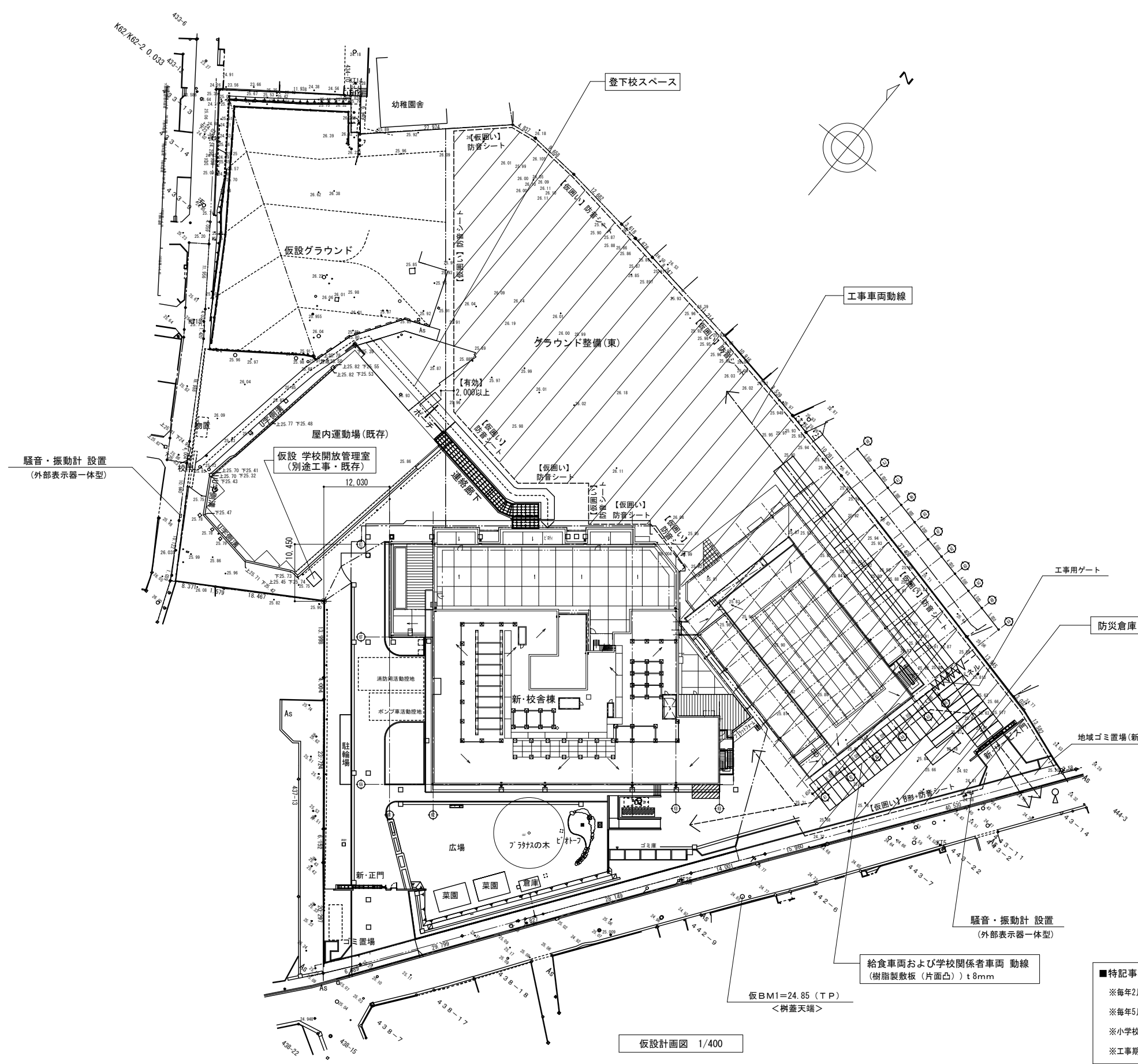
仮設ゴミ置場
(新設ゴミ置場が完成するまでは、
施工者にて仮設ゴミ置場を用意すること)

■特記事項
 ※毎年2月上旬～5月下旬は、市内陸上大会のための練習スペース (直線走路60m+予備10m) を確保すること。
 ※毎年5月上旬～11月下旬は、吹奏楽部によるマーチングの練習スペース (30m四方) を確保すること。
 ※小学校敷地内の運動スペースについて、どの時期においても可能な限り広く確保できるよう努めること。
 ※工事期間を通して、敷地西側からの登下校スペースを常時確保すること。

2025年8月～2026年1月

凡例

記号	内容	計画数量
	工事範囲	
	パネル パネルゲート W7.2m*H4.5m	1箇所
	仮囲い 防音シート 仮囲い 成形鋼板 H=3.0m +防音シート H=4.0m	283m
	仮囲い B型+防音シート 仮囲い ガードフェンス H=1.8m+防音シート	40.6m
	枠組本足場W900+防音パネル	適宜
	鉄板敷き (5ft×20ft 厚22) <適宜 盛替え>	54枚
	交通誘導員 (状況により適宜 移動及び増員)	1人
	工事車両動線	
	給食車両および学校関係者車両 動線	
	児童動線	



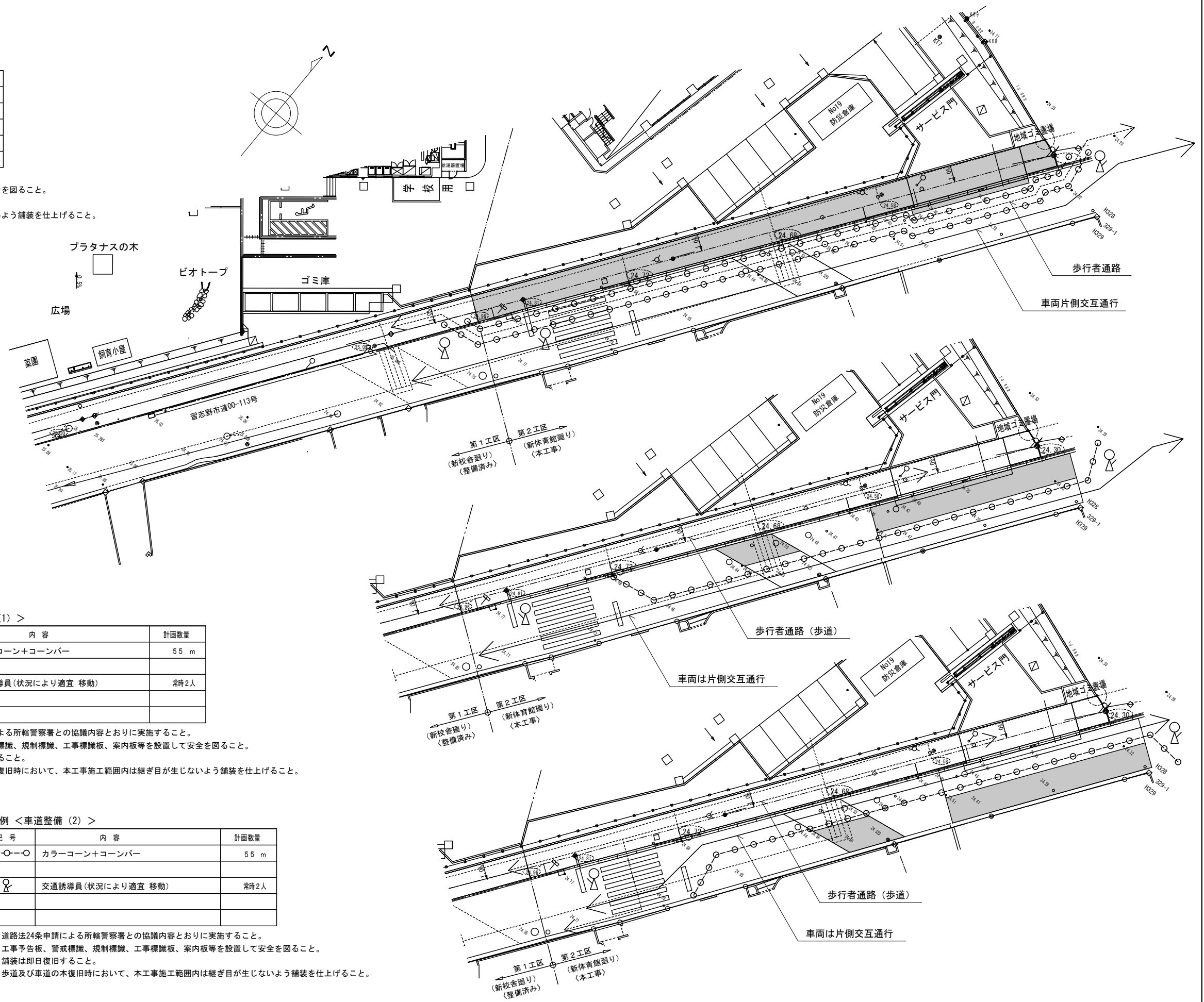
■特記事項
 ※毎年2月上旬～5月下旬は、市内陸上大会のための練習スペース（直線走路60m+予備10m）を確保すること。
 ※毎年5月上旬～11月下旬は、吹奏楽部によるマーチングの練習スペース（30m四方）を確保すること。
 ※小学校敷地内の運動スペースについて、どの時期においても可能な限り広く確保できるよう努めること。
 ※工事期間を通して、敷地西側からの登下校スペースを常時確保すること。

仮設計画図 1/400

凡 例 <歩道整備>

記号	内容	計画数量
○-○-○	カラーコーン+コーンバー	137 m
人	交通誘導員(状況により適宜 移動)	常時3人

- ※1) 道路法24条申請による所轄警察署との協議内容とおりに実施すること。
- ※2) 工事予告板、警戒標識、規制標識、工事標識板、案内板等を設置して安全を図ること。
- ※3) 舗装は即日復旧すること。
- ※4) 歩道及び車道の本復旧時において、本工事施工範囲内は継ぎ目が生じないように舗装を仕上げること。



凡 例 <車道整備(1)>

記号	内容	計画数量
○-○-○	カラーコーン+コーンバー	55 m
人	交通誘導員(状況により適宜 移動)	常時2人

- ※1) 道路法24条申請による所轄警察署との協議内容とおりに実施すること。
- ※2) 工事予告板、警戒標識、規制標識、工事標識板、案内板等を設置して安全を図ること。
- ※3) 舗装は即日復旧すること。
- ※4) 歩道及び車道の本復旧時において、本工事施工範囲内は継ぎ目が生じないように舗装を仕上げること。

凡 例 <車道整備(2)>

記号	内容	計画数量
○-○-○	カラーコーン+コーンバー	55 m
人	交通誘導員(状況により適宜 移動)	常時2人

- ※1) 道路法24条申請による所轄警察署との協議内容とおりに実施すること。
- ※2) 工事予告板、警戒標識、規制標識、工事標識板、案内板等を設置して安全を図ること。
- ※3) 舗装は即日復旧すること。
- ※4) 歩道及び車道の本復旧時において、本工事施工範囲内は継ぎ目が生じないように舗装を仕上げること。

株式会社 教育施設研究所

ARCHITECT & OFFICE BRANCH: 東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
 株式会社 教育施設研究所
 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

工事名称
 大久保小学校屋内運動場改築他工事(建築工事)
 【大久保小学校屋内運動場改築工事(建築工事)】

DRAWING TITLE
 仮設計画図(4) <参考図>
 東側道路(車道・歩道)整備時

DATE
 '22.04

DRAWING NO.
 K-004

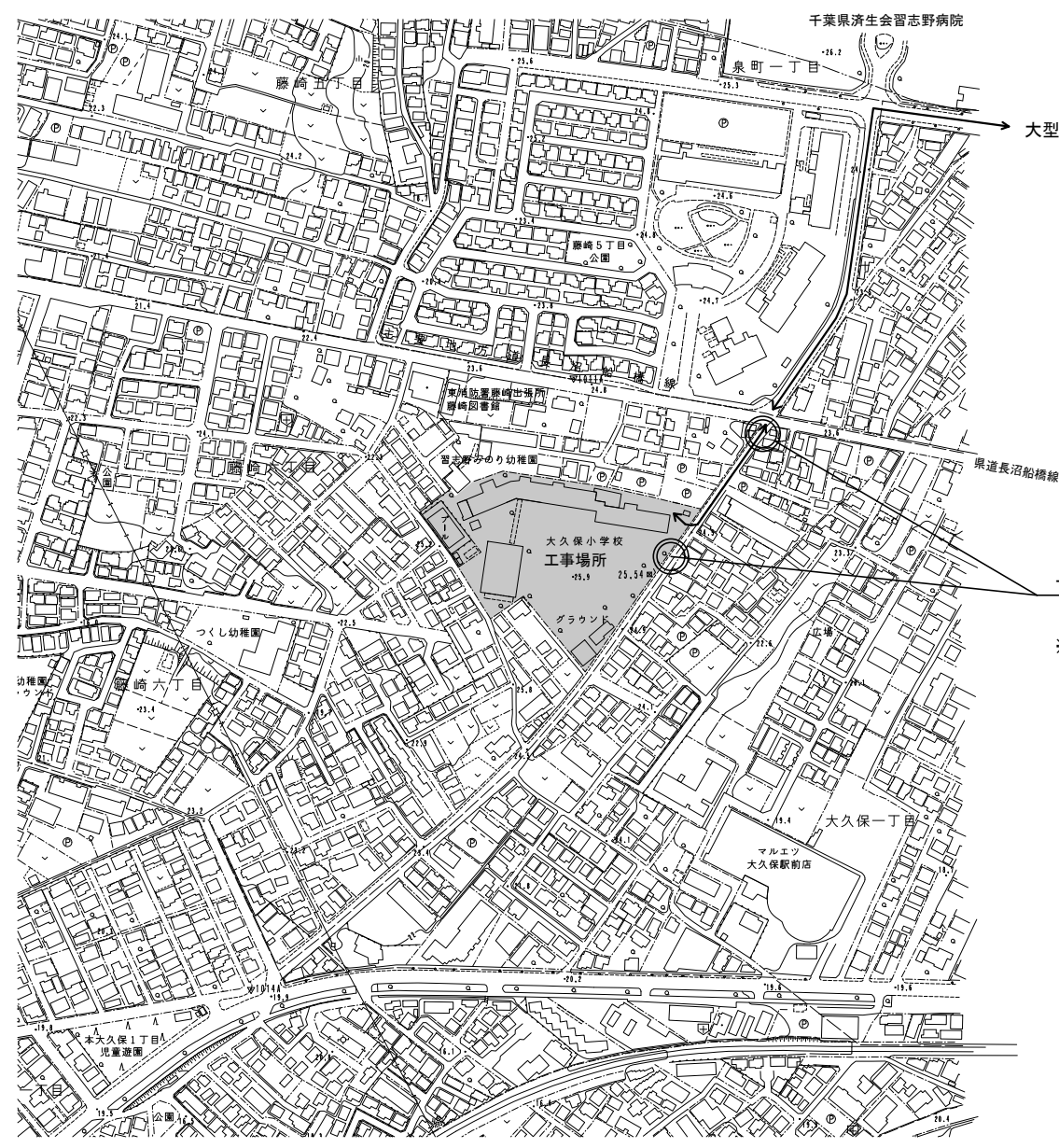
SCALE
 A1: 1:200
 A3: 1:400

一級建築士大臣登録 第173412号 高松敏彦
 一級建築士大臣登録 第316710号 宮本弘毅
 一級建築士大臣登録 第363004号 木戸直規

APPR. BY

CHKD. BY

DRAWN BY

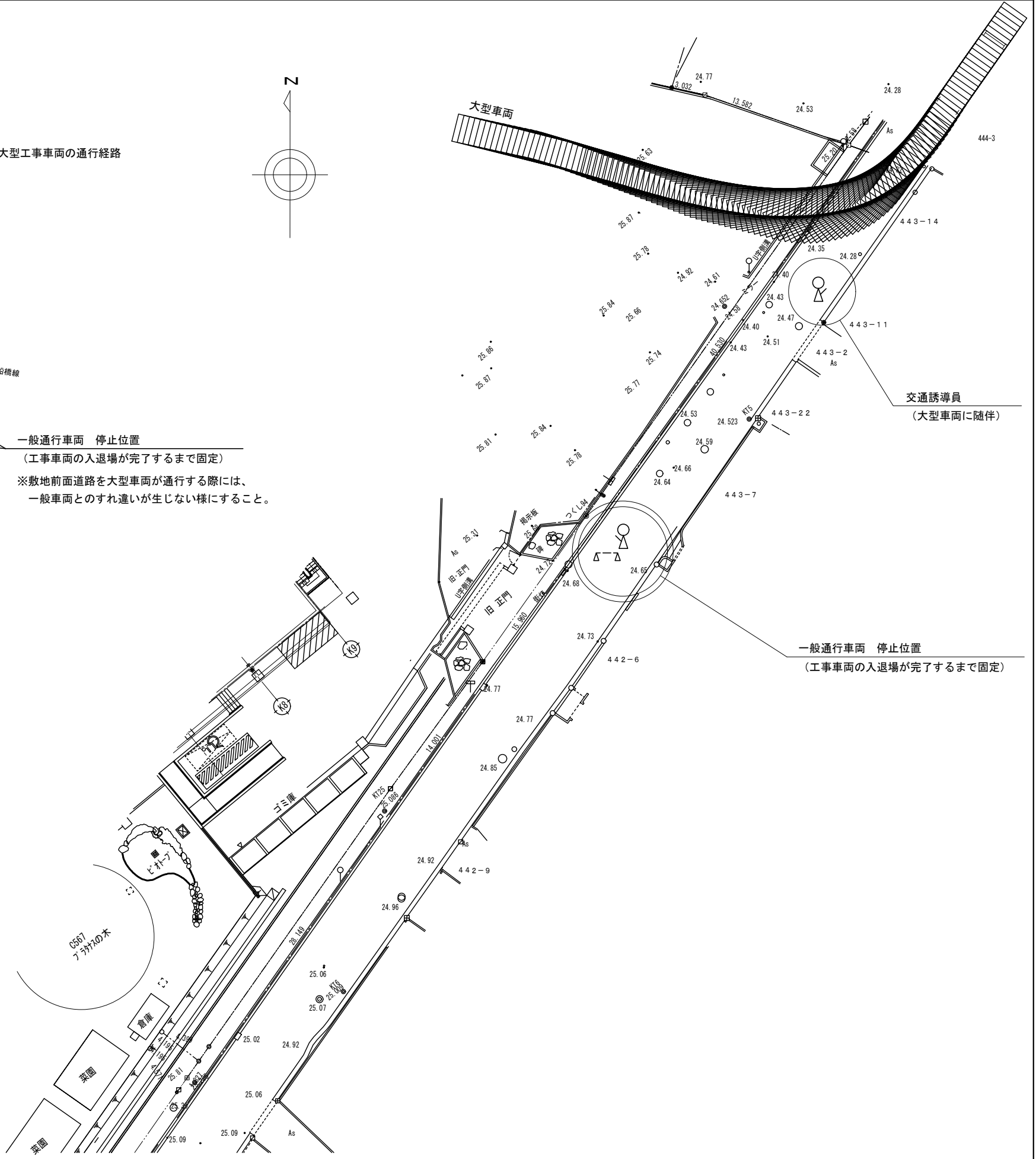


広域図

大型工事車両の通行経路

一般通行車両 停止位置
(工事車両の入退場が完了するまで固定)

※敷地前面道路を大型車両が通行する際には、
一般車両とのすれ違いが生じない様にする。



凡 例 <大型車両 出入り時>

記号	内容	計画数量
△▽	A型バリアード (一般通行車両の停止位置・適宜移動)	3ヶ所
人	交通誘導員 (状況により適宜 移動)	常時3人

- ※1) 道路法24条申請による所轄警察署との協議内容とおりに実施すること。
- ※2) 工事予告板、警戒標識、規制標識、工事標識板、案内板等を設置して安全を図ること。
- ※3) 舗装は即日復旧すること。

株式会社 教育施設研究所

ARCHITECT & OFFICE BRANCH: APPR. BY: CHKO. BY: DRAWN BY:

一級建築士大臣登録 第173412号 高松敏彦
一級建築士大臣登録 第316710号 宮本弘毅
一級建築士大臣登録 第363004号 木戸直規

東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
株式会社 教育施設研究所
一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

工事名称 大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事) 【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】	DATE '22.04.
DRAWING TITLE 仮設計画図 (5) <参考図> 大型車両出入り時	DRAWING NO. K-005
SCALE A1: 1:200 A3: 1:400	

工事名称:

I. 建物構造概要等

Table with 2 columns: Item, Value. Includes building name, location, area, height, and safety classification.

2. 構造計算条件

Table with 2 columns: Item, Value. Includes seismic design conditions, wind design conditions, and snow load design conditions.

II. 建築工事仕様 (構造関係)

- 1. 共通仕様書
2. 特記仕様
3. 杭工事の施工管理

章 項目 特記事項

Table with 2 columns: Item, Value. Details for pile foundation (杭地業) including types, dimensions, and construction methods.

○ 5. 鋼杭地業

Table with 2 columns: Item, Value. Details for steel pile foundation (鋼杭地業) including types, dimensions, and construction methods.

章 項目 特記事項

Table with 2 columns: Item, Value. Details for pile foundation (杭地業) including types, dimensions, and construction methods.

● 7. 砂利地業

Table with 2 columns: Item, Value. Details for gravel foundation (砂利地業) including types, dimensions, and construction methods.

章 項目 特記事項

Table with 2 columns: Item, Value. Details for reinforcement and steelwork (鉄筋工事) including types, dimensions, and construction methods.

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項																																						
6 コンクリート工事	● 1. コンクリートの種類等	<p>・コンクリートの類別： (6.2.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● I 類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート) ● II 類 (JIS A 5308に適合したコンクリート) <p>・普通コンクリート： (6.2.1~6.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>スランプ質量 (cm)</th> <th>気乾単位容積 (t/m³)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>○ 24</td> <td>○ 15又は18 ○ 18</td> <td>○ 2.3程度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>● 図示</td> <td>● 図示</td> <td>2.3程度</td> <td>● 図示</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・構造体強度補正值： (6.3.2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ・別表「コンクリートの構造体強度補正值(S) 一覧」による ○ () 	設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ質量 (cm)	気乾単位容積 (t/m ³)	適用箇所	○ 24	○ 15又は18 ○ 18	○ 2.3程度		● 図示	● 図示	2.3程度	● 図示	○				○				6 コンクリート工事	● 10. コンクリートの単位水量測定	<p>・実施要領： (1)単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。(2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4)(c)による。(3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。</p> <p>1)測定した単位水量が、計画適合書の設計値(以下、「設計値」という。)±15kg/m³の範囲にある場合はそのまま施工する。</p> <p>2)測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/m³の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m³以内であることを確認する。更に、設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。</p> <p>4)「3」の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。</p> <p>(4)単位水量管理についての記録を書面(計画適合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。</p> <p>(5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。</p>	7 鉄骨工事	● 1. 鉄骨製作工場	<p>・鉄骨製作工場の加工能力： (7.1.3)</p> <p>建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場、または、同等以上の能力のある工場 評価の区分 ●(M) グレード、○ グレードの指定はしない</p> <p>○ 2. 鉄骨製作工場における施工管理技術者 (7.1.3)(7.1.4)</p> <p>● 3. 鋼材 (7.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類の記号</th> <th>適用箇所(主要な部分)</th> <th>規格</th> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td>○ JIS規格による、○</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td>○ JIS規格による、○</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td>○ JIS規格による、○</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td>○ JIS規格による、○</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td>○ JIS規格による、○</td> </tr> </table> <p>・溶融亜鉛めっき工法の適用箇所： ()</p> <ul style="list-style-type: none"> ● (図示) 	種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格	○		○ JIS規格による、○	○		○ JIS規格による、○	○		○ JIS規格による、○	○		○ JIS規格による、○	○		○ JIS規格による、○	7 鉄骨工事	● 12. 製作精度	<p>・鉄骨の製作精度： (7.3.3)</p> <p>JASS6付則6「鉄骨精度検査基準」に加えて次による通しダイヤグラムの突合せ継手の食い違いの寸法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● H12建告第1464号第二号イ(2)による、○() ○ アンダーカットの寸法： () ● H12建告第1464号第二号イ(3)による、○() ● 食い違い、仕口のずれの検査方法及び補強方法： () ● 「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による ○ () <p>・試験の要領： (7.6.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 図示による、○() <p>・開先の形状： (7.6.4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-2) ● (図示) <p>・エンドタブの切除する部分： (7.6.7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 図示による、○() ○ エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジ等の端から5mm以下降して直線状に切断するなお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する ● (図示) <p>・切断面の仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 標準仕様書7.6.7(1)(a)(b)②による ● (図示) <p>・スカラップの形状： (7.6.7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-4(4)改良型スカラップ) ● (図示)
	設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ質量 (cm)	気乾単位容積 (t/m ³)	適用箇所																																													
	○ 24	○ 15又は18 ○ 18	○ 2.3程度																																														
	● 図示	● 図示	2.3程度	● 図示																																													
	○																																																
	○																																																
	種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格																																														
	○		○ JIS規格による、○																																														
	○		○ JIS規格による、○																																														
	○		○ JIS規格による、○																																														
○		○ JIS規格による、○																																															
○		○ JIS規格による、○																																															
● 2. セメント	<p>・種類： (6.3.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 適用箇所 (図示) ○ フライアッシュセメントB種 () ○ 適用箇所() ○ 適用箇所() 	● 4. 高力ボルト	<p>・高力ボルトの種類： (7.2.2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● トルシア形高力ボルト ● JIS形高力ボルト ● 溶融亜鉛めっき高力ボルト ○ () <p>・ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等： (7.3.2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-1 縁端距離及びボルト間隔) ● (図示) <p>・摩擦面の処理方法等： (7.4.2)</p> <p>溶融亜鉛めっき面以外</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 標準仕様書7.4.2(1)による、○() ● プラスト処理(表面粗度50μmR以上) ● プラスト処理以外の特別な処理方法 ○ 図示による、○() <p>・すべり試験： (7.4.2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ すべり係数試験、○ すべり耐力試験 ○ 図示による、○() 	● 15. 入熱、バス開温度の管理	<p>・適用箇所： ()</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 図示による ● 柱、梁、プレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部 																																												
● 3. 骨材	<p>・アルカリシリカ反応性による区分： (6.3.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● A、○ B (コンクリート中のアルカリ総量 Rt=3.0kg/m³ 以下) 	● 5. 普通ボルト	<p>・ボルト及びナットの材料： (7.2.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 標準仕様書 表7.2.3 (JIS附属書)又は次による ボルトの規格はJIS B 1180とする (ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。) ナットの規格はJIS B 1181とする (ナットの種類は六角ナット・Dの鋼製とする。) ○ () <p>・産金： (7.2.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● JIS B 1256による、○() <p>・戻り止め： (7.5.2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 二重ナット、○() <p>・ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等： (7.3.2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-1 縁端距離及びボルト間隔) ● (図示) 	● 16. 溶接部の試験	<p>・H12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等： (7.6.12)</p> <p>[突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル]3.5.2受入検査による</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 抜き取り検査① ● 抜き取り検査② <p>・JASS 6 付則6「鉄骨精度検査基準」の付表3「溶接」に関する試験方法等： ()</p> <ul style="list-style-type: none"> ● JASS6 10.4「受入検査」e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。 <p>・完全溶込み部の超音波探傷試験： ()</p> <p>工場溶接の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ● AQL (%) (● 4.0、○ 2.5) ○ 全数 ● 全数 ● 第6水準、○() <p>工事現場溶接の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全数 																																												
● 4. 混和材料	<p>・混和剤の種類： (6.3.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 標準仕様書 6.3.1(4)(a)による ● (図示) <p>・混和材の種類： (6.3.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 標準仕様書 6.3.1(4)(b)による ● (図示) 	● 6. アンカーボルト	<p>・構造用アンカーボルトの種類： (7.2.4)(7.10.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ABR400、○ ABR490、○() ・建方(及び付属鉄骨)用アンカーボルトの種類： () ● SS400、○() <p>アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 標準仕様書 表7.2.3による、○() ● ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等： (7.3.2) ○ 図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-1 縁端距離及びボルト間隔) ● (図示) 	● 17. 錆止め塗装	<p>・塗料の種類： (7.8.2)</p> <p>耐火被覆材の接着する面の塗装範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 図示による、● (塗装しない) ● 図示による、○() <p>耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 図示による、○() <p>・塗料の種類： (7.8.4)(18.3.2)</p> <p>下記以外の鉄鋼面は、「18章 塗装工事」による。</p> <p>鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ● A種、○() ● 耐火被覆材が接着する面の塗料の種類 ○ () 																																												
● 5. 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地	<p>・打継ぎの位置： (6.6.4)</p> <p>梁及びスラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スラブの中央又は端から1/4の付近、○ 図示による ○ () <p>柱及び壁</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スラブ、壁梁又は基礎の上端、○ 図示による ○ () <p>・目地寸法： (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 標準仕様書 9.7.3(1)(7)による (ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打ち厚し層部で処理する) ● 図示による() ○ () <p>・ひび割れ誘発目地の位置： (6.8.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 図示による() ○ () 	● 7. 溶接材料	<p>・溶接材料： (7.2.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 標準仕様書 7.2.5(1)(2)による ● 標準仕様書 7.2.5(1)(2)以外による 材料及び使用箇所 ○ 図示による、○() 	● 18. 耐火被覆	<p>・種類、材料、構法等： (7.9.2~7.9.8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材料・工法</th> <th>性能(耐火時間)</th> <th>適用箇所(部位・部分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">● 耐火材吹付け</td> <td>○ 乾式吹付けロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>● 半乾式吹付けロックウール</td> <td>● 図示</td> <td>● 図示</td> </tr> <tr> <td>○ 湿式ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 耐火板張り</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 繊維混入けい酸カルシウム板</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 耐火材巻付け</td> <td>○ 高断熱ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ ラス張り</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ モルタル塗り</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 耐火塗料</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)	● 耐火材吹付け	○ 乾式吹付けロックウール			● 半乾式吹付けロックウール	● 図示	● 図示	○ 湿式ロックウール			○ 耐火板張り	○			○ 繊維混入けい酸カルシウム板			○ 耐火材巻付け	○ 高断熱ロックウール			○ ラス張り	—			○ モルタル塗り	—			○ 耐火塗料	○									
種類	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)																																														
● 耐火材吹付け	○ 乾式吹付けロックウール																																																
	● 半乾式吹付けロックウール	● 図示	● 図示																																														
	○ 湿式ロックウール																																																
○ 耐火板張り	○																																																
	○ 繊維混入けい酸カルシウム板																																																
○ 耐火材巻付け	○ 高断熱ロックウール																																																
○ ラス張り	—																																																
○ モルタル塗り	—																																																
○ 耐火塗料	○																																																
● 6. コンクリートの仕上り	<p>・合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ： (6.2.5)(6.8.2)</p> <table border="1"> <tr> <td>○ A種</td> <td>● 図示による()、○()</td> </tr> <tr> <td>○ B種</td> <td>● 図示による()、○()</td> </tr> <tr> <td>○ C種</td> <td>● 図示による()、○()</td> </tr> </table> <p>・コンクリートの仕上りの平坦さ： (6.2.5)(6.8.2)</p> <table border="1"> <tr> <td>○ a種</td> <td>● 図示による()、○()</td> </tr> <tr> <td>○ b種</td> <td>● 図示による()、○()</td> </tr> <tr> <td>○ c種</td> <td>● 図示による()、○()</td> </tr> </table>	○ A種	● 図示による()、○()	○ B種	● 図示による()、○()	○ C種	● 図示による()、○()	○ a種	● 図示による()、○()	○ b種	● 図示による()、○()	○ c種	● 図示による()、○()	● 8. ターンバックル	<p>・種類： (7.2.6)</p> <p>建築用ターンバックルボルト</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 羽子板ボルト、○() ● 建築用ターンバックル鋼 ● 割棒式、○() ● ねじの呼び () ● 図示による、○() 	● 19. 建方精度	<p>● JASS6 付則6 [鉄骨精度基準] 付表5 [工事現場] による (7.10.2)</p>																																
○ A種	● 図示による()、○()																																																
○ B種	● 図示による()、○()																																																
○ C種	● 図示による()、○()																																																
○ a種	● 図示による()、○()																																																
○ b種	● 図示による()、○()																																																
○ c種	● 図示による()、○()																																																
● 7. 打増し厚さ(打放し仕上げ部)	<p>・打増し厚さ： (6.8.1)</p> <p>打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 20mm、● (図示) ○ 10mm、○ 20mm、● (図示) <p>外装タイル後張り面の打増し処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 20mm、● (図示) <p>・打増し範囲： ()</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 図示による()、○() 	○ 9. 床構造用のデッキプレート	<p>・材質、形状及び寸法： (7.2.7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>構法</th> <th>適用箇所</th> <th>材質・形状・寸法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ デッキプレート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 単独の構法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・開口部補強要領(補強筋の定着長さ等を含む)： (7.7.8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 図示による、○() ● 鉄骨部材への溶接方法： () ○ 図示による、○() <p>・耐火認定： ()</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ あり(耐火時間 ○ 図示による、○()、○ なし) 	構法	適用箇所	材質・形状・寸法	備考	○ デッキプレート				○ 単独の構法				○ デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法				○				● 20. アンカーボルトの設置等	<p>・構造用アンカーボルトの形状及び寸法： (7.10.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 図示による、○() ● 構造用アンカーフレームの形状及び寸法： () ● 図示による、○() ● 建方(及び付属鉄骨)用アンカーボルトの形状及び寸法： () ● 図示による、○() <p>・種別 ● A種、● B種</p> <p>・柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別： (7.10.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● (図示) <p>・種別 ● A種、○ B種</p> <p>・建方(及び付属鉄骨)の保持及び埋込み工法： (7.10.3)</p>																								
構法	適用箇所	材質・形状・寸法	備考																																														
○ デッキプレート																																																	
○ 単独の構法																																																	
○ デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法																																																	
○																																																	
● 8. 型枠	<p>・せき板の材料及び厚さ (6.8.2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 合板 (● 12mm、○)、○() <p>・断熱材を兼用した型枠： ()</p> <p>使用箇所 ● 図示による()、○()</p> <p>・MCR工法用シート： ()</p> <p>使用箇所 ○ 図示による()、○()</p> <p>打増し厚さ ○ 20mm、○()</p> <p>打増し範囲 ○ 図示による()、○()</p> <p>・スリーブの材質、規格等： ()</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 図示による()、○() 	● 10. スタッド	<p>・種類等： (7.2.8)</p> <table border="1"> <tr> <th>呼び名</th> <th>呼び長さ(mm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>○ 16</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 19</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 22</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所	○ 16			○ 19			○ 22																																				
呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所																																															
○ 16																																																	
○ 19																																																	
○ 22																																																	
● 9. 無筋コンクリート	<p>・コンクリートの種類： (6.2.1)(6.14.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 普通コンクリート、○() <p>・セメントの種類： (6.3.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 ○ 高炉セメントB種 () ○ フライアッシュセメントB種 () <p>・設計基準強度： (6.14.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 18N/mm²、○() <p>・スランプ： (6.14.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 15cm又は18cm、○() <p>・適用箇所 (6.14.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 標準仕様書 6.14.1(4)(7)~(8)による箇所 ● 図示による() 	● 11. 柱底均しモルタル	<p>・無収縮モルタルとする場合の材料、調合等： (7.2.9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 標準仕様書 7.2.9(2)(7)~(8)による、○() 																																														

章	項 目	特 記 事 項	章	項 目	特 記 事 項																																																																																																							
その他	● 1. 軽微な変更の対応 (あらかじめ検討)	<ul style="list-style-type: none"> ・施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更事項への対応方法について、あらかじめの検討を行っている部分 : 本検討は、計画通知の変更を要しない範囲及び対応方法を定めるものであり、品質管理上の施工誤差を許容するものではない。 ・杭の芯ずれを考慮した検討 : あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ● 図示、○ () ・杭の長さの変更を見込んだ検討 : あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ☒ 図示、○ () ・実質透孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討 : あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ☒ 図示、○ () 																																																																																																										
					<p>・別表「コンクリートの構造体強度補正值(S) 一覧」</p> <p style="text-align: right;">令和3年12月現在(表6.3.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">今回対象地区</th> <th rowspan="3">地 区</th> <th rowspan="3">市 町 村 名</th> <th rowspan="3">セメントの種類 材齢28日間の平均気温 補 正 値 (S)</th> <th colspan="3">普通ポルトランドセメント</th> <th colspan="3">早強ポルトランドセメント</th> </tr> <tr> <th>暑中における コンクリート</th> <th>8以上</th> <th>0以上 8未満</th> <th>暑中における コンクリート</th> <th>5以上</th> <th>0以上 5未満</th> </tr> <tr> <th>6(N/mm²)</th> <th>3(N/mm²)</th> <th>6(N/mm²)</th> <th>6(N/mm²)</th> <th>3(N/mm²)</th> <th>6(N/mm²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td>千葉中央地区</td> <td>千葉市・市原市・四街道市</td> <td>7/5 ~ 9/12</td> <td>2/13 ~ 7/4 9/13 ~ 12/7</td> <td>12/8 ~ 2/12</td> <td>7/5 ~ 9/12</td> <td>9/13 ~ 7/4</td> <td>該当なし</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>千葉北部地区</td> <td>我孫子市・柏市・鎌ヶ谷市・野田市・松戸市・流山市</td> <td>7/12 ~ 8/30</td> <td>2/28 ~ 7/11 8/31 ~ 11/18</td> <td>11/19 ~ 2/27</td> <td>7/12 ~ 8/30</td> <td>2/6 ~ 7/11 8/31 ~ 12/7</td> <td>12/8 ~ 2/5</td> </tr> <tr> <td>●</td> <td>千葉西部地区</td> <td>市川市・印西市・浦安市・習志野市・八千代市・船橋市・白井市</td> <td>7/9 ~ 9/8</td> <td>2/20 ~ 7/8 9/9 ~ 11/26</td> <td>11/27 ~ 2/19</td> <td>7/9 ~ 9/8</td> <td>1/21 ~ 7/8 9/9 ~ 12/25</td> <td>12/26 ~ 1/20</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>北総地区</td> <td>成田市・佐倉市・八街市・神崎町・栄町・酒々井町・芝山町・多古町・富里市</td> <td>7/8 ~ 9/6</td> <td>2/24 ~ 7/7 9/7 ~ 11/20</td> <td>11/21 ~ 2/23</td> <td>7/8 ~ 9/6</td> <td>2/1 ~ 7/7 9/7 ~ 12/9</td> <td>12/10 ~ 1/31</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>東総地区</td> <td>旭市・香取市・銚子市・東庄町</td> <td>7/28 ~ 9/8</td> <td>2/10 ~ 7/27 9/9 ~ 12/11</td> <td>12/12 ~ 2/9</td> <td>7/28 ~ 9/8</td> <td>9/9 ~ 7/27</td> <td>該当なし</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>九十九里地区</td> <td>東金市・山武市・茂原市・匝瑛市・いすみ市・大網白里市・一宮町・御宿町 九十九里町・白子町・長南町・長柄町・横芝光町・睦沢町・長生村</td> <td>7/6 ~ 9/10</td> <td>2/15 ~ 7/5 9/11 ~ 12/1</td> <td>12/2 ~ 2/14</td> <td>7/6 ~ 9/10</td> <td>9/11 ~ 7/5</td> <td>該当なし</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>君津・木更津地区</td> <td>木更津市・君津市・袖ヶ浦市・富津市</td> <td>7/10 ~ 9/2</td> <td>2/18 ~ 7/9 9/3 ~ 12/1</td> <td>12/2 ~ 2/17</td> <td>7/10 ~ 9/2</td> <td>9/3 ~ 7/9</td> <td>該当なし</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>館山地区</td> <td>館山市・館南町・南房総市</td> <td>7/10 ~ 9/11</td> <td>2/8 ~ 7/9 9/12 ~ 12/10</td> <td>12/11 ~ 2/7</td> <td>7/10 ~ 9/11</td> <td>9/12 ~ 7/9</td> <td>該当なし</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>勝浦・鴨川地区</td> <td>勝浦市・鴨川市・大多喜町</td> <td>7/26 ~ 9/9</td> <td>2/8 ~ 7/25 9/10 ~ 12/14</td> <td>12/15 ~ 2/7</td> <td>7/26 ~ 9/9</td> <td>9/10 ~ 7/25</td> <td>該当なし</td> </tr> </tbody> </table>	今回対象地区	地 区	市 町 村 名	セメントの種類 材齢28日間の平均気温 補 正 値 (S)	普通ポルトランドセメント			早強ポルトランドセメント			暑中における コンクリート	8以上	0以上 8未満	暑中における コンクリート	5以上	0以上 5未満	6(N/mm ²)	3(N/mm ²)	6(N/mm ²)	6(N/mm ²)	3(N/mm ²)	6(N/mm ²)	○	千葉中央地区	千葉市・市原市・四街道市	7/5 ~ 9/12	2/13 ~ 7/4 9/13 ~ 12/7	12/8 ~ 2/12	7/5 ~ 9/12	9/13 ~ 7/4	該当なし	○	千葉北部地区	我孫子市・柏市・鎌ヶ谷市・野田市・松戸市・流山市	7/12 ~ 8/30	2/28 ~ 7/11 8/31 ~ 11/18	11/19 ~ 2/27	7/12 ~ 8/30	2/6 ~ 7/11 8/31 ~ 12/7	12/8 ~ 2/5	●	千葉西部地区	市川市・印西市・浦安市・習志野市・八千代市・船橋市・白井市	7/9 ~ 9/8	2/20 ~ 7/8 9/9 ~ 11/26	11/27 ~ 2/19	7/9 ~ 9/8	1/21 ~ 7/8 9/9 ~ 12/25	12/26 ~ 1/20	○	北総地区	成田市・佐倉市・八街市・神崎町・栄町・酒々井町・芝山町・多古町・富里市	7/8 ~ 9/6	2/24 ~ 7/7 9/7 ~ 11/20	11/21 ~ 2/23	7/8 ~ 9/6	2/1 ~ 7/7 9/7 ~ 12/9	12/10 ~ 1/31	○	東総地区	旭市・香取市・銚子市・東庄町	7/28 ~ 9/8	2/10 ~ 7/27 9/9 ~ 12/11	12/12 ~ 2/9	7/28 ~ 9/8	9/9 ~ 7/27	該当なし	○	九十九里地区	東金市・山武市・茂原市・匝瑛市・いすみ市・大網白里市・一宮町・御宿町 九十九里町・白子町・長南町・長柄町・横芝光町・睦沢町・長生村	7/6 ~ 9/10	2/15 ~ 7/5 9/11 ~ 12/1	12/2 ~ 2/14	7/6 ~ 9/10	9/11 ~ 7/5	該当なし	○	君津・木更津地区	木更津市・君津市・袖ヶ浦市・富津市	7/10 ~ 9/2	2/18 ~ 7/9 9/3 ~ 12/1	12/2 ~ 2/17	7/10 ~ 9/2	9/3 ~ 7/9	該当なし	○	館山地区	館山市・館南町・南房総市	7/10 ~ 9/11	2/8 ~ 7/9 9/12 ~ 12/10	12/11 ~ 2/7	7/10 ~ 9/11	9/12 ~ 7/9	該当なし	○	勝浦・鴨川地区	勝浦市・鴨川市・大多喜町	7/26 ~ 9/9	2/8 ~ 7/25 9/10 ~ 12/14	12/15 ~ 2/7	7/26 ~ 9/9	9/10 ~ 7/25	該当なし
今回対象地区	地 区	市 町 村 名	セメントの種類 材齢28日間の平均気温 補 正 値 (S)	普通ポルトランドセメント						早強ポルトランドセメント																																																																																																		
				暑中における コンクリート	8以上					0以上 8未満	暑中における コンクリート	5以上	0以上 5未満																																																																																															
				6(N/mm ²)	3(N/mm ²)	6(N/mm ²)	6(N/mm ²)	3(N/mm ²)	6(N/mm ²)																																																																																																			
○	千葉中央地区	千葉市・市原市・四街道市	7/5 ~ 9/12	2/13 ~ 7/4 9/13 ~ 12/7	12/8 ~ 2/12	7/5 ~ 9/12	9/13 ~ 7/4	該当なし																																																																																																				
○	千葉北部地区	我孫子市・柏市・鎌ヶ谷市・野田市・松戸市・流山市	7/12 ~ 8/30	2/28 ~ 7/11 8/31 ~ 11/18	11/19 ~ 2/27	7/12 ~ 8/30	2/6 ~ 7/11 8/31 ~ 12/7	12/8 ~ 2/5																																																																																																				
●	千葉西部地区	市川市・印西市・浦安市・習志野市・八千代市・船橋市・白井市	7/9 ~ 9/8	2/20 ~ 7/8 9/9 ~ 11/26	11/27 ~ 2/19	7/9 ~ 9/8	1/21 ~ 7/8 9/9 ~ 12/25	12/26 ~ 1/20																																																																																																				
○	北総地区	成田市・佐倉市・八街市・神崎町・栄町・酒々井町・芝山町・多古町・富里市	7/8 ~ 9/6	2/24 ~ 7/7 9/7 ~ 11/20	11/21 ~ 2/23	7/8 ~ 9/6	2/1 ~ 7/7 9/7 ~ 12/9	12/10 ~ 1/31																																																																																																				
○	東総地区	旭市・香取市・銚子市・東庄町	7/28 ~ 9/8	2/10 ~ 7/27 9/9 ~ 12/11	12/12 ~ 2/9	7/28 ~ 9/8	9/9 ~ 7/27	該当なし																																																																																																				
○	九十九里地区	東金市・山武市・茂原市・匝瑛市・いすみ市・大網白里市・一宮町・御宿町 九十九里町・白子町・長南町・長柄町・横芝光町・睦沢町・長生村	7/6 ~ 9/10	2/15 ~ 7/5 9/11 ~ 12/1	12/2 ~ 2/14	7/6 ~ 9/10	9/11 ~ 7/5	該当なし																																																																																																				
○	君津・木更津地区	木更津市・君津市・袖ヶ浦市・富津市	7/10 ~ 9/2	2/18 ~ 7/9 9/3 ~ 12/1	12/2 ~ 2/17	7/10 ~ 9/2	9/3 ~ 7/9	該当なし																																																																																																				
○	館山地区	館山市・館南町・南房総市	7/10 ~ 9/11	2/8 ~ 7/9 9/12 ~ 12/10	12/11 ~ 2/7	7/10 ~ 9/11	9/12 ~ 7/9	該当なし																																																																																																				
○	勝浦・鴨川地区	勝浦市・鴨川市・大多喜町	7/26 ~ 9/9	2/8 ~ 7/25 9/10 ~ 12/14	12/15 ~ 2/7	7/26 ~ 9/9	9/10 ~ 7/25	該当なし																																																																																																				

		株式会社 教育施設研究所		工事名称 大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)	DATE '22-04-
		ARCHITECT & OFFICE BRANCH ¹ APPR. BY ¹ CHKD. BY		DRAWN BY	DRAWING TITLE
一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦	一級建築士大臣登録 第315246号 茂木 博之	構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之	東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号 株式会社 教育施設研究所 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号		構造関係特記仕様書(3)
				SCALE A1 : Non A3 : Non	DRAWING NO. ST-003

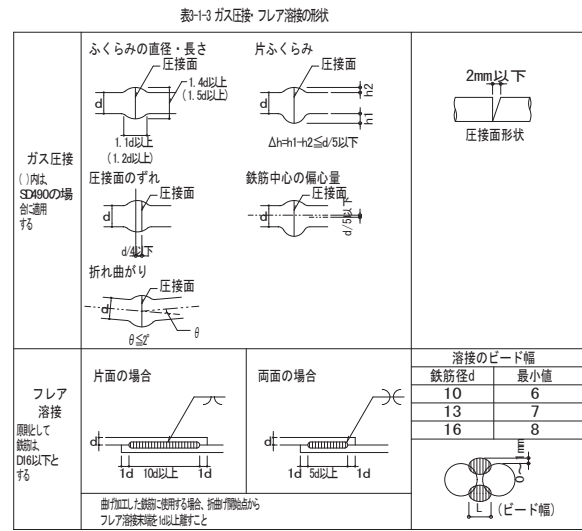
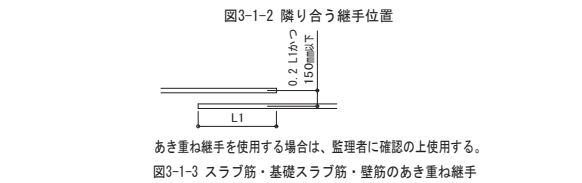
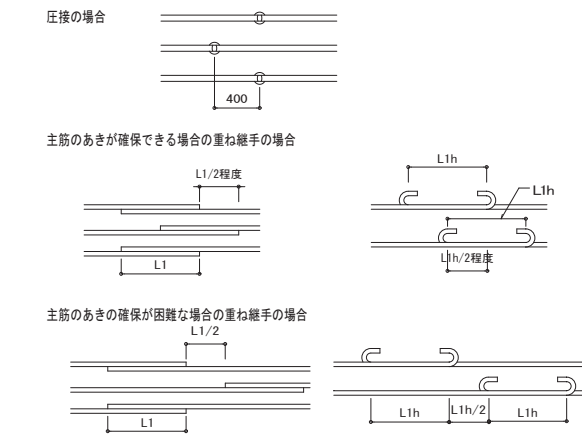


表3-1-4 フレア溶接に用いる鉄筋と溶接材料の組み合わせ

溶接される鉄筋の種類	被覆アーク溶接棒の種類 JIS Z 3211	ソリッドワイヤの種類 JIS Z 3312
SD295	E4316, E4915, E4916等の低水素系溶接棒	YGW11 YGW12 YGW13 YGW15
SD345	E4915, E4916等の低水素系溶接棒	YGW16 YGW18 YGW19



3-2 定着

- 異形鉄筋の定着長さは、表3-2-1の鉄筋の定着長さによる。ただし、小梁、スラブの下端筋の定着長さは、表3-2-2による。
- 梁主筋の柱への定着は、原則として折曲げ定着とする。
- 梁主筋の柱内定着において、定着の投影長さは原則柱せいの3/4倍以上とする。
- 柱梁仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さが、表3-2-1のフック付定着の長さL2hを確保できない場合は、全長を表3-2-1に示す直線定着の長さとし、余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを、表3-2-3に示す長さLa以上とする。
- 大梁内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さが、表3-2-1のフック付定着の長さL2hを確保できない小梁及びスラブの場合は、全長を表3-2-1に示す直線定着の長さとし、余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影長さを、表3-2-3に示す長さLb(かつ、原則として、定着される梁幅の1/2倍)以上とする。

表3-2-1 鉄筋の定着長さ L2, L2h

定着長さ L2: 直線定着 L2h: フック付定着	鉄筋の種類	Fc (N/mm ²)			
		18	21	24	30
直線定着長さ L2	SD295	40d	35d	30d	25d
	SD345	40d	35d	30d	25d
	SD390	40d	40d	35d	30d
	SD490	45d	40d	40d	35d
フック付定着長さ L2h	SD295	30d	25d	20d	15d
90°フックの場合※ 折曲げ開始点 L2h 定着起点	SD345	30d	25d	20d	15d
	SD390	30d	30d	25d	20d
	SD490	35d	30d	30d	25d

※フックを135°フック、180°フックとする(90°フックのみ)の場合のフック形状は表2-1による。

(注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。

表3-2-2 小梁・スラブの下端筋の定着長さ L3, L3h

下端筋定着長さ L3: 直線定着 L3h: フック付定着	鉄筋部位の種類	Fc (N/mm ²)	
		18~60	18~60
直線定着長さ L3	SD295	20d	10dかつ150mm
	SD345	<25d>	<25d>
	SD390	<25d>	<25d>
フック付定着長さ L3h	SD295	10d	-
	SD345	10d	-
	SD390	10d	-

(注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。
2. 「-」は適用範囲外を示す。
3. < > は片持ち部材の場合を示す。

表3-2-3 折曲げ定着長さ La, Lb

折曲げ定着長さ	鉄筋の種類	Fc (N/mm ²)			
		18	21	24	30
梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ La	SD295	20d	15d	15d	15d
	SD345	20d	20d	15d	15d
	SD390	20d	20d	15d	15d
	SD490	25d	25d	20d	20d
小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影長さ Lb	SD295	15d	15d	15d	15d
	SD345	20d	20d	15d	15d
	SD390	20d	20d	15d	15d
	SD490	20d	20d	15d	15d

- (注) 1. La: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ(基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブの上端筋を含む)
2. Lb: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブの上端筋を除く)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の数値に5dを加えたものとする。

3-3 その他の継手および定着

- 溶接金網の重ね継手は、図3-3-1による。構造図に記載のない場合は、応力伝達用とする。溶接金網の合わせ面は、図3-3-2タイプA、タイプBいずれとしてもよい。
- 溶接金網の定着は、図3-3-3による。
- 帯筋にスパイラル筋を用いる場合の定着、継手要領は、図3-3-4による。
- 鉄筋格子については、3-1 継手、3-2 定着による。

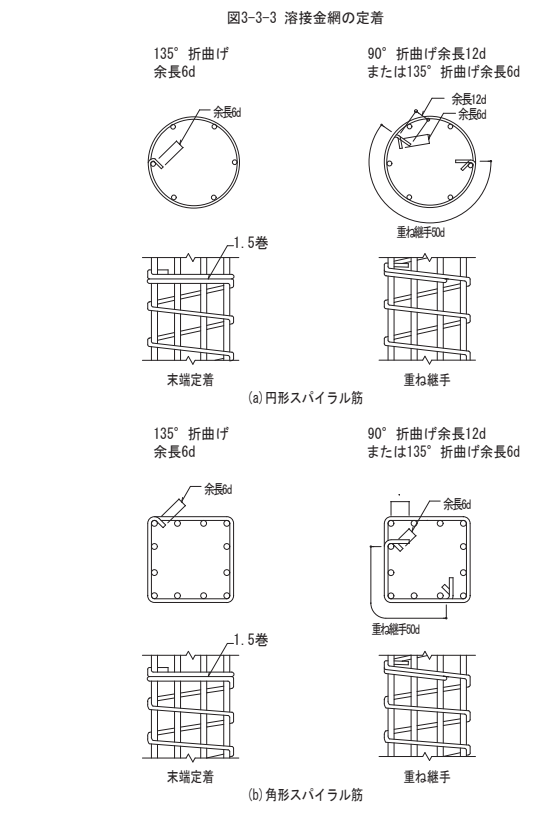
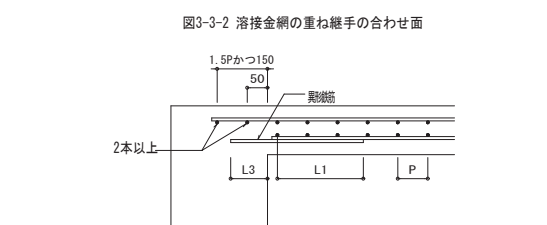
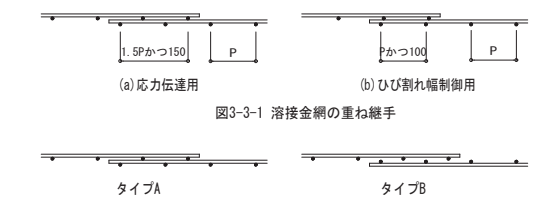


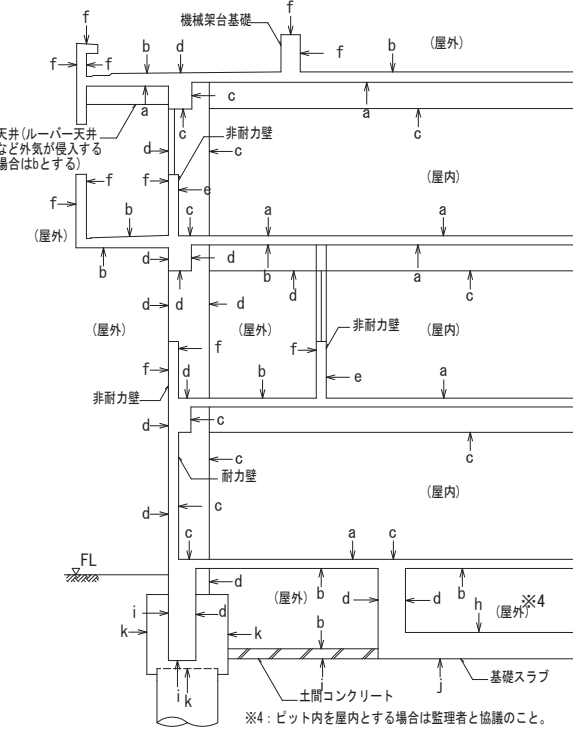
図3-3-4 スパイラル筋の末端定着・重ね継手要領

4 鉄筋のかぶり厚さ

4-1 かぶり厚さ (単位mm)

構造部分の種類	仕上がりあり 仕上げなし	設計かぶり厚さ	分類記号
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁 (非耐力壁)	30	a
	柱、梁、耐力壁	40	b
	屋内	40	c
	仕上げあり	40	d
	仕上げなし	40	e
	屋外	50	f
土に接する部分	擁壁・耐圧スラブ	50	h
	柱・梁・スラブ・壁	50	i
	基礎・擁壁・耐圧スラブ	70	j, k
煙突等高熱を受ける部分		70	g

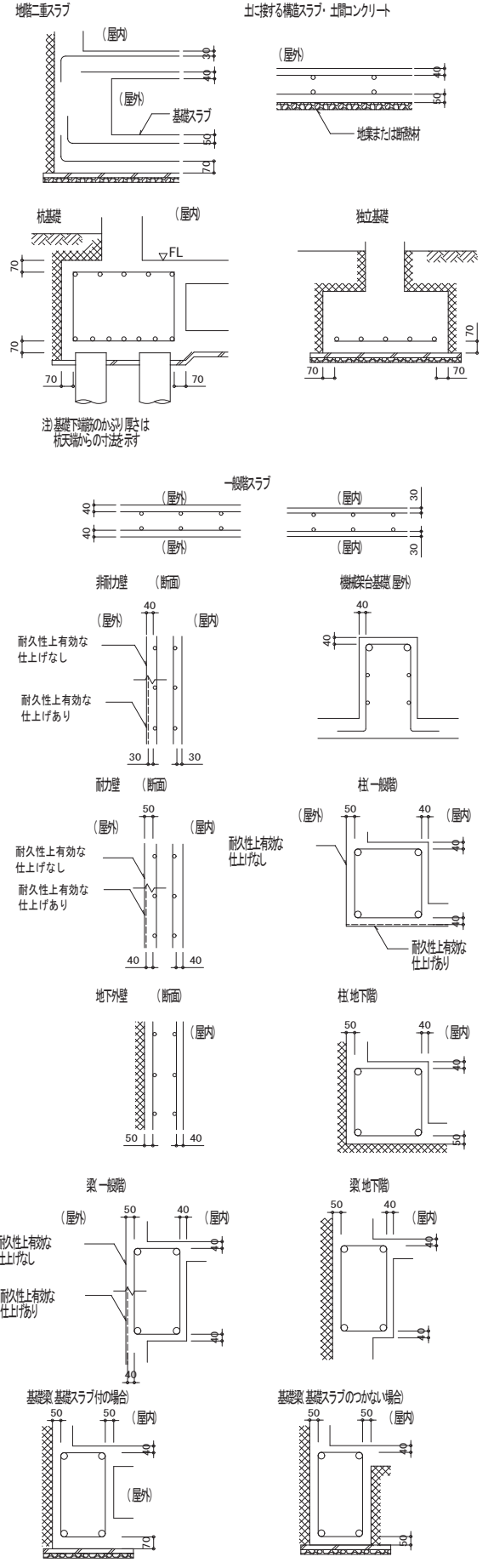
- [注] 1. 上表は、普通コンクリートに適用する。軽量コンクリートの場合は図示による。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ(仕上塗材、吹付け又は塗装等)のものを除く。
3. 捨てコンクリートの厚さは、かぶりに含まない。
4. 杭基礎の部分は、杭先端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、図示による。
6. 柱及び梁の主筋がD29以上の場合、その主筋のかぶり厚さは、主筋径の1.5倍以上確保するように上記に10mmを加算した値以上とする。
7. 最小かぶり厚は、上記のかぶり厚さから10mmを差し引いた値以上とする。
8. ひび割れ誘発目地、打雑目地、化粧目地等がある場合は、目地底からのかぶり厚さを確保する。

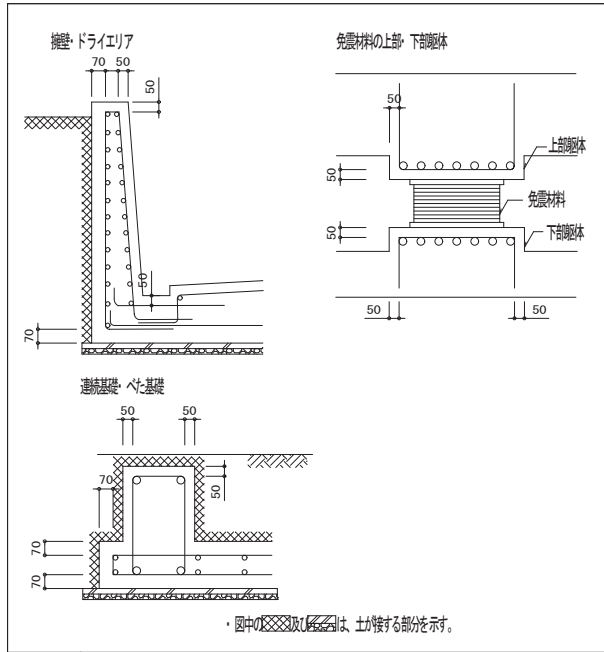


- 4-2 打抜きコンクリート仕上げ等による打増し厚さ
構造全体寸法に下記の打増し厚さ(mm)を加算するものとする。

位置	打ち増し
外部に面する柱・梁・壁・スラブ	10以上かつ意匠図による
外部に面するスラブ下端	意匠図による
コンクリート金こて仕上げの梁・スラブの上端	15
土に接する柱	10以上
内部に面する柱および梁の側面	5(10)以上かつ意匠図による ()内は、デッキスラブ型枠を使用の場合
内部に面する壁	5以上かつ意匠図による
地下外壁の土に接する部分	20以上

4-3 各部材の設計かぶり厚さ

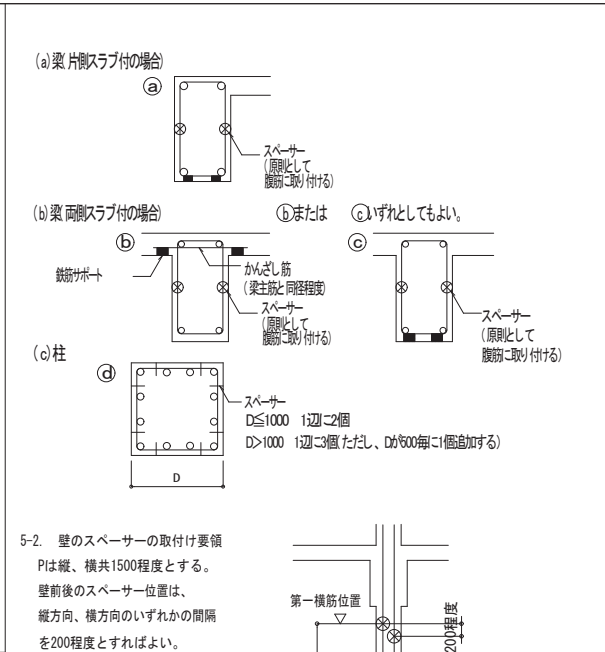
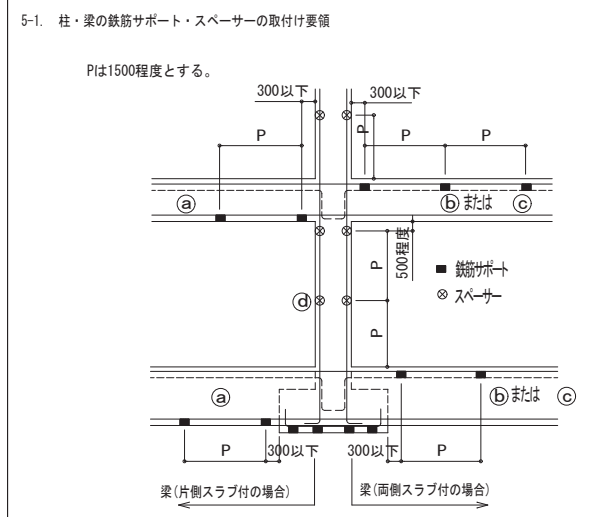




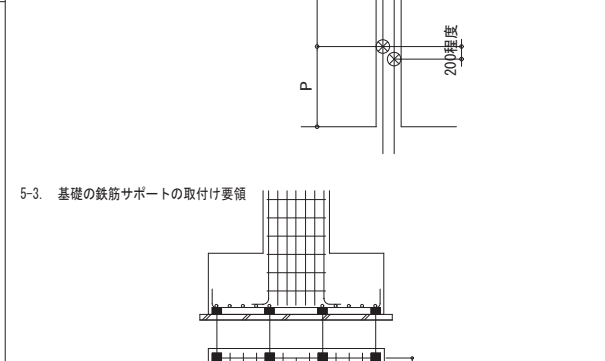
5 鉄筋サポート・スペーサー・結束線

部位	種類	配置・備考
基礎	鋼製・コンクリート製・モルタル製	間隔は0.9m程度・基礎の四隅と柱の四隅に設置
基礎梁	鋼製・コンクリート製・モルタル製	間隔は1.5m程度、端部は0.5m程度 上または下と側面の両側へ対称に設置
柱	鋼製・コンクリート製・モルタル製	上段は梁下端より0.5m程度 中段は上段より1.5m間隔程度 柱幅方向は1.0m以下2個、1.0mを超え3個 同一平面に点対となるように設置
梁	鋼製・コンクリート製・モルタル製	間隔は1.5m程度、端部は0.5m程度 上または下と側面の両側へ対称に設置
スラブ	鋼製・コンクリート製・モルタル製	上端筋・下端筋それぞれ 間隔は0.9m程度、端部は0.1m以内
壁	鋼製・コンクリート製・モルタル製	上段は梁下より0.5m程度まで 中段は上段より1.5m間隔程度 横間隔は1.5m程度、端部は0.5m程度
地下壁		

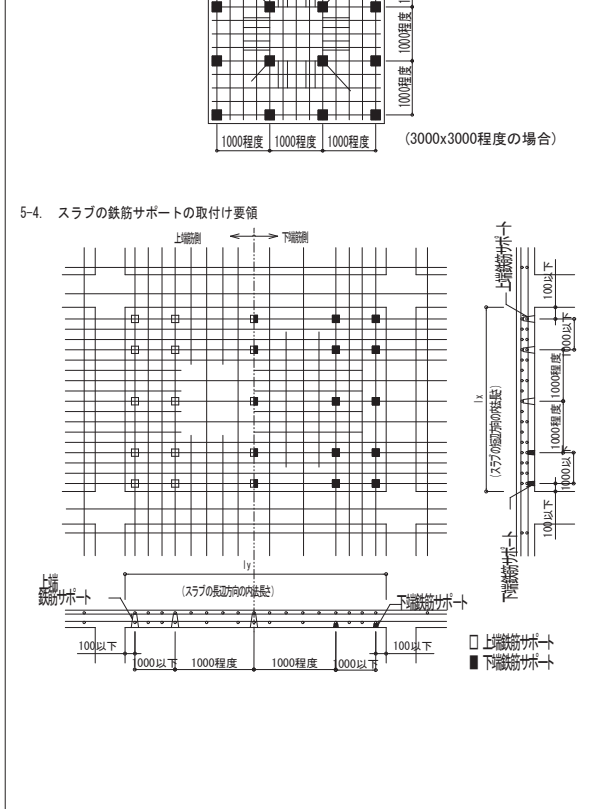
- [注] 1. 鉄筋サポート、スペーサーのサイズは設計かぶり厚さを満足するものを使用する。
 2. コンクリート製、モルタル製は、コンクリートの設計基準強度以上とする。
 3. スペーサーは、側面に限りプラスチック製でもよい。
 4. スペーサー（ドーナツ形）は縦使いを原則とする。
 5. 梁の側面の場合、スペーサーを設置する腹筋と近傍のあばら筋を動かめよう緊結させる。
 6. 片持スラブの場合は、鋼製連続バーサポートを使用する事、但し外部打ち直し仕上部分は除く。
 7. 鋼製スペーサーは、型枠に接する部分に防錆処理を行なう。
 8. コンクリート製、モルタル製は、大梁・小梁の下面に使用しない。
 9. スラブ下に断熱材を使用する場合は、めり込み防止の専用スペーサーを使用する。
 10. 地下部分の外部廻り及び水槽部分のセパレータには水膨張性止水リングを使用する。
 11. 結束線は、型枠に接しないよう部材内部に折り込む。あるいはステンレス製やめっき処理をした結束線を使用する。



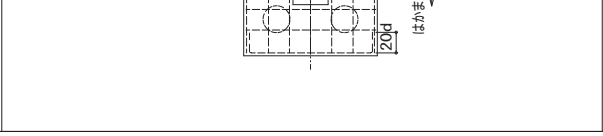
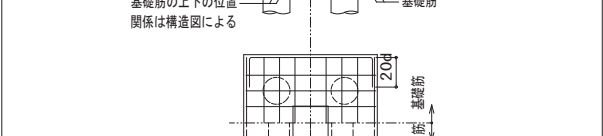
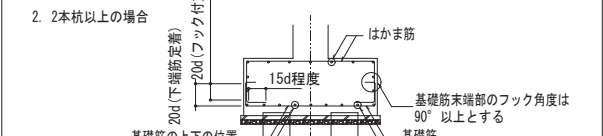
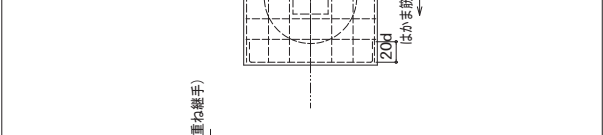
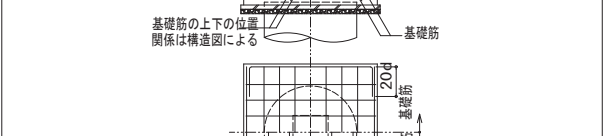
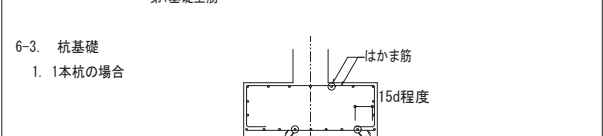
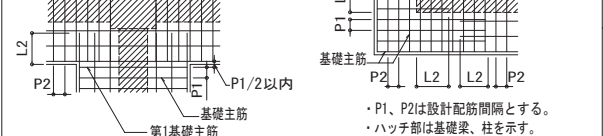
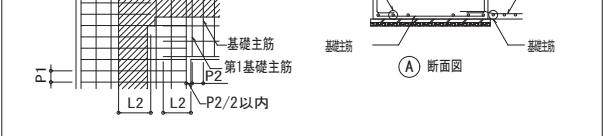
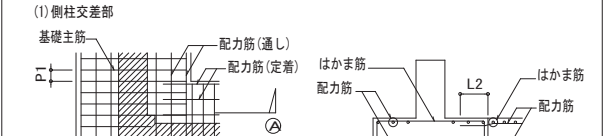
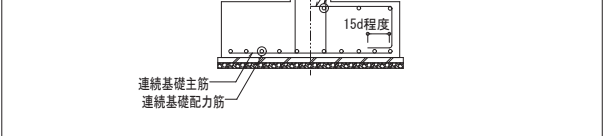
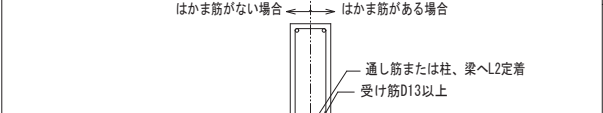
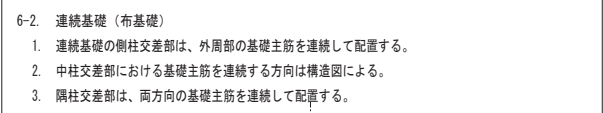
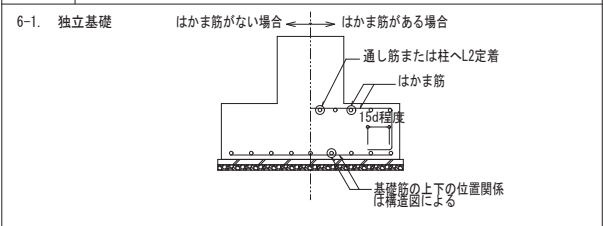
5-3 基礎の鉄筋サポートの取付け要領



5-4 スラブの鉄筋サポートの取付け要領

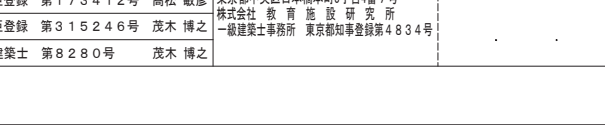
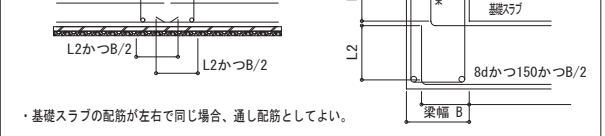
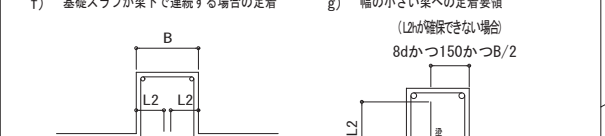
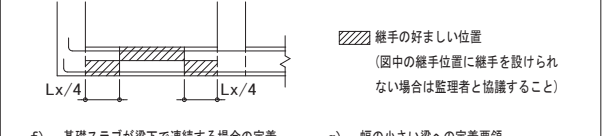
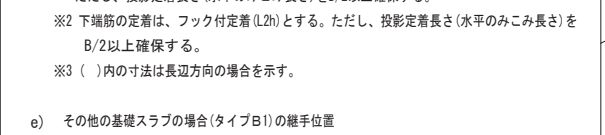
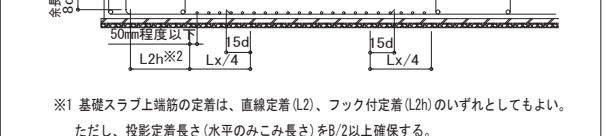
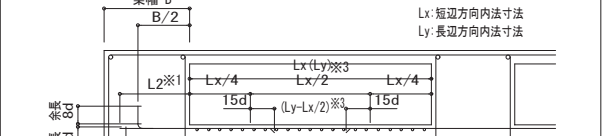
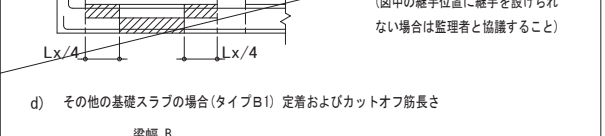
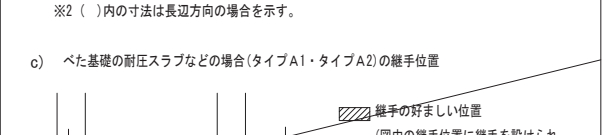
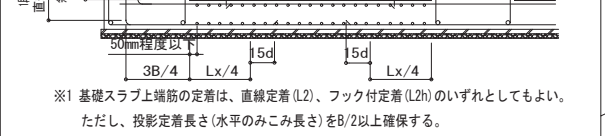
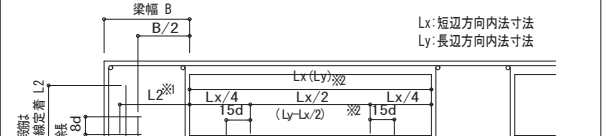
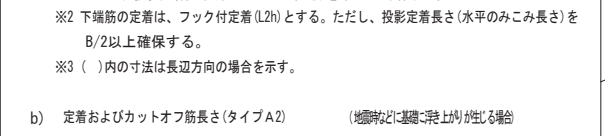
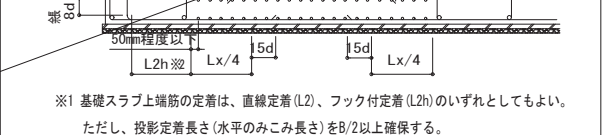
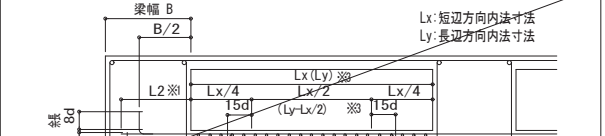


6 基礎



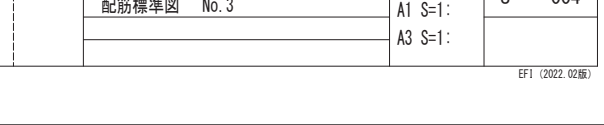
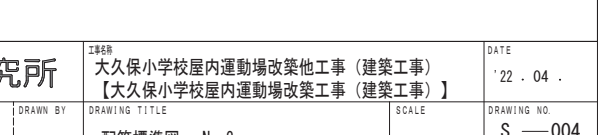
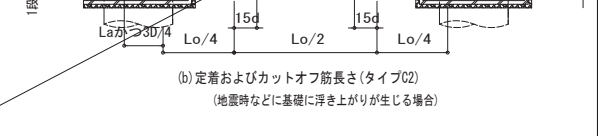
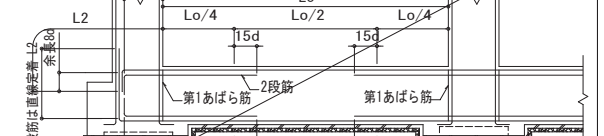
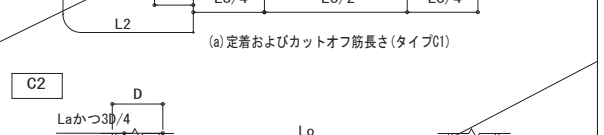
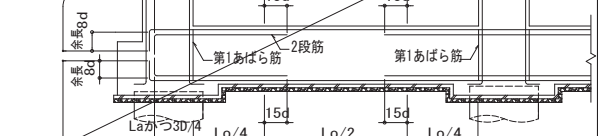
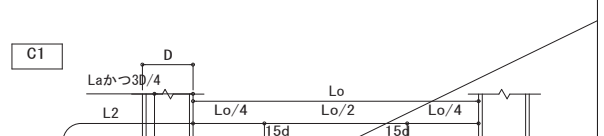
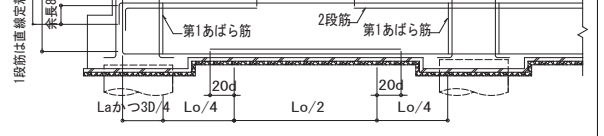
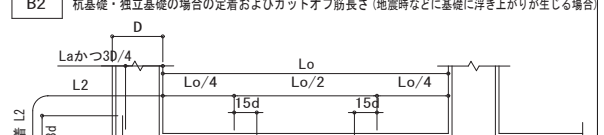
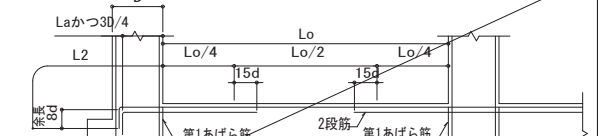
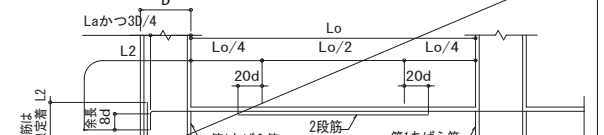
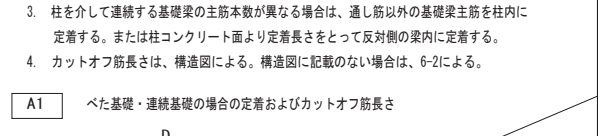
6-4 基礎スラブの定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

- 採用するタイプは、基礎に浮き上がりが生じない場合はA1、B1、浮き上がりが生じる場合はA2とする。
 □A1タイプ ■B1タイプ □A2タイプ
- 基礎スラブの第1鉄筋は基礎梁のコンクリート面より50mm程度の位置とする。

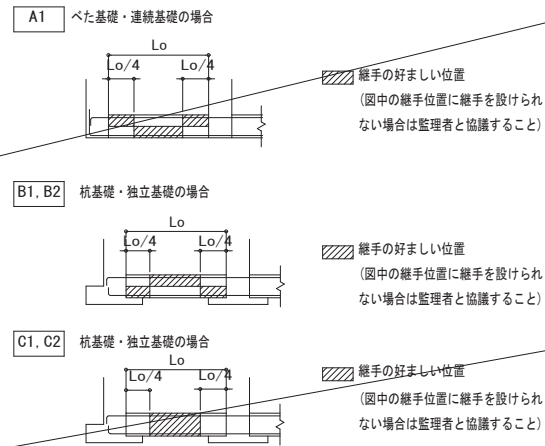


7 基礎梁

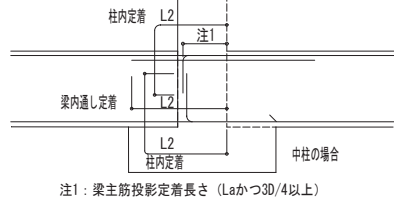
- 採用するタイプは、基礎に浮き上がりが生じない場合はA1、B1、C1、浮き上がりが生じる場合はB2、C2とする。
- 本設計建物に採用するタイプは、下記とする。
 □A1タイプ □B1タイプ ■B2タイプ □C1タイプ □C2タイプ
- 柱を介して連続する基礎梁の主筋本数が異なる場合は、通し筋以外の基礎梁主筋を柱内に定着する。または柱コンクリート面より定着長さをもって反対側の梁内に定着する。
- カットオフ筋長さは、構造図による。構造図に記載のない場合は、6-2による。



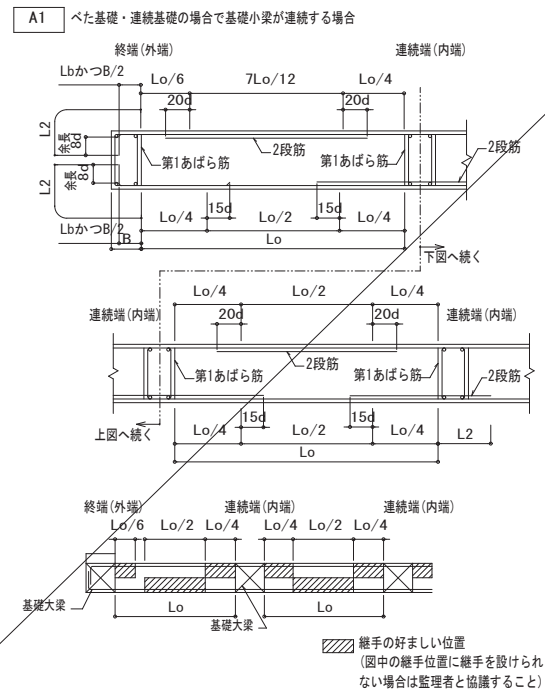
7-2 各タイプの基礎梁の継手位置



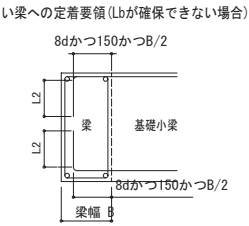
7-3 各タイプの中柱への定着



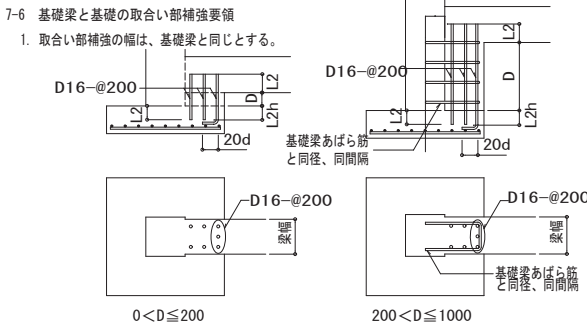
7-4 基礎小梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置



7-5 幅の小さい梁への定着要領 (lbが確保できない場合)



7-6 基礎梁と基礎の取合い部補強要領



7-7 基礎大梁と最下階柱の取合い部配筋要領

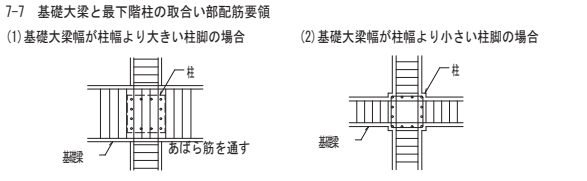
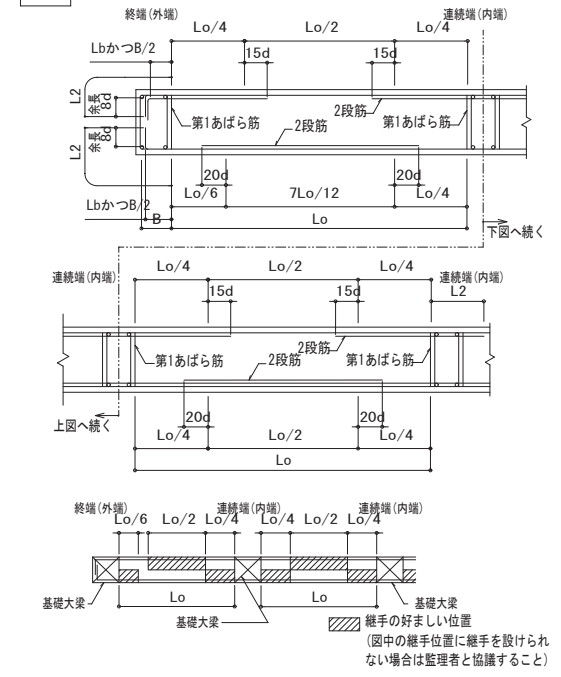
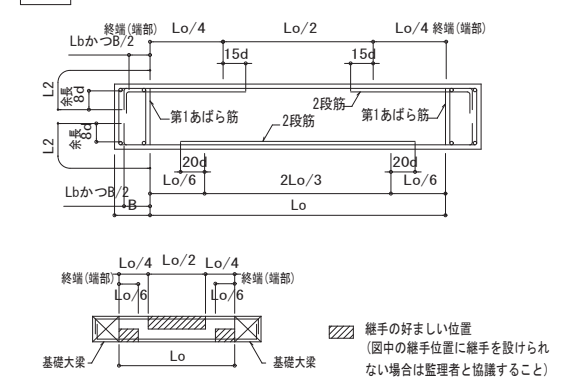


図6-4-2 基礎小梁が単独梁の場合(タイプA2)

B1 杭基礎・独立基礎の場合で基礎小梁が連続する場合

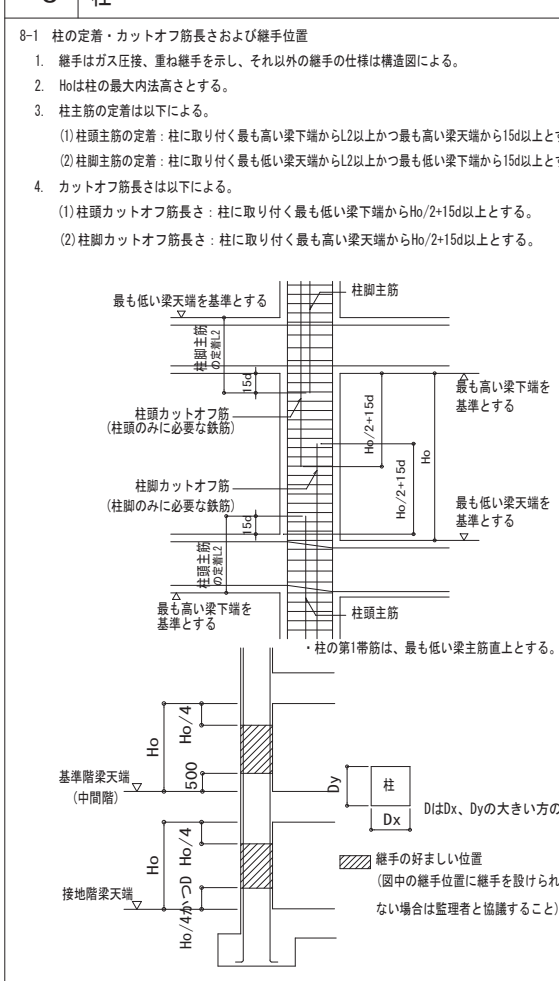


B2 杭基礎・独立基礎の場合で基礎小梁が単独梁の場合

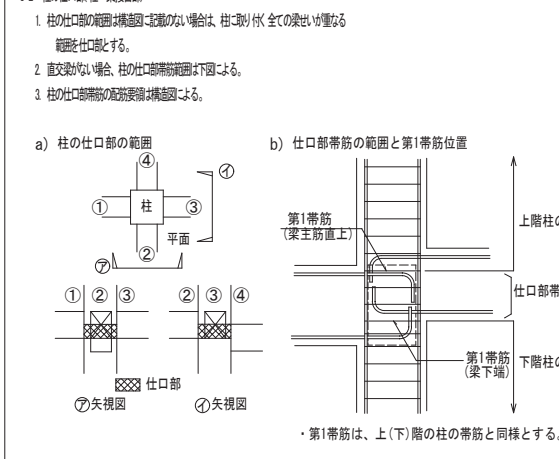


8 柱

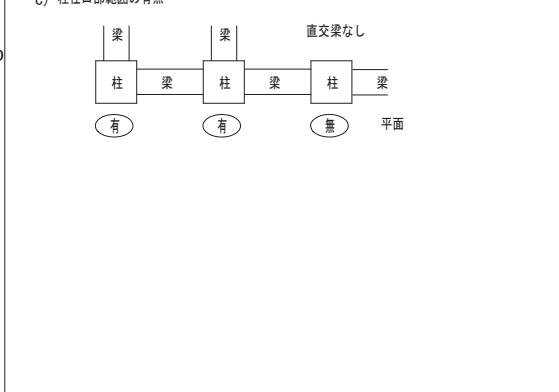
8-1 柱の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置



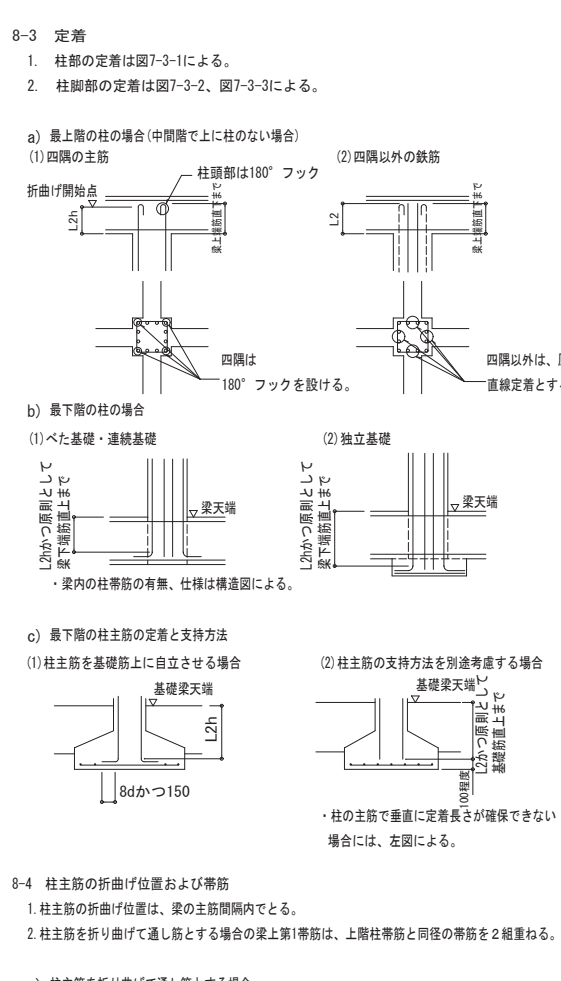
8-3 柱の仕口範囲と第1帯筋位置



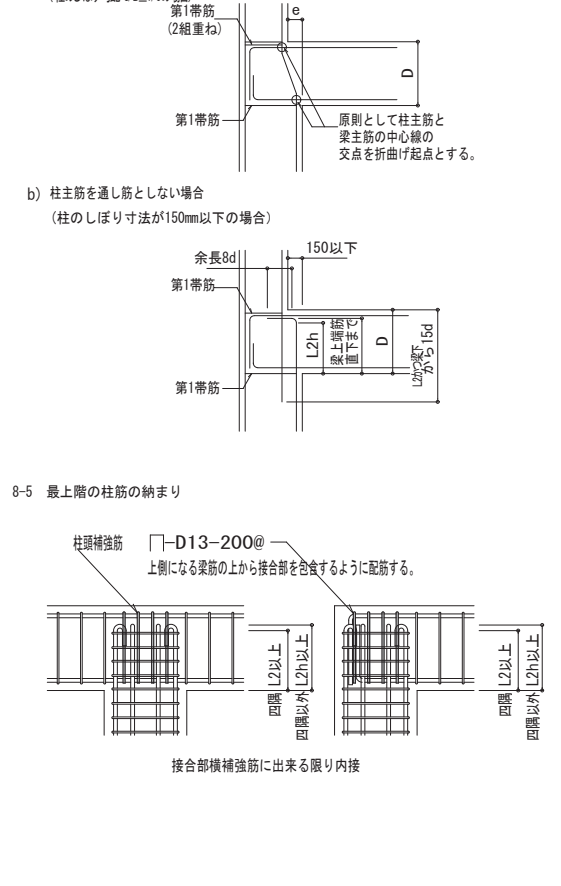
8-5 最上階の柱筋の納まり



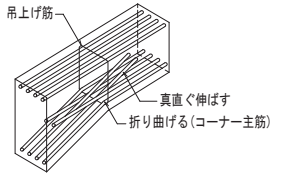
9 大梁



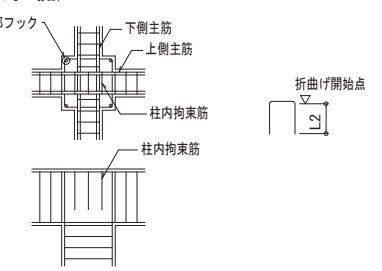
9-3 吊上げ筋の形状



d) ハンチ部配筋要領



e) 最上階柱頭補強(上に柱のない場合)

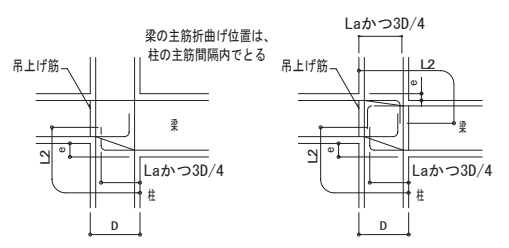


・あばら筋と同径#200以下に設け、交差部は上側となる梁主筋に設ける。

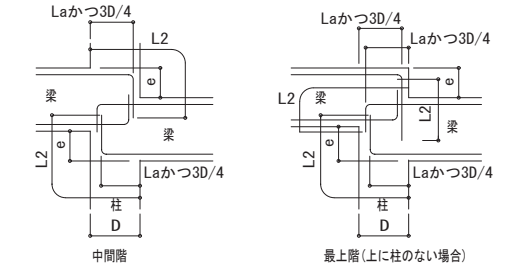
9-3 梁主筋が真直ぐ通らない場合のおさまり

梁主筋は原則として通し筋とするが、鉄筋のあき寸法が確保できる場合は折曲げ定着としてよい。直線定着とする場合は、定着長さが柱面から500mm以下とする。定着を超える場合は、監理者と協議すること。

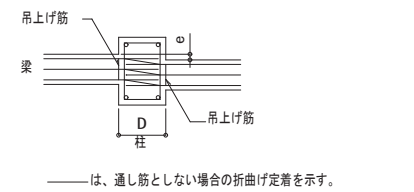
a) e/D ≤ 1/6 の場合 (鉛直方向のずれ)



b) e/D > 1/6 の場合 (鉛直方向のずれ)

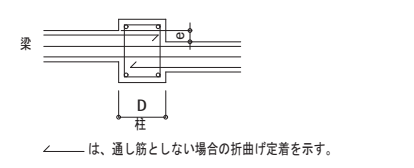


c) e/D ≤ 1/6 の場合 (水平方向のずれ)



——は、通し筋としない場合の折曲げ定着を示す。

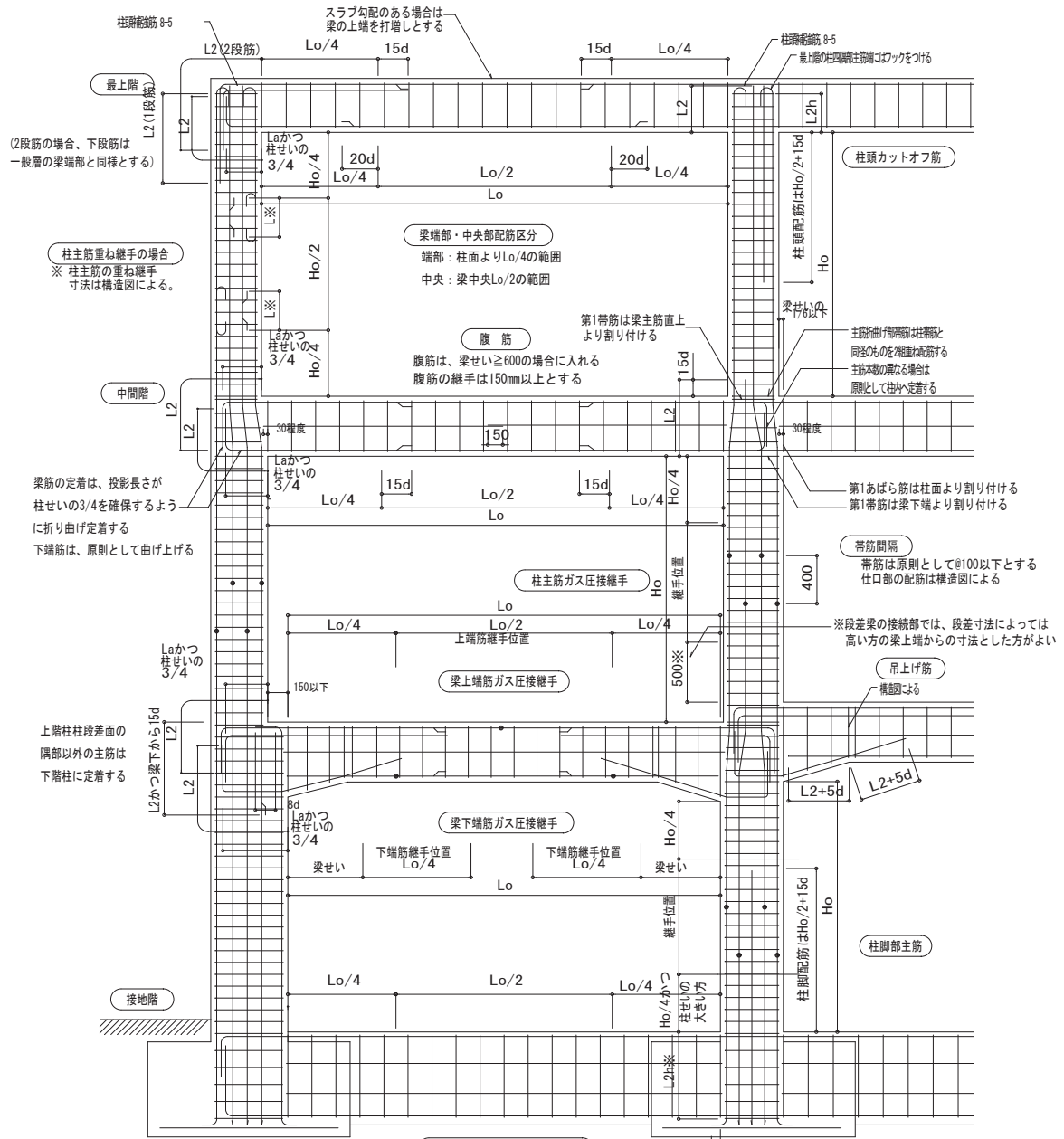
d) e/D > 1/6 の場合 (水平方向のずれ)



——は、通し筋としない場合の折曲げ定着を示す。

9-4 柱梁配筋概要図

1. 本図は、6~8に示す規定をラーメン形に集約したものである。
2. 最上階大梁は中央カットオフ筋、中間階大梁は端部カットオフ筋を示す。
3. 柱梁接合部に機械式定着工法を適用する場合、各機械式定着工法に定める規定を満足すること。

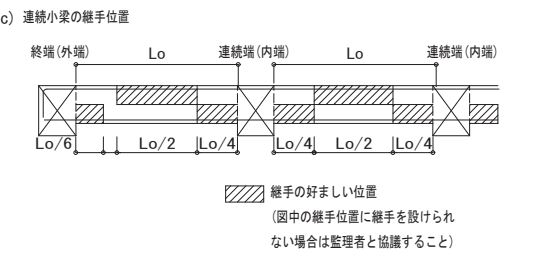
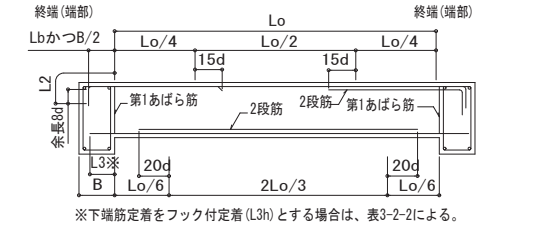
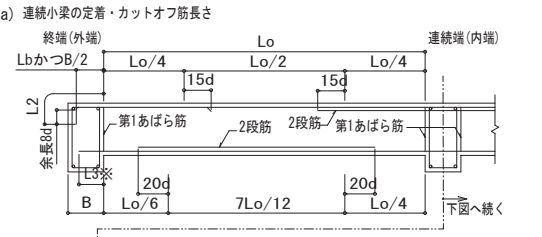


※基礎大梁の定着・カットオフ筋長さは「7.基礎梁」の各タイプによって異なる

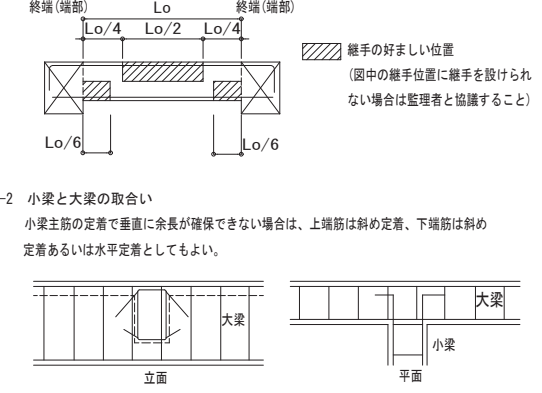
※柱主筋の基礎梁への定着長さは、L2hかつ原則として基礎下端筋の直上までとする。

10 小梁・片持ち梁

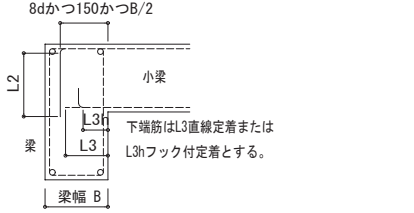
10-1 小梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置



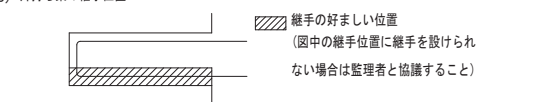
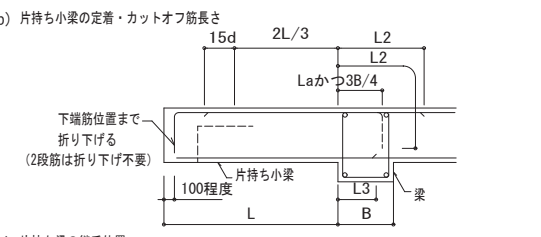
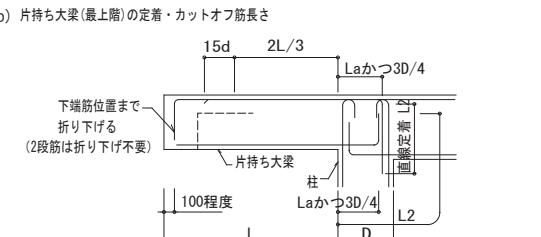
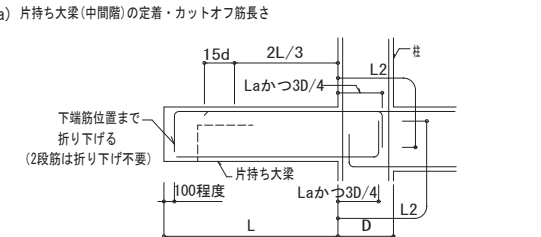
10-2 小梁と大梁の取合い



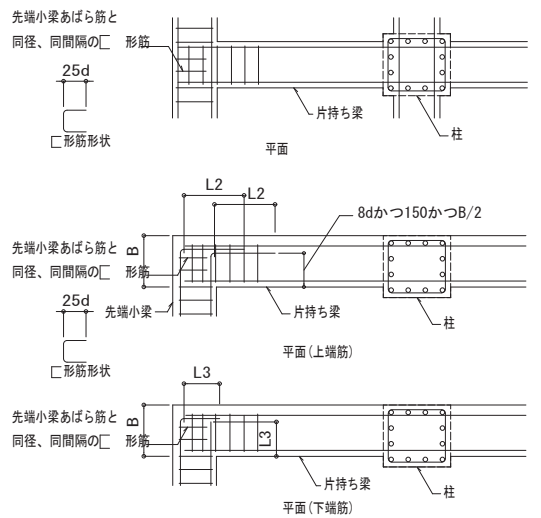
10-3 幅の小さい梁への定着要領 (Lbが確保できない場合)



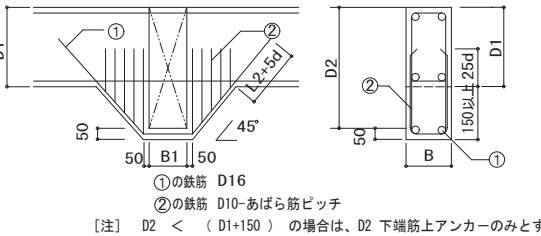
10-4 片持ち大梁・片持ち小梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置



10-5 片持ち梁・先端小梁のおさまり



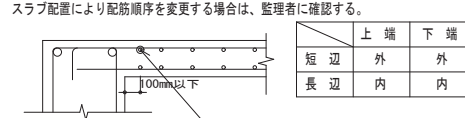
10-6 取り付く梁が小さい場合の補強方法



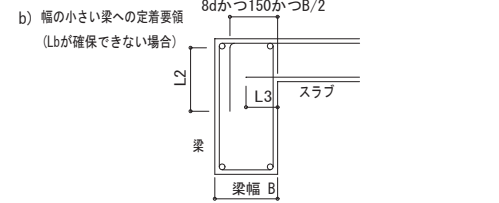
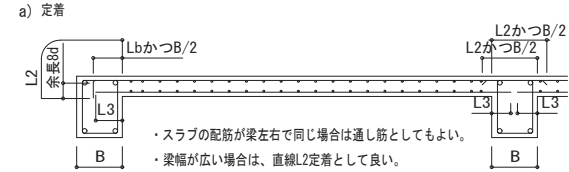
11 スラブ

11-1 スラブ配筋一般事項

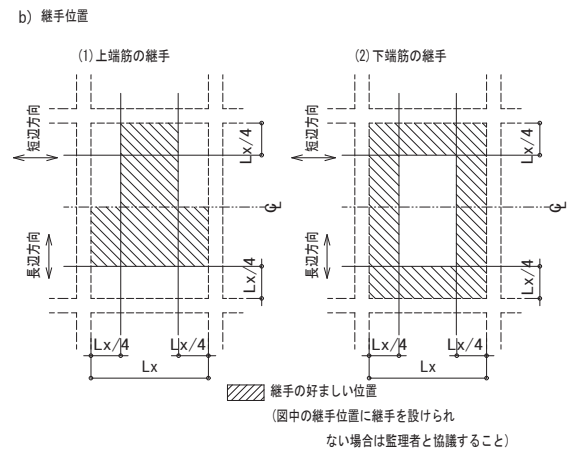
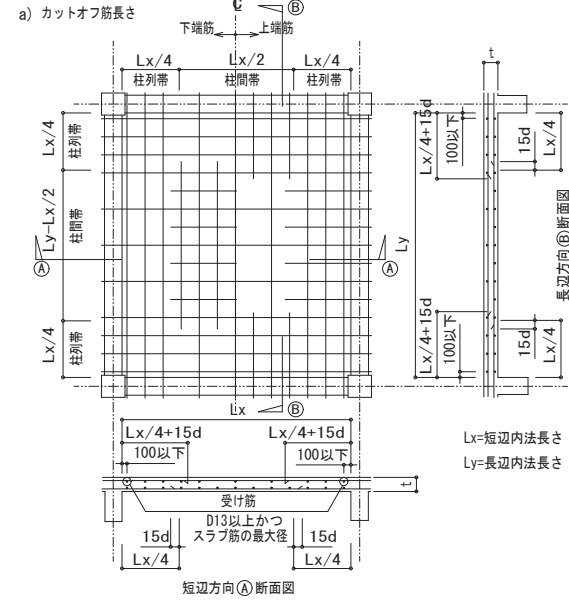
a) スラブ筋の内外関係は、一般に下図による。



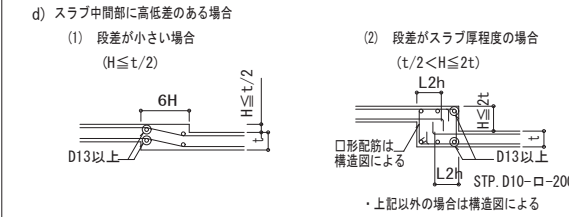
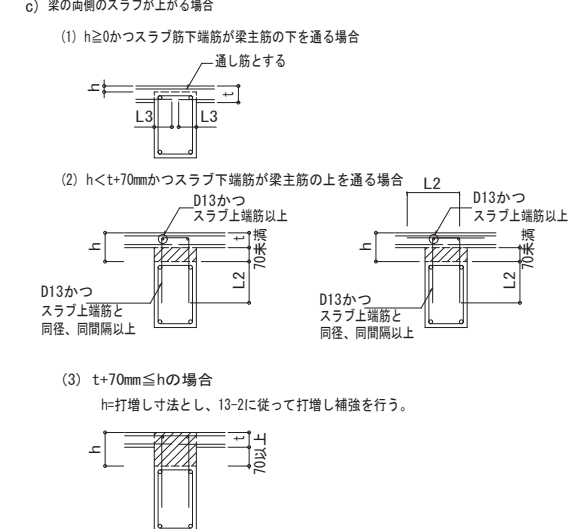
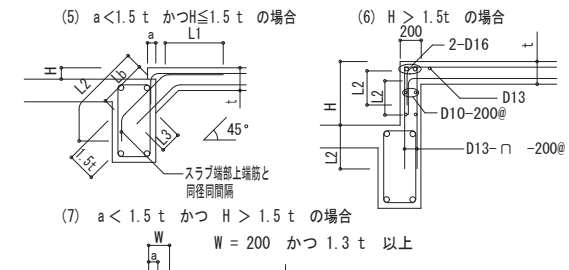
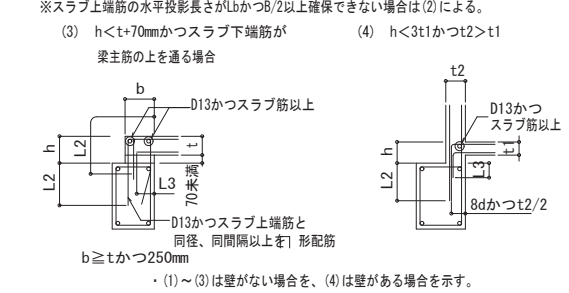
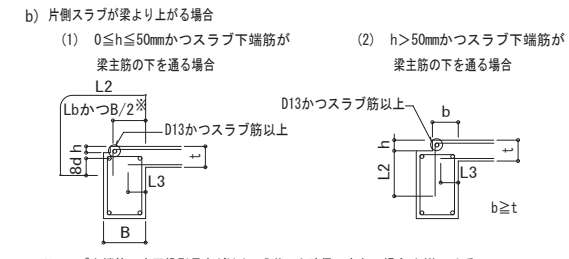
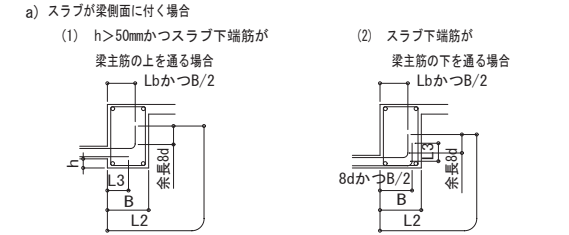
11-2 定着



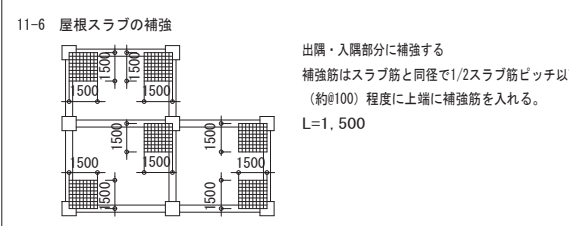
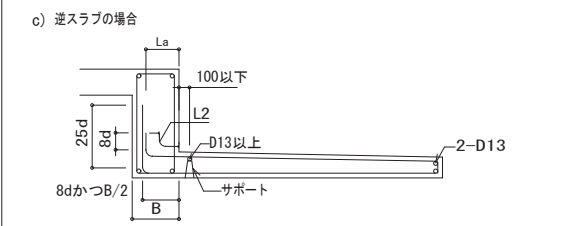
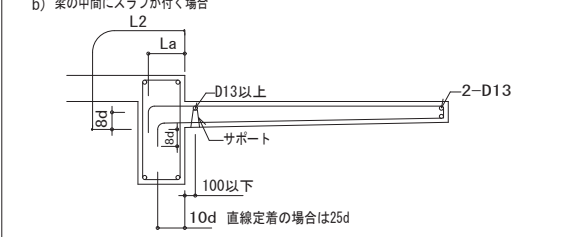
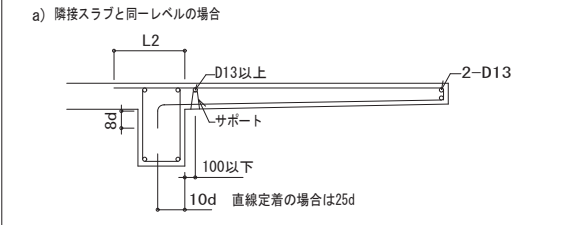
11-3 カットオフ筋長さおよび継手位置



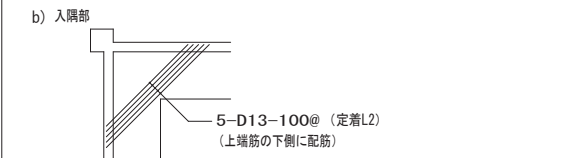
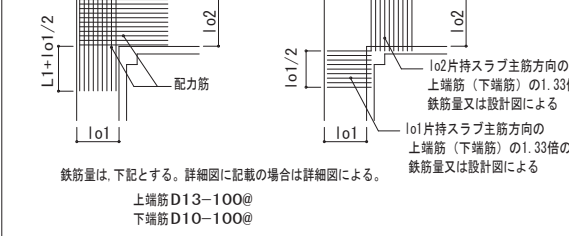
11-4 高低差のある場合のスラブ筋のおさまり



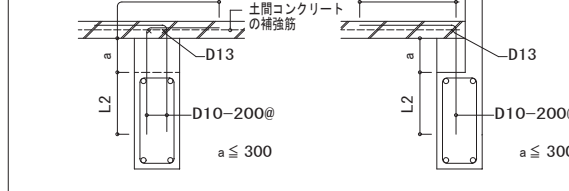
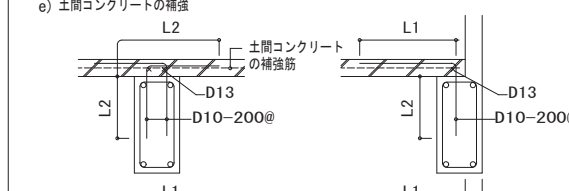
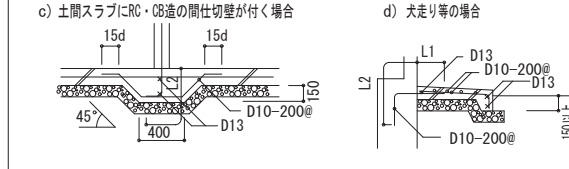
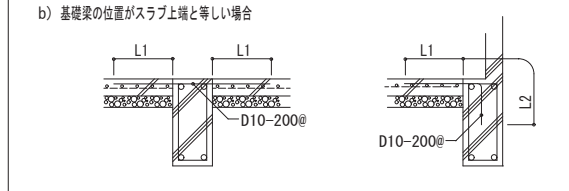
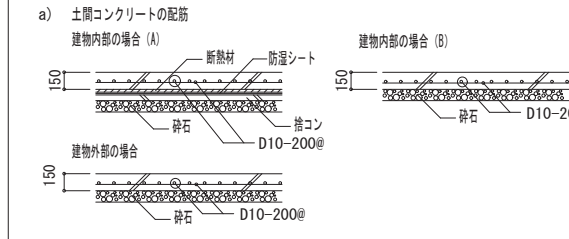
11-5 片持ちスラブ
片持ちスラブの梁への定着は、以下の通りの配筋とする。ただし、以下の配筋とする場合、連続スラブの配筋に留意すること。概ね2m~3m以内で上端、下端に誘発目地を設ける。誘発目地は隅部補強を避けた位置とする。



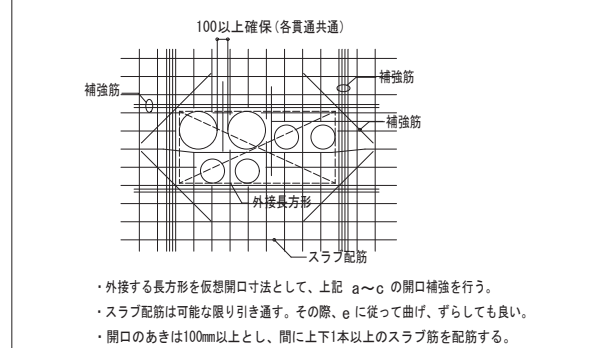
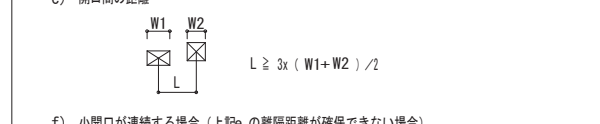
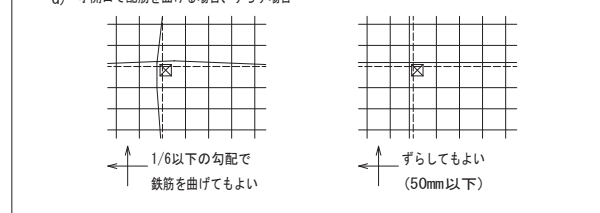
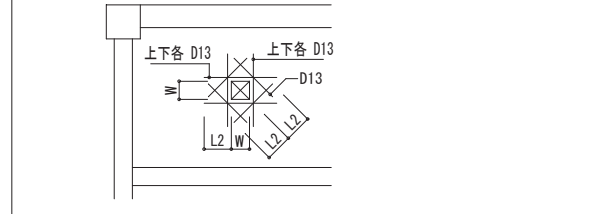
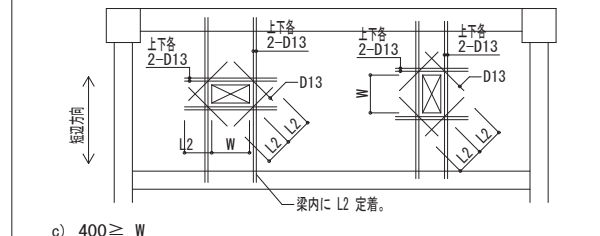
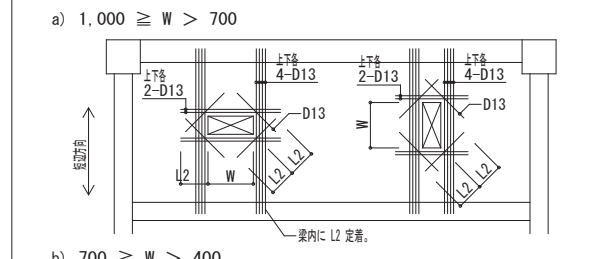
11-6 屋根スラブの補強
出隅・入隅部に補強する
補強筋はスラブ筋と同径で1/2スラブ筋ピッチ以下(約@100)程度に上端に補強筋を入れる。
L=1,500



11-9 土間コンクリートの配筋



11-10 スラブ開口補強 (片持ちスラブに設ける場合の補強は、別途構造図による)
1) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略してよい。d) 図。ただし、開口ピッチは原則として芯々で 3x (隣接する開口寸法の平均) 以上とする。e) 図。
2) 開口の最大寸法が 1,000 を超える場合は、開口周辺に小梁を設ける。小梁が設けられない場合は工事監督者の指示により補強する。
3) 開口が円状の場合、開口直径 φ を W によみかえる。
4) スラブ筋がφ16以上の場合、補強筋はスラブ筋と同径筋を使用する。
5) 貫通孔および取り付け器具の位置は配筋前に型枠に墨だしまたは箱入れをし、貫通孔用スリーブ内に鉄筋を貫通させてはならない。



・外接する長方形を仮想開口寸法として、上記 a~c の開口補強を行う。
・スラブ配筋は可能な限り引き通す。その際、e に従って曲げ、ずらしてもよい。
・開口のあきは100mm以上とし、間に上下1本以上のスラブ筋を配筋する。

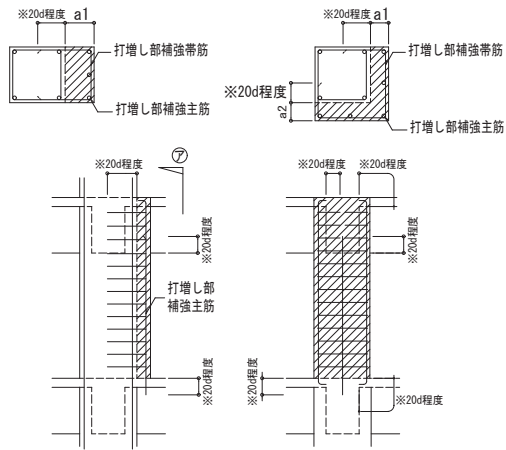
13 柱・梁・壁・スラブ打増し部配筋要領

- a) 構造図に記載のない打増しを行う場合は事前に監理者と協議すること。
- b) 柱、梁の打増し部に耐力壁が取り付く場合の打増し配筋要領は構造図による。
- c) 打増し寸法 a, a1, a2 が70mm未満の場合は補強筋不要とする。
- d) 打増し寸法 a, a1, a2 が70mm以上の場合の打増し部補強要領は、以下図による。
- e) 斜線部は打増しコンクリートを示す。

13-1 柱

- a) 梁、耐力壁およびスラブの鉄筋の定着長さは柱断面内で確保し、無補強の打増し部は定着長さに算定しない。

(1) 柱の打増し要領 (a1, a2が70mm ≤ a ≤ 200mmの場合)



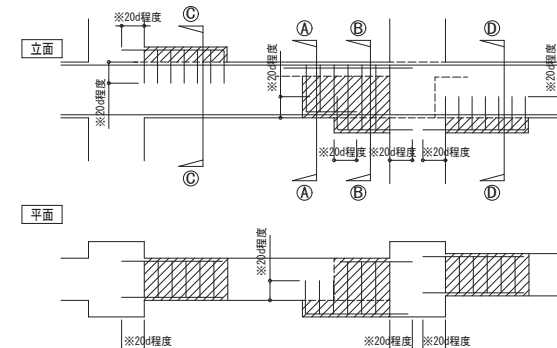
(2) 柱の打増し補強筋

a1	補強主筋
a1 < 70	補強なし
70 ≤ a1 < 200	D16@300程度
200 ≤ a1	柱主筋2サイズダウンかつD19以上を@300程度

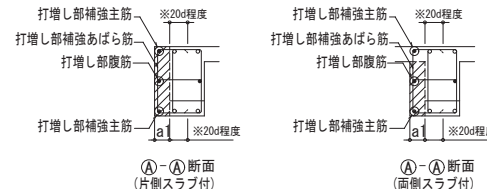
- 補強帯筋は柱帯筋と同径・同間隔とし、材質はSD295とする。
- 特記がある場合は、上記によらず特記に従う。

13-2 梁

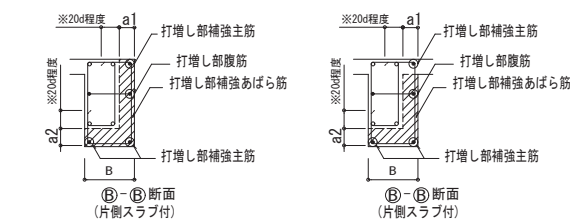
- a) 小梁、耐力壁およびスラブの鉄筋の定着長さは梁断面内で確保し、無補強の打増し部は定着長さに算定しない。
- b) 打増し部腹筋は梁と同径、同段数とする。
- c) 梁打増し部の補強筋の定着



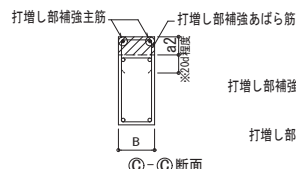
(1) 梁側面を打増しする場合



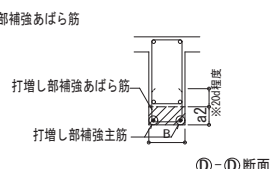
(2) 梁側面および梁下面を打増しする場合



(3) 梁上面を打増しする場合(スラブなし)



(6) 梁下面を打増しする場合



・スラブが取付く場合は、11-3を参照。

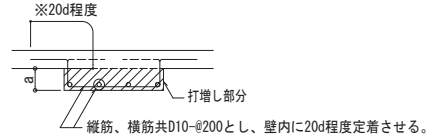
(4) 梁打増し補強筋

a1, 2	側面打増し補強主筋	上下打増し補強主筋
a1, 2 < 70	補強なし	補強なし
70 ≤ a1, 2 < 200	D16	D16@250程度
200 ≤ a1, 2	梁主筋2サイズダウンかつD19以上を@250程度	梁主筋2サイズダウンかつD19以上を@250程度

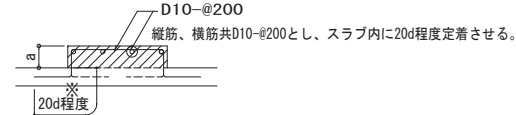
- 補強あばら筋は梁あばら筋と同径・同間隔とし、材質はSD295とする。
- 特記がある場合は、上記によらず特記に従う。

13-3 壁・スラブ

1. 壁の打増し部配筋要領



2. スラブの打増し部配筋要領

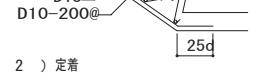


14 階段

a) 片持階段



1) 段部



2) 定着



3) 踊場



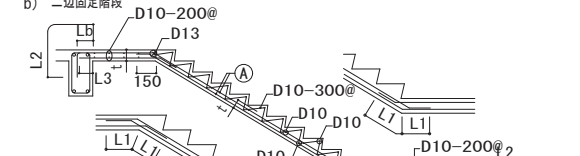
＜校舎様＞

符号	スラブ厚 (t)	①主筋方向 (上端筋)	②主筋方向 (下端筋)	③配筋方向
KS1	180	D13-100@	D13-100@	D13-100@
KS2	180	D13-150@	D13-150@	D13-150@
KCS1	180	D13-100@	D10-100@	D10-200@
KCS2	150	D13-150@	D10-150@	D10-200@

＜屋内運動場様＞

符号	スラブ厚 (t)	①主筋方向 (上端筋)	②主筋方向 (下端筋)	③配筋方向
KCS41	180	D13-150@	D13-150@	D13-150@
KCS42	180	D13-150@	D13-150@	D10-200@

b) 二辺固定階段



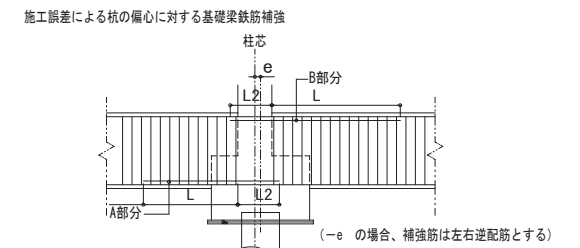
＜校舎様＞

符号	スラブ厚 (t)	主筋 (A)

＜屋内運動場様＞

符号	スラブ厚 (t)	主筋 (A)

15 基礎梁の杭基礎、杭芯ずれに伴う補強要領

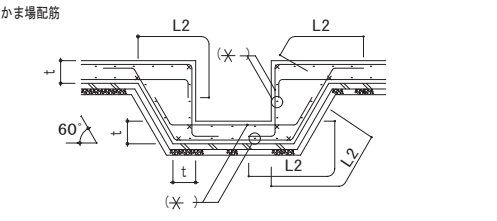


偏心距離	A 部分	B 部分	せん断補強
0 < 偏心 e ≤ 100	補強なし	補強なし	補強なし

- 群杭の場合の偏心距離 (e) は、群杭心からの距離とする
- 偏心距離 (e) が 100 mm を超える場合の補強は、設計者の確認を得ること。
- 耐震壁付 (EW) の部分は、基礎梁に対する補強は原則として不要。

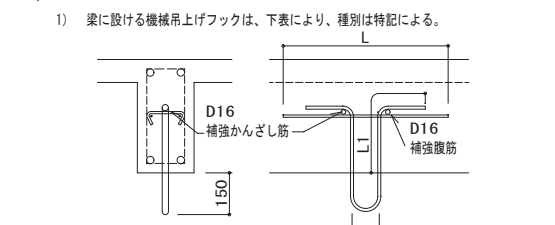
16 雑

a) かま増配筋



- [注] (×) は、耐圧スラブ配筋リストの配筋と同じとする。
- t の寸法は、各スラブの厚さに同じ。
- コーナー筋は、D13かつスラブ筋と同径以上。

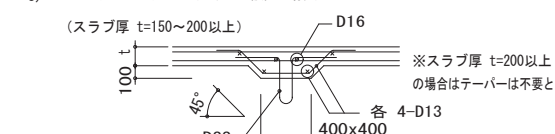
b) 機械吊上げフック



種別	A 種	B 種	C 種
フック筋	D25またはφ25	D22またはφ22	D19またはφ19
曲げ内法直径 (mm)	100		
補強かんざし筋	2-D16		
補強腹筋	D16, L=900	D16, L=750	D16, L=600
吊下げ荷重 W (kN)	50 ≥ W > 30	30 ≥ W > 10	10 ≥ W

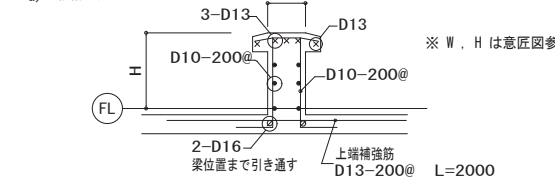
※ 既製品を使用の場合は、監理者と協議すること。

c) EVフック：20kN以下 (スラブに設置の場合)

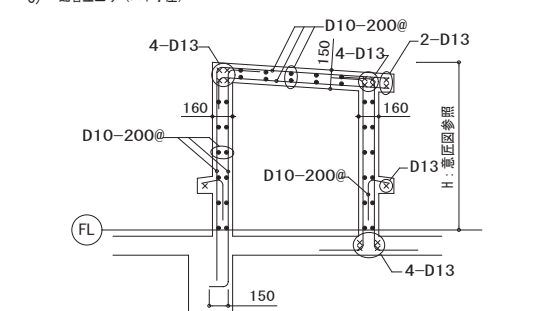


※ 既製品を使用の場合は、監理者と協議すること。

d) 設備基礎



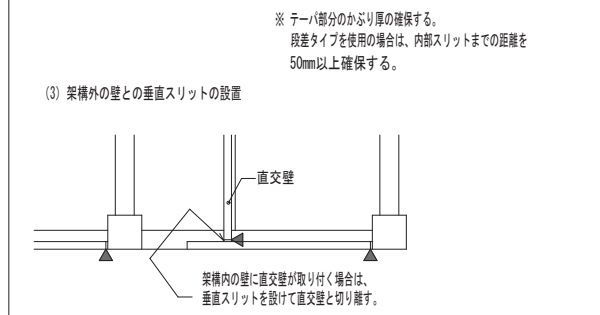
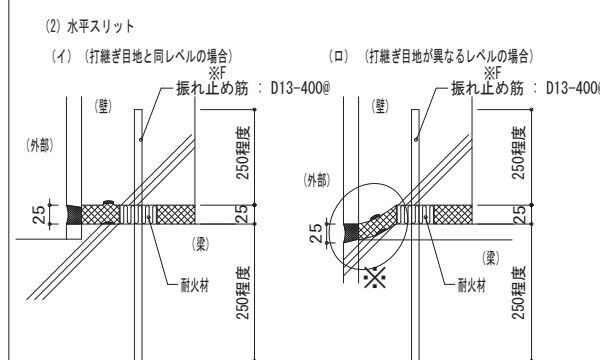
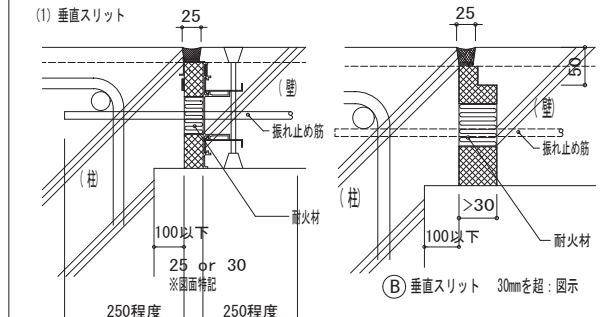
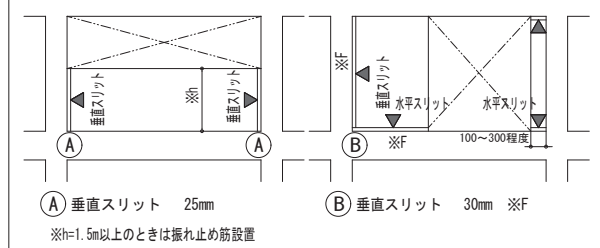
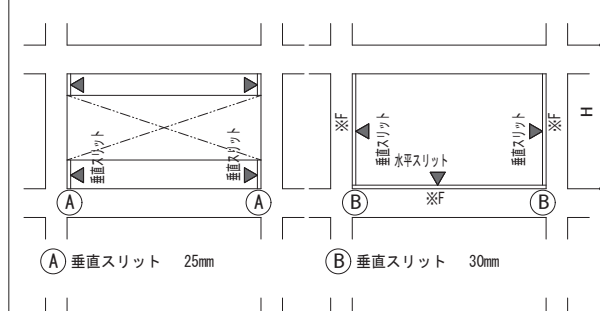
e) 配管立上り (ハト小屋)



※ 既製品を使用の場合は、監理者と協議すること。

17 耐震スリット

- 耐震スリット (完全スリット) 詳細図
- a. スリット部は、十分な水密性能を持つ材とする。
- b. スリット部の耐火材の有無は、防火区画図による。
- c. ※F: 振れ止め筋は、防錆 (亜鉛メッキ仕様) とする。約D13-400とする。
- d. 耐震スリット部の施工完了 (写真: 寸法確認他) は、全箇所とする。



EI 株式会社教育施設研究所

ARCHITECT & OFFICE BRANCH: 東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号 株式会社教育施設研究所 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号	CHKD BY: 一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦 一級建築士大臣登録 第315246号 茂木 博之 構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之	DRAWN BY: 大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事) 【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】 配筋標準図 No.8	SCALE: A1 S=1: A3 S=1:	DRAWING NO: S-009
--	---	---	------------------------	-------------------

18 埋設配管要領

※埋設配管は、設備工事であるが建築が主体となり管理する。

柱・梁及び壁、スラブに埋設される配管の標準図

a) 柱梁仕口まわりの配管納まり図

NG: 柱面から500以内の梁横断
OK: コンクリート増打ち部
NG: 梁面から500以内のスラブに1mを超える配管
NG: 柱の鉛直方向の埋設配管

スラブ内に1mを超えて配管できない範囲
梁に横断配管できない範囲
増打ち部分

b) 柱に配管する場合

材軸方向（鉛直方向）は、躯体内に配管等は設けない
配管不可

柱位置に配管を設ける場合は、乾式工法の仕上またはコンクリートの打ち増し部に埋設する。

配管可
スイッチボックス等
乾式仕上または打増し部

打増し部
40 (かぶり厚さ)
打増し厚さ浅型コンセント（深さ45程度）の場合 35mm以上
30 (最小かぶり厚さ) 深型コンセント（深さ55程度）の場合 45mm以上
帯筋

柱を横断貫通する配管等は設けない、配管不可

主筋
HOOP

c) 梁に配管する場合

材軸方向の躯体内に配管等は設けない
配管不可

500
柱
500
配管
横断配管を避ける範囲
NG
OK

配管は、梁主筋の内側に通し、主筋とのあきを確保する。
配管は、梁主筋と直角に通す(横走りの禁止)
配管相互の中心間隔は、あばら筋間隔以上とする。

乾式仕上または打増し部
スイッチボックス等
鉛直方向貫通可
鉛直方向に貫通する配管等は設けない、配管不可

d) 壁に配管する場合

- 外壁及び耐震壁には、原則として配管は設けない。やむを得ず配管する場合は、PF (16) 以下の配管とし、配管ピッチは500mm以上とする。
- 地下外壁の配管は、接地用配管及び防犯用配管を除き、原則として設けない。
- 耐震スリット部を貫通する配管は行わない。
- 短区間 (1m以内) を除き、横走り配管をしてはならない。
- 一般壁 (耐震壁以外) の配管の中心間隔は、壁縦筋間隔以上とする。
- 蛇行配管は、行わない。
- 縦筋に添わせない。(案内筋を設けて配管する)
- 耐震壁の設備小開口の取り扱い
2020年版建築物の構造関係技術基準解説書、黄色本P318より
開口周比 r_o 及び L_o/L の値が0.05以下となる開口部を応力の小さい箇所に分散して設けた場合は可能とする。
位置及び大きさについては、構造設計者の承諾を得ること。

9. 配管納まり図

ダブル配筋
配管
シングル配筋
配管

一般壁
コンセントボックス
 $t \geq 100$
開口補強と同じ要領で補強を行う。

一般壁
 $t \geq 100$
壁がシングル配筋
壁がダブル配筋

10. 円開口の場合. [注] 壁がシングル配筋でも、 $t < 100$ の場合は開口部として開口補強を行う。

[注] 1) 開口ピッチが芯々で $3x$ (隣接する開口寸法の平均) 以下の場合は開口部をひとつの開口として扱う。
2) L_o, h_o 寸法を開口寸法とし、補強筋は壁リストによる。
3) 開口間に所定の壁筋の配筋が可能な場合は配筋する。その場合鉄筋は折り曲げてよい。

11. 角開口の場合

[注] 1) 隣接する開口あき a が300以下の場合はひとつの開口として扱う。
2) 印の部分の縦筋は、規定の壁筋と同径・同ピッチかつ $\phi 150$ 以下で配筋する。
3) 印の部分は、規定の配筋を行う。
4) ----- は所定の開口補強筋を入れる。

e) スラブに配管する場合

- 梁面より500mm以内の範囲に、1mを超える配管は設けない。
- 配管どうしの交差は、鉄筋交差部では行わない。
- 管径はスラブ厚さの1/4以下とし、配管相互の中心間隔は70mm以上とし、3本を超えて平行配管してはならない。ただし、相互の間隔が300mm以上の場合はこの限りではない。
- 蛇行配管は、行わない。
- 屋根スラブには、原則として配管等の埋設は行わない。

柱
梁
500
1mを超える配管をしてはならない範囲
250程度 250程度
500以上
D10
30以下の場合

[注] スラブ埋め込みピッチが、配管径Dの3倍 (3D) 確保できない場合は、当該配筋ピッチ間に、所定のスラブ筋とは別にD10を上端に一本づつ入れる。ただし、所定のスラブ筋が $\phi 100$ 以内の場合は不要とする。

ボックス
L2 L2
1-D13 かつ切断した鉄筋量以上を配筋する。

シャフト内の設備貫通等開口ピッチの芯々が $3x$ (隣接する開口寸法の平均) 以上とれない場合は、
[注] 床スラブ上部に埋め込みの場合も同要領とする。

19 梁の貫通孔補強 (梁スリーブ補強)

1. 一般事項

- スリーブ補強は、既製品 (評価品) による貫通孔補強を標準とする。
- 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。または、既製品の仕様による。
- 孔の径が梁せいの1/10以下かつ150mm未満の場合は、梁端部を除き補強を省略することができる。しかし端部で孔が連続する場合を除く。補強タイプは監理者と協議する。
- スリーブ補強計算を行い補強計画書 (図・計算書) を作製し監理者の承諾を得る。
- スリーブ補強を在来工法とする場合は、監理者と協議する。

2. 貫通孔位置

$D/3 \geq \phi$ (貫通孔)
 $L \geq (\phi_1 + \phi_2) \times 3/2$

$h \geq \phi$ かつ175程度 : 梁筋が1段の場合
 $h \geq \phi$ かつ250程度 : 梁筋が2段の場合

貫通孔範囲
 $h \geq \phi$ かつ175程度 : 梁筋が1段の場合
 $h \geq \phi$ かつ250程度 : 梁筋が2段の場合

NG スリーブを設けることはできない。

の範囲にスリーブを設ける場合
貫通孔補強は、既製品仕様による。既製品評価外の場合は、在来工法による補強とする。
原則ヒンジが形成されない位置とする。補強は、構造設計者の指示による。

- 孔の中心位置は、柱の面から原則としてID (Dは梁せい) 以上離す。ただし、使用する既成補強筋評価書の仕様書による場合は、この限りではない。
- 直交する梁 (小梁) の側面から孔の中心位置の限度は、500mm程度とする。ただし、直交する梁主筋と梁貫通補強筋が干渉しないことが確認された場合は、監理者と協議の上この限りではない。

20 梁・スラブ・壁のスリーブ個数一覧

※下記個数は、設計個数であり設備工事からの実施数量ではない。
スリーブ概算数量【校舎】

大梁						
階	100φ	125φ	150φ	200φ	250φ	300φ
1階伏 (地中) 梁	153	16	75	2		
2階伏梁	69	4	5			
3階伏梁	88	6	27	11	32	20
4階伏梁	47	4	9	30	52	20
R階伏梁	15		28	10	23	
計	372	30	144	53	107	40
小梁						
階	100φ	125φ	150φ	200φ	250φ	300φ
1階伏 (地中) 梁						
2階伏梁						
3階伏梁	53		11		8	2
4階伏梁	17			4	15	5
R階伏梁	17		6			
計	87		17	4	23	7
鉄骨小梁						
階	100φ	125φ	150φ	200φ	250φ	300φ
1階伏 (地中) 梁						
2階伏梁					10	
計					10	

スリーブ概算数量【屋内運動場】

大梁						
階	100φ	125φ	150φ	200φ	250φ	300φ
1階伏 (地中) 梁	29	2	9	2		
2階伏梁	2			11		
3階伏梁						
4階伏梁						
R階伏梁	6		2	2	2	2
計	37	2	11	15	2	2
小梁						
階	100φ	125φ	150φ	200φ	250φ	300φ
1階伏 (地中) 梁						
2階伏梁						
3階伏梁						
4階伏梁						
R階伏梁						
計						

参考：スリーブ材の使用区分・仕様 (材工は設備工事とする)

(1) スリーブ材の使用区分

使用区分	スリーブ材
梁貫通部	溶融亜鉛めっき鋼板
地中部分で水密を要しない 梁・壁部分 (防火区画以外)	塩ビ管 (VU)
地中部分で水密を要する 梁・壁部分 (外壁・水槽貫通部)	つば付き鋼管+膨張止水シール
壁・スラブ (開口補強不要かつ200mm以下)	紙製 (ポイド)
壁・スラブ (箱抜き)	木製・亜鉛鉄板製

(2) スリーブ材の仕様

スリーブ材	仕様
溶融亜鉛めっき鋼板	径が200mm以下は、厚0.4mm以上 径が200mmを超え350mm以下のものは、厚0.6mm以上 原則として筒形の両端をを外側に折曲げてつばを設ける。 必要に応じて、円筒部を両方から差し込む伸縮形とする。
塩ビ管 (VU)	JIS K 6741 (硬質ポリ塩化ビニル管) のVU
つば付き鋼管	配管用炭素鋼管 (JIS G 3452) の黒管に厚さ6mm以上 つば幅50mm以上の鋼板を溶接後、汚れ油類を除去し、 内面及び端部にさび止め塗料塗りしたもの。

※上記以外の鋼管スリーブは、JIS G 3452 (配管用炭素鋼管) の白管とする。

21 設備関係

建築物の構造安全性

令第129条の2の4の事項 ※設計が該当する場合には、□にチェックを記入する。

- 建築物に設ける建築設備については、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
 - 建築物設備 (昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。
 - 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
 - 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支持を設けたものを除き、90cm以下とすること。
 - 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
 - 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備 (給湯設備を除く) は、以下の構造方法による。
 - 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
 - 建築物の部分を通して配管する場合には、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
 - 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可換継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
 - 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
 - 給湯設備※は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。「給湯設備※」建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの
 - 法第20条第1項第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものについては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

鉄骨構造標準図 (鉄骨溶接基準図)

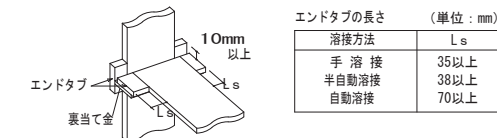
- 設計図面に特記されていない事項については、下記による。
- 部材の板厚の適用範囲は50mm以下とする。ただし設計者と協議の上70mmまで適用できることとする。
- 開先加工の寸法許容差は、日本建築学会JASS6付則6「鉄骨精度検査基準」による。
- 開先標準図については、設計者の承諾を受けて一部を変更することができる。
- 図面及びこの標準図に記載されていない事項は、下記による。
建築工事標準仕様書・同解説 日本建築学会 JASS6鉄骨工事(2018版)
鉄骨工事技術指針・工場製作編 日本建築学会(2018版)
鉄骨工事技術指針・工事現場施工編 日本建築学会(2018版)
「突合せ継手の食い違い仕口の検査・補強マニュアル(独立行政法人 建築研究所 監修)」
- 溶接方法および溶込みの種類記号

溶込みの種類	溶接方法	記号
完全溶込み溶接	被覆アーク溶接	MC
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	GC
部分溶込み溶接	被覆アーク溶接	MP
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	GP

・BH材のサブマージ溶接は、日本鉄骨評価センターの「BH製作工場認定」を取得しているBH専業工場あるいは、国土交通大認定取得している鉄骨工場でサブマージ溶接装置を保有している工場とする。

エンドタブ

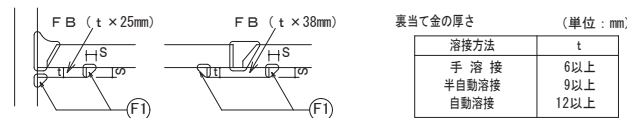
- 完全溶込み溶接及び部分溶込み溶接部の始端・終端には、鋼製エンドタブを使用する。
- エンドタブの鋼材の鋼種は、母材と同等のものとし形状は母材と同厚、同開先形状のものを用いる。
- エンドタブの長さは下記による。



- 鋼製エンドタブの取付けは、裏あて金に組立て溶接すること。やむを得ず開先内に組立て溶接を行う場合は、本溶接時に組立て溶接が再溶融され、欠陥が残らないように溶接施工する。
- 鋼製エンドタブ以外の固形エンドタブを使用する場合は、設計者・監督職員と協議する。
- 鋼製エンドタブは、溶接後 5~10mmを残し切除しグラインダーで平滑に仕上げる。
- 右記の条件の接合部は、切断しなくてよい。
1. 終局状態にて塑性ヒンジを形成しない梁端接合部
2. 梁材が400N/mm2級鋼の接合部
3. 柱材にH型断面柱が用いられている接合部

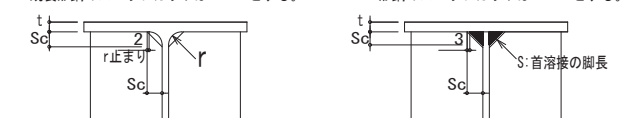
裏あて金の溶接

- 裏あて金の材質は、母材と同等とする。
- 但し高規格材については、設計者・監督職員の承諾を得た場合、SN490Bとすることができる。
- 裏あて金の厚さ及び組立てサイズは下記による。



スニップカット

- 溶接のコーナー部をスニップカット (Sc) で処理する場合は下記の形状とする。
- 既製形鋼のスニップカットはSc=r+2とする。 ・BH形鋼のスニップカットはSc=S+3とする。



スカラップ

- 柱梁交差部の完全溶込み溶接は、スカラップを設けない事を原則とする。(ノンスカラップ工法)
- 現場溶接部でスカラップを設ける場合は、改良型スカラップ(複合円型スカラップ)とする。
- 小規模鉄骨の場合は、設計者・監督職員の承諾により改良型スカラップ(複合円型スカラップ)とすることができる。

裏はつり

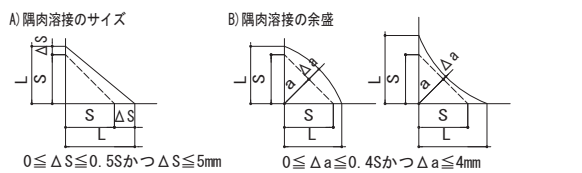
- 両面から溶接する場合は、裏側の切層を溶接する前に裏はつりを行う。
- サブマージアーク溶接法において、裏側の切層の溶込みが十分であることが施工試験や非破壊検査により確認された場合には、設計者・監督職員の承諾により裏はつりを省略できる。
- 小規模鉄骨の場合は、設計者・監督職員の承諾により改良型スカラップ(複合円型スカラップ)とすることができる。

フィラー

- フィラーは母材の片面で4枚以上重ねて用いない。
- 高力ボルト摩擦接合で母材の板厚差が1mm以下の場合は、フィラーを用いなくてよい。
- 高力ボルト摩擦接合のフィラーの材質は、400N/mm2級の鋼材でよい。
- ボルト接合のフィラーの厚さは、6mm未満とする。ただしボルトの二次曲げの影響を考慮してボルトの許容せん断応力度を提言した場合は、6mm以上のフィラーを用いることができる。
- 添板を用いて隅肉溶接する場合はフィラーが必要となる。このときフィラーを添板の縁より大きくして、溶接ビートの場所を確保し母材とフィラー及びフィラー添板の溶接ビートが重ならないようにする。
- 溶接接合のフィラーは母材と同等以上の材質とする。

余盛高さ

- 完全溶込み溶接部、隅肉溶接部、フレア溶接部の溶接は余盛を行う。
- 余盛は、応力集中を避けるために過度の余盛をせず、母材表面からなめらかに連続する形状とする。
- 余盛高さはJASS6 付則6に従う。



C) 完全溶込み溶接 突合せ継手の余盛

B (mm)	h=0	余盛高さ Δh (mm)
B < 15	0 ≤ Δh < 3mm	
15 ≤ B < 25	0 ≤ Δh < 4mm	
25 ≤ B	0 ≤ Δh < 4B/25mm	

D) 完全溶込み溶接 T継手の余盛 (裏当て金あり)

t (mm)	h (mm)	余盛高さ Δh (mm)
t ≤ 40	t/4	0 ≤ Δh ≤ 7
t > 40	10	0 ≤ Δh ≤ t/4-3

E) 完全溶込み溶接 T継手の余盛 (裏はつりあり)

t (mm)	h (mm)	余盛高さ Δh (mm)
t ≤ 40	t/8	0 ≤ Δh ≤ 7
t > 40	5	0 ≤ Δh ≤ t/4-3

鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

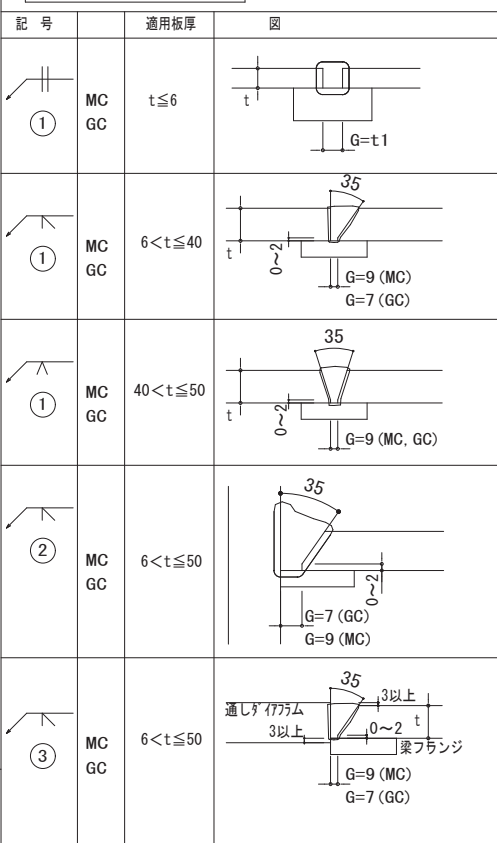
鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	バス間温度 (°C)
400N/mm2級鋼	JIS Z 3312 YGW11, 15	40 以下	350 以下
	YGW18, 19	30 以下	450 以下
490N/mm2級鋼	JIS Z 3313 T490Tx-yCA-U, T490Tx-yMA-U	40 以下	350 以下
	YGW11, 15	30 以下	450 以下
520N/mm2級鋼	JIS Z 3312 YGW18, 19	40 以下	350 以下
	JIS Z 3313 T550Tx-yCA-U, T550Tx-yMA-U	30 以下	250 以下
400N/mm2級鋼 STKR・BCR・BCPlに限る	JIS Z 3312 YGW11, 15	30 以下	250 以下
	JIS Z 3313 T550Tx-yCA-U, T550Tx-yMA-U	40 以下	350 以下
490N/mm2級鋼 STKR・BCPlに限る	JIS Z 3312 YGW18, 19	30 以下	250 以下
	JIS Z 3313 T550Tx-yCA-U, T550Tx-yMA-U	30 以下	250 以下

上記の溶接条件以外による場合は、設計者・監督職員と協議する。

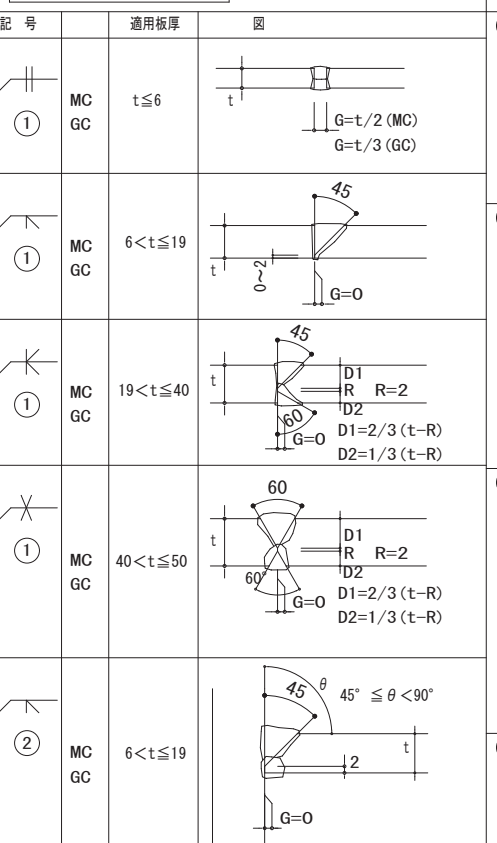
仮設部材の取付け制限

- 仮設部材の取付けは、工場溶接とする。
ディテールが未定等のため工場溶接できない場合は、捨てプレート等を工場で取付けて置き、仮設部材をその捨てプレートに現場溶接で取付けることができる。
- 完全溶け込み溶接部も開先側の溶接部から、板厚の6倍の範囲内には、原則として仮設部材を取付けてはならない。
- 本溶接(角溶接など)のビートに重ならない位置とする。

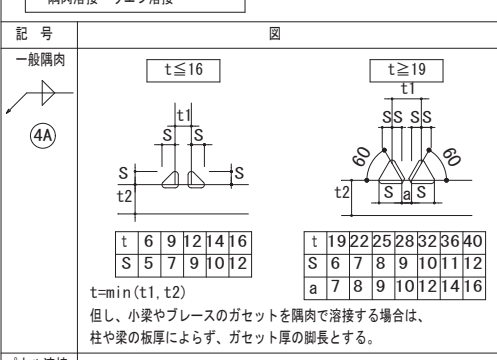
完全溶込み溶接 裏あて金方式



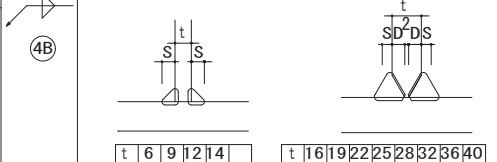
完全溶込み溶接 裏はつり方式



隅肉溶接 ウェブ溶接



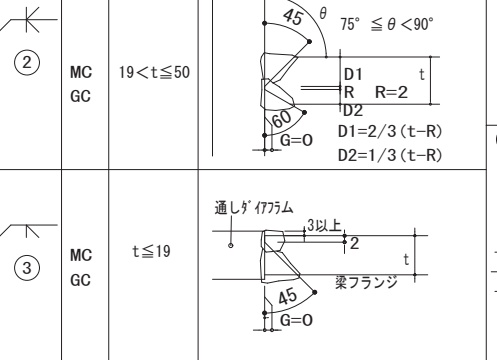
パネル溶接



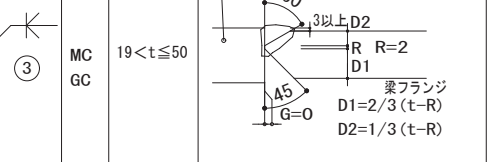
部分溶込み溶接



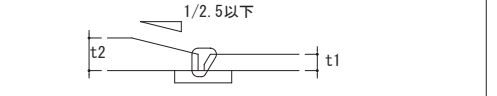
隅肉溶接 ウェブ溶接



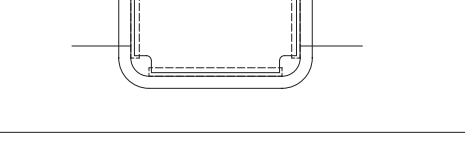
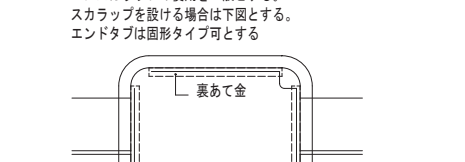
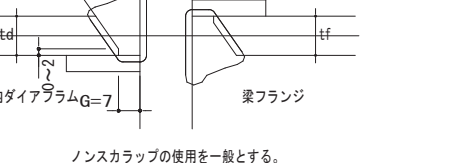
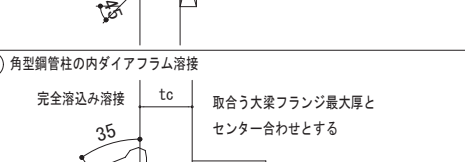
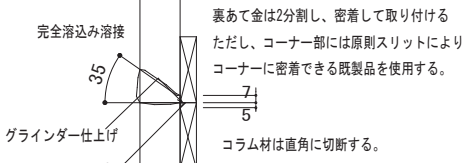
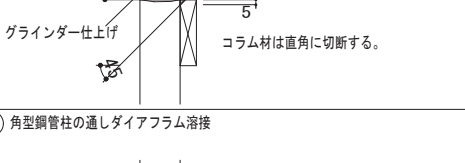
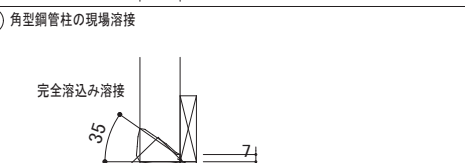
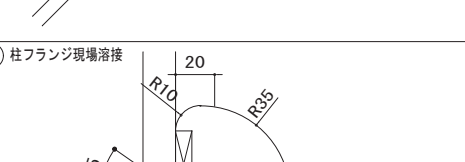
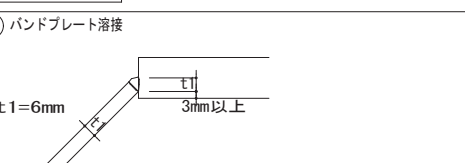
パネル溶接



部分溶込み溶接



その他の部分

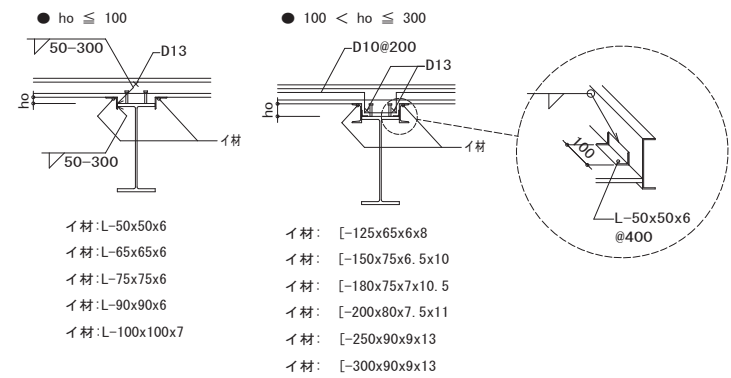
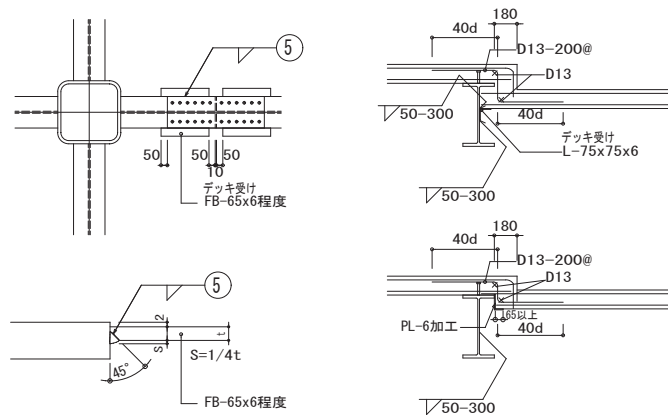


株式会社教育施設研究所

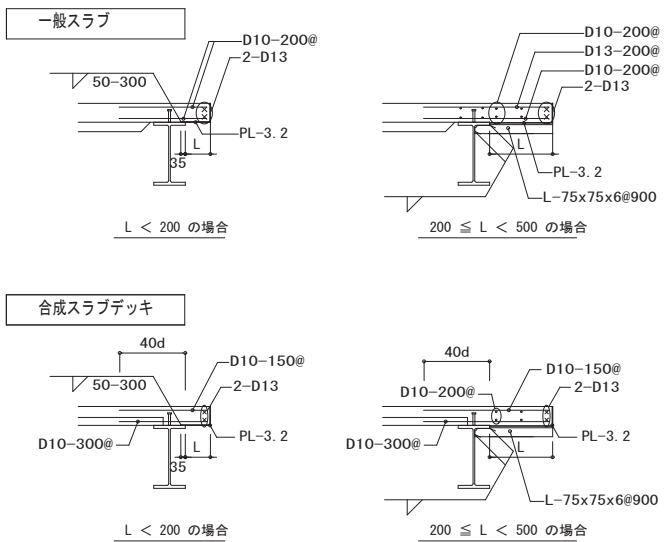
ARCHITECT & OFFICE BRANCH: 1-7-34-12 高松 敏彦
 株式会社教育施設研究所
 東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

DATE '22.04
 DRAWING NO. S-011
 SCALE A1 S=1: A3 S=1:
 DRAWING TITLE 鉄骨構造標準図(1)

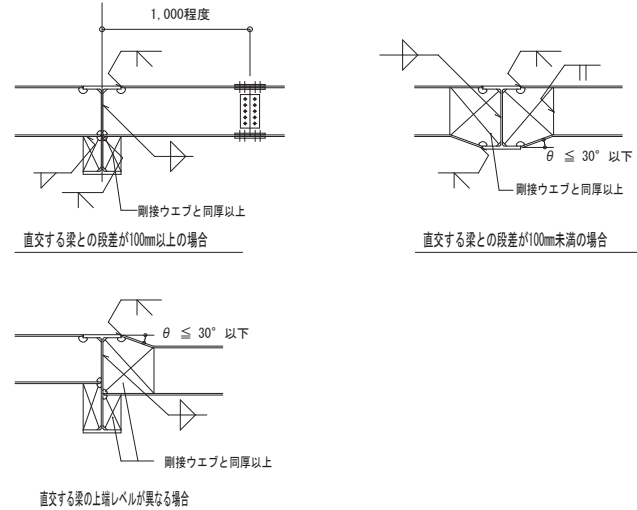
デッキ受け納まり (段差)



コンクリート止め要領

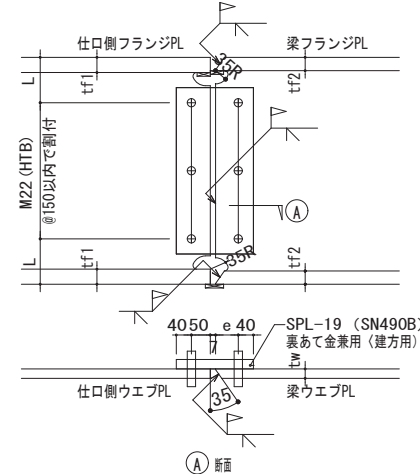


小梁の剛接合



梁フランジ・梁ウェブの現場溶接 (フランジ・ウェブ別々に使用可能)

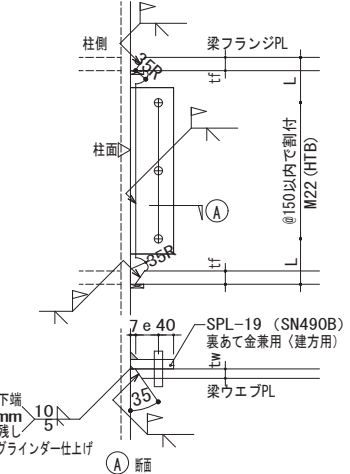
●ブラケット位置での場合



tf	L 寸法
tf ≤ 40	120
tf ≤ 50	130
tf ≤ 60	140
tf = max (tf1, tf2)	

tw	e 寸法
tw ≤ 32	70
tw ≤ 40	75
tw ≤ 50	85
tw ≤ 60	90

●柱位置での場合



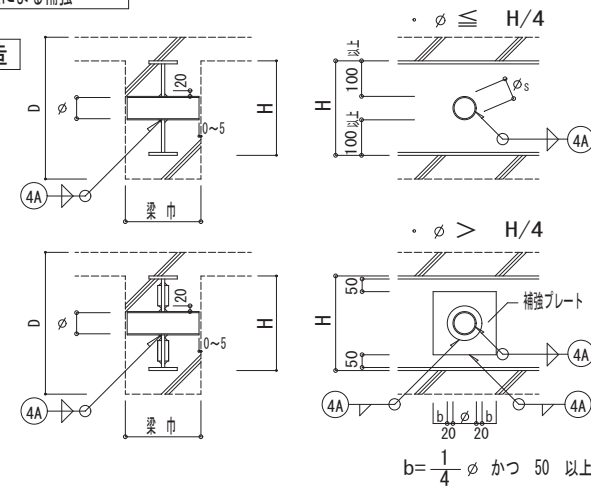
鉄骨梁貫通補強補強要領図

既製品補強金物による補強

- 鉄骨梁貫通補強方法は、既製品補強金物による補強を基本とする。
- 既製品補強金物は評定取得品とし、適用範囲や使用方法は、各技術評価内容に従う。
 ハイリングⅢ : BCJ評定-ST0095-09
 フリードーナツエイト : BCJ評定-ST0265-01
 フリードーナツゼロ : BCJ評定-ST0128-04
 QSリング : BCJ評定-ST0135-09
 その他同等品
- 特記なき限り、鉄骨小梁は無補強とする。
 小梁せいの1/2を超えて貫通孔を設ける場合は、既製品補強金物による補強を行う。

在来工法による補強

SRC造

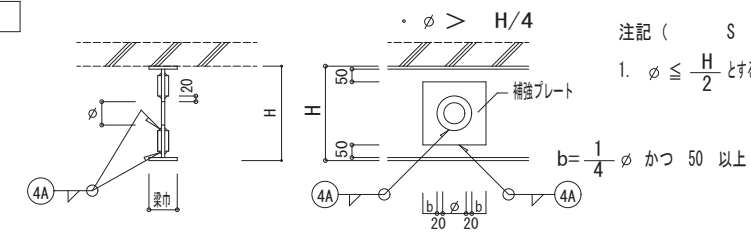


注記 (SRC造)

- $\phi \leq \frac{H}{2}$ かつ、 $\phi_s \leq \frac{D}{3}$ とする。
- 80φ未満のスリーブについては、80φを使用する。
- 補強プレート:
 補強プレート厚は両面共、母材ウェブ厚以上とし、スリーブによって失われるウェブ断面積以上の補強プレートの断面積とする。
 補強プレート材は、母材と同質とする。
- 補強プレートの材質は、母材と同質とする。
- 補強鋼管内は、防錆塗料塗りとする。

スリーブ径 ϕ_s	補強鋼管 (STK400)
80φ	φ89.1x4.2
100φ	φ114.3x4.5
125φ	φ139.8x4.5
150φ	φ165.2x5.0
175φ	φ190.7x5.3
200φ	φ216.3x8.2
250φ	φ267.4x9.3
300φ	φ318.5x10.3
350φ	φ355.6x11.1
400φ	φ406.4x12.7

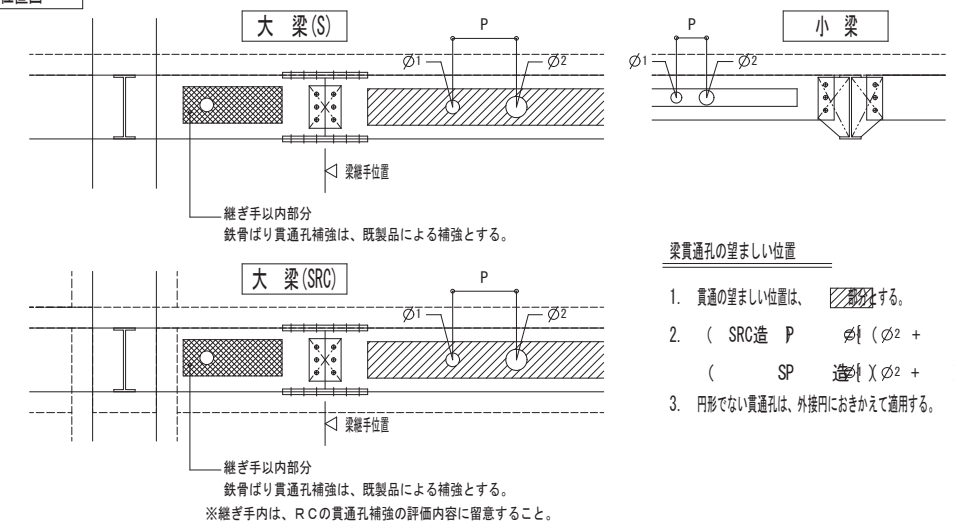
S造



注記 (S造)

- $\phi \leq \frac{H}{2}$ とする。(S小梁は、穴あきのみとする。)

スリーブ配置位置図



梁貫通孔の望ましい位置

- 貫通の望ましい位置は、 となる。
- $(SRC造) \quad P \quad \phi \neq (\phi^2 +) / 2 \times 3$
 $(SP造) \quad X(\phi^2 +) / 2 \times 2$
- 円形でない貫通孔は、外接円におきかえて適用する。

構造体と下地鋼材との連結ピッチは、600ピッチ、または900ピッチとする。
 構造体と下地鋼材との連結用に金物（アングルピース など）を使用する場合、

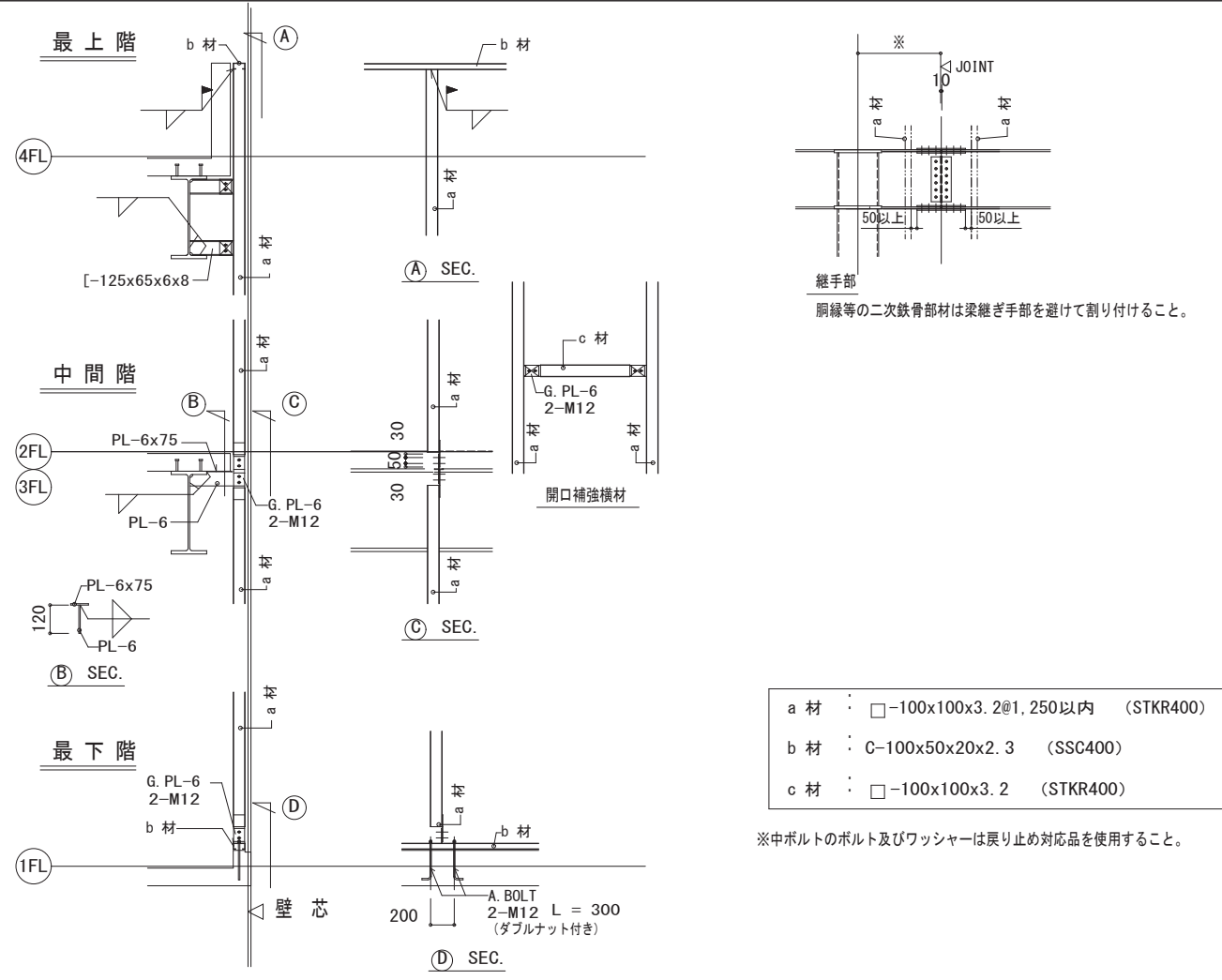
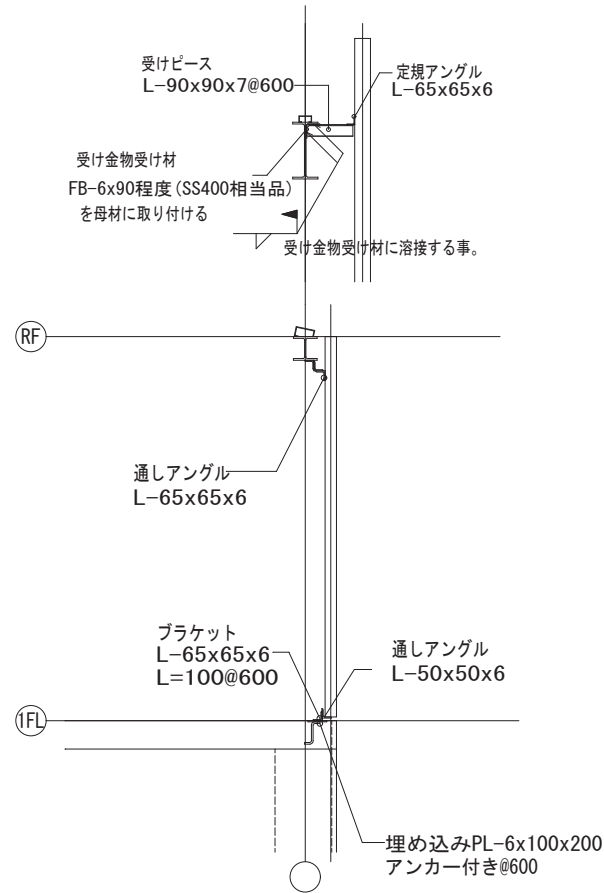
鋼材どうしの溶接は、見かけ溶接長の合計が80以上とする。
 平行する2辺以上を溶接することとする。
 溶接サイズは、3.2mm以上、鋼材の厚み以下とする。

外壁縦張り工法での構造体とEOPとのクリアランスは、35mmを標準とする。
 この場合に使用する下地鋼材は、ECP下部ではL-50×50×6を
 梁上部でL-65×65×6（@600、L=100）以上を用いて連結させ、
 下部ではL-65×65×6を梁フランジ下部に直接連結させる。
 この場合の溶接は、ECP下部では3辺溶接とし、見かけ溶接長合計を80mm以上とする。
 ECP上部では、内外共900ピッチに外側50mm以上、内側30mm以上の溶接とする。

開口補強材は、縦材を優先して取り付け、縦材間に横材を取り付ける。
 縦材は、構造体または下地鋼材に取り付けるが、下地鋼材に取り付ける場合は、構造体と
 下地鋼材が開口補強材の箇所で追加溶接していることが必要。
 構造体と開口補強材の連結は、アングルピースを介して溶接固定とする。
 開口補強材どうしの連結は突付け溶接とするが、隙間が大きく開く場合（目安として1.5mm以上）
 の場合は、アングルピースを介すること。溶接長は、見かけ溶接長の合計が80mm以上とする。

外壁横張り工法での構造体とEOPとのクリアランスは、75mmを標準とする。
 この場合に使用する下地鋼材は、ECP 縦目地部で2L-50×50×6を、柱または間柱にU型金物
 (@900、L=120)などを用いて連結させる。この場合の溶接は、柱とU型金物は2辺溶接で
 見かけ溶接長合計120mm以上とし、U型金物とL-50×50×6は2辺溶接で

開口補強材は、横材を優先して取り付け、横材間に縦材を取り付ける。
 横材は、構造体に取り付けることを原則とする。
 構造体と開口補強材の連結は、アングルピースを介して溶接固定とする。
 開口補強材どうしの連結は突付け溶接とするが、隙間が大きく開く場合（目安として1.5mm以上）
 の場合は、アングルピースを介することとする。溶接長は、見かけ溶接長の合計が80mm以上とする。



a 材	□-100x100x3.2@1,250以内 (STKR400)
b 材	C-100x50x20x2.3 (SSC400)
c 材	□-100x100x3.2 (STKR400)

※中ボルトのボルト及びワッシャーは戻り止め対応品を使用すること。

鉄骨継手一般事項

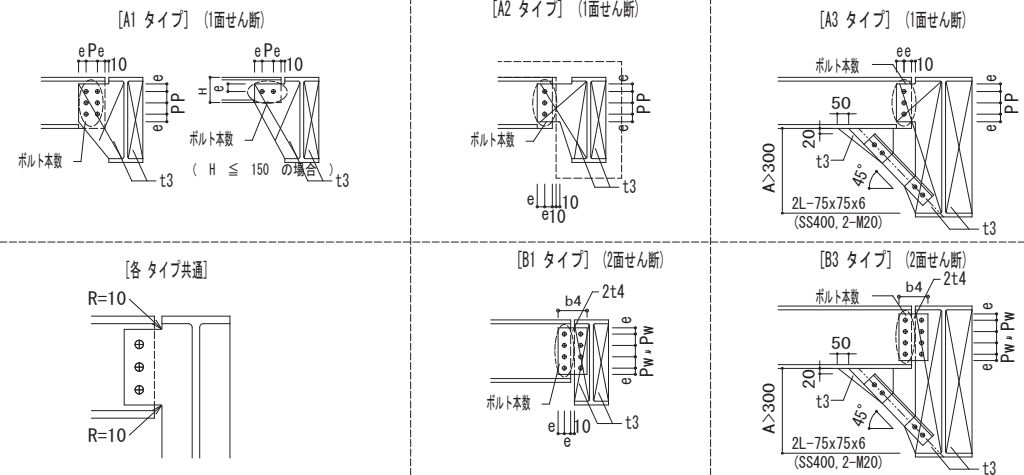
- 柱継手、梁継手は原則として、部材は、「SCSS-H97 鉄骨構造標準接合部 H形鋼編」建設省住宅局建築指導課（監修）、鉄骨構造標準接合部委員会（編集）による。
- スプラインプレート（添板）の材質は、母材と同材質とする。電炉材の使用も可とする。
- 高力ボルトは、トルシア形高力ボルト（S10T）の使用を標準とする。
- 溶融亜鉛メッキする部材には、溶融亜鉛メッキ高力ボルト（FBT）を使用する。
- 摩擦面の性能及び処理
- JIS形高力ボルト又はトルシア形高力ボルトを使用する場合の摩擦面は、すべり係数値が0.45以上確保できるよう、
 - ミスケールをディスクグラインダー掛け等により原則として添え板全面の範囲について除去した後、一様にさびを発生させたものとする。ただし、ショットブラスト法又はグリットブラスト法により摩擦面の表面粗度を50 μmRz (JIS B 0601 (製品の幾何特性使用 (GPS) -表面性状: 輪郭曲線方式-用語、定義及び表面性状パラメータ)による。)以上確保でき、監督員の承諾を受けた場合は、さびの発生を要しない。
 - 溶融亜鉛めっき高力ボルトを使用する場合の摩擦面の処理は、すべり係数値が0.4以上確保できるよう溶融亜鉛めっき後、亜鉛層を著しく損傷しないよう軽くブラスト処理等を行い、摩擦面の表面粗度を50 μmRz以上とする。また、フィラープレートについても同様の処理を行う。
 - 薬剤処理による場合は、設計者・監督員の承諾を得ること。
- フランジ幅 (B) による共通事項は下記による。

H形鋼	高力ボルト使用区分			ゲージ (mm)		添板幅 (mm)		ボルト配置
	M16	M20	M22	g1	g2	外側	内側	
フランジ幅 (B)	M16	M20	M22	g1	g2	外側	内側	1列 配置
100シリーズ	○			60		100		
125シリーズ	○			75		125		
150シリーズ		○		90		150	60	
175シリーズ		○		105		175	70	
200シリーズ		○	○	120		200	80	
250シリーズ		○	○	150		250	100	チドリ配置
300シリーズ			○	150	40	300	110	
350シリーズ			○	140	70	350	140	
400シリーズ			○	140	90	400	170	

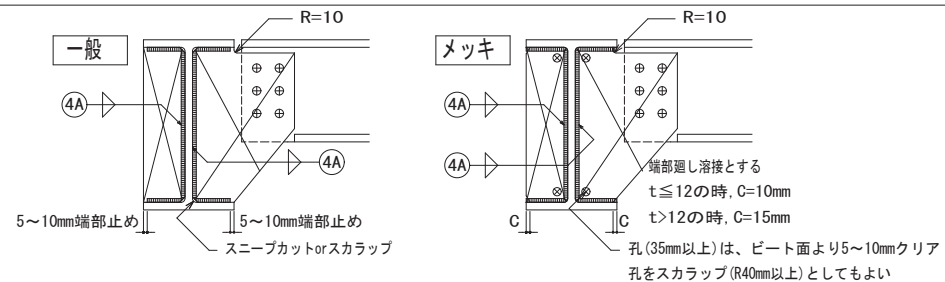
- 高力ボルトの標準ピッチ、縁距離、孔径は下記による。

ボルト径	ピッチ P (mm)	縁距離 e (mm)	ボルト孔径
			φ (mm)
M16	60	40	18
M20	60	40	22
M22	60	40	24

梁ウェブのピン接合要領 (小梁仕口継手も準ずる)

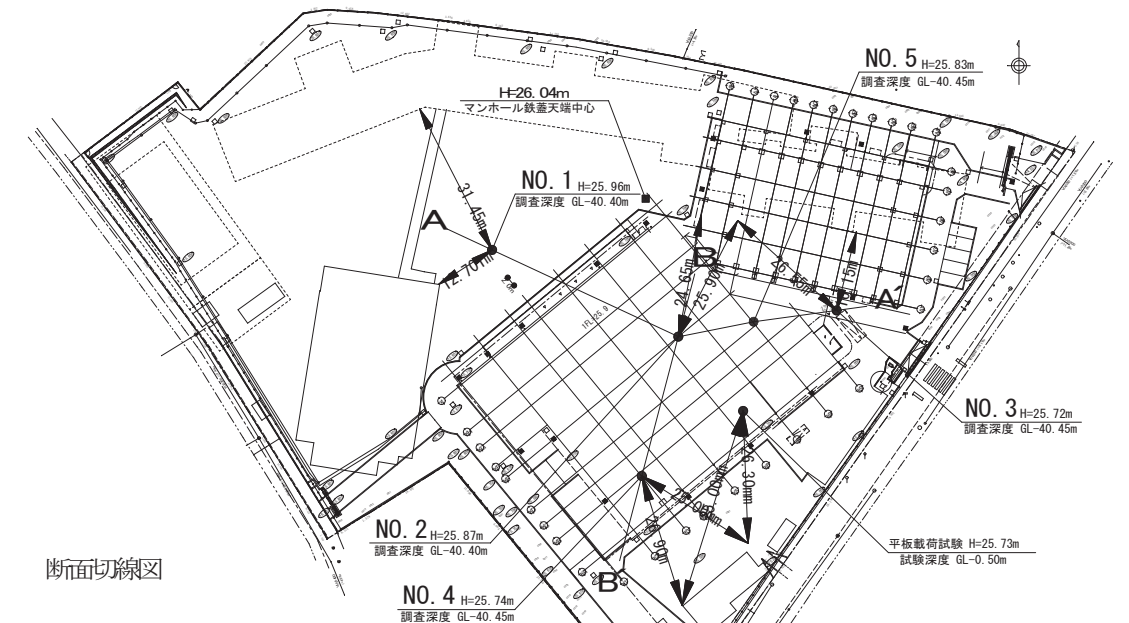


梁ウェブのガセットプレート・リブプレートの溶接要領

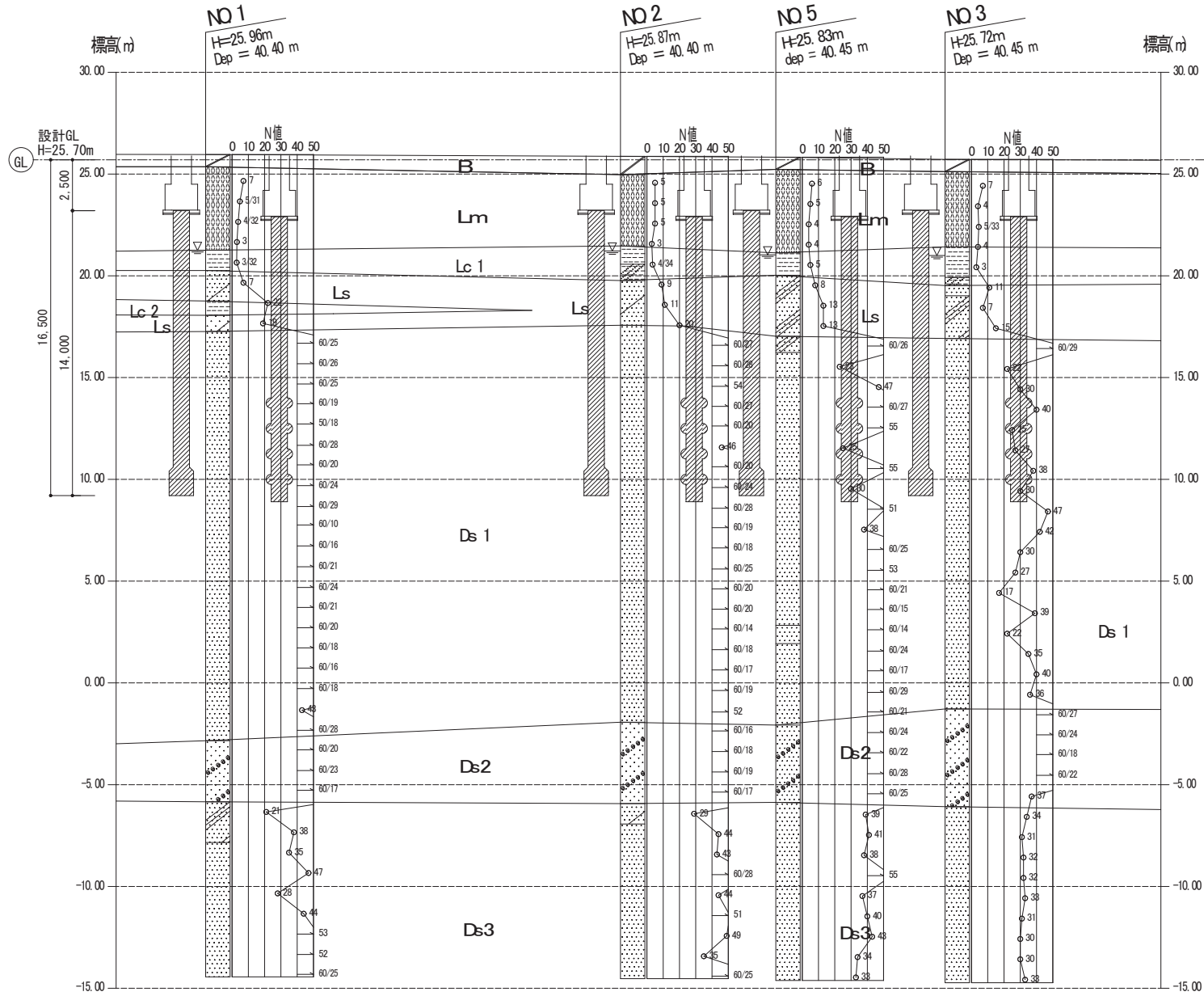


層序表

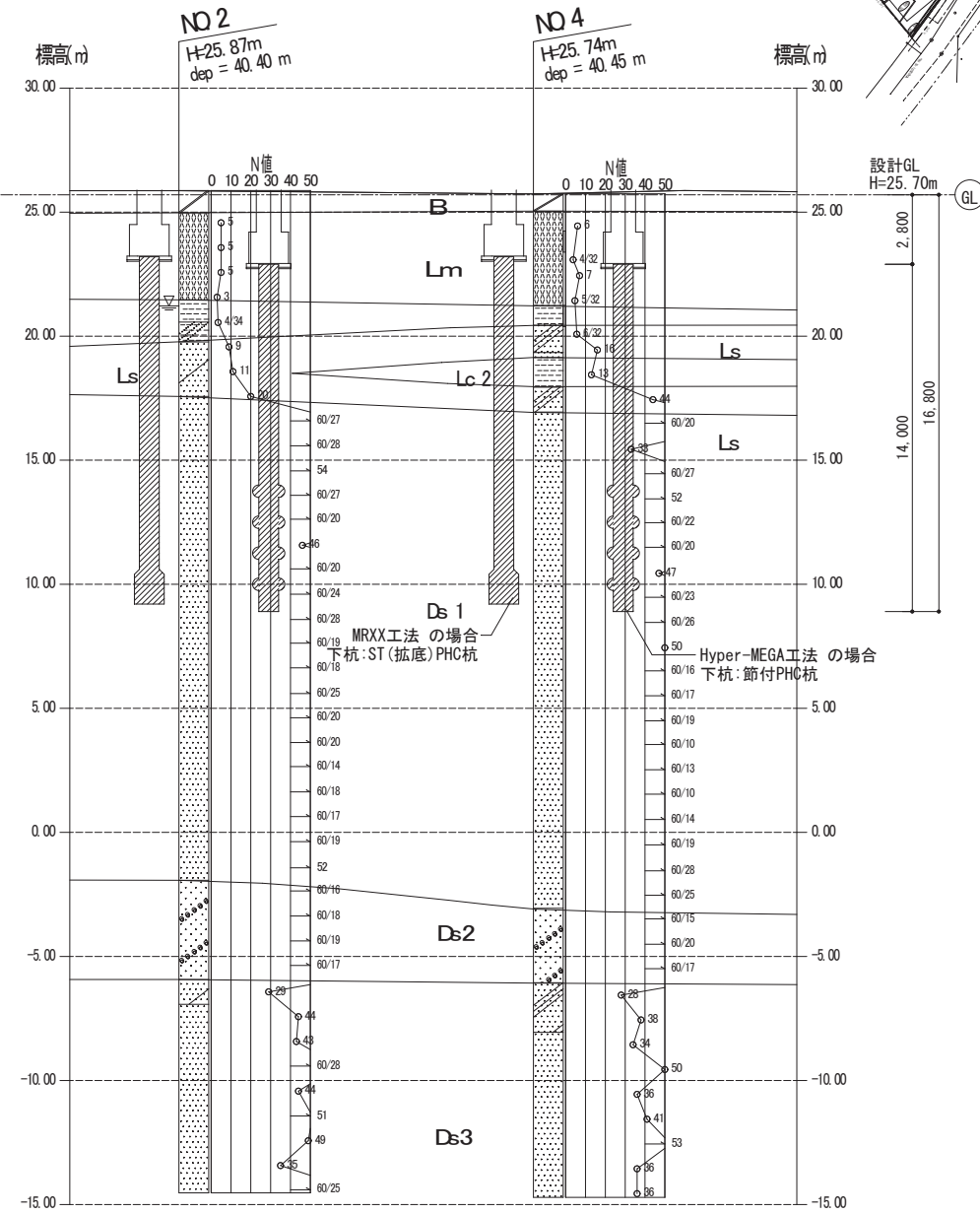
地質時代	土層名	記号	主な土質	N値範囲	層厚		
第四紀	現世	B	砂質土	—	0.60 ~ 0.90		
	更新世	新期ローム層	Lm	ローム	3 ~ 7	3.50 ~ 4.10	
		常総層	第1粘性土層	Lc1	粘り質粘土 砂質粘土	3 ~ 5	0.80 ~ 1.90
			砂質土層	Ls	粘土質細砂 粘土混り細砂	6 ~ 44	0.80 ~ 3.00
			第2粘性土層	Lc2	粘り質粘土	13	0.70 ~ 1.20
		新層群	第1砂質土層	Ds1	細砂	17 ~ 60以上	18.20 ~ 20.10
			第2砂質土層	Ds2	粗粒細砂	37 ~ 60以上	3.00 ~ 4.80
			第3砂質土層	Ds3	微細砂	21 ~ 60以上	8.60 ~ 8.75



A-A' 断面



B-B' 断面



株式会社 教育施設研究所

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】

DATE

'22.04

ARCHITECT & OFFICE BRANCH: PPR. BY CHKO. BY

DRAWING TITLE

SCALE

DRAWING NO.

一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦

一級建築士大臣登録 第315246号 茂木 博之

構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之

東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
株式会社 教育施設研究所
一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

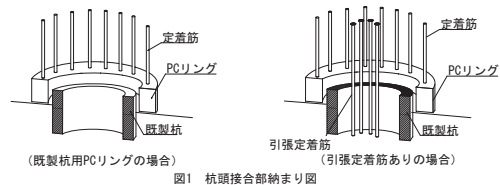
土質柱状図

A1 S=1:
A3 S=1:

S-014

1. キャブリングパイル工法(略称CP工法)概要 (BCJ評定-FD0060-04)

・本工法は、既製杭の杭頭にリング状のPCリングを設置することにより、杭頭半固定接合とする工法である。杭頭接合部の納まり図を図1に示す。
 ・PCリングは定着筋によりパイルキャップ(フーチング)に定着し、杭には定着しない。また、従来工法の杭頭固定接合で用いる杭頭定着筋は不要となる。
 ・杭頭部の軸力は杭頭接合面の圧縮応力により伝達し、杭頭部の曲げモーメント及びせん断力は杭頭接合面及びPCリングを介して伝達される。尚、杭頭部軸力が引張力の場合には、引張定着筋により伝達する。



2. CP工法適用範囲

(1) 対象とする建物
 建物規模、形状および構造種別等については制限は特になく、杭頭曲げ、引抜き等の処理については以下の条件を満たすものとする。
 ① 地震時における杭の水平抵抗によって杭頭固定に応じた杭頭曲げが発生するため、杭の曲げ戻しモーメントの処理として基礎梁あるいはこれに類する抵抗材を配置する。
 ② 杭頭部の引抜きに対して、基礎梁等を介して引抜き力を処理することもできるが、引抜き力が発生する杭に、引張定着筋を設けて引張力に抵抗させることもできる。

(2) 対象とする杭工法
 対象とする杭工法は既製杭工法、場所打ち杭工法とする。
 本工法で対象とする杭径は下記の通りである。

PHC杭、PRC杭、SC杭、鋼管杭等の既製杭
 杭径 300mm~1,200mm

(3) 本工法以外の杭頭接合工法との併用
 同一建物において、本工法と在来一般工法を併用することができる。
 注) 在来一般工法とは、杭頭鉄筋等をパイルキャップへ定着させた杭頭固定接合法及びこれに類する工法を言う。

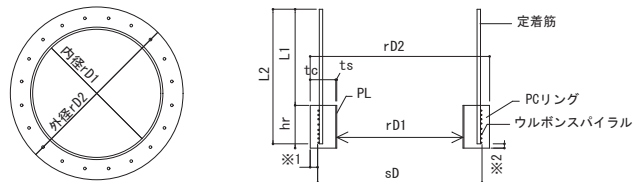
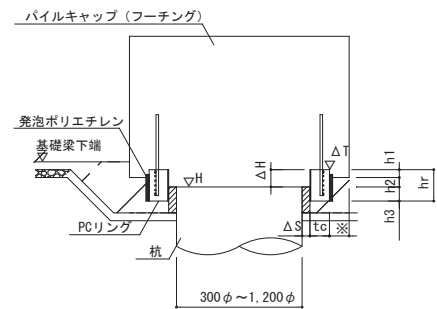


図2 PCリング ※1: 設計かぶり厚さ40mm (最小かぶり厚さ35mm) ※2: 設計かぶり厚さ35mm (最小かぶり厚さ30mm)

4. PCリング施工精度管理



	既製杭	
	300~1,000φ	1,100~1,200φ
h1	50	50
h2	30	60
h3	70	90

項目	既製杭	
	300~1,000φ	1,100~1,200φ
1. 杭の天端レベル: H	H+20, -80	H+20, -80
2. 杭とPCリングの空き寸法: ΔS	10±10	10±10
3. 杭頭とPCリングの下端レベル差: h3 (=hr-ΔH)	70+0~-+20	90+0~-+20
4. PCリングの左右の天端レベル差: ΔT	0±10	0±10

注) 1. h1 ≥ 30mmとする。
 2. PCリングとフーチングの最小ヘリあき寸法※は200mm以上とする。
 3. 引張定着筋にFRIP等の定着金物を使用する場合、引張定着筋からフーチング外面までの最小寸法を、パイルキャップ中の引張定着筋の定着長さ以上とする。

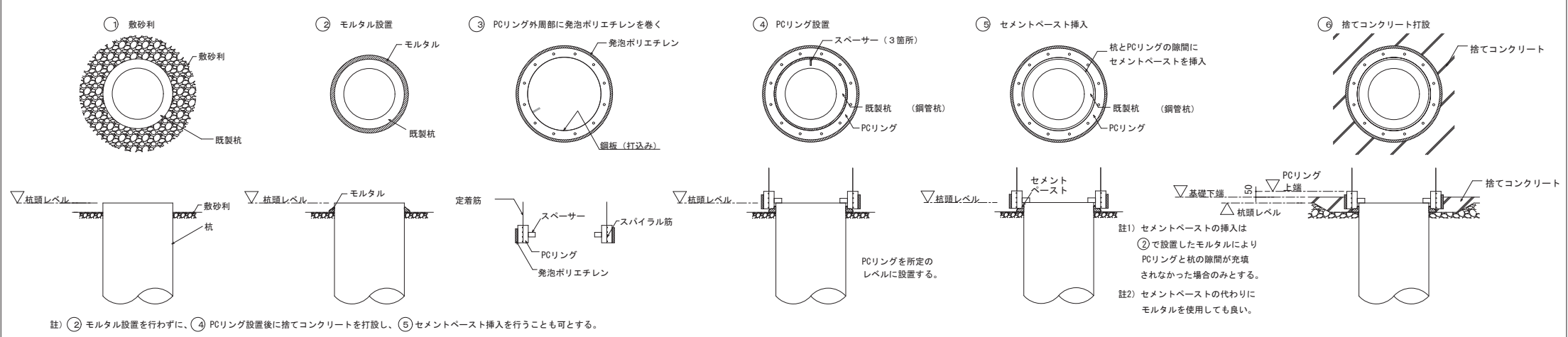
3. PCリング標準仕様

(1) PCリング概要
 PCリングの形状はリング状であり、PCリングのサイズは杭種および杭径に合わせて用意されている。既製杭用は300φ~1,200φで12種類あり、杭径ごとに3種類 (N, S1, S2) ずつ対応し、計36タイプである。PCリングは、主にコンクリートで構成されており、断面内には高強度せん断補強筋、PCリング内側には鋼板リングが設置されており、高いせん断耐力と靱性を確保している。また、PCリングと杭とは一体化しないが、PCリングから上方に向けて定着筋が配筋され、基礎とは一体化する。
 (2) 使用材料
 a. コンクリート: 設計基準強度 $f_c \geq 36N/mm^2$ ・PCリングを現場製作する場合は、基礎の設計基準強度かつ21N/mm²以上とする。
 b. 定着筋: SD390 (D13~D19) : JIS G 3112 鉄筋コンクリート用鋼棒 適合品とする。
 c. スパイラル筋: ウルボンスパイラル筋 (SDP1275: U7.1, U9.0, U10.7, U12.6) : 建築基準法37条第二号の規定による指定建築材料の大臣認定品 (認定番号: MSRB-9009)。
 d. 鋼板: SS400: JIS G 3101 一般構造用圧延鋼材 適合品または同等以上。SM490: JIS G 3106 溶接構造用圧延鋼材 適合品または同等以上。SM400B, SM490B: JIS G 3136 建築構造用圧延鋼材 適合品または同等以上。
 (3) PCリング仕様一覧: 図2参照

杭径 D (mm)	rD1 (mm)	tc (mm)	hr (mm)	定着筋			① 標準タイプ (Nタイプ)						② 高せん断耐力タイプ1 (S1タイプ)						③ 高せん断耐力タイプ2 (S2タイプ)											
				本数 (本)	L1 (mm)	L2 (mm)	タイプ	rD2 (mm)	sD (mm)	ts (mm)	スパイラル筋	LQr (kN)	sQr (kN)	uQr (kN)	タイプ	rD2 (mm)	sD (mm)	ts (mm)	スパイラル筋	LQr (kN)	sQr (kN)	uQr (kN)	タイプ	rD2 (mm)	sD (mm)	ts (mm)	スパイラル筋	LQr (kN)	sQr (kN)	uQr (kN)
300	320	87	150	6-D16	350	465	300N	506	426	6.0 (SS400)	U7.1 (6巻)	140	280	380	300S1	512	432	9.0 (SS400)	U9.0 (6巻)	170	340	430	300S2	518	438	12.0 (SM490A)	U9.0 (6巻)	230	470	560
350	370	87	150	6-D16	350	465	350N	556	476	6.0 (SS400)	U7.1 (6巻)	160	330	440	350S1	562	482	9.0 (SS400)	U9.0 (6巻)	190	390	500	350S2	568	488	12.0 (SM490A)	U9.0 (6巻)	270	540	650
400	420	87	150	6-D16	350	465	400N	606	526	6.0 (SS400)	U7.1 (6巻)	180	370	500	400S1	612	532	9.0 (SS400)	U9.0 (6巻)	220	450	570	400S2	618	538	12.0 (SM490A)	U9.0 (6巻)	310	620	740
450	470	87	150	8-D16	350	465	450N	656	576	6.0 (SS400)	U7.1 (6巻)	190	380	600	450S1	662	582	9.0 (SS400)	U9.0 (6巻)	260	520	680	450S2	668	588	12.0 (SM490A)	U9.0 (6巻)	350	710	870
500	520	87	150	8-D16	350	465	500N	706	626	6.0 (SS400)	U7.1 (6巻)	200	400	630	500S1	712	632	9.0 (SS400)	U9.0 (6巻)	290	590	760	500S2	718	638	12.0 (SM490A)	U9.0 (6巻)	400	800	970
600	620	87	150	8-D16	350	465	600N	812	732	9.0 (SS400)	U7.1 (6巻)	310	620	860	600S1	812	732	9.0 (SM490A)	U9.0 (6巻)	420	840	1070	600S2	818	738	12.0 (SM490A)	U9.0 (6巻)	490	980	1200
700	720	87	150	10-D16	350	465	700N	912	832	9.0 (SS400)	U7.1 (6巻)	330	670	910	700S1	912	832	9.0 (SM490A)	U9.0 (6巻)	480	970	1320	700S2	918	838	12.0 (SM490A)	U9.0 (6巻)	610	1220	1520
800	820	87	150	10-D16	350	465	800N	1012	932	9.0 (SS400)	U7.1 (6巻)	360	720	960	800S1	1012	932	9.0 (SM490A)	U9.0 (6巻)	520	1040	1390	800S2	1018	938	12.0 (SM490A)	U9.0 (6巻)	670	1350	1700
900	920	87	150	10-D16	350	465	900N	1112	1032	9.0 (SS400)	U7.1 (6巻)	380	770	1010	900S1	1112	1032	9.0 (SM490A)	U9.0 (6巻)	550	1110	1450	900S2	1118	1038	12.0 (SM490A)	U9.0 (6巻)	720	1440	1790
1,000	1,020	87	150	12-D16	350	465	1,000N	1212	1132	9.0 (SS400)	U7.1 (6巻)	400	810	1050	1,000S1	1212	1132	9.0 (SM490A)	U9.0 (6巻)	580	1170	1520	1,000S2	1218	1138	12.0 (SM490A)	U9.0 (6巻)	760	1520	1870
1,100	1,120	105	200	12-D16	350	515	1,100N	1348	1268	9.0 (SS400)	U9.0 (8巻)	500	1000	1490	1,100S1	1348	1268	9.0 (SM490A)	U12.6 (8巻)	760	1530	2400	1,100S2	1354	1274	12.0 (SM490A)	U12.6 (8巻)	970	1940	2810
1,200	1,220	105	200	12-D16	350	515	1,200N	1448	1368	9.0 (SS400)	U9.0 (8巻)	520	1050	1540	1,200S1	1448	1368	9.0 (SM490A)	U12.6 (8巻)	800	1600	2470	1,200S2	1454	1374	12.0 (SM490A)	U12.6 (8巻)	1010	2030	2900

D: 杭径 rD1: PCリングの内径 tc: コンクリートの厚さ hr: PCリングの高さ L1: 定着筋定着長さ L2: 定着筋全長 rD2: PCリングの外径 sD: ウルボンスパイラル外径 ts: 鋼板リングの厚さ LQr: 長期許容せん断抵抗力 sQr: 短期許容せん断抵抗力 uQr: 終局せん断耐力 (最小値)

5. PCリング設置手順 (例) ・PCリングを現場製作する場合は、サイトPCリング施工要領書に依る。

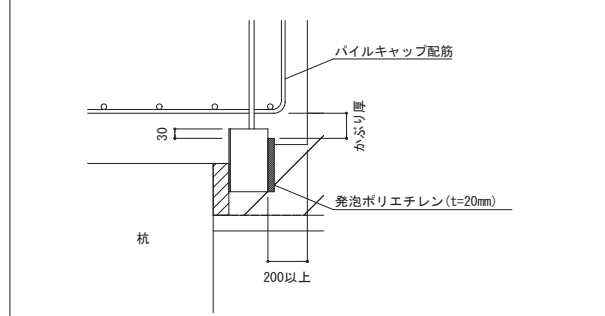


注) ②で設置したモルタルによりPCリングと杭の隙間が充填されなかった場合のみとする。
 注2) セメントペーストの代わりにモルタルを使用しても良い。

6. PCリング製品精度許容値

項目	PCリング製造誤差許容値 (mm)
1. スパイラル筋外径: sD	±5
2. スパイラル筋かぶり: tu	±5
3. リング内径: rD1	±5
4. リング外径: rD2	±5
5. リング高さ: hr	±5
6. 定着筋長: L1	±10

7. PCリング納まり詳細図

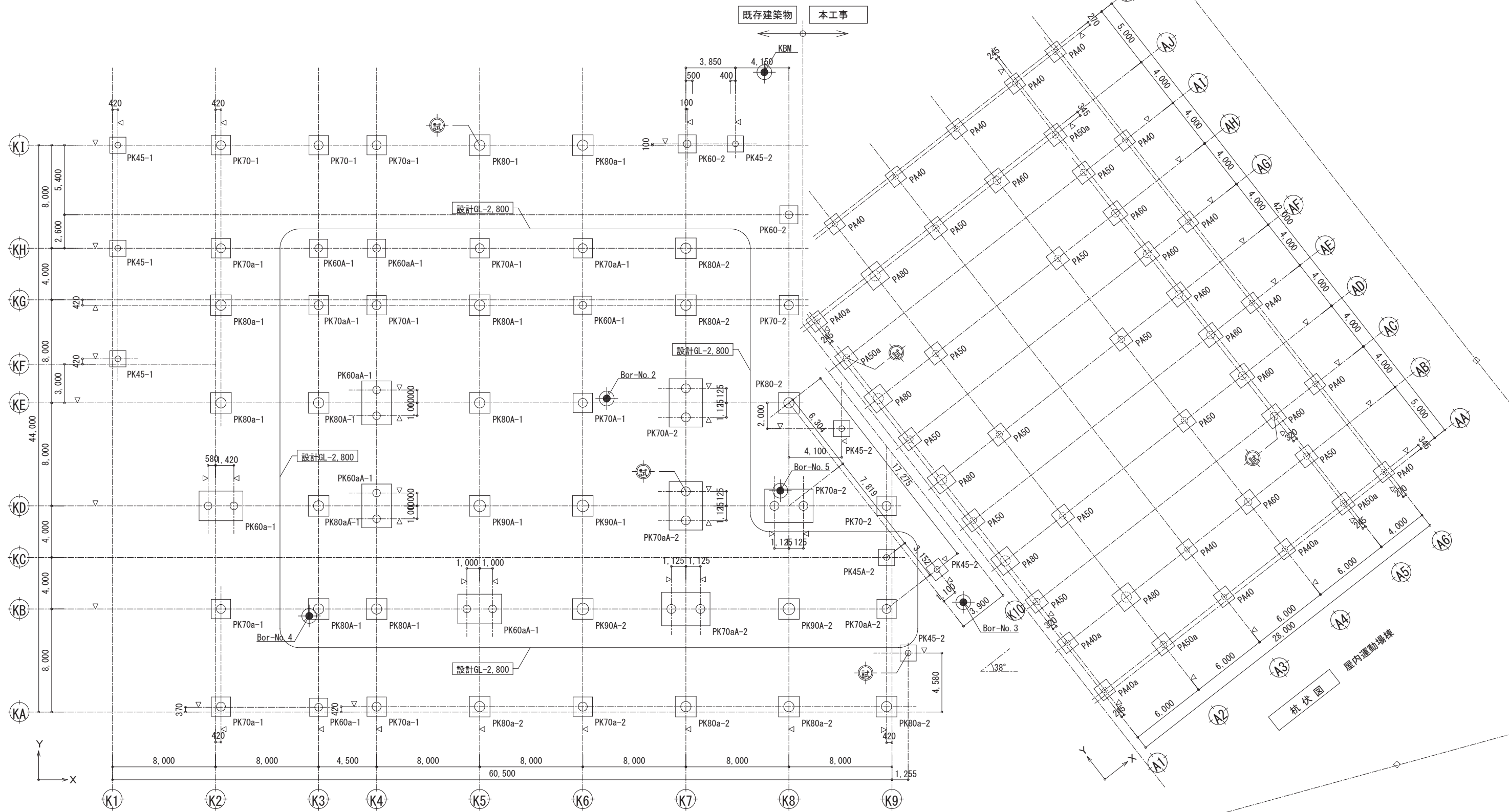
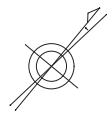


8. キャブリングパイル工法 (CP工法) の杭工事

(1) CP工法の杭工事業者
 CP工法の杭工事業者は、キャブリングパイル協会 (CAPIA) に加入した以下のメーカーから選定すること。
 ・(株)トヨーアサブ ・三谷セキサン(株) ・日本コンクリート工業(株) ・ジャパンパイル(株)
 ・山崎パイル(株) ・日本ヒューム(株) ・(株)アオモリパイル ・(株)藤村クレスト(株)
 ・(株)クボタ ・児玉コンクリート工業(株) ・マナック(株) ・東北ホール(株)
 ・前田製管(株) ・東海コンクリート工業(株) ・日本高圧コンクリート(株) ・(株)テノックス

(2) CP工法の杭工事業者の業務範囲
 ① 工事元請会社に本工法の標準施工要領書を提出し、説明する。
 ② キャブリングパイル工法実績報告書を作成後、キャブリングパイル協会事務局に提出する。

(3) PCリング設置・施工への協力
 杭工事業者は、PCリングの設置・施工について以下の協力を工事元請会社に対して行う。
 ① PCリングの設置・施工の標準施工要領書を提供する。
 ② 設計仕様に従ったPCリングが所定の杭頭に設置されたかどうかの確認を行う。



杭伏図 校舎棟

共通事項 (特記なき限り下記による)

1. 工法：プレボーリング拡大根固め工法
2. 杭工事計画確認チェックシートにより元請、施工業者他で施工体制の確認を行う。
3. 施工監理は、統合型施工管理装置を設置し打設開始から終了までの施工記録を全数作成する。
4. 試験杭は、本杭に先立って行う。なお試験杭位置は、設計者の承認が得られれば変更可能とする。
5. 杭頭位置は、設計GL-2,500とする。
6. 杭頭接合工法は、既製杭用杭頭半固定工法とする。
7. 杭の杭芯ずれの許容値はXY方向で100mm以下、杭レベルの許容値は、-200,+50とする。
8. 許容値を超える場合は、設計者の指示による。
9. ⊙は、ボーリング調査位置を示す。
10. ⊕は、試験杭位置を示す。また、試験杭長=本杭長±0とする。(試験杭は本杭の施工前に行う事)
11. <は杭芯を示す。

	大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事) 【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】	工事番号 '22.04
	ARCHITECT & OFFICE BRANCH: PPR BY CHKO BY 一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦 一級建築士大臣登録 第315246号 茂木 博之 構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之	DRAWING TITLE 杭伏図
DRAWING NO. S-016		DATE '22.04

杭リスト

共通事項（特記なき限り下記とする）

- 工法はプレボーリング拡大根固め工法（大臣認定工法）とし、下記リスト2工法のいずれかとする。
ただし、棟ごとに工法を統一すること。
- 杭の継手は無溶接工法（引張非対応型）とし、下記のいずれかとする。
・トリプルプレートジョイント BCIJ認定-FD0183-07
・ベアリングジョイント BCIJ認定-FD0393-09
- 杭頭接合工法：キャブリングパイル工法 BCIJ認定-FD0060-04

工法：Hyper-MEGA工法〔標準型〕（プレボーリング拡大根固め工法）認定番号：TACP-0527（先端地盤：砂質地盤）TACP-0528（先端地盤：礫質地盤）
拡大掘削長：L=2m 杭設計基準強度：FC=105N/mm² 鋼管材料種別：SKK490

校舎棟

杭符号	杭頭位置(Ⓔ-)	杭全長(m)	杭径、杭種	杭肉厚(mm)	長期支持力(kN/本)	拡大比(ω)	本数	PCリング仕様
PK45-1	-2.500	14	上杭：6m φ450【SC-t=9mm】 + 下杭：8m φ450-600【節付PHC B種】	70	1,910	1.0	3	450-S1タイプ
PK60A-1	-2.800	14	上杭：5m φ600【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ600-800【節付PHC B種】	90	3,030	1.0	2	600-S1タイプ
PK60a-1	-2.500	14	上杭：8m φ600【SC-t=12mm】 + 下杭：6m φ600-800【節付PHC C種】	90	3,030	1.0	3	600-S1タイプ
PK60aA-1	-2.800	14	上杭：8m φ600【SC-t=12mm】 + 下杭：6m φ600-800【節付PHC C種】	90	3,030	1.0	7	600-S1タイプ
PK70-1	-2.500	14	上杭：5m φ700【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ700-900【節付PHC B種】	100	3,970	1.0	2	700-S1タイプ
PK70A-1	-2.800	14	上杭：5m φ700【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ700-900【節付PHC B種】	100	3,970	1.0	3	700-S1タイプ
PK70a-1	-2.500	14	上杭：8m φ700【SC-t=12mm】 + 下杭：6m φ700-900【節付PHC C種】	100	3,970	1.0	5	700-S2タイプ
PK70aA-1	-2.800	14	上杭：8m φ700【SC-t=12mm】 + 下杭：6m φ700-900【節付PHC C種】	100	3,970	1.0	2	700-S2タイプ
PK80-1	-2.500	14	上杭：5m φ800【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ800-1,000【節付PHC B種】	110	5,020	1.0	1	800-S1タイプ
PK80A-1	-2.800	14	上杭：5m φ800【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ800-1,000【節付PHC B種】	110	5,020	1.0	5	800-S1タイプ
PK80a-1	-2.500	14	上杭：8m φ800【SC-t=12mm】 + 下杭：6m φ800-900【節付PHC C種】	110	5,020	1.0	3	800-S2タイプ
PK80aA-1	-2.800	14	上杭：8m φ800【SC-t=12mm】 + 下杭：6m φ800-900【節付PHC C種】	110	5,020	1.0	1	800-S2タイプ
PK90A-1	-2.800	14	上杭：5m φ900【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ900-1,100【節付PHC B種】	120	6,730	1.0	2	900-S2タイプ
PK45-2	-2.500	14	上杭：6m φ450【SC-t=9mm】 + 下杭：8m φ450-600【節付PHC B種】	70	1,910	1.23	4	450-S1タイプ
PK45A-2	-2.800	14	上杭：6m φ450【SC-t=9mm】 + 下杭：8m φ450-600【節付PHC B種】	70	1,910	1.23	1	450-S1タイプ
PK60-2	-2.500	14	上杭：5m φ600【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ600-800【節付PHC B種】	90	3,030	1.23	2	600-S1タイプ
PK70-2	-2.500	14	上杭：5m φ700【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ700-900【節付PHC B種】	100	3,880	1.23	2	700-S1タイプ
PK70A-2	-2.800	14	上杭：5m φ700【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ700-900【節付PHC B種】	100	3,880	1.23	2	700-S1タイプ
PK70a-2	-2.500	14	上杭：8m φ700【SC-t=12mm】 + 下杭：6m φ700-900【節付PHC C種】	100	3,880	1.23	3	700-S2タイプ
PK70aA-2	-2.800	14	上杭：8m φ700【SC-t=12mm】 + 下杭：6m φ700-900【節付PHC C種】	100	3,880	1.23	5	700-S2タイプ
PK80-2	-2.500	14	上杭：5m φ800【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ800-1,000【節付PHC B種】	110	4,690	1.23	1	800-S1タイプ
PK80A-2	-2.800	14	上杭：5m φ800【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ800-1,000【節付PHC B種】	110	4,690	1.23	2	800-S1タイプ
PK80a-2	-2.500	14	上杭：8m φ800【SC-t=12mm】 + 下杭：6m φ800-900【節付PHC C種】	110	4,690	1.23	4	800-S2タイプ
PK90A-2	-2.800	14	上杭：5m φ900【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ900-1,100【節付PHC B種】	120	5,570	1.23	2	900-S2タイプ
							計	67

屋内運動場棟

杭符号	杭頭位置(Ⓔ-)	杭全長(m)	杭径、杭種	杭肉厚(mm)	長期支持力(kN/本)	拡大比(ω)	本数	PCリング仕様
PA40	-2.500	14	上杭：5m φ400【SC-t=6mm】 + 下杭：9m φ400-550【節付PHC A種】	65	1,560	1.23	12	400-Nタイプ
PA40a	-2.500	14	上杭：5m φ400【SC-t=6mm】 + 下杭：9m φ400-550【節付PHC B種】	65	1,560	1.23	4	400-S1タイプ
PA50	-2.500	14	上杭：5m φ500【SC-t=6mm】 + 下杭：9m φ500-650【節付PHC A種】	80	2,200	1.23	12	500-Nタイプ
PA50a	-2.500	14	上杭：5m φ500【SC-t=6mm】 + 下杭：9m φ500-650【節付PHC B種】	80	2,200	1.23	4	500-S1タイプ
PA60	-2.500	14	上杭：5m φ600【SC-t=6mm】 + 下杭：9m φ600-750【節付PHC A種】	90	2,830	1.23	8	600-Nタイプ
PA80	-2.500	14	上杭：5m φ800【SC-t=6mm】 + 下杭：9m φ800-1,000【節付PHC A種】	110	4,690	1.23	5	800-S1タイプ
							計	45

工法：MRXX工法（プレボーリング拡大根固め工法）認定番号：TACP-0598（先端地盤：砂質地盤）TACP-0599（先端地盤：礫質地盤）
杭設計基準強度：FC=105N/mm² 鋼管材料種別：SKK490

校舎棟

杭符号	杭頭位置(Ⓔ-)	杭全長(m)	杭径、杭種	杭肉厚(mm)	長期支持力(kN/本)	拡大比(ω)	本数	PCリング仕様
PK45-1	-2.500	14	上杭：6m φ450【SC-t=9mm】 + 下杭：8m φ450-550【ST-PHC B種】	70	1,910	1.0	3	450-S1タイプ
PK60A-1	-2.800	14	上杭：5m φ600【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ600-700【ST-PHC B種】	90	3,030	1.0	2	600-S1タイプ
PK60a-1	-2.500	14	上杭：8m φ600【SC-t=12mm】 + 下杭：6m φ600-700【ST-PHC C種】	90	3,030	1.0	3	600-S1タイプ
PK60aA-1	-2.800	14	上杭：8m φ600【SC-t=12mm】 + 下杭：6m φ600-700【ST-PHC C種】	90	3,030	1.0	7	600-S1タイプ
PK70-1	-2.500	14	上杭：5m φ700【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ700-800【ST-PHC B種】	100	3,970	1.0	2	700-S1タイプ
PK70A-1	-2.800	14	上杭：5m φ700【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ700-800【ST-PHC B種】	100	3,970	1.0	3	700-S1タイプ
PK70a-1	-2.500	14	上杭：8m φ700【SC-t=12mm】 + 下杭：6m φ700-800【ST-PHC C種】	100	3,970	1.0	5	700-S2タイプ
PK70aA-1	-2.800	14	上杭：8m φ700【SC-t=12mm】 + 下杭：6m φ700-800【ST-PHC C種】	100	3,970	1.0	2	700-S2タイプ
PK80-1	-2.500	14	上杭：5m φ800【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ800-900【ST-PHC B種】	110	5,020	1.0	1	800-S1タイプ
PK80A-1	-2.800	14	上杭：5m φ800【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ800-900【ST-PHC B種】	110	5,020	1.0	5	800-S1タイプ
PK80a-1	-2.500	14	上杭：8m φ800【SC-t=12mm】 + 下杭：6m φ800-900【ST-PHC C種】	110	5,020	1.0	3	800-S2タイプ
PK80aA-1	-2.800	14	上杭：8m φ800【SC-t=12mm】 + 下杭：6m φ800-900【ST-PHC C種】	110	5,020	1.0	1	800-S2タイプ
PK90A-1	-2.800	14	上杭：5m φ900【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ900-1,100【ST-PHC B種】	120	6,730	1.0	2	900-S2タイプ
PK45-2	-2.500	14	上杭：6m φ450【SC-t=9mm】 + 下杭：8m φ450-550【ST-PHC B種】	70	1,910	1.23	4	450-S1タイプ
PK45A-2	-2.800	14	上杭：6m φ450【SC-t=9mm】 + 下杭：8m φ450-550【ST-PHC B種】	70	1,910	1.23	1	450-S1タイプ
PK60-2	-2.500	14	上杭：5m φ600【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ600-700【ST-PHC B種】	90	3,030	1.23	2	600-S1タイプ
PK70-2	-2.500	14	上杭：5m φ700【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ700-800【ST-PHC B種】	100	3,880	1.23	2	700-S1タイプ
PK70A-2	-2.800	14	上杭：5m φ700【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ700-800【ST-PHC B種】	100	3,880	1.23	2	700-S1タイプ
PK70a-2	-2.500	14	上杭：8m φ700【SC-t=12mm】 + 下杭：6m φ700-800【ST-PHC C種】	100	3,880	1.23	3	700-S2タイプ
PK70aA-2	-2.800	14	上杭：8m φ700【SC-t=12mm】 + 下杭：6m φ700-800【ST-PHC C種】	100	3,880	1.23	5	700-S2タイプ
PK80-2	-2.500	14	上杭：5m φ800【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ800-900【ST-PHC B種】	110	4,690	1.23	1	800-S1タイプ
PK80A-2	-2.800	14	上杭：5m φ800【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ800-900【ST-PHC B種】	110	4,690	1.23	2	800-S1タイプ
PK80a-2	-2.500	14	上杭：8m φ800【SC-t=12mm】 + 下杭：6m φ800-900【ST-PHC C種】	110	4,690	1.23	4	800-S2タイプ
PK90A-2	-2.800	14	上杭：5m φ900【SC-t=9mm】 + 下杭：9m φ900-1,100【ST-PHC B種】	120	5,570	1.23	2	900-S2タイプ
							計	67

屋内運動場棟

杭符号	杭頭位置(Ⓔ-)	杭全長(m)	杭径、杭種	杭肉厚(mm)	長期支持力(kN/本)	拡大比(ω)	本数	PCリング仕様
PA40	-2.500	14	上杭：5m φ400【SC-t=6mm】 + 下杭：9m φ400-500【ST-PHC A種】	65	1,560	1.23	12	400-Nタイプ
PA40a	-2.500	14	上杭：5m φ400【SC-t=6mm】 + 下杭：9m φ400-500【ST-PHC B種】	65	1,560	1.23	4	400-S1タイプ
PA50	-2.500	14	上杭：5m φ500【SC-t=6mm】 + 下杭：9m φ500-600【ST-PHC A種】	80	2,200	1.23	12	500-Nタイプ
PA50a	-2.500	14	上杭：5m φ500【SC-t=6mm】 + 下杭：9m φ500-600【ST-PHC B種】	80	2,200	1.23	4	500-S1タイプ
PA60	-2.500	14	上杭：5m φ600【SC-t=6mm】 + 下杭：9m φ600-700【ST-PHC A種】	90	2,830	1.23	8	600-Nタイプ
PA80	-2.500	14	上杭：5m φ800【SC-t=6mm】 + 下杭：9m φ800-1,000【ST-PHC A種】	110	4,690	1.23	5	800-S1タイプ
							計	45

株式会社教育施設研究所

ARCHITECT & OFFICE BRANCH
一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
一級建築士大臣登録 第315246号 茂木 博之
構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之

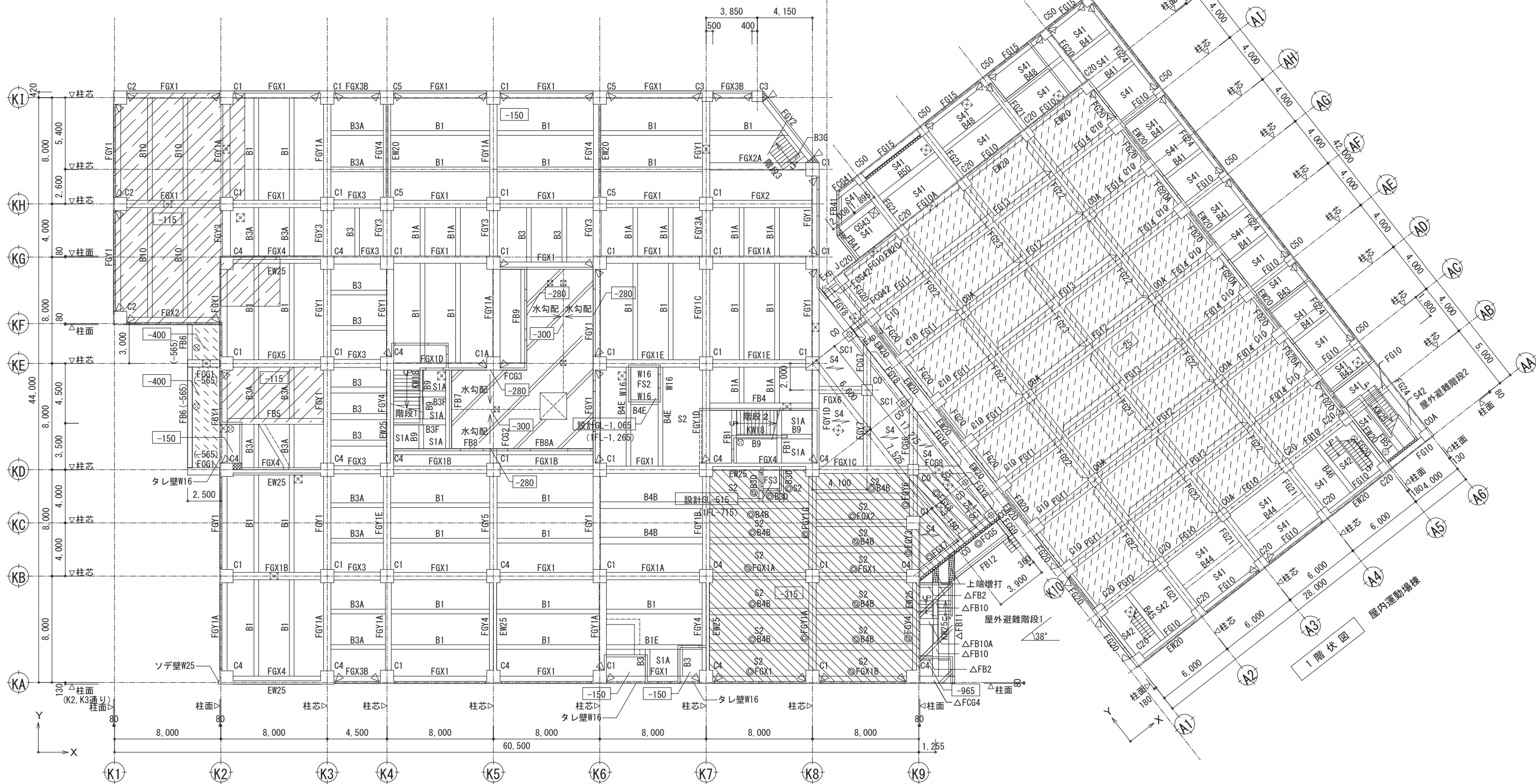
大久保小学校屋内運動場改築他工事（建築工事）
【大久保小学校屋内運動場改築工事（建築工事）】

杭リスト
A1 S=1:
A3 S=1:

DATE '22.04.
DRAWING NO. S-017



既存建築物 本工事



1階伏図 校舎棟

共通事項 (特記なき限り下記による)

- 見下げ図とする。
- 柱符号は、C10とする。(屋内運動場)
- 壁は、外壁W16、内壁W15とする。
- スラブは、S1とする。(校舎棟)
スラブは、S45とする。(屋内運動場棟)
- スラブの下がりはFL-15とする。

- は、スラブのFLからのレベルを示す。
- は、スラブのFLからのレベルを示す。
- は、梁のFLからの上端レベルを示す。その他、右記に従う。◎IFL-315 △IFL-965
- 小梁天端は、スラブ上端合わせとする。
- は、土間の範囲を示す。
- 地中梁天端は、IFL-165とする。(校舎棟)
地中梁天端は、IFL-205とする。(屋内運動場棟)

- () 内は、梁のFLからの上端レベルを示す。その他、右記に従う。◎IFL-315 △IFL-965
- 小梁天端は、スラブ上端合わせとする。
- は、土間の範囲を示す。
- は、床下点検口600×600を示す。

- は、人孔孔600φを示す。
- は、マンホールを示す。
- EXP. Jの間隔は、150以上とする。
- は、増打ちを示す。

- △ は、壁スリット位置を示す。(配置については軸組図参照)
- 階段は、K1とする。
- は、スラブ主筋方向を示す。

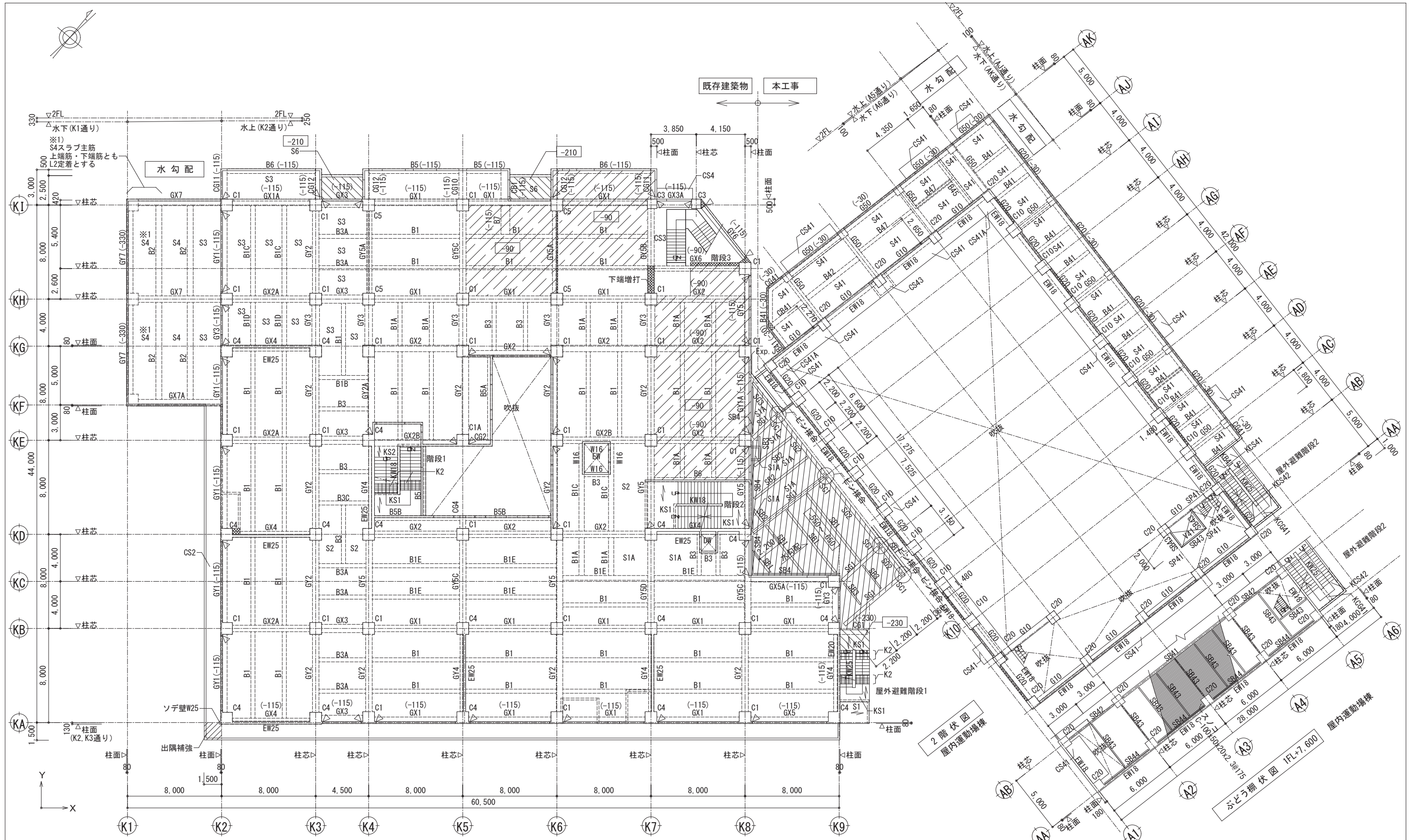
株式会社 教育施設研究所

ARCHITECT & OFFICE BRANCH: PPR. BY CHKD. BY
一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
株式会社 教育施設研究所
一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号
構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】

DRAWING TITLE
1階梁床伏図
SCALE
A1 S=1:150
A3 S=1:300

DATE
'22.04.
DRAWING NO.
S-019



2階伏図 校舎棟

共通事項 (特記なき限り下記による)

1. 見下げ図とする。
2. 壁は、外壁W16、内壁W15とする。
3. スラブは、S1とする。(校舎棟)
4. スラブの下がりはFL-15とする。
5. □ は、スラブのFLからのレベルを示す。

6. □, □, □ は、スラブのFLからのレベルの範囲を示す。
7. 梁の下がりはFL-15とする。
8. () 内は、梁のFLからの上端レベルを示す。
9. 小梁先端は、スラブ上端合わせとする。

10. EXP. Jの間隔は、150以上とする。
11. ⊗ は、増打ちを示す。
12. △ は、壁スリット位置を示す。(配置については軸組図参照)
13. 階段は、K1とする。
14. ※印部寸法は意匠図参照の上施工図による。
15. ↑ は、スラブ主筋方向を示す。

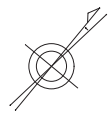
株式会社教育施設研究所

ARCHITECT & OFFICE BRANCH: PPR. BY CHKO. BY
 一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
 株式会社教育施設研究所
 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号
 構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之

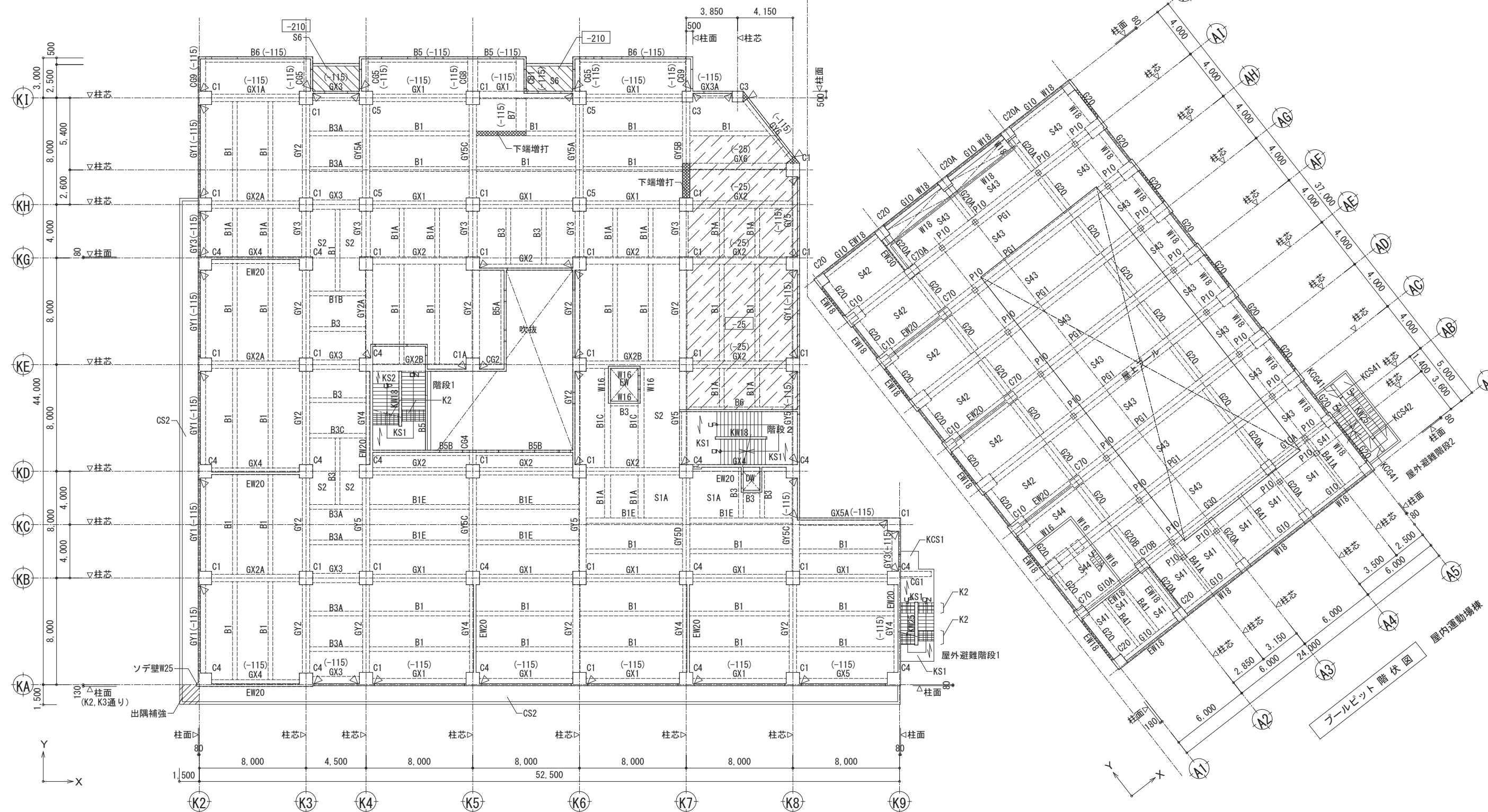
大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
 【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】

2階梁床伏図
 A1 S=1:150
 A3 S=1:300

DATE '22.04.
 DRAWING NO. S-020



既存建築物 本工事



3階梁伏図 校舎棟

共通事項 (特記なき限り下記による)

- 見下げ図とする。
- 壁は、外壁W16、内壁W15とする。(校舎棟)
- スラブは、S1とする。(校舎棟)
- スラブの下がりはFL-15とする。
- は、スラブのFLからのレベルを示す。
- ▨, ▩ は、スラブのFLからのレベルの範囲を示す。
- 梁の下がりはFL-15とする。
なお、水勾配部分は水勾配合わせとする。
- () 内は、梁のFLからの上端レベルを示す。
- 小梁天端は、スラブ上端合わせとする。
- EXP. Jの間隔は、150以上とする。
- ▧ は、増打ちを示す。
- △ は、壁スリット位置を示す。
(配置については軸組図参照)
- 階段は、K1とする。
- ↑ は、スラブ主筋方向を示す。

株式会社 教育施設研究所

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】

DATE

'22.04

ARCHITECT & OFFICE BRANCH PR. BY CHKD. BY

DRAWN BY

DRAWING NO.

一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
一級建築士大臣登録 第315246号 茂木 博之
構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之

東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
株式会社 教育施設研究所
一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

DRAWING TITLE

3階梁伏図

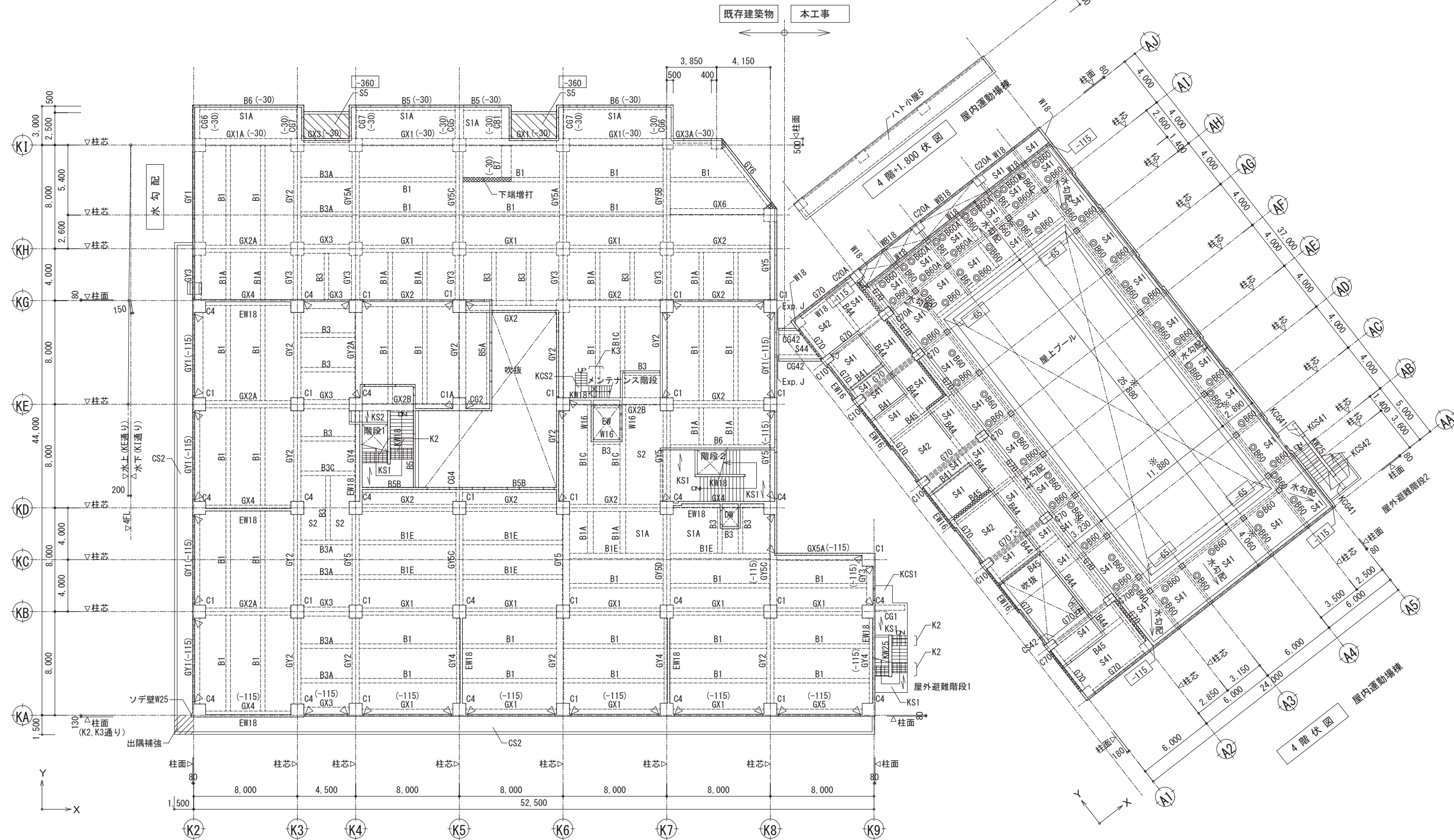
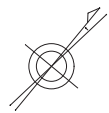
SCALE

A1 S=1:150

A3 S=1:300

DRAWING NO.

S-021



4階伏図 校舎棟

共通事項 (特記なき限り下記による)

- 見下げ図とする。
- 壁は、外壁W16、内壁W15とする。
- スラブは、S1とする。(校舎棟)
- スラブの下がりはFL-15とする。(校舎棟)
- スラブの下がりはFL-65とする。(屋内運動場棟)
- は、スラブのFLからのレベルを示す。

- △ は、スラブのFLからのレベルの範囲を示す。
- 梁の下がりはFL-15とする。(校舎棟)
- 梁の下がりはFL-65とする。(屋内運動場棟)
- なお、水勾配部分は水勾配合わせとする。
- () 内は、梁のFLからの上端レベルを示す。
- その他、右記に従う。◎4FL-230

- EXP. Jの間隔は、150以上とする。
- △△ は、増打ちを示す。
- △ は、壁スリット位置を示す。(配置については軸組図参照)
- 階段は、K1とする。
- ※印寸法は意匠図参照の上施工図による。
- ↑ は、スラブ主筋方向を示す。

株式会社教育施設研究所

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】

DATE
'22.04.
DRAWING NO.
S-022

ARCHITECT & OFFICE BRANCH/PR. BY CHKD. BY

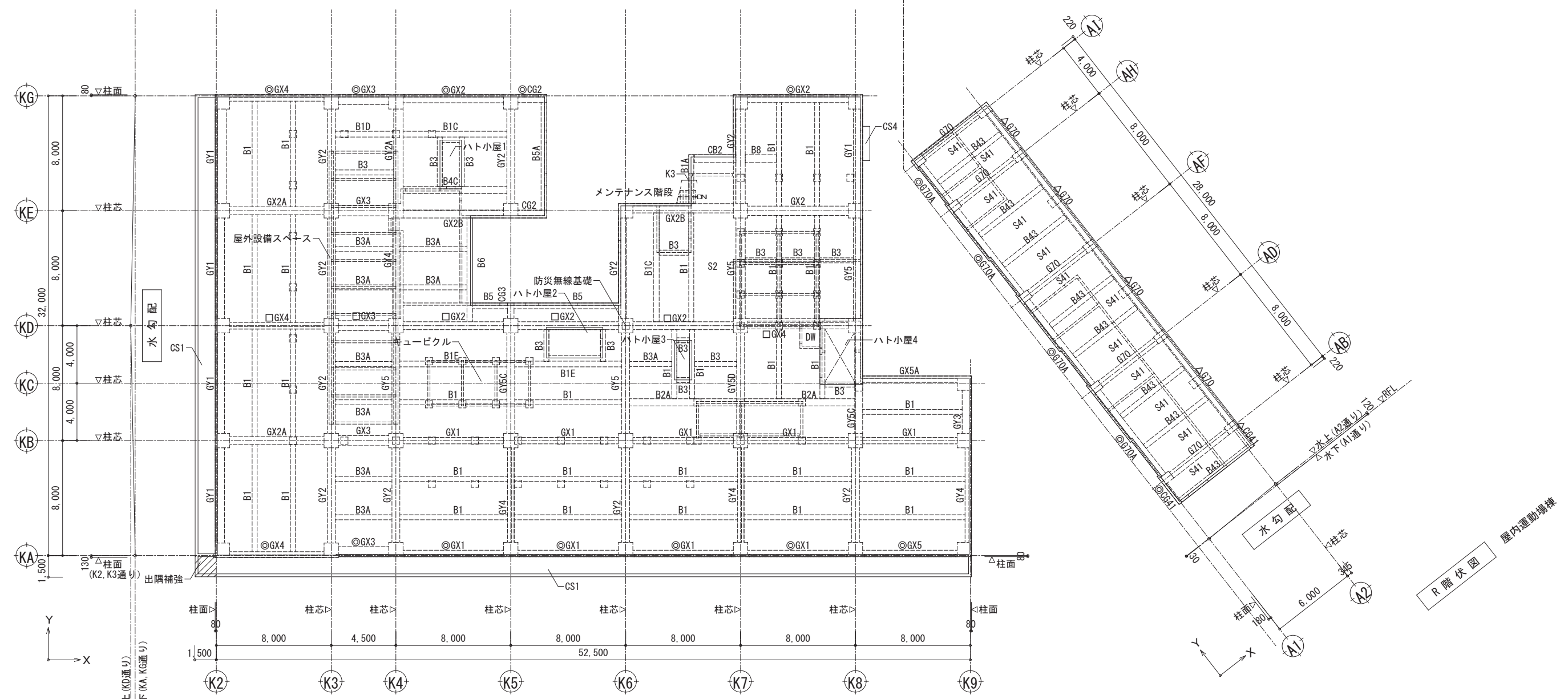
DRAWING TITLE

SCALE

一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
一級建築士大臣登録 第315246号 茂木 博之
構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之

4階梁床伏図
A1 S=1:150
A3 S=1:300

既存建築物 本工事



R階伏図 校舎棟

共通事項 (特記なき限り下記による)

1. 見下がり図とする。
2. 壁は、外壁W16、内壁W15とする。
3. スラブは、S1とする。(校舎棟)
4. スラブの下がりは水勾配合わせとする。
5. □ は、スラブのFLからのレベルを示す。
6. 梁の下がりは水勾配合わせとする。
7. () 内は、梁のFLからの上端レベルを示す。
その他、右記に従う。◎RFL-30 □RFL+300 △RFL+120
8. ⊠ は、増打ちを示す。
9. ※印部寸法は意匠図参照の上施工図による。

株式会社 教育施設研究所

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】

DATE

'22.04

ARCHITECT & OFFICE BRANCH PRP. BY CHKD. BY

DRAWING TITLE

SCALE

DRAWING NO.

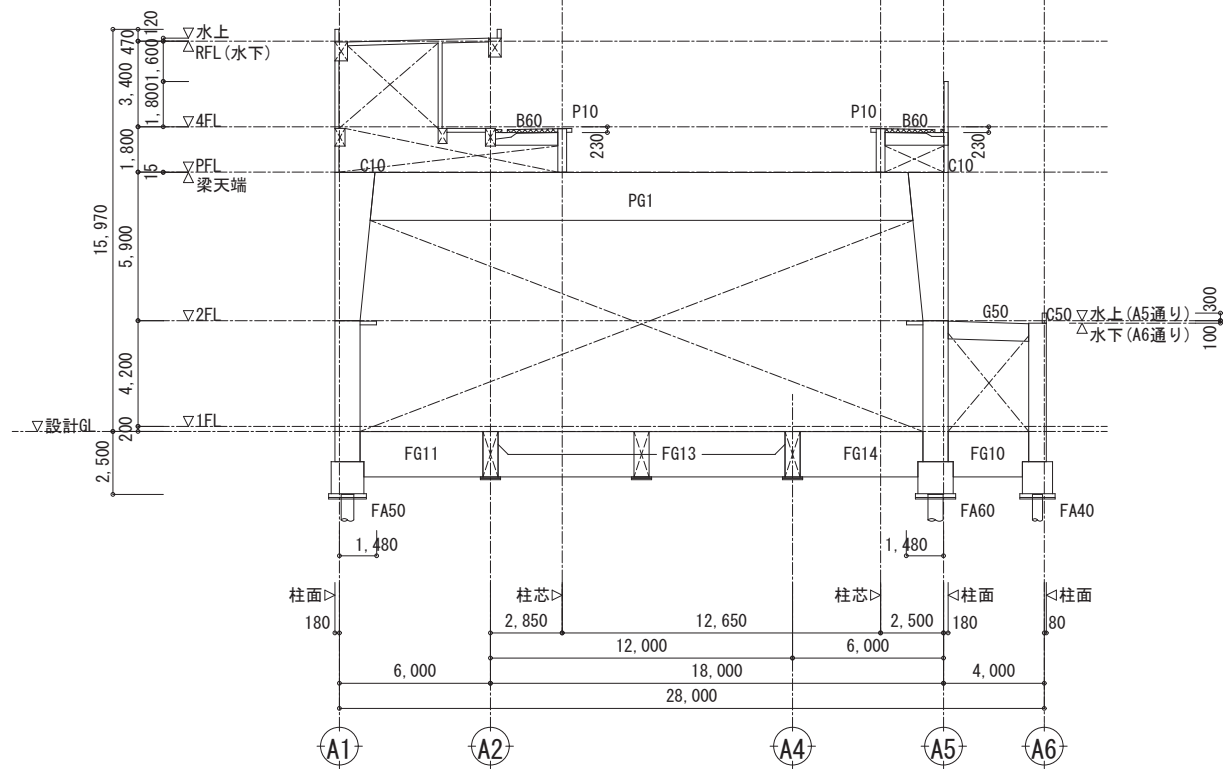
一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
一級建築士大臣登録 第315246号 茂木 博之
構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之

東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
株式会社 教育施設研究所
一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

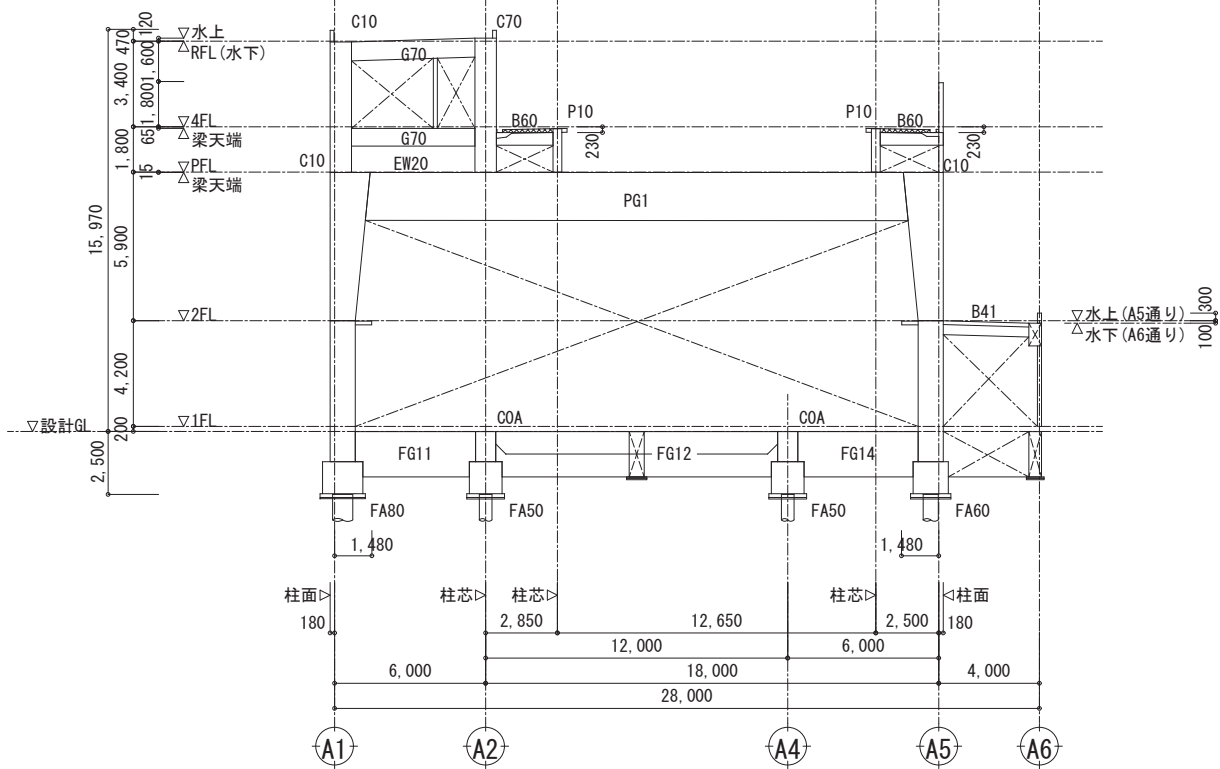
R階梁伏図

A1 S=1:150
A3 S=1:300

S-023



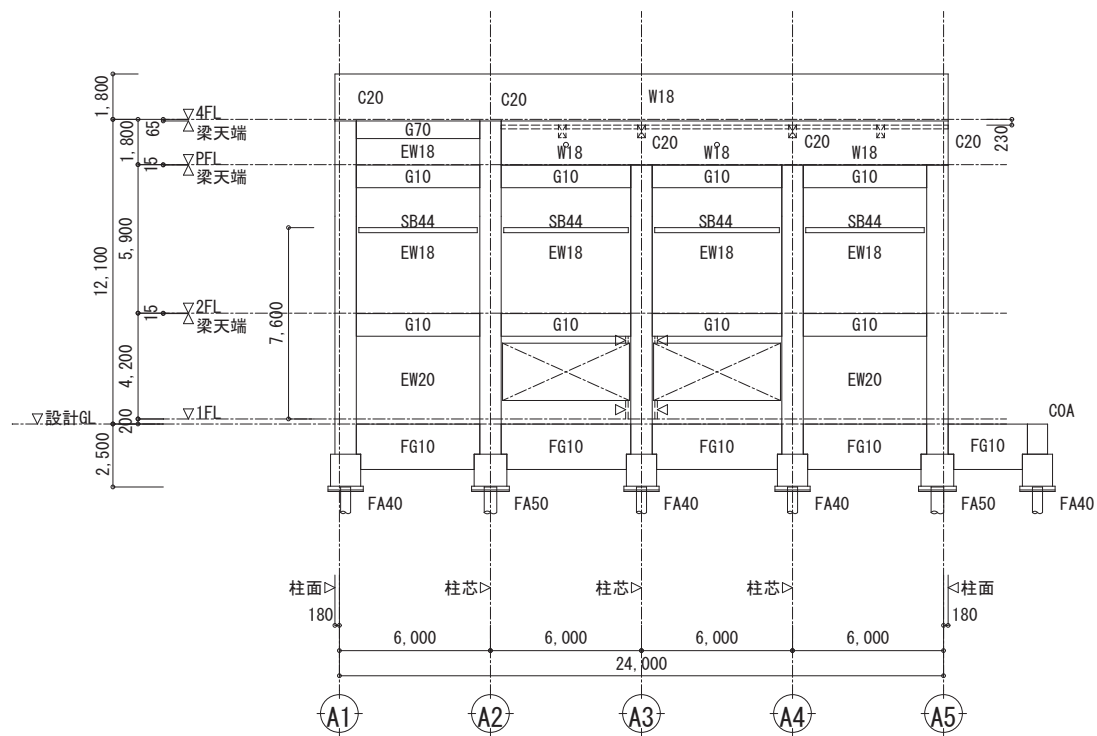
AC通り軸組図 屋内運動場棟



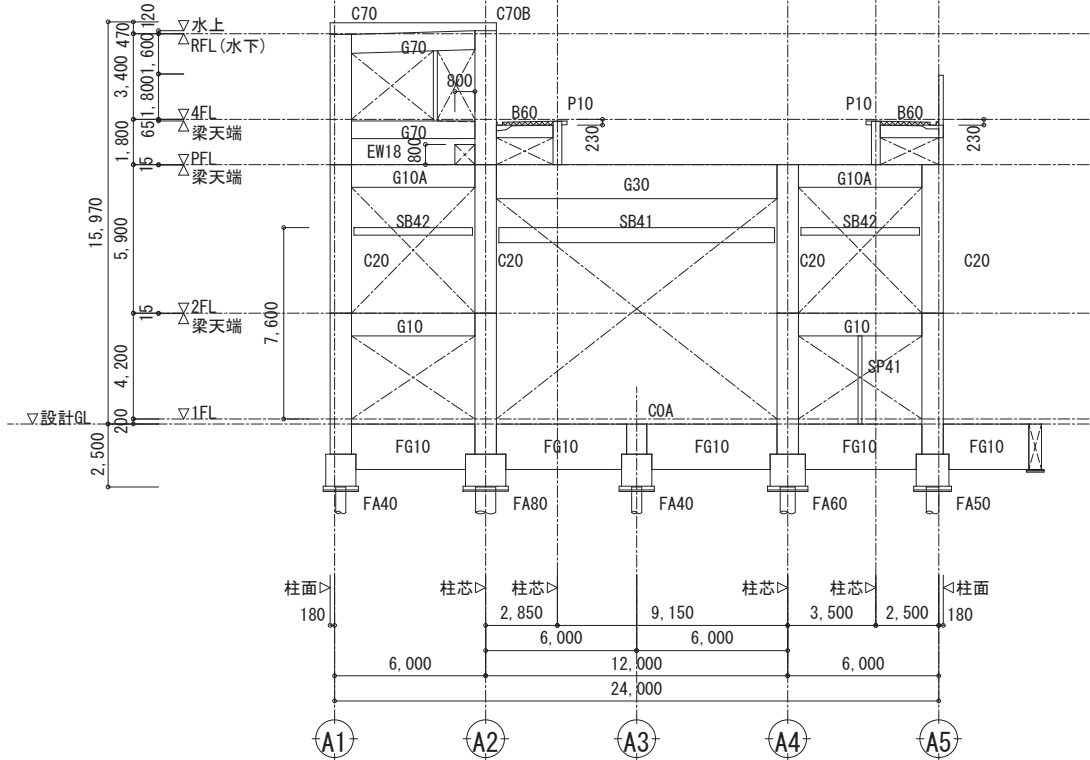
AD通り軸組図 屋内運動場棟

共通事項 (特記なき限り下記による)

1. 壁は、外壁W16、内壁W15とする。
2. 柱符号は、上階に倣う。
3. 地中梁天端は1FL-205とする。
4. ≪-印は垂直壁スリット位置を示す。
5. スリットは耐火性能、水密性能、遮音性能、耐久性等を考慮したものとす。
6. ☒は、増打ちを示す。
7. ※印部寸法は意匠図参照の上施工図による。



AA通り軸組図 屋内運動場棟



AB通り軸組図 屋内運動場棟

株式会社 教育施設研究所

ARCHITECT & OFFICE BRANCH PR. BY CHKD. BY

一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
 一級建築士大臣登録 第315246号 茂木 博之
 構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
 【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】

DRAWING TITLE

屋内運動場棟 軸組図 (1)

SCALE

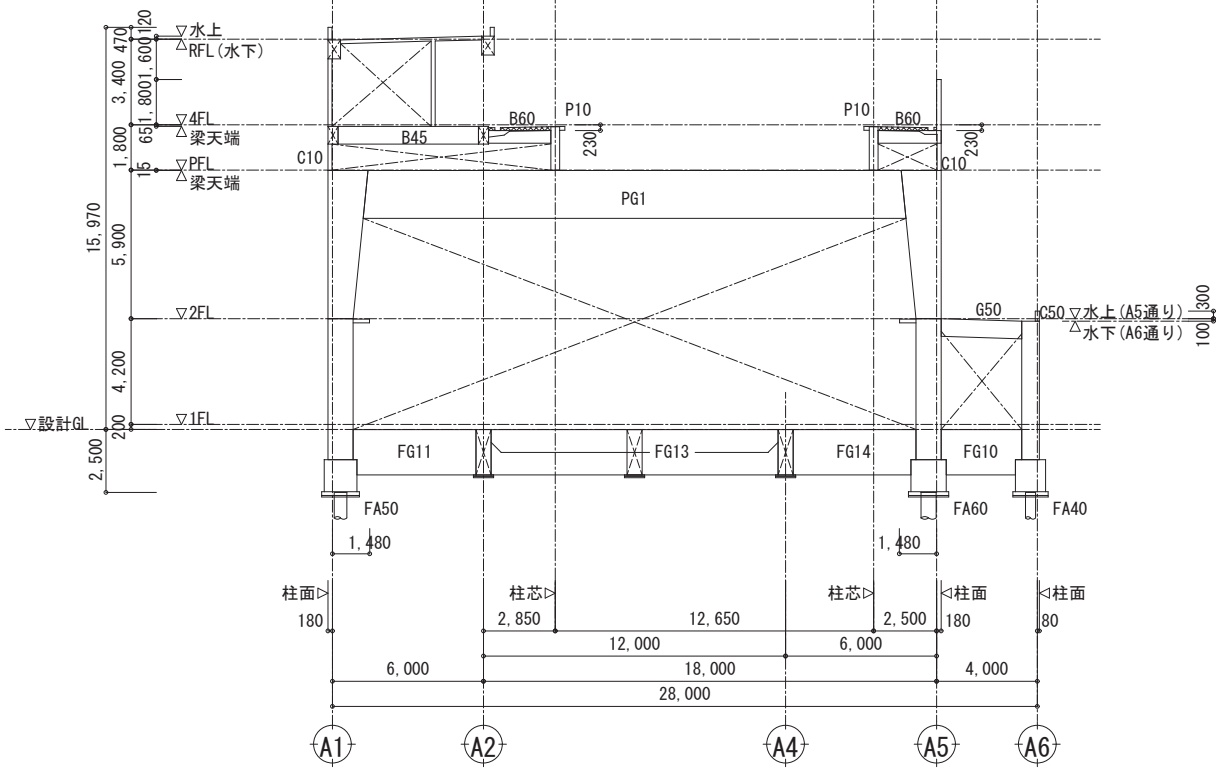
A1 S=1:150
 A3 S=1:300

DATE

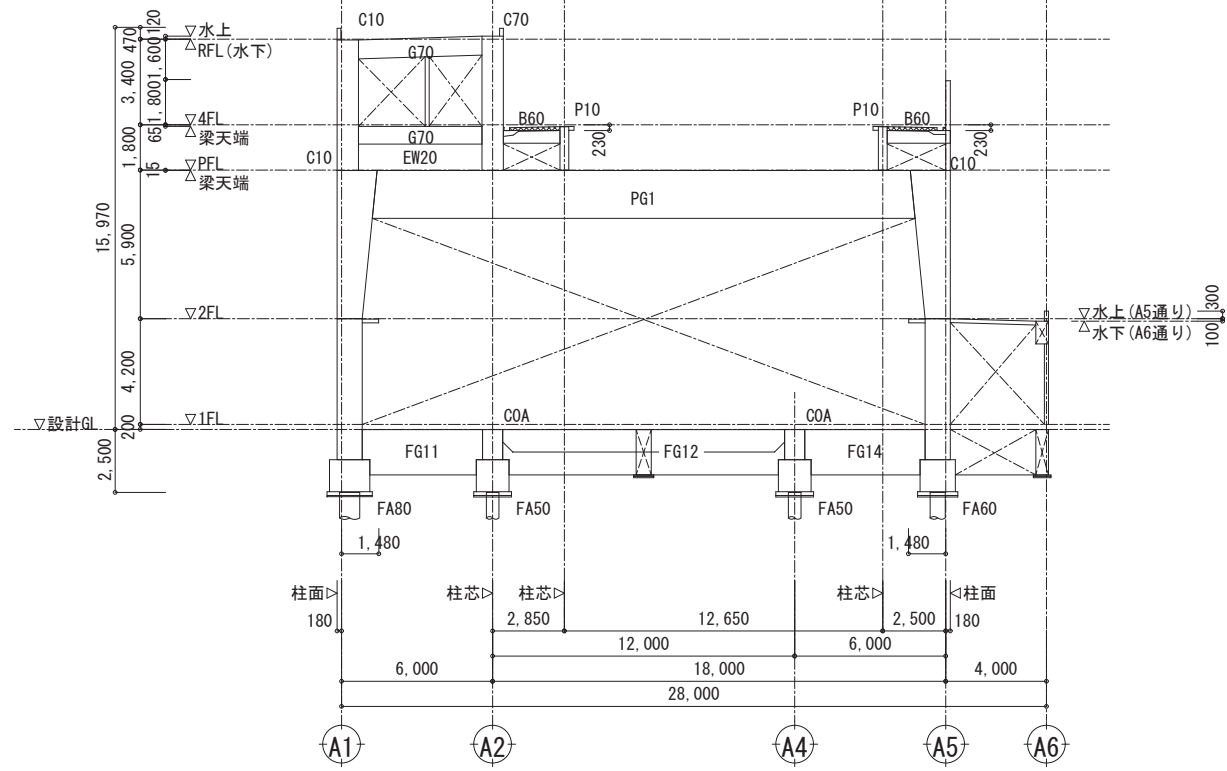
'22.04

DRAWING NO.

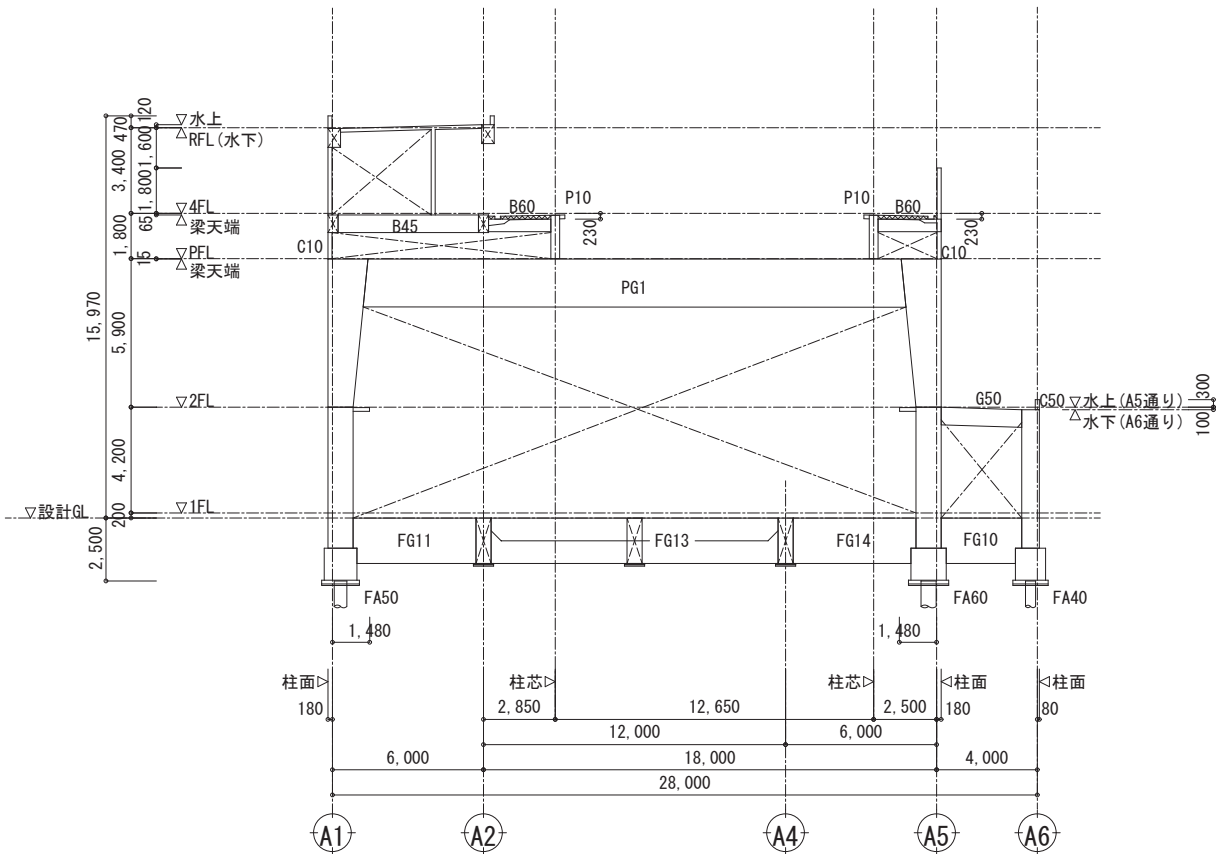
S-024



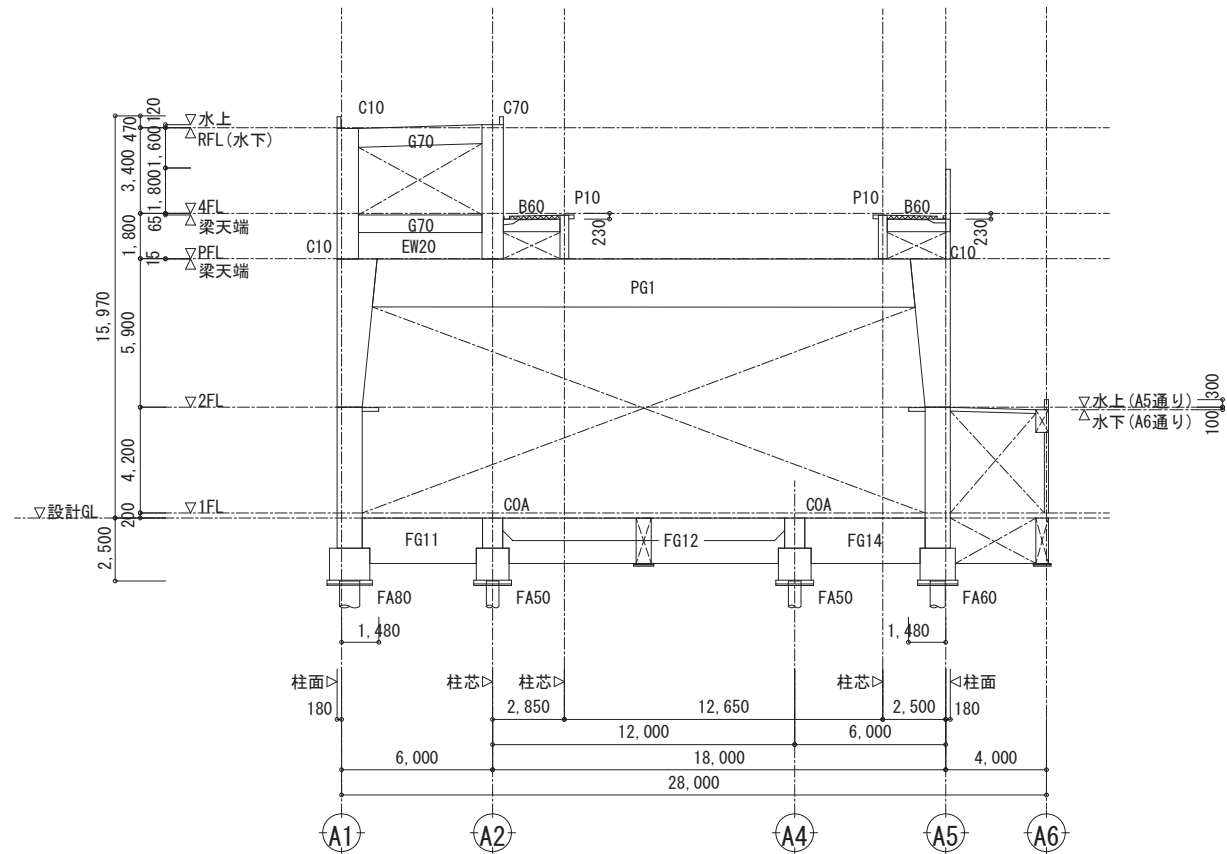
AG通り軸組図 屋内運動場棟



AH通り軸組図 屋内運動場棟



AE通り軸組図 屋内運動場棟



AF通り軸組図 屋内運動場棟

- 共通事項 (特記なき限り下記による)
1. 壁は、外壁W16、内壁W15とする。
 2. 柱符号は、上階に倣う。
 3. 地中梁天端は1FL-205とする。
 4. □は、増打ちを示す。
 5. ※印寸法は意匠図参照の上施工図による。

株式会社 教育施設研究所

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】

DATE '22.04

ARCHITECT & OFFICE BRANCH: PPR. BY CHKD. BY

DRAWING TITLE

SCALE

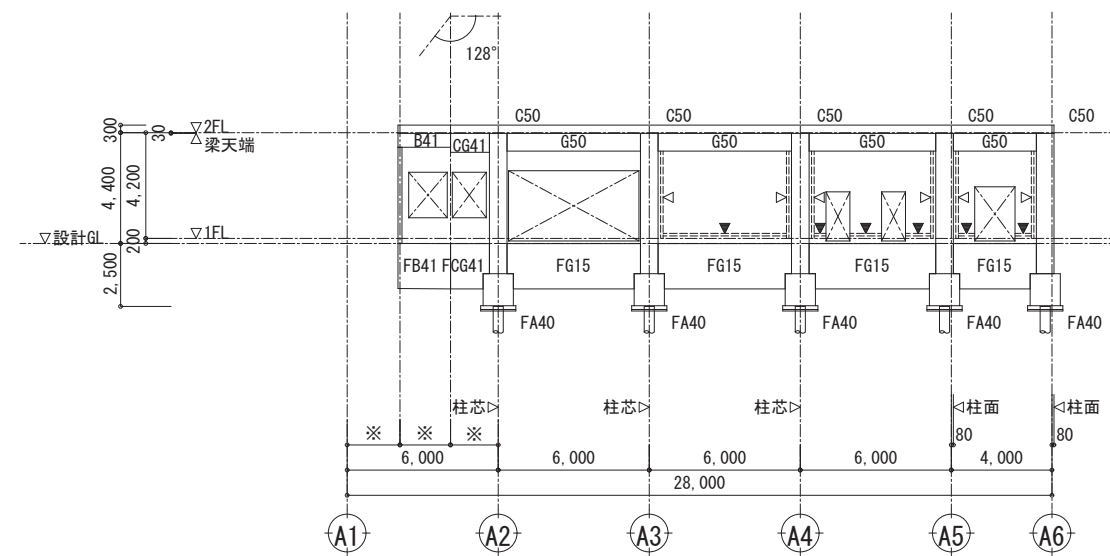
DRAWING NO. S-025

一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
株式会社 教育施設研究所
東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号
構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之

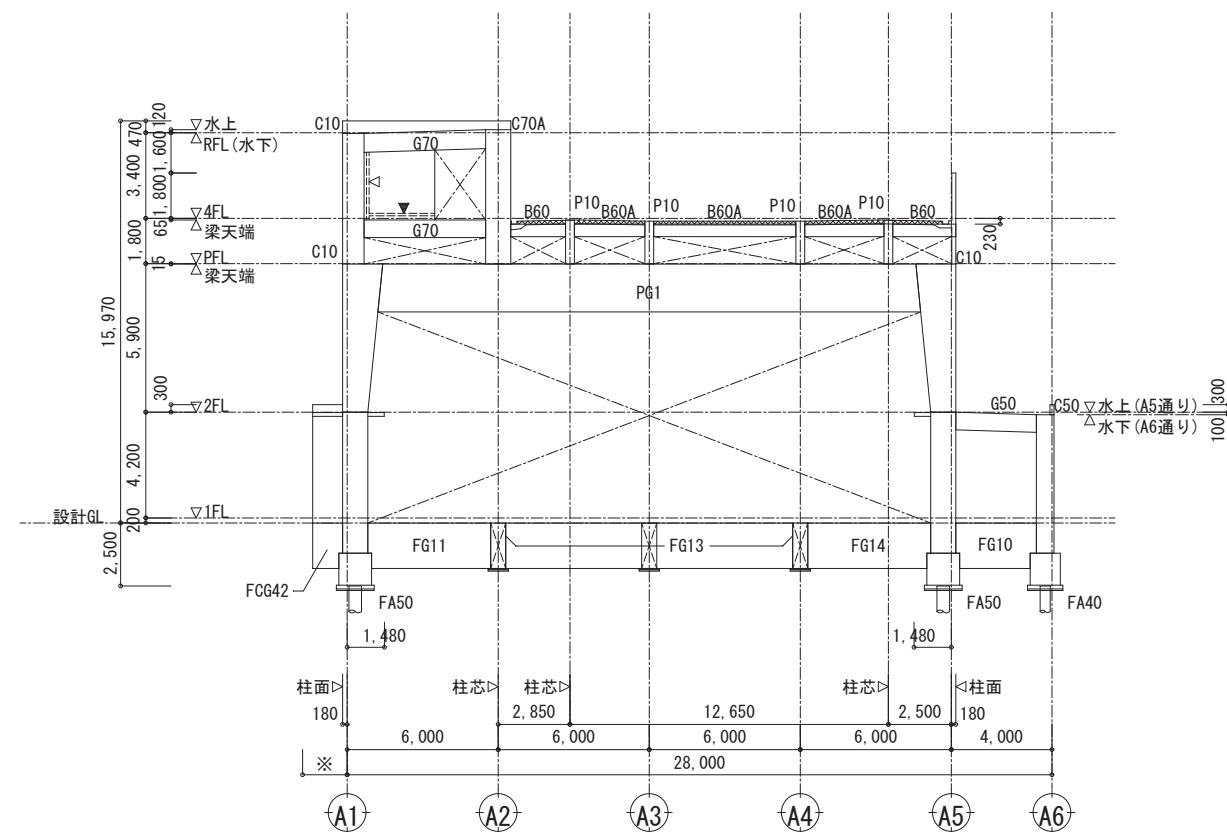
屋内運動場棟 軸組図 (2)
A1 S=1:150
A3 S=1:300

共通事項 (特記なき限り下記による)

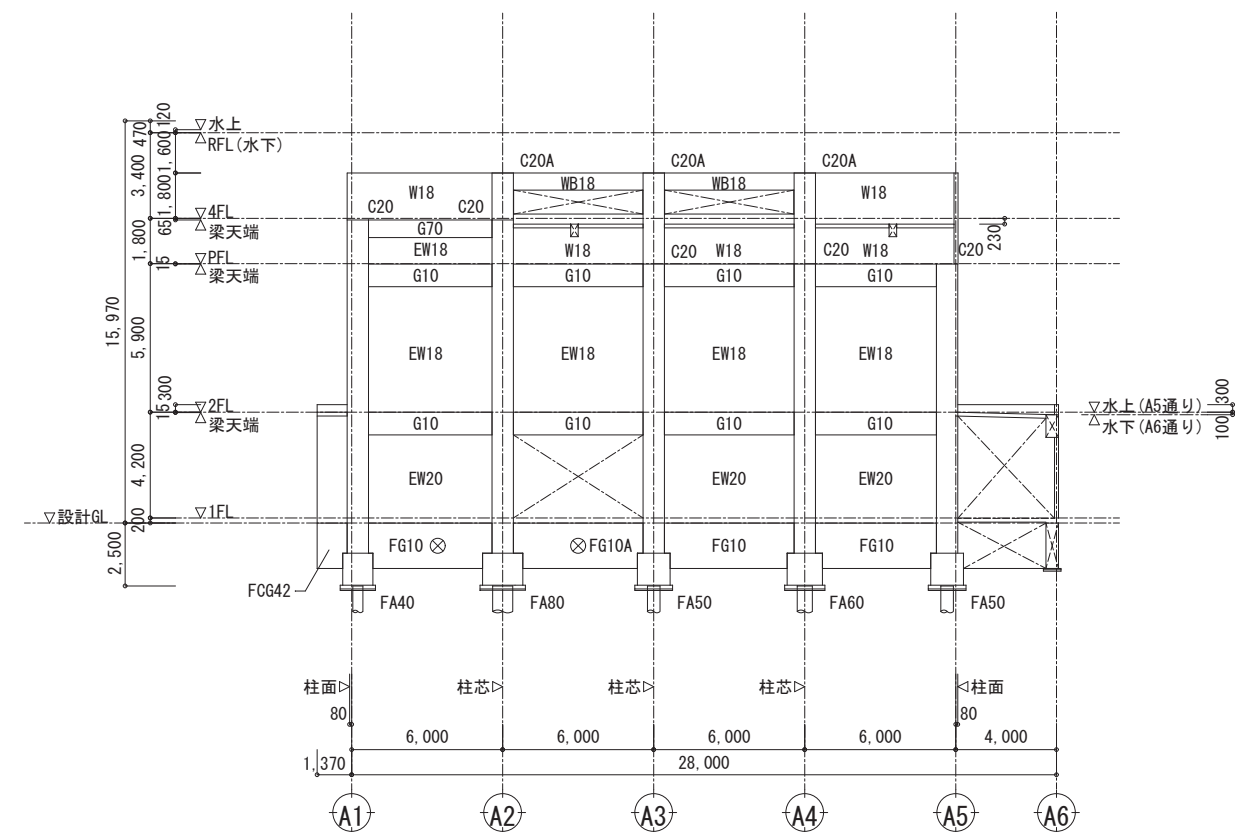
1. 壁は、外壁W16、内壁W15とする。
2. 柱符号は、上階に倣う。
3. 地中梁天端は1FL-205とする。
4. 印は垂直壁スリット位置を示す。
5. 印は水平壁スリット位置を示す。
6. スリットは耐火性能、水密性能、遮音性能、耐久性等を考慮したものとす。
7. 印は、増打ちを示す。
8. 印は、人通孔600φを示す。
9. ※印部寸法は意匠図参照の上施工図による。



AK通り軸組図 屋内運動場棟



AI通り軸組図 屋内運動場棟



AJ通り軸組図 屋内運動場棟

株式会社 教育施設研究所

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】

DATE

'22.04

ARCHITECT & OFFICE BRANCH: PPR. BY CHKO. BY

DRAWING TITLE

SCALE

DRAWING NO.

一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
一級建築士大臣登録 第315246号 茂木 博之
構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之

東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
株式会社 教育施設研究所
一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

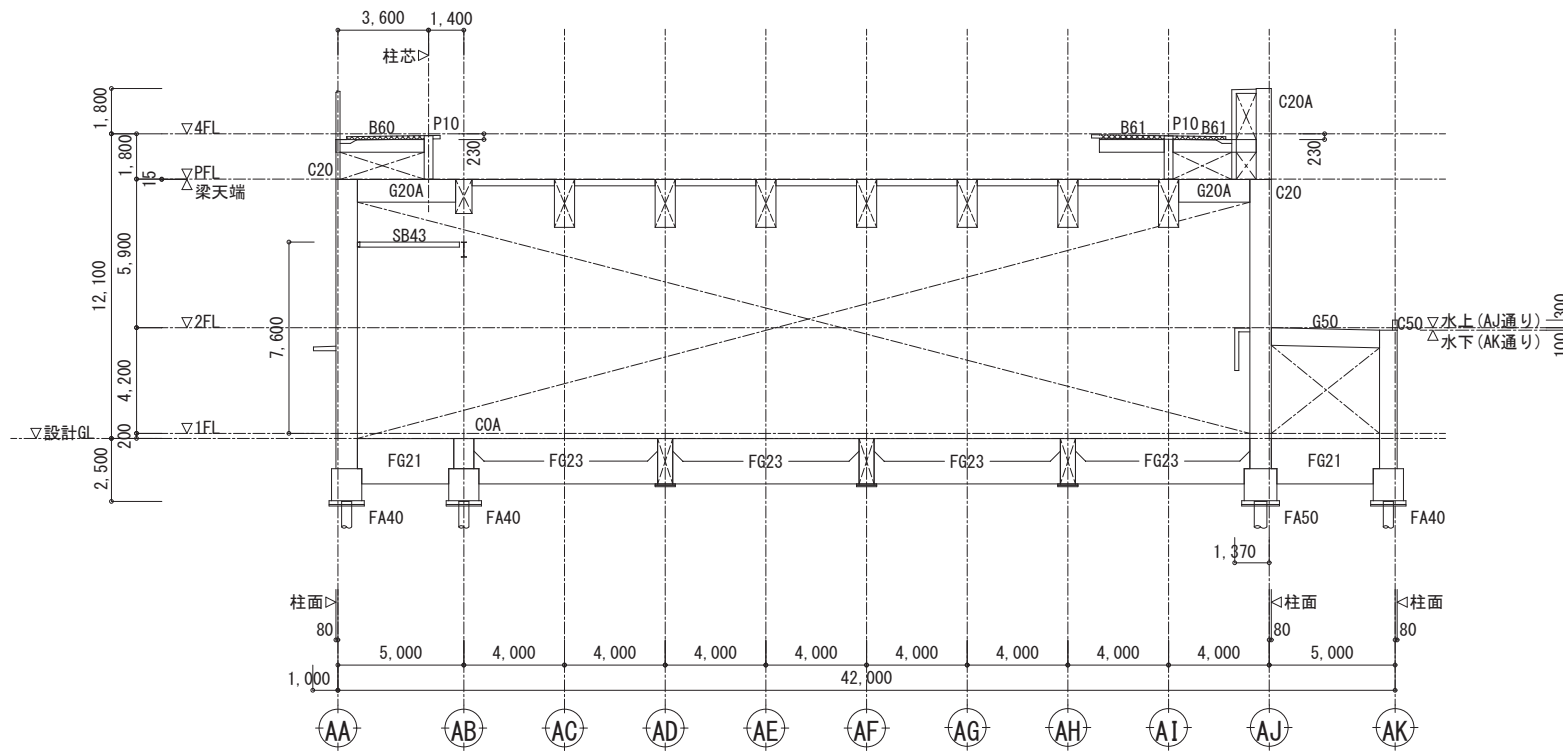
屋内運動場棟 軸組図 (3)

A1 S=1:150
A3 S=1:300

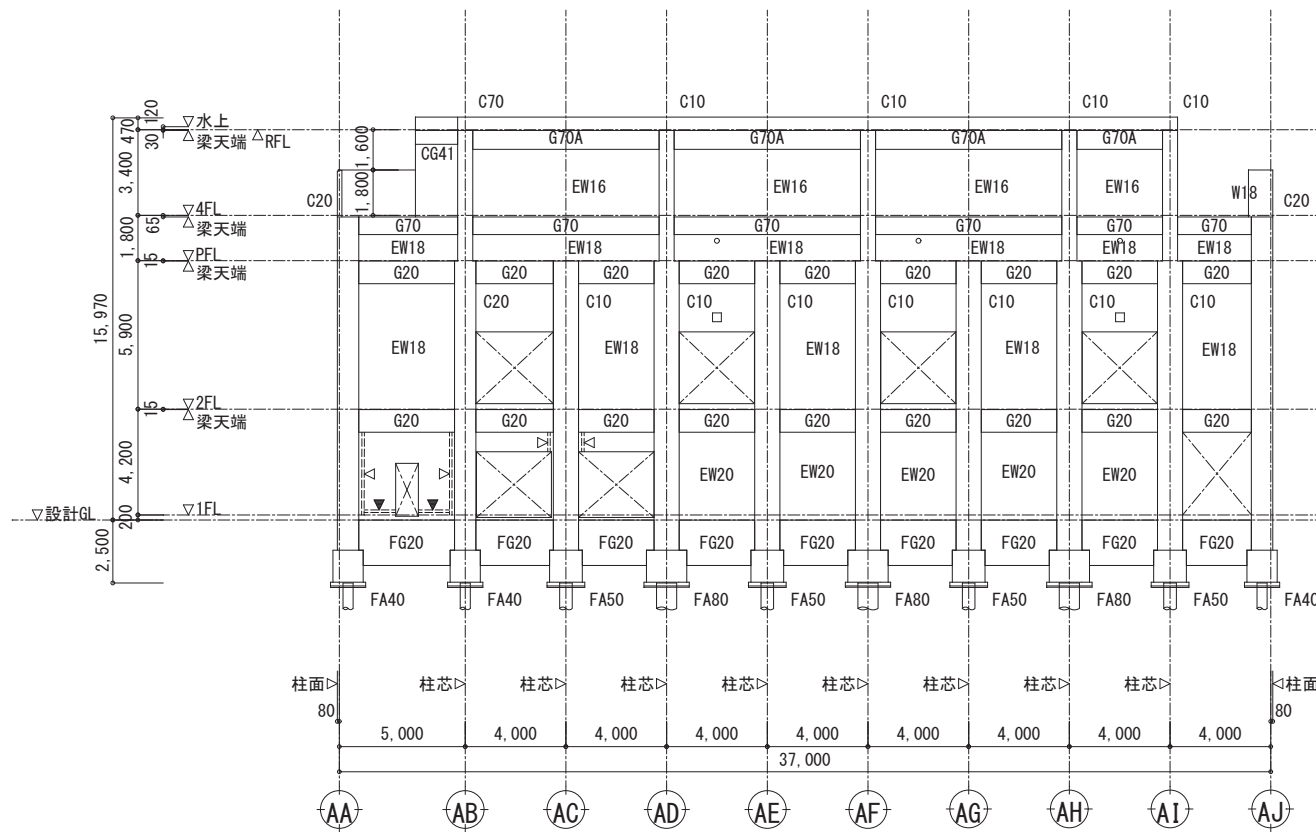
S-026

共通事項 (特記なき限り下記による)

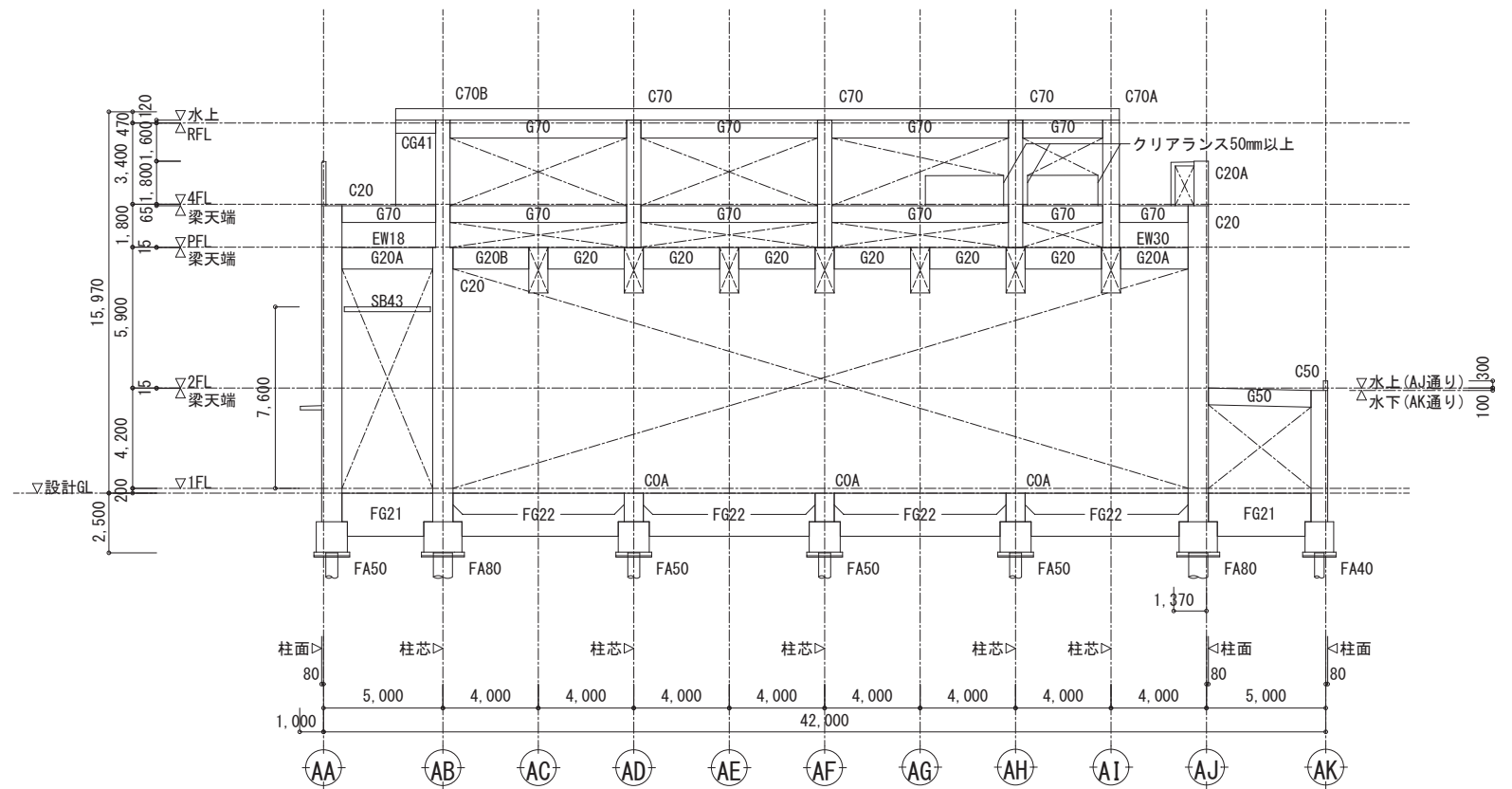
1. 壁は、外壁W16、内壁W15とする。
2. 柱符号は、上階に依う。
3. 地中梁天端は1FL-205とする。
4. ⊠印は垂直壁スリット位置を示す。
5. ▽印は水平壁スリット位置を示す。
6. スリットは耐火性能、水密性能、遮音性能、耐久性等を考慮したものとす。
7. ⊠印は、増打ちを示す。
8. ※印部寸法は意匠図参照の上施工図による。



A3通り軸組図 屋内運動場棟



A1通り軸組図 屋内運動場棟



A2通り軸組図 屋内運動場棟

株式会社 教育施設研究所

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】

DATE

'22.04

ARCHITECT & OFFICE BRANCH/PPR. BY CHKD. BY

DRAWING TITLE

SCALE

DRAWING NO.

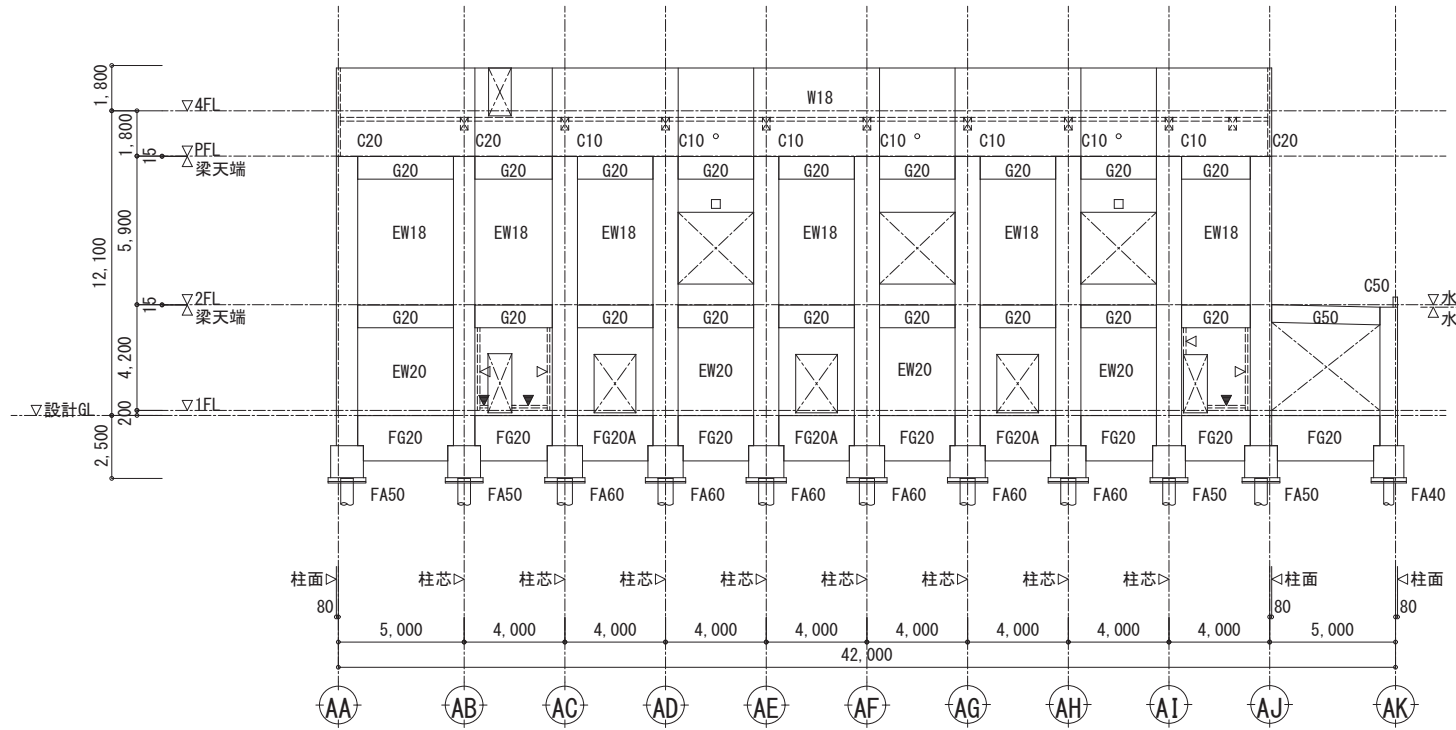
一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
一級建築士大臣登録 第315246号 茂木 博之
構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之

屋内運動場棟 軸組図 (4)

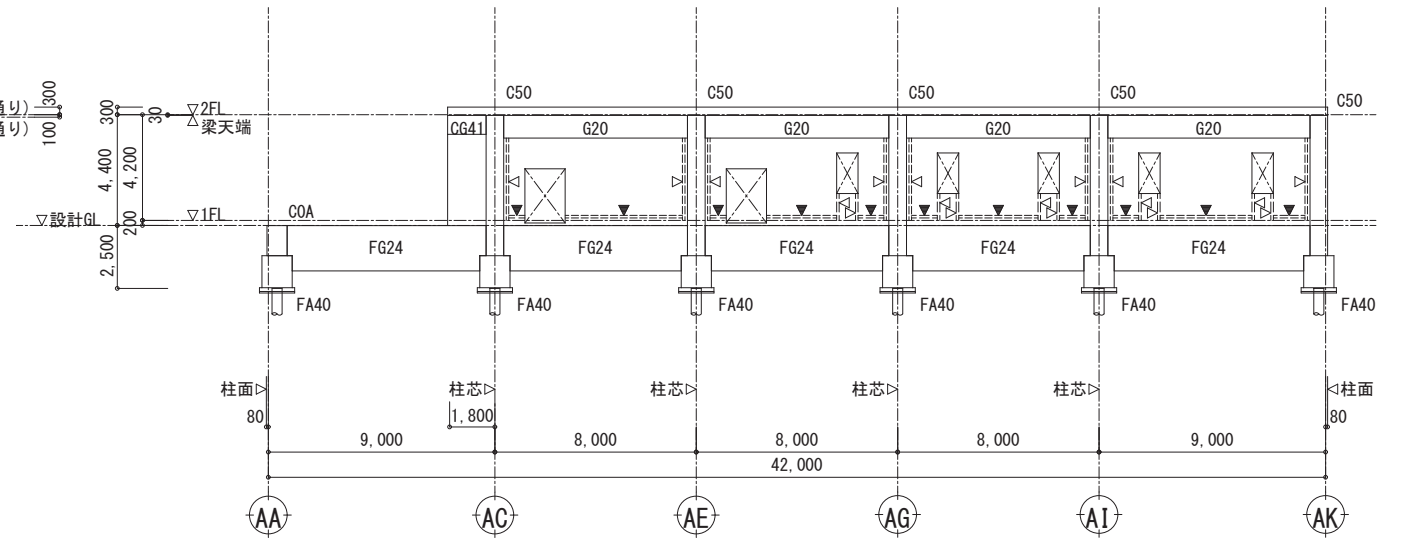
A1 S=1:150

A3 S=1:300

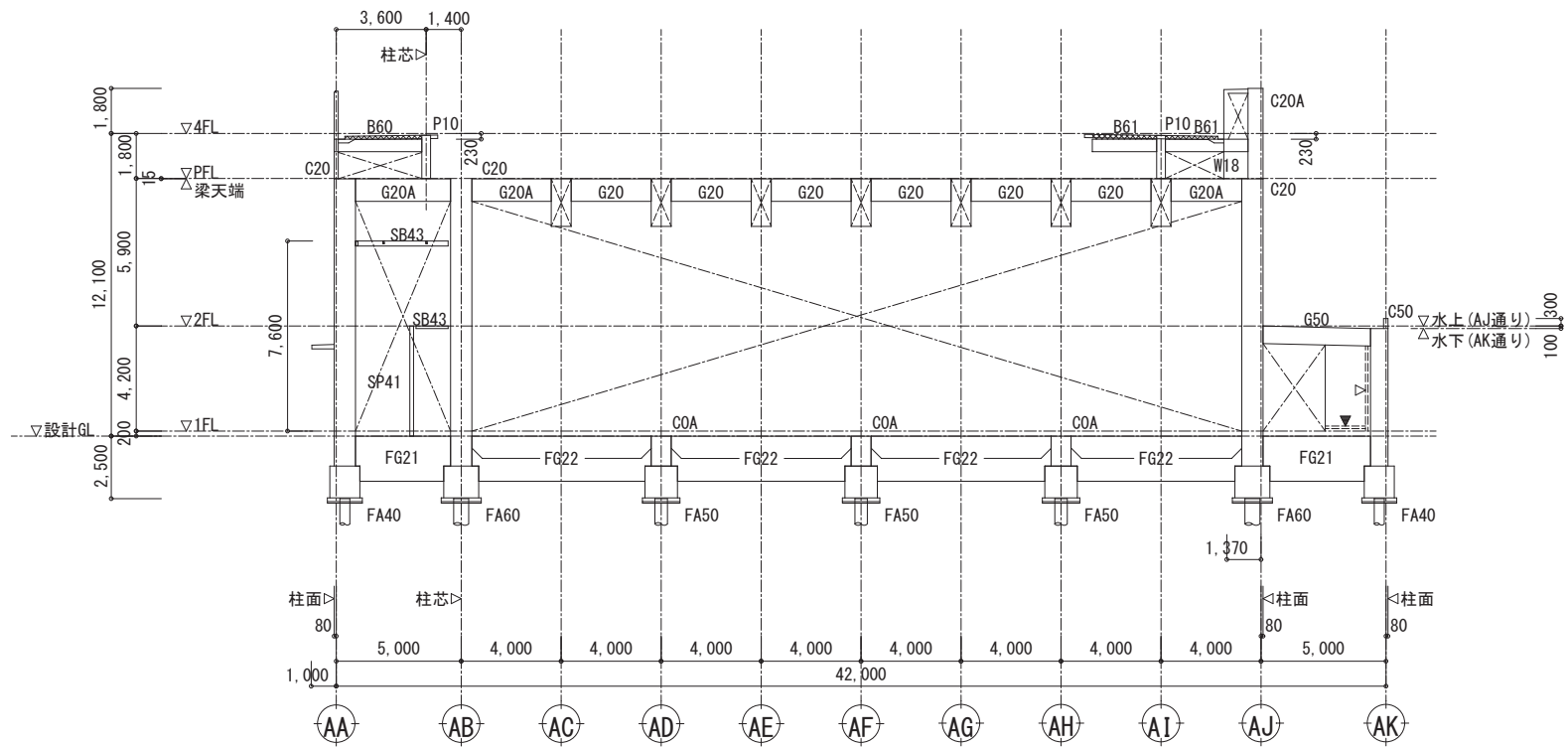
S-027



A5通り軸組図 屋内運動場棟



A6通り軸組図 屋内運動場棟



A4通り軸組図 屋内運動場棟

- 共通事項 (特記なき限り下記による)
1. 壁は、外壁W16、内壁W15とする。
 2. 柱符号は、上階に倣う。
 3. 地中梁天端は1FL-205とする。
 4. ◁印は垂直壁スリット位置を示す。
 5. ▽印は水平壁スリット位置を示す。
 6. スリットは耐火性能、水密性能、遮音性能、耐久性等を考慮したものとす。
 7. ⊠印は、増打ちを示す。
 8. ※印部寸法は意匠図参照の上施工図による。

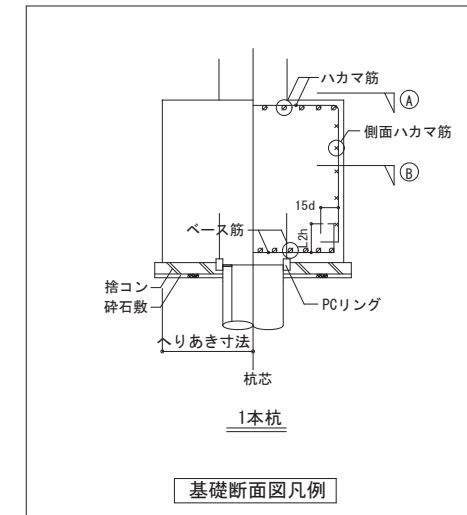
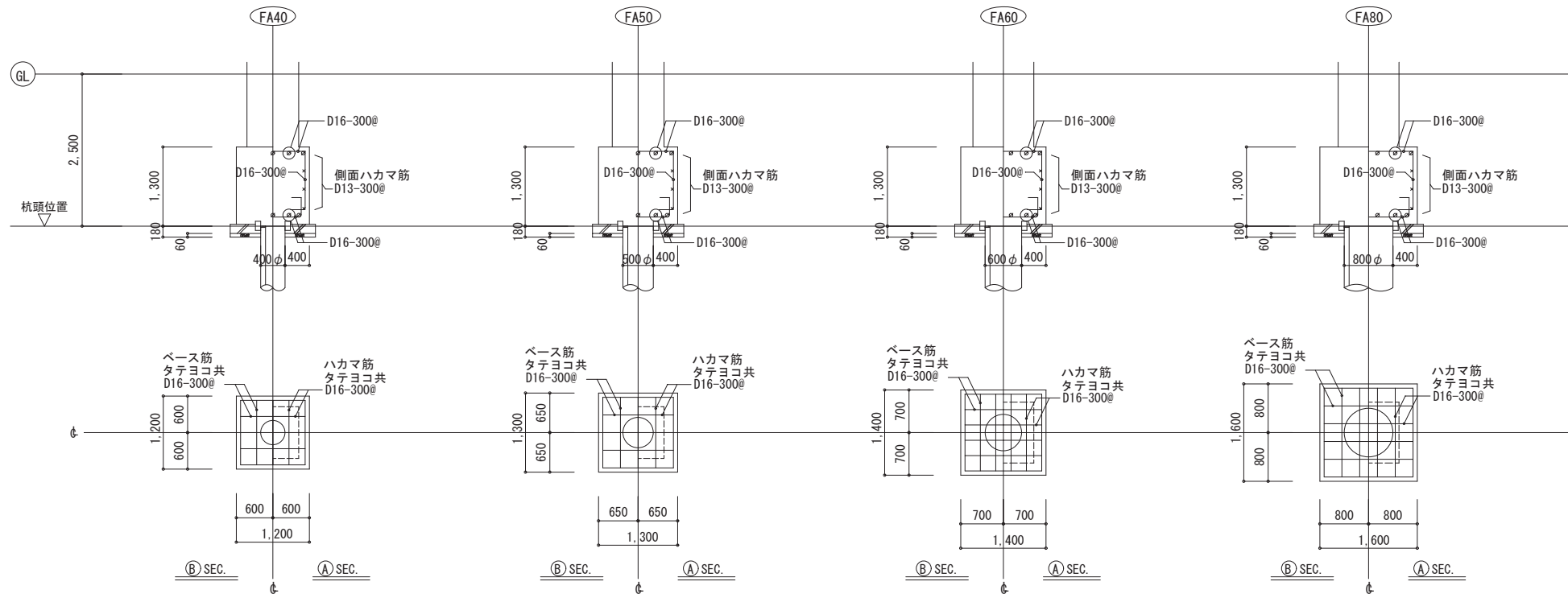
株式会社 教育施設研究所

ARCHITECT & OFFICE BRANCH PPR. BY CHKO. BY
 一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
 一級建築士大臣登録 第315246号 茂木 博之
 構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
 【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】
 DRAWING TITLE
 屋内運動場棟 軸組図 (5)
 SCALE
 A1 S=1:150
 A3 S=1:300
 DATE
 '22.04.
 DRAWING NO.
 S-028

屋内運動場棟
基礎断面リスト

- 特記なき限り下記による
1. 土に接する柱は、厚10以上の打増しとする。
 2. 使用コンクリート：Fc=30N/mm²
 3. 施工誤差によるヘリあき寸法の最小許容値は、設計寸法-100 mmとする。



屋内運動場棟
柱型リスト

- 特記なき限り下記による
1. 鉄筋：D10~D16 (SD295A), D19~D25 (SD345)
 2. 使用コンクリート：Fc=30N/mm²

符号	COA
断面	
B x D	800x800
主筋	12-D25
HOOP	□-D13@100
TOP HOOP	2□-D13

株式会社教育施設研究所

大久保小学校屋内運動場改築他工事（建築工事）
【大久保小学校屋内運動場改築工事（建築工事）】

DATE
'22.04.

ARCHITECT & OFFICE BRANCH: PPR. BY CHKD. BY

DRAWN BY

DRAWING TITLE

SCALE

DRAWING NO.
S-029

一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
一級建築士大臣登録 第315246号 茂木 博之
構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之

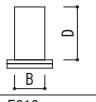
東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
株式会社教育施設研究所
一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

屋内運動場棟 基礎断面リスト
柱型リスト

A1 S=1:50
A3 S=1:100

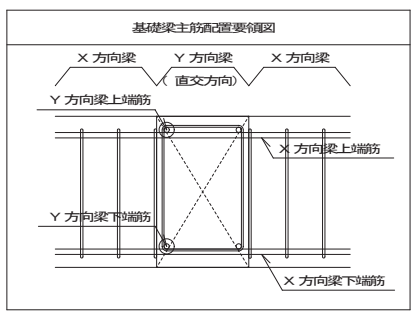
屋内運動場棟
基礎梁断面リスト

- 特記なき限り下記による
 1. 鉄筋：D10～D16 (SD295A), D19～D25 (SD345), D29 (SD390) 5. 形状寸法
 2. 使用コンクリート： $f_c=30N/mm^2$
 3. 幅止め筋：D10@1,000以内
 4. 梁二段筋のあきは $1.5d$ (d：鉄筋径)とする



符号	FG10	FG10A	FG11	FG12		FG13		FG14	FG15
位置	全断面	全断面	全断面	面端	中央	面端	中央	全断面	全断面
断面									
B x D	500x1,800	500x1,800	600x1,800	600x1,800		600x1,800		600x1,800	500x1,800
上端筋	5-D29	5-D29	9-D29	6-D29	5-D29	6-D29	5-D29	7-D29	4-D29
下端筋	4-D29	4-D29	7-D29	5-D29	8-D29	5-D29	8-D29	7-D29	4-D29
STP	□-D13@200	□-D13@150	□-D13@200	□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200	□-D13@200
腹筋	6-D13	6-D13	6-D13	6-D13		6-D13		6-D13	6-D13

符号	FG20	FG20A	FG21	FG22	FG23	FG24	FCG41	FCG42
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面								
B x D	500x1,800	500x1,800	600x1,800	600x1,800	600x1,800	500x1,800	500x1,800	500x1,800
上端筋	4-D29	4-D29	6-D29	6-D29	6-D29	5-D29	5-D29	4-D29
下端筋	4-D29	4-D29	5-D29	6-D29	6-D29	4-D29	4-D29	4-D29
STP	□-D13@200	□-D13@100	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200
腹筋	6-D13	6-D13	6-D13	6-D13	6-D13	6-D13	6-D13	6-D13

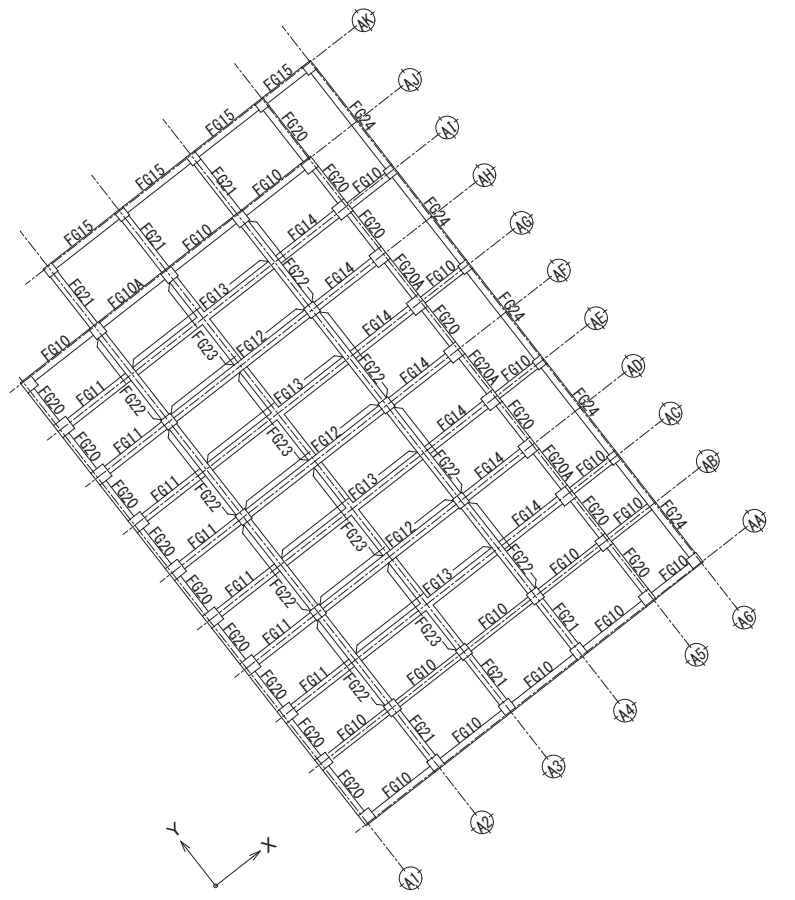


符号	FB41	FB51	
位置	全断面	面端	中央
断面			
B x D	350x1,800	500x1,800	
上端筋	3-D22	5-D25	5-D25
下端筋	3-D22	5-D25	7-D25
STP	□-D13@200	□-D13@200	
腹筋	6-D13	6-D13	

屋内運動場棟
耐圧版リスト

- 特記なき限り下記による
 1. 鉄筋：D10～D16 (SD295A)
 2. 使用コンクリート： $f_c=30N/mm^2$
 3. コンクリート金こて仕上の場合、打増し厚は意匠図による。
 4. 土に接するスラブ下地業は、捨てコン厚50、砕石敷厚60とする。

符号	スラブ厚	位置	主筋 (短辺方向)	配力筋 (長辺方向)	備考
FS41	250	上端筋	D13@150	D13@150	グラウンド散水水槽
		下端筋	D13@150	D13@150	
		上端筋			
		下端筋			



屋内運動場 基礎梁キープラン

株式会社教育施設研究所

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
 【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】

ARCHITECT & OFFICE BRANCH: PPR. BY CHKO. BY
 一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
 株式会社教育施設研究所
 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号


DRAWING TITLE
 屋内運動場棟 基礎梁断面リスト
 耐圧版リスト

SCALE
 A1 S=1:50
 A3 S=1:100

DATE
 '22.04.
 DRAWING NO.
 S-030

構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之


特記なき限り下記による
 1. 鉄筋：D10～D16 (SD295A), D19～D25 (SD345), D29 (SD390)
 2. 使用コンクリート： $F_c=30N/mm^2$
 3. HOOPは135°フック付きとし、上、下、左、右交互とする。
 4. HOOP筋は仕口内を除き溶接閉鎖型もしくはスパイラル筋とする。

5. 形状寸法 

6. へ印は寄せ筋を示し、鉄筋のあきは1.5d (d：鉄筋径) とし、
 → 6φ@1,500以下にて位置を保つ。

階	符号	C10	C20	C20A	C50	C70	C70A	C70B	P10
4階	接合部帯筋	□-D13@100		□-D13@200		□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	
	断面								
	B x D	850x600		850x600		850x600	1,000x700	850x600	
	主筋	12-D29		16-D25		20-D25	30-D29	26-D25	
P階	接合部帯筋	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@200		□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
	断面								
	B x D	850x600	850x850	850x600		850x600	1,000x700	850x600	350x350
	主筋	12-D29	20-D25	16-D25		20-D25	30-D29	26-D25	8-D22
2階	接合部帯筋	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@200		□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
	断面								
	B x D	1,000x1,000	850x850						
	主筋	36-D29	20-D25						
1階	接合部帯筋	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@200		□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
	断面								
	B x D	1,000x1,000	850x850			700x700			
	主筋	22-D29	20-D25			16-D25			

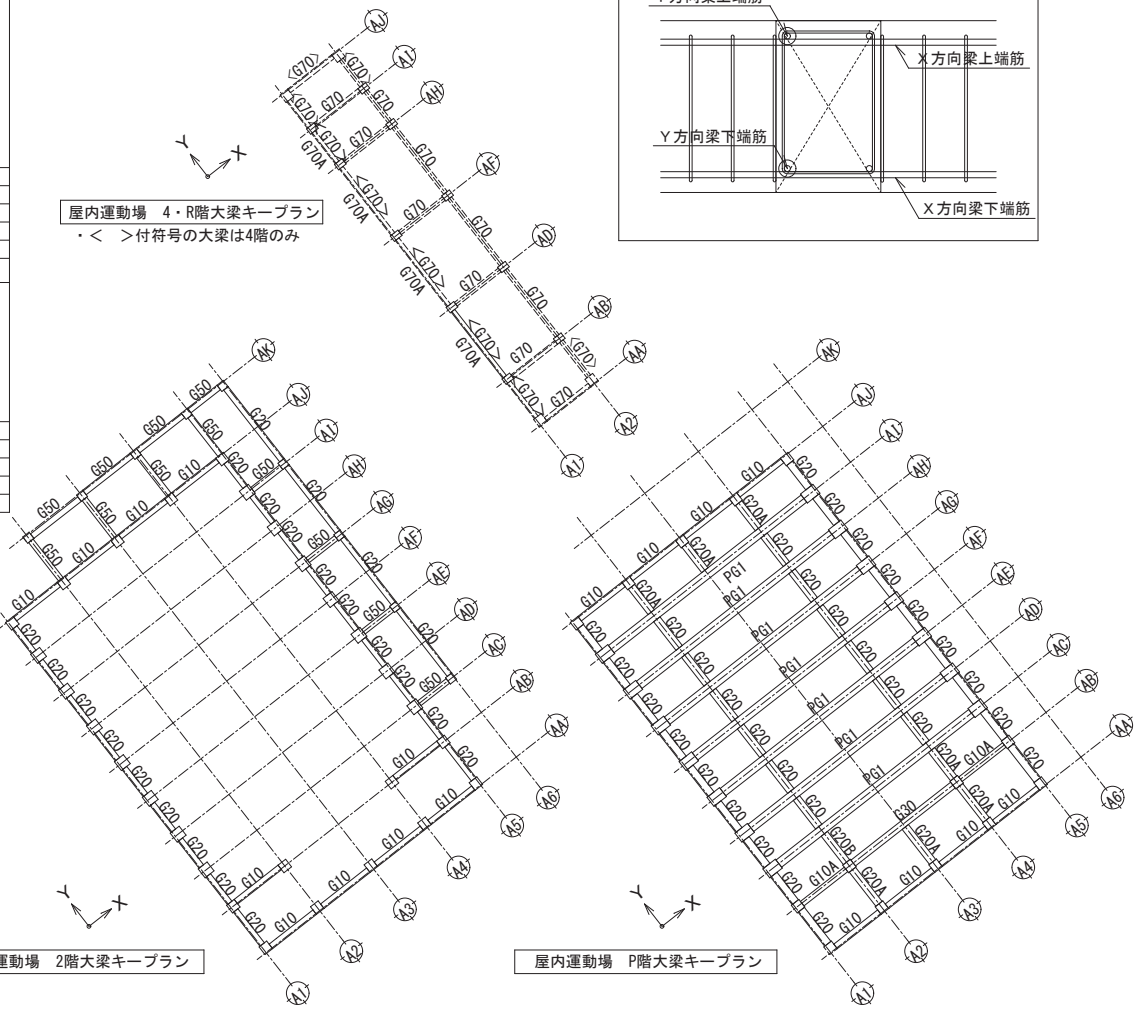
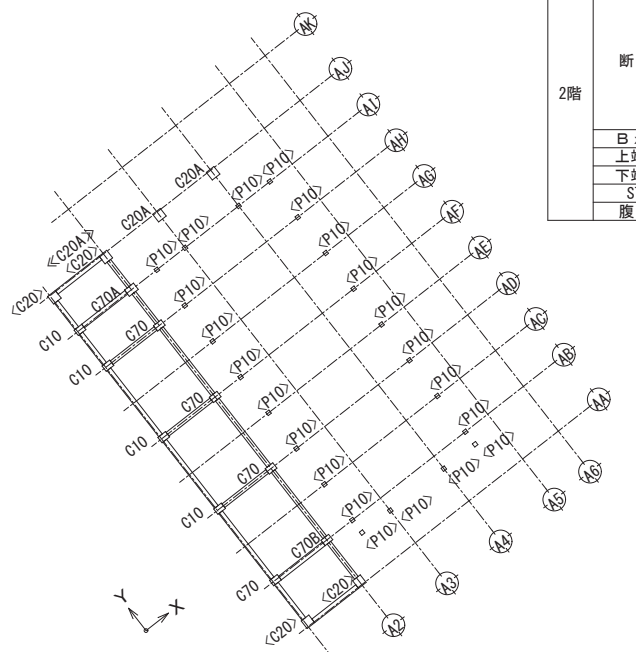
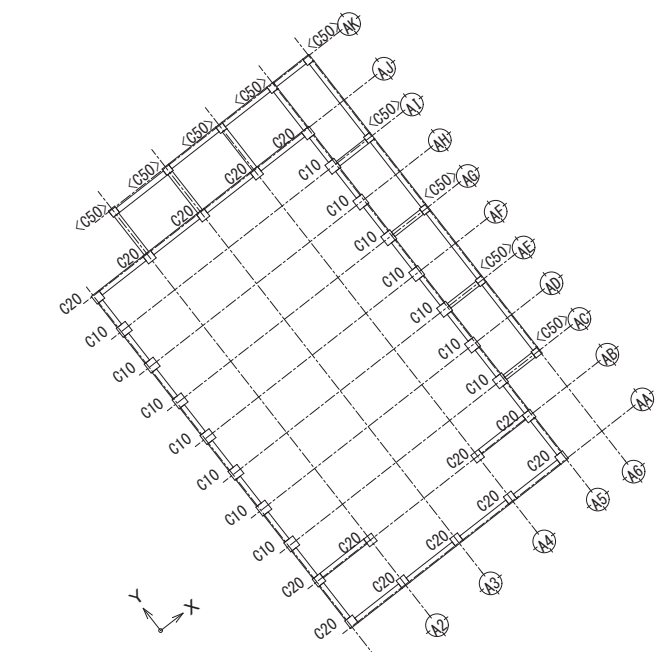
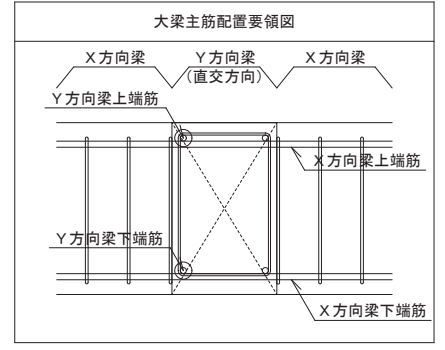
特記なき限り下記による
 1. 鉄筋：D10～D16 (SD295A), D19～D25 (SD345)
 2. 使用コンクリート： $F_c=30N/mm^2$
 3. 幅止め筋：D10@1,000以内
 4. 梁二段筋のあきは1.5d (d：鉄筋径) とする

5. 形状寸法 

階	符号	G70	G70A	G10	G10A	G20	G20A	G20B
R階	位置	全断面	全断面					
	断面							
	B x D	500x750	500x750					
	上端筋	8-D25	5-D25					
4階	位置	全断面	全断面					
	断面							
	B x D	400x700						
	上端筋	6-D25						

階	符号	G10	G10A	G20	G20A	G20B
P階	位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
	断面					
	B x D	500x900	500x900	700x900	700x900	700x900
	上端筋	5-D25	8-D25	6-D25	9-D25	12-D25
2階	位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
	断面					
	B x D	500x900		500x900		
	上端筋	5-D25		5-D25		

階	符号	G30	G50	
P階	位置	両端	中央	全断面
	断面			
	B x D	650x1,350		
	上端筋	13-D25	7-D25	
2階	位置	両端	中央	全断面
	断面			
	B x D	500x700		
	上端筋	5-D25	5-D25	



屋内運動場棟

小梁・片持梁リスト S=1:50

- 特記なき限り下記による
 1. 鉄筋: D10~D16 (SD295A), D19~D25 (SD345)
 2. 使用コンクリート: $f_c=30N/mm^2$
 3. 幅止め筋: D10@1,000以内
 4. 梁二段筋のあきは1.5d (d:鉄筋径)とする

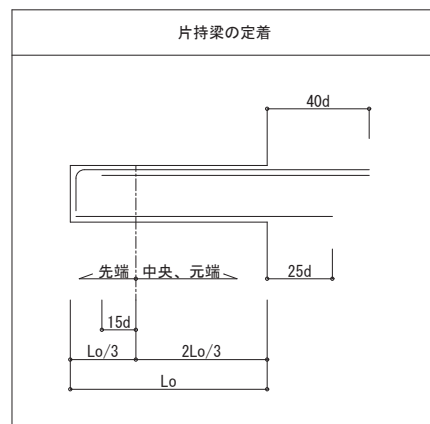
5. 形状寸法



符号	B41	B41A	B42			B43		B44	B45		B46	B47	B48
位置	全断面	全断面	A2端	中央	A3端	両端	中央	全断面	両端	中央	全断面	全断面	全断面
断面													
BxD	300x550	450x800	400x700			350x600		350x600	400x700		400x1,800	300x500	350x600
上端筋	3-D19	4-D22	8-D25	4-D25	4-D25	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D19	3-D25
下端筋	3-D19	4-D22	6-D25	4-D25	4-D25	3-D22	5-D22	3-D22	4-D22	7-D22	4-D22	4-D19	3-D25
STP	□-D10@200	□-D13@200	□-D13@200			□-D10@200		□-D10@200	□-D13@200		□-D13@200	□-D10@200	□-D13@200
腹筋	-	2-D10	2-D10			2-D10		2-D10	2-D10		10-D10	-	2-D10

符号	B50			B60	B60A	B61
位置	A2端	中央	A3端	全断面	全断面	全断面
断面						
BxD	500x1,200			300x500	300x500	300x650
上端筋	7-D25	4-D25	4-D25	3-D19	5-D19	5-D19
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	3-D19	4-D19	4-D19
STP	□-D13@200			□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200
腹筋	6-D10			-	-	2-D10

符号	CG41	CG42	CG43	CB41		KB41	KCG41	WB18
位置	全断面	全断面	全断面	元端, 中央	先端	全断面	全断面	全断面
断面								
BxD	500x750	500x750	500x1,200	400x700		250x550	250x550	180x680
上端筋	5-D25	5-D25	7-D25	8-D25	4-D25	3-D19	3-D19	2-D16
下端筋	5-D25	5-D25	4-D25	6-D25	4-D25	3-D19	3-D19	2-D16
STP	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200		□-D10@150	□-D10@150	□-D10@200
腹筋	2-D10	2-D10	6-D10	2-D10		-	-	12-D13 (L2定着)



株式会社教育施設研究所

ARCHITECT & OFFICE BRANCH: 東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
 株式会社教育施設研究所
 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
 【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】

屋内運動場棟 小梁・片持梁リスト
 A1 S=1:50
 A3 S=1:100

DATE 22.04

DRAWING NO. S-032

一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
 一級建築士大臣登録 第315246号 茂木 博之
 構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之

屋内運動場棟

壁リスト S=1:50

特記なき限り下記による

- 鉄筋: D10~D16 (SD295A)
- 使用コンクリート: $f_c=30N/mm^2$

3. KW及びA符号は縦筋を外側に配筋すること

符号	W15	W16	EW16	W18	EW18	EW20	EW30	KW25
断面 (垂直断面)								
壁厚	150	160	160	180	180	200	300	250
配筋タイプ	シングル	ダブル	ダブル	ダブル	ダブル	ダブル	ダブル	ダブル
縦筋	D10@150	D10@200	D10@150	D13@100	D13@200	D13@200	D13@200	D13@150
横筋	D10@150	D10@200	D10@150	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200
開口補強	縦筋	1-D13	2-D13	4-D13	4-D16	4-D16	-	-
	横筋	1-D13	2-D13	4-D13	-	4-D16	-	-
	斜め筋	1-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	-	-
備考								端部筋 4-D19

屋内運動場棟

スラブリスト

特記なき限り下記による

- 鉄筋: D10~D16 (SD295A)
- 使用コンクリート: $f_c=30N/mm^2$
- コンクリート金こて仕上の場合、打増し厚は意匠図による。

符号	スラブ厚	位置	主筋 (短辺方向)	配力筋 (長辺方向)	備考
S41	150	上端筋	D10, D13@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
S42	150	上端筋	D13@200	D10, D13@200	
		下端筋	D10, D13@200	D10@200	
S43	250	上端筋	D16@150	D13@150	
		下端筋	D13@150	D10, D13@150	
S44	150	上端筋	D13@200	D13@200	
		下端筋	D10, D13@200	D10, D13@200	
S45	180	上端筋	D13@200	D10, D13@200	
		下端筋	D10, D13@200	D10@200	
		上端筋			
		下端筋			
		上端筋			
		下端筋			
		上端筋			
		下端筋			

屋内運動場棟

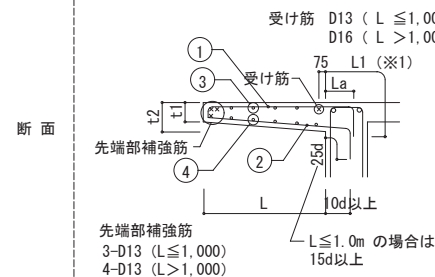
片持スラブ配筋リスト

特記なき限り下記による

- 鉄筋: D10~D16 (SD295A)
- 使用コンクリート: $f_c=30N/mm^2$
- コンクリート金こて仕上の場合、打増し厚は意匠図による。

- 先端の折曲げ長さは、スラブ厚さより被り厚さを除いた長さとする。
- (※1) スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してよい。

符号	先端のスラブ厚 (t1)	元端のスラブ厚 (t2)	主筋方向		配力筋方向	
			①の鉄筋	②の鉄筋	③の鉄筋	④の鉄筋
CS41	150	150	D13@200	D10@200	D10@200	D10@200
CS41A	150	150	D13@200	D10@200	D13@200	D10@200
CS42	150	150	D13@200	D10@200	D10@200	D10@200
CS43	150	150	D13, D16@100	D10@200	D10@200	D10@200
KCS41	180	180	D13@150	D13@150	D13@150	D13@150
KCS42	180	180	D13@150	D13@150	D10@200	D10@200



株式会社 教育施設研究所

ARCHITECT & OFFICE BRANCH: PPR BY CHKD BY DRAWN BY

東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
株式会社 教育施設研究所
一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】

DRAWING TITLE: 屋内運動場棟 壁リスト
スラブリスト

SCALE: A1 S=1:50
A3 S=1:100

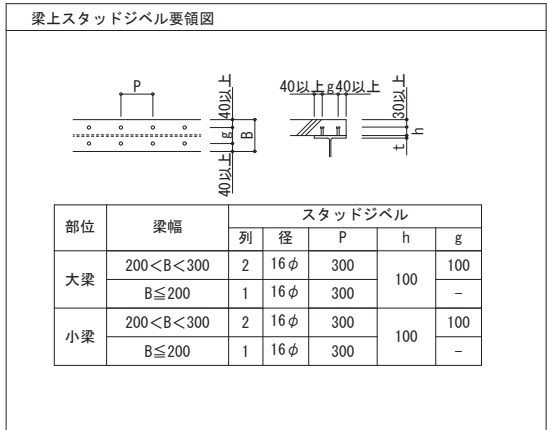
DATE: '22.04

DRAWING NO: S-033

一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
一級建築士大臣登録 第315246号 茂木 博之
構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之

屋内運動場棟
柱脚リスト S=1:50

符号	SP41
主材	H-150x150x7x10 [SN400A]
柱脚	
ベースプレート	PL-16x200x210 [SS400]
アンカーボルト	2-M16 [SS400] L=400 (二重ナット締め)
BxD	—
台柱	地中梁の上に乗せる
主筋	—
HOOP	—



屋内運動場棟

鉄骨断面リスト

特記なき限り下記による
 1. 鉄骨材質は SN400A とする。
 ただし、監督員の承認を得た部材については、SS400 へ変更してよい。
 2. HTB S10T 高力ボルトは特殊高力ボルト使用

符号	部材サイズ	備考
SP41	H-150x150x7x10	JB-150
SB41	H-600x200x11x17	JB-60
SB42	H-300x150x6.5x9	JB-30
SB43	H-200x100x5.5x8	JB-20
SB44	[-200x80x7.5x11	A. Bolt 1-M16@1,000 (SS400 L=400)
V41	1-M16 (ターンバックル締め)	GPL-9 H. T. B 1-M16
スノコ	C-100x50x20x2.3 @175 [SSC400]	

屋内運動場棟

仕口リスト

特記なき限り下記による
 1. 鉄骨材質はSS400とする。
 ただし、監督員の承認を得た部材については、SS400 へ変更してよい。
 2. HTB S10T 高力ボルトは特殊高力ボルト使用

サイズ	JB-20	JB-30	JB-60	JB-150
	H-200x100x5.5x8	H-300x150x6.5x9	H-600x200x11x17	H-150x150x7x10
形状				
H. T. B	2-M16	3-M20	6-M22	2-M20
G. PL	GPL-6	GPL-9	GPL-12	GPL-9

下フランジ切欠を原則とする。

株式会社教育施設研究所

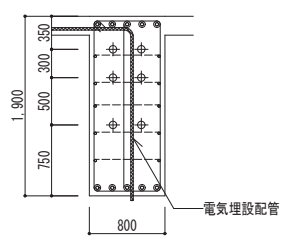
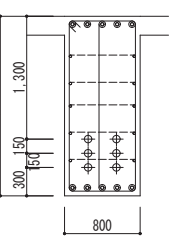
ARCHITECT & OFFICE BRANCH
 東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
 株式会社教育施設研究所
 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

工事名称	大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事) 【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】	DATE	'22. 04
DRAWING TITLE	鉄骨部材リスト	SCALE	A1 S=1:50 A3 S=1:100
DRAWING NO.	S-034		

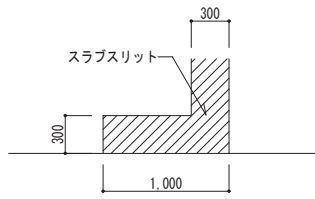
一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
 一級建築士大臣登録 第315246号 茂木 博之
 構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之

PC梁断面リスト S=1:40

特記なき限り
1. 幅止筋はD10@1000以下とする。

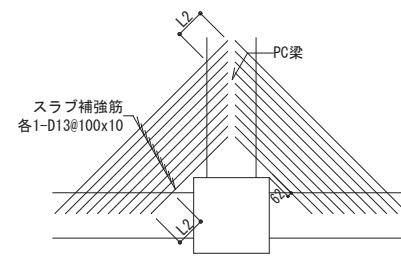
階	符号	PG1	
P階	位置	端部	中央
	断面		
	B×D	800×1,900	
	PC鋼材	PC鋼より線 6c-9-15.2mm (SWPR7BL)	
	上端筋	5-D25	5-D25
	下端筋	5-D25	5-D25
	STP	□-D13@100	□-D13@100
	腹筋	10-D10	
	備考	-	

PC梁共通事項



スラブスリット要領


1. 配置はKEYPLANによる。

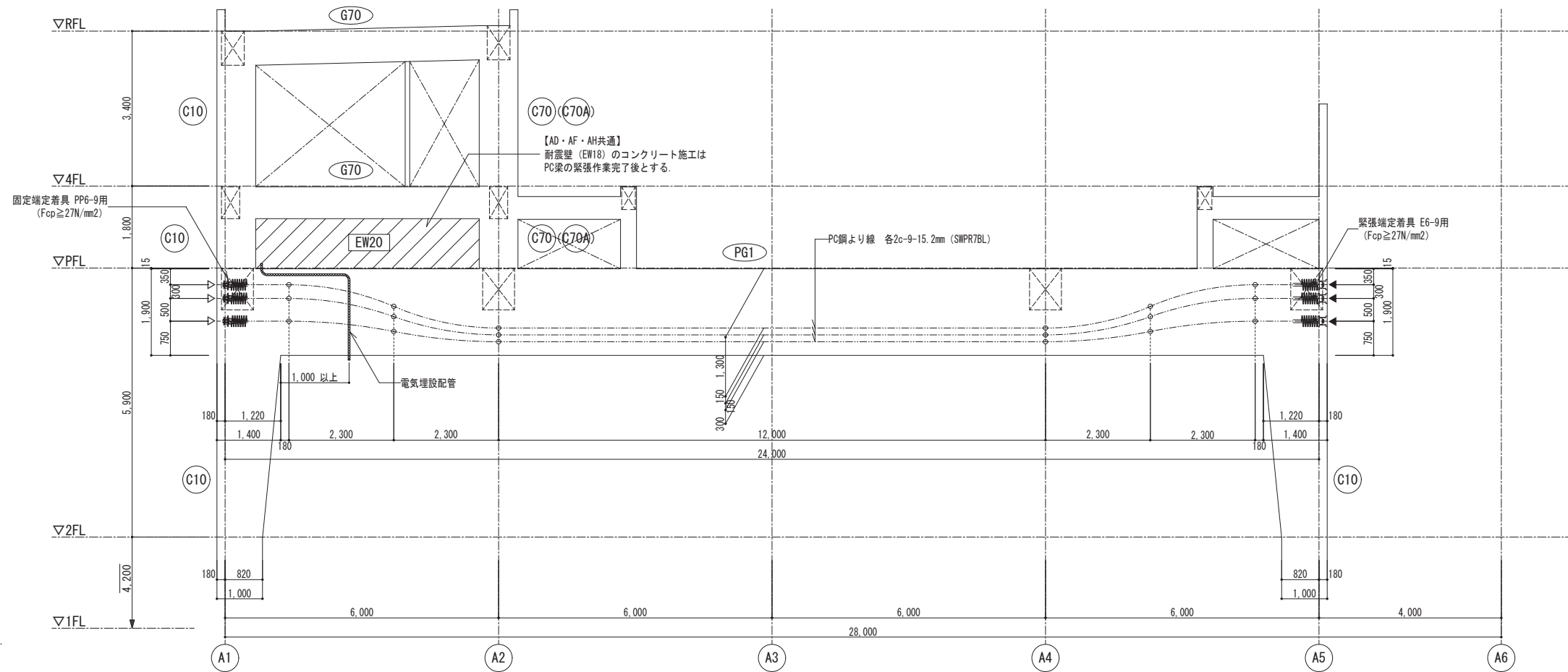
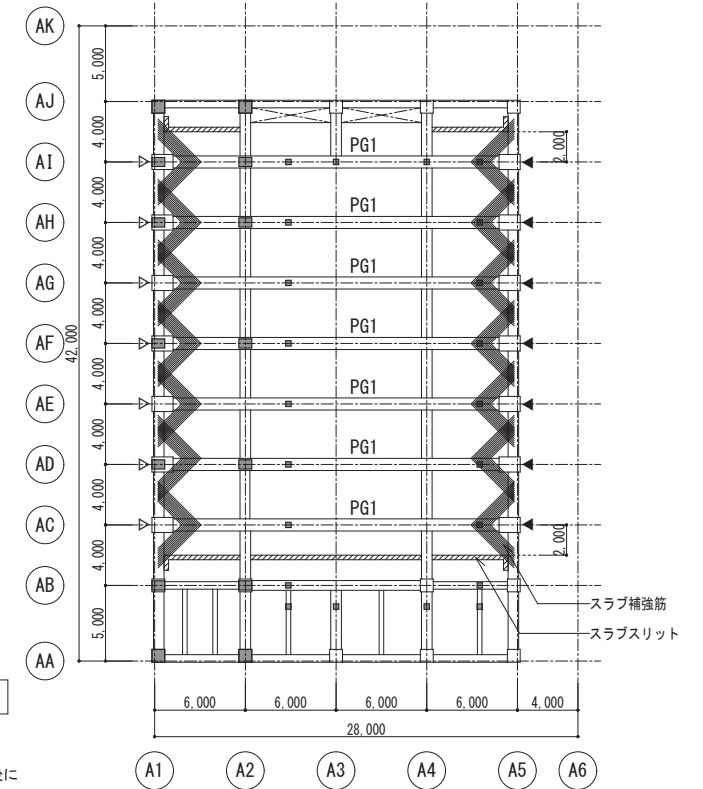


スラブ補強筋配筋要領

1. 配置はKEYPLANによる。

プールピット階 PC梁 KEYPLAN

特記なき限り
1. ▲は緊張端を示し、△は固定端を示す。
2.  はスラブスリット示し、PC梁緊張後にスラブコンクリートを施工する。



PC鋼線軸組配線図 S=1:60

特記なき限り
1. ▲は緊張端を示し、△は固定端を示す。
2. 電気配管をPC梁内に埋設する場合は、監理者（監督員）の承諾を得ること。

株式会社教育施設研究所

大久保小学校屋内運動場改築他工事（建築工事）
【大久保小学校屋内運動場改築工事（建築工事）】

DATE
'22.04.

ARCHITECT & OFFICE BRANCH/PR. BY
CHD. BY
DRAWN BY

DRAWING TITLE

SCALE

DRAWING NO.

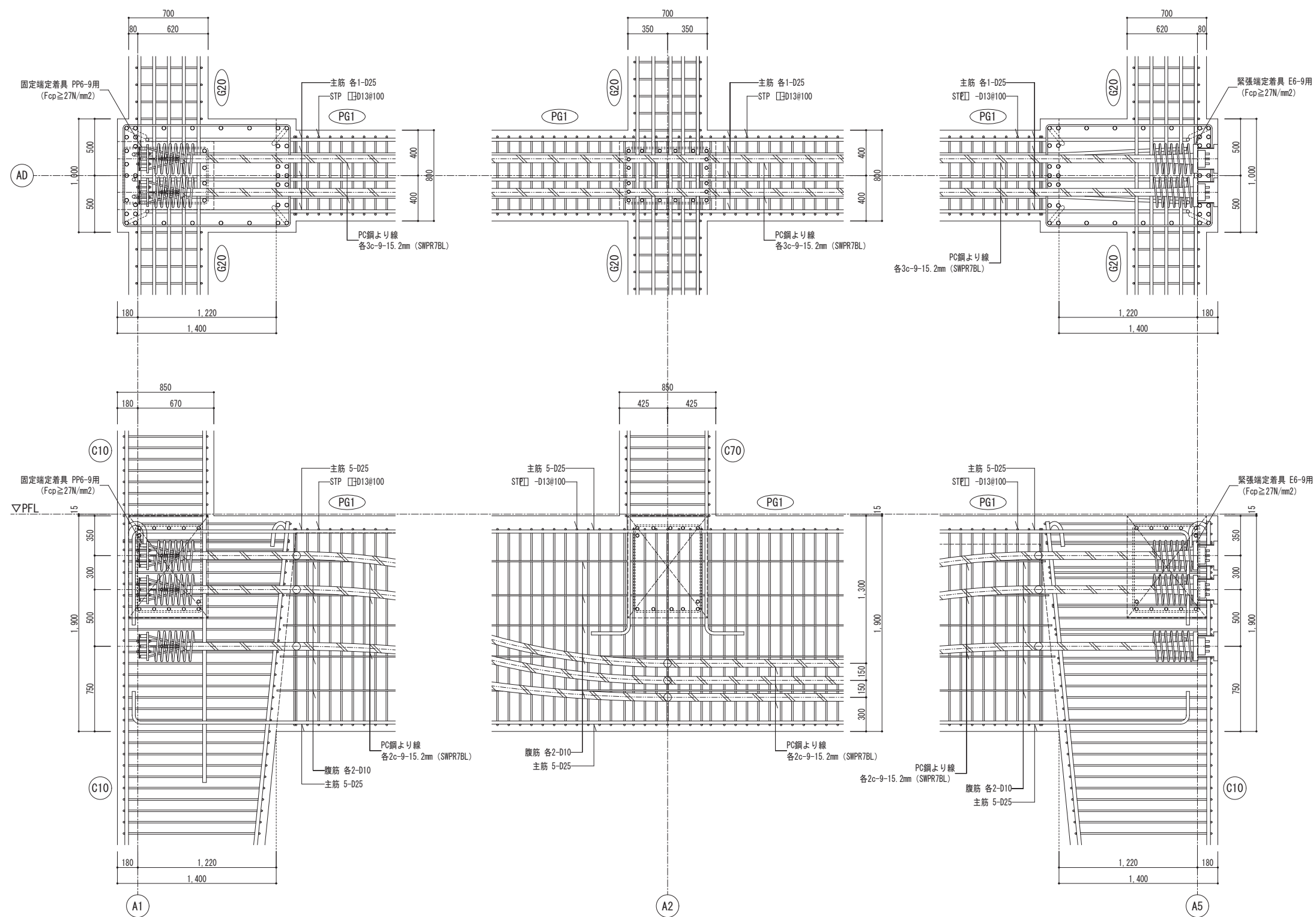
一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
一級建築士大臣登録 第315246号 茂木 博之
構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之

東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
株式会社教育施設研究所
一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

PC梁 断面リスト・KEYPLAN
軸組配線図

A1 S=1:40, 60
A3 S=1:80, 120

S-035



PC梁 納まり詳細図 S=1:20

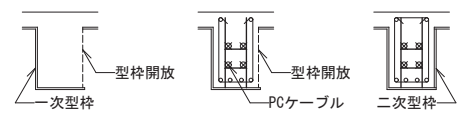
特記なき限り
1. PG1以外の配筋は、各断面リストに做う。

<p>株式会社教育施設研究所</p> <p>ARCHITECT & OFFICE BRANCH: PPR BY CHKD BY DRAWN BY</p> <p>東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号 株式会社教育施設研究所 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号</p>		<p>工事名 大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事) 【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】</p> <p>DRAWING TITLE PC梁 納まり詳細図</p>	<p>DATE '22 . 04 .</p> <p>DRAWING NO. S — 036</p>
<p>一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦</p> <p>一級建築士大臣登録 第315246号 茂木 博之</p> <p>構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之</p>	<p>SCALE A1 S=1:20 A3 S=1:40</p>		

プレストレストコンクリート工事仕様書

1 一般事項	1-1 適用範囲	本仕様書は本工事の内、場所打ちプレストレストコンクリート(以下、PCという)工事に適用する。ただし、アンボンド工法には適用しない。
	1-2 準拠図書	本工事は下記基準に準拠する。 1) 建築基準法、同法施行令80条の2の規定に基づく昭和58年建設省告示第1320号 2) 『公共建築工事標準仕様書(建築工事編)』平成31年版 国土交通大臣官房官庁営繕部 3) 『プレストレストコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例』2009年 国土交通省国土技術政策総合研究所, 建築研究所 4) 『プレストレストコンクリート設計施工規準-同解説』1998年 日本建築学会 5) 『プレストレスト鉄筋コンクリート(Ⅲ種PC)構造設計・施工指針同解説』2003年 日本建築学会 6) 『建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事』(以下、JASS5 という) 2018年 日本建築学会
	1-3 施工要領書および施工図	本工事に先立ち、本仕様書および設計図に基づき施工要領書(施工順序・方法・工法・材料・型枠・配筋・配線・コンクリート打設・緊張・PCグラウト等について詳述)および、PCケーブル配線等の施工図を作成し、施工計画書に反映した上で、工事監理者の承諾を得る。 PC工事後、速やかに工事記録を整理し、工事監理者に報告する。
	1-4 工事報告書	

2 材料	2-1 セメント	セメントは、普通ポルトランドセメントまたは早強ポルトランドセメント(JIS R 5210 規格品)を用いることを原則とする。
	2-2 骨材	1) 骨材は JASS5 による。 2) 骨材は、PC鋼材またはシースの間を容易に通過するものを用いる。
	2-3 練混ぜ水	練混ぜ水は JASS5 による。
	2-4 混和材料	1) 混和材料は JASS5 による。 2) 混和材料は、PC鋼材を腐食させたり、PC鋼材の付着性能を低下させるようなものを用いない。
	2-5 鉄筋	1) 鉄筋は特記および設計図による。 2) 特記および設計図に指示がない場合は JIS G 3112 規格品とする。
	2-6 PC鋼材および定着具	1) PC鋼材は JIS G 3536 (PC鋼線及びPC鋼より線), JIS G 3109 (PC鋼棒), JIS G 3137 (細径異形PC鋼棒) に適合するもの、またはこれらと同等以上の品質を有するものとする。 2) PC鋼材は有害なきずや変形および過度のさびなどがなく、表面に油やその他の有害なものが付着してはならない。 3) 定着具および接続具はその外観・形状を検査し、強度に影響するようなきずのあるものは用いない。
	2-7 シース	1) シースは JASS5 による。 2) シースは、コンクリートの打込みによる変形に耐えられるものとする。また、セメントペーストの漏れがないよう水密性を持つものとする。
	2-8 PCグラウト	1) PCグラウトの種類はノンブリーディング型とする。 2) PCグラウトに用いる材料は、塩化物イオン含有量が少ないものを選ぶ。

3 施工	3-1 型枠工事	場所打ちPC工事では、PC鋼材の配置、緊張、PCグラウトの注入等、通常のRC造にはない作業工程があり、以下の事項に注意する。 1) プレストレスの導入によって生じる、部材の弾性縮みおよびそりを拘束しない型枠支保工とする。 2) PC造部分の型枠組立の際は、PC鋼材の配置作業を考慮し、必要に応じて、下図のように、梁型枠の片側を開放するなどの処置を講じる。 ①一次型枠完了 ②PCケーブル配線完了 ③二次型枠完了  3) セパレーターはシースに当たらないよう事前に検討する。 4) 型枠の取り外しおよびサポートの盛替えは、特記または工事監理者の指示による。ただし、プレストレスを与える梁および床スラブの型枠のサポートは、その部材へのプレストレス導入が完了するまで取り外しおよび盛替えを行わない。 5) 原則としてPC梁を多層階に用いた建物では、上階梁コンクリートの打設荷重を、下階二層のプレストレス導入が完了した梁に分散して支持させる必要がある(4-3参照)。そのため、当該梁のサポートの盛替えは工事監理者と協議の上で行う。 6) 定着具が取り付けられる型枠は強固なものとする。 7) 鉄筋の加工、組立ては JASS5 による。 8) 鉄筋の組立てはPC鋼材の配置作業を考慮して行う。 9) 柱頭部分あるいはRC梁がPC梁と直交する部分等は、定着具・PC鋼材・柱梁主筋等が複雑に絡みあうので、事前に十分な検討を行う。 10) 鉄筋のガス圧接、仮設材切断等で発生する火花をシースおよびPC鋼材に
	3-2 鉄筋工事	1) 鉄筋の加工、組立ては JASS5 による。 2) 鉄筋の組立てはPC鋼材の配置作業を考慮して行う。 3) 柱頭部分あるいはRC梁がPC梁と直交する部分等は、定着具・PC鋼材・柱梁主筋等が複雑に絡みあうので、事前に十分な検討を行う。 4) 鉄筋のガス圧接、仮設材切断等で発生する火花をシースおよびPC鋼材に

3-3 PC鋼材の配置	直接当ててはならない。 5) 鉄筋等を電気溶接する場合は完全なアースをとり、電気溶接の悪影響がPC鋼材に及ばないようにしなければならない。 6) PC鋼材の配置は、設計図に基づき工事監理者の承諾を受けた施工図により行い、コンクリート打込みの際にPC鋼材が移動しないように固定する。 7) PC鋼材の加工、組立てを行う場合、加熱や溶接を行ってはならない。 8) 設計図に指示がない場合、並行する鉄筋とシースとのあきは20mm以上、粗骨材最大寸法の1.25倍以上、かつ、鉄筋直径以上とする。ただし、コンクリートを十分締固められ、付着応力に問題がない場合は、工事監理者と協議の上、接触して配置してもよい。 9) 設計図に指示がない場合、シース相互のあきは30mm以上かつ粗骨材最大寸法の1.25倍以上とする。ただし、コンクリートを十分締固められる場合は、工事監理者と協議の上、接触して配置してもよい。 10) PC鋼材の配置の許容差は、以下の値を標準とする。
-------------	--

部材の最小寸法	許容差
200mm未満の部位	± 7mm
200mm以上600mm未満の部位	± 10mm
600mm以上の部位	± 15mm

3-4 コンクリート工事	6) PC鋼材の保持点間隔は1.2m以下を標準とする。 7) 作業中のシースの破損等は粘着性テープ(ビニールテープ等)により修復する。 8) シースの接続はジョイントシースあるいはスリーブによって行い、接続部の防水には粘着性テープ(ビニールテープ等)を用いる。 9) 定着具背面のコンクリートには、プレストレスの伝達を良くし、その部分の圧壊と引張亀裂を防ぐ目的で、スパイラル筋あるいは補強グリッド筋を配置する。 10) PCグラウトを完全に充填するために、残留空気が生じやすい定着具付近、シースの頂部付近に、PCグラウト用の注入口・排気口・排出口を設け、コンクリート打込み時に、シースとグラウトホースの接続部が損傷しないようにする。 11) PC鋼材の余長部は、コンクリートあるいはゴミで汚れないようにホースや布等で保護する。 12) PC鋼材の配置完了後、コンクリート打設前に工事監理者の検査を受ける。 13) 他工事で電気溶接を使用する場合、完全なアースをとり、PC鋼材に通電しないよう処置しなければならない。 14) PC造部分のコンクリート強度は特記による。 15) プレストレス導入時強度確認用の、供試体の採取および養生は下記による。(構造躯体コンクリート強度確認用とは別に採取すること。)
--------------	---

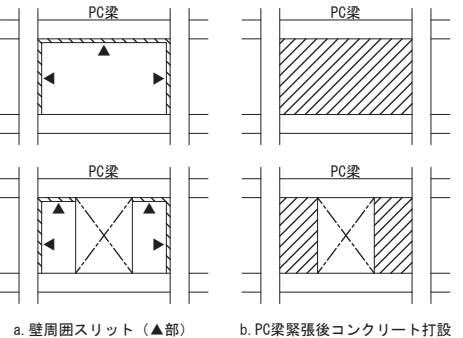
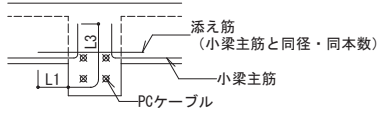
養生	材齢	7日	緊張日	緊張予備	合計
現場水中養生		—	3	3	6個
現場封かん養生					

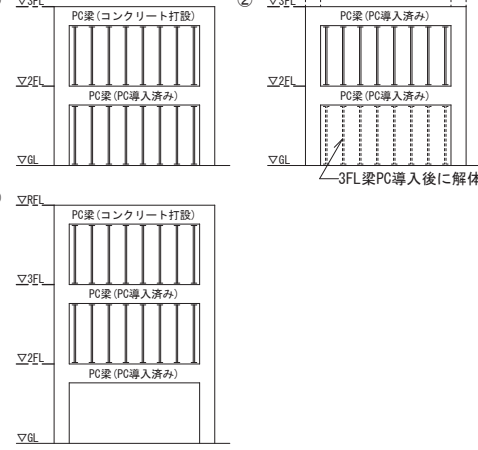
3-5 プレストレスの導入	3) 柱・壁等RC造部分とPC造部分とのコンクリート強度が異なる場合(PC梁下で打継ぎ等)は、緊張日にはRC造部分の圧縮強度も確認する。 4) コンクリートの打込み a. コンクリートの締固めは振動機で行う。たたき・つききは補助とする。 b. コンクリート打込みの際、PC鋼材・定着具・鉄筋および型枠を移動したり、損傷させてはならない。 c. シースには直接振動機を当ててはならない。 d. 定着具背面のコンクリートは、特に急に締固めを行う。 e. コンクリートの打継ぎは、原則としてPC造部分では行わない。やむを得ず打継ぐ場合は工事監理者と協議の上決定する。 5) コンクリートの養生 a. コンクリート打込み後急速な乾燥のおそれがある場合には、散水その他の方法でコンクリート表面を湿潤に保つ。 b. コンクリート打込み後、初期凍害を受けるおそれがある場合には、適切な初期養生を行う。 6) プレストレスの導入にあたっては、『プレストレストコンクリート工事における緊張管理の手引き(建築編)2019年』(プレストレスト・コンクリート建設業協会)を参照してよい。 7) プレストレス導入方式ならびに工法は特記による。特記がない場合、導入方式および工法を定め工事監理者の承諾を得る。 8) 緊張には、PC定着工法ごとに定められた専用の装置を用いる。 9) 荷重計または圧力計は、使用前ならびに長期間使用する場合、随時キャリブレーションを行い正常な状態にあるよう管理する。 10) 初緊張力は特記による。なお、初緊張力とは、プレストレス導入時の緊張端定着具位置における、定着完了前のPC鋼材の引張力を示す。 11) プレストレスの導入にあたっては、事前に緊張計算書を作成し、工事監理者の承諾を得る。 12) 緊張計算に用いるPC鋼材の見掛けのヤング係数は、次の表の値を用いる
---------------	---

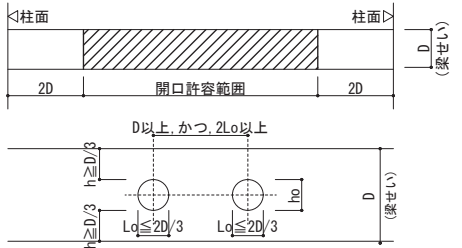
3-6 PC鋼材の切断および端部処理	か、各工法のマニュアルに記載された値を用いてよい。 緊張材の種類 見掛けのヤング係数 kN/mm ² PC鋼より線束 190 PC鋼より線 190 PC鋼棒 200 8) PC鋼材に与える緊張力は、荷重計の示度およびPC鋼材の伸びを測定して確認する。測定した示度と伸び量が、それぞれ緊張計算書で定めた管理範囲に収まるように管理する。 9) 緊張記録はプレストレス導入の資料となるので、作業後速やかに工事監理者に提出する。 10) プレストレス導入時のコンクリート圧縮強度は特記による。 1) 緊張後のアンカーヘッド(PC鋼棒の場合はナット)外側における、PC鋼材の切断方法および余長は以下とする。
--------------------	---

切断の方法	余長
ガス切断	50mm以上かつ公称直径の1.5倍以上
機械的切断	30mm以上かつ公称直径の1.5倍以上

3-7 PCグラウト	1) PCグラウトの施工にあたっては、『PCグラウト施工マニュアル-建築編2013年』(プレストレスト・コンクリート建設業協会)を参照してよい。 2) PCグラウトの品質 a. 水セメント比は混和剤の種類により異なるが45%以下を標準とし、充填に必要な流動性が得られる範囲内で行う。 b. PCグラウトの品質確保のため、作業日毎に流動性試験・単位容積質量測定試験・塩化物イオン量測定試験・圧縮強度試験を行う。 c. 流動性試験はJP漏斗を用いて行う。最適な流下時間は混和剤の種類により異なるため、事前に試験を行わない場合は各メーカーの標準値による。 d. PCグラウトの塩化物量は、特記なき限り、普通ポルトランドセメントを使用する場合、塩化物イオン量としてセメント質量の0.04%以下とする。その他のセメントおよびプレミックスタイプの製品を使用する場合、PCグラウト中の塩化物イオン量として0.30kg/m ³ 以下とする。 e. PCグラウトの28日圧縮強度は30N/mm ² 以上とする。 3) PCグラウトの注入 a. PCグラウト注入前にシース内に空気を送り込み、閉塞していないことを確認する。 b. PCグラウトの練混ぜ方法は、使用する混和剤の規定による。 c. PCグラウトの注入は練混ぜ後迅速に、かつ排出口からPCグラウトが排出されるまで連続で行う。 d. PCグラウトの注入作業中は、圧力が異常に高圧にならないことを確かめながら注入する。 e. 注入途中に作業を一時中断することは、空隙や閉塞等を生じる原因となるので、原則行ってはならない。
------------	--

4-1 壁の取扱い	PC梁構面内あるいは、PC梁に近接して平行な耐震壁や雑壁がある場合は、PC梁に所定の軸方向圧縮力が導入されるよう、以下のような配慮を施す。 
4-2 小梁下端筋との取合い	PCケーブルと小梁下端筋が干渉する場合は、工事監理者の承諾を得て、小梁位置を移動するか、下図の通り対処する。 

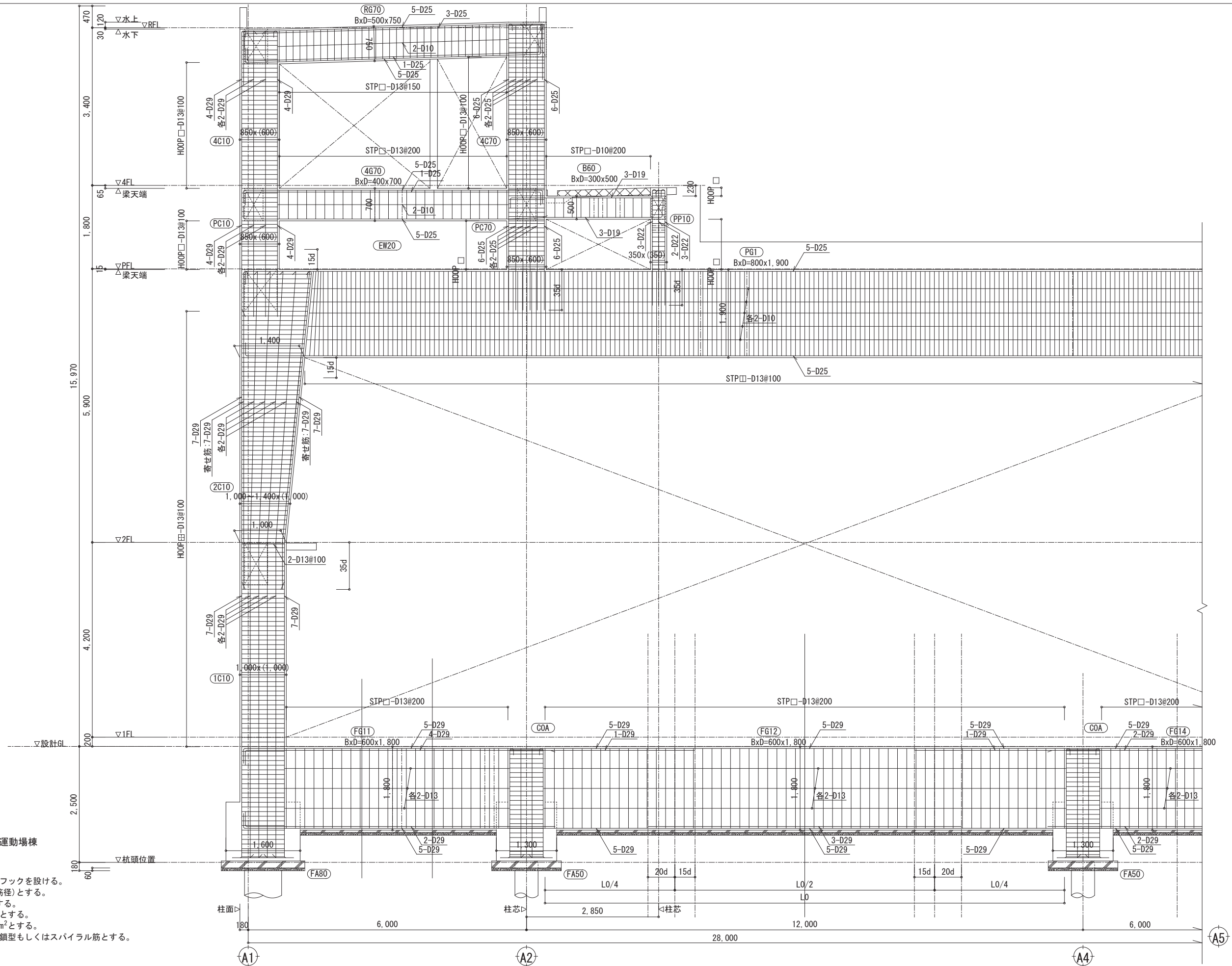
4-3 PC梁支保工の存置期間	1) 多層建築物の場合は、原則として下図の通り、上部二層分のプレストレスを導入した後、下層の支保工を外すものとする。 ① ② ③ 
-----------------	--

4-4 梁貫通孔の補強要領	1) 設計図に記載がない場合、PC梁の開口の許容範囲は原則として、下図の通りとする。ただし、h ₀ ≧D/3 かつ L ₀ ≧D/5, h ₀ ≧D/5の条件を満たす開口はこの限りではない。 h ₀ : 開口高さ L ₀ : 開口長さ h: 開口線から梁上端(下端)までの距離 
---------------	---

5-1 コンクリート強度	1) 設計基準強度 30 N/mm ² 2) プレストレス導入時強度 27 N/mm ²																																								
5-2 PC導入方式および定着工法	ポストテンション方式 VSL工法 同等とする																																								
5-3 PC鋼材の仕様	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>種類</th> <th>断面積 (mm²)</th> <th>引張荷重 (kN/c)</th> <th>降伏荷重 (kN/c)</th> <th>許容引張荷重 導入時 (kN/c)</th> <th>定着完了時 (kN/c)</th> <th>初緊張力 (kN/c)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)</td> <td>PC鋼より線 9S15.2mm (SWPR7BL)</td> <td>1248.3</td> <td>2349</td> <td>1998</td> <td>1698</td> <td>1598</td> <td>1598</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(3)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(4)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 注: 初緊張力に対し、ジャッキ内ロス等を別途考慮して、施工時の作業緊張力を求め、緊張計算書に記載する。	No.	種類	断面積 (mm ²)	引張荷重 (kN/c)	降伏荷重 (kN/c)	許容引張荷重 導入時 (kN/c)	定着完了時 (kN/c)	初緊張力 (kN/c)	(1)	PC鋼より線 9S15.2mm (SWPR7BL)	1248.3	2349	1998	1698	1598	1598	(2)								(3)								(4)							
No.	種類	断面積 (mm ²)	引張荷重 (kN/c)	降伏荷重 (kN/c)	許容引張荷重 導入時 (kN/c)	定着完了時 (kN/c)	初緊張力 (kN/c)																																		
(1)	PC鋼より線 9S15.2mm (SWPR7BL)	1248.3	2349	1998	1698	1598	1598																																		
(2)																																									
(3)																																									
(4)																																									
5-4 緊張順序	原則として、プレストレスの導入は、各梁について局部的に緊張を完了してしまうことなく、構造全体にわたり平均的に進めること。																																								
5-5 施工業者	業者名 (株)ビーエス三菱、オリエンタル白石(株)、(株)建研の内、1社とする。																																								

株式会社教育施設研究所

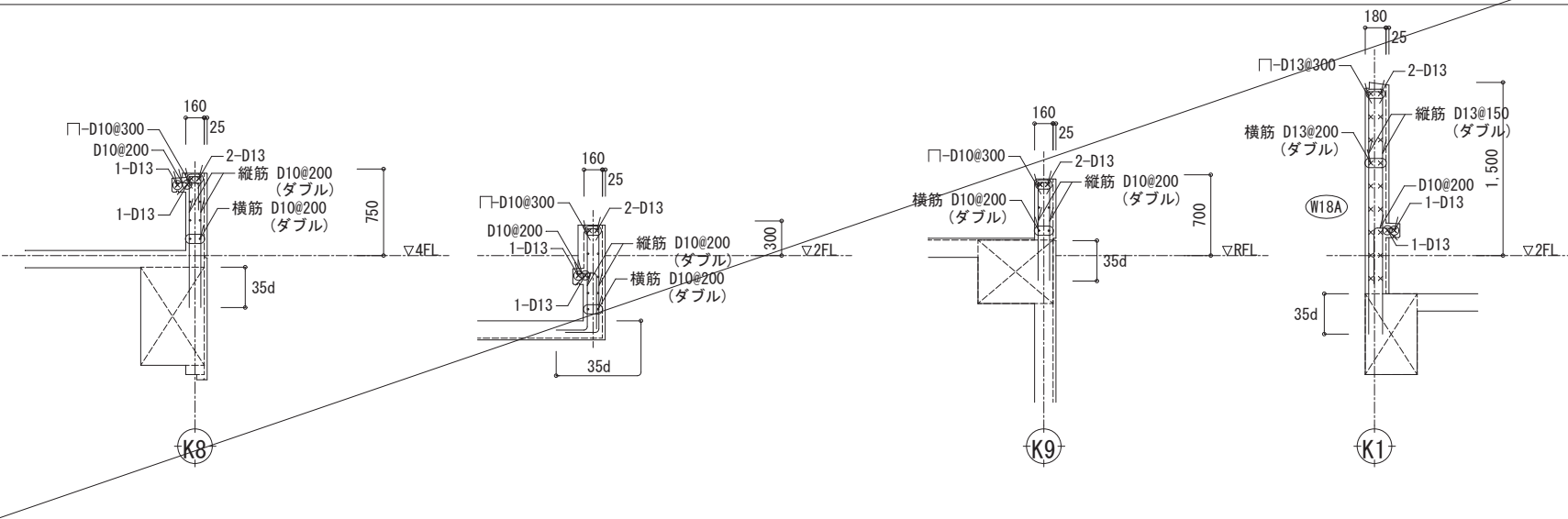
ARCHITECT & OFFICE BRANCH: 一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦 株式会社教育施設研究所 東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号	CHKD BY: 構造設計一級建築士 第8280号 茂木 博之	DRAWN BY: 大久保小学校屋内運動場改築他工事(建築工事) 【大久保小学校屋内運動場改築工事(建築工事)】 DRAWING TITLE: プレストレストコンクリート 工事仕様書	SCALE: A1 S=1: A3 S=1:	DATE: '22.04 DRAWING NO: S-037
---	---------------------------------	--	------------------------	-----------------------------------



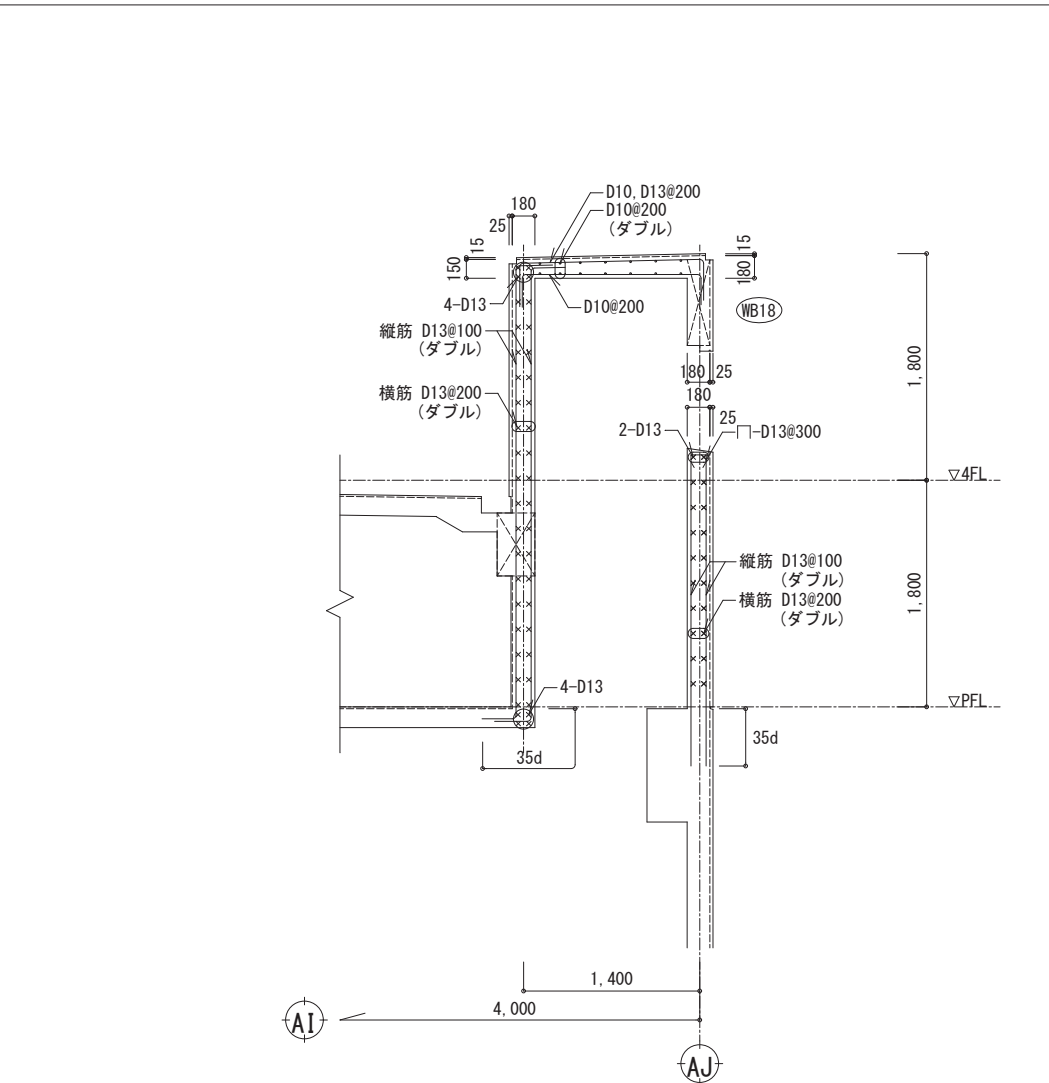
(AD) 通り配筋詳細図 屋内運動場棟

- 共通事項 (特記なき限り下記による)
1. 各階出隅部及び最上階柱頭はフックを設ける。
 2. 梁二筋筋のあきは1.5d (d: 鉄筋径) とする。
 3. 巾止め筋はD10@1,000以下とする。
 4. 梁仕口内HOOPは柱リスト参照とする。
 5. 使用コンクリートは $F_c=30N/mm^2$ とする。
 6. HOOP筋は仕口内を除き溶接閉鎖型もしくはスパイラル筋とする。
 7. は、増打ちを示す。

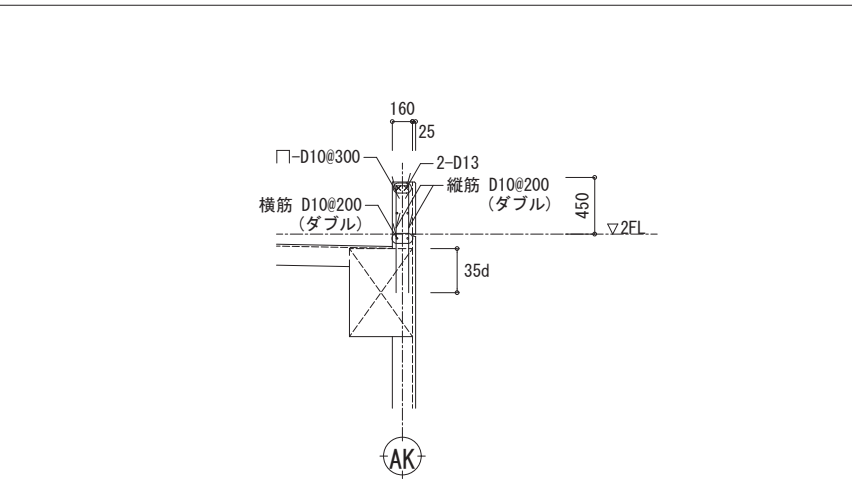
パラベットの配筋要領図(校舎棟)



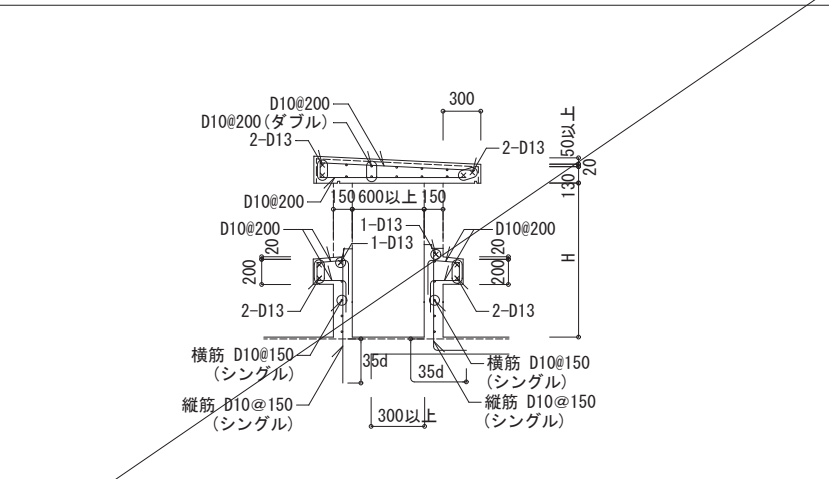
ハト小屋配筋要領図(屋内運動場棟)



パラベットの配筋要領図(屋内運動場棟)

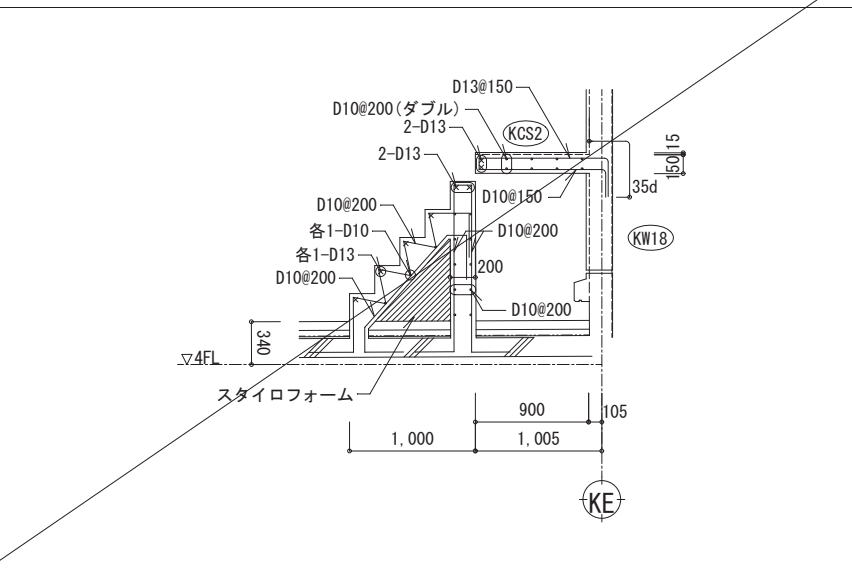


ハト小屋配筋要領図(校舎棟)

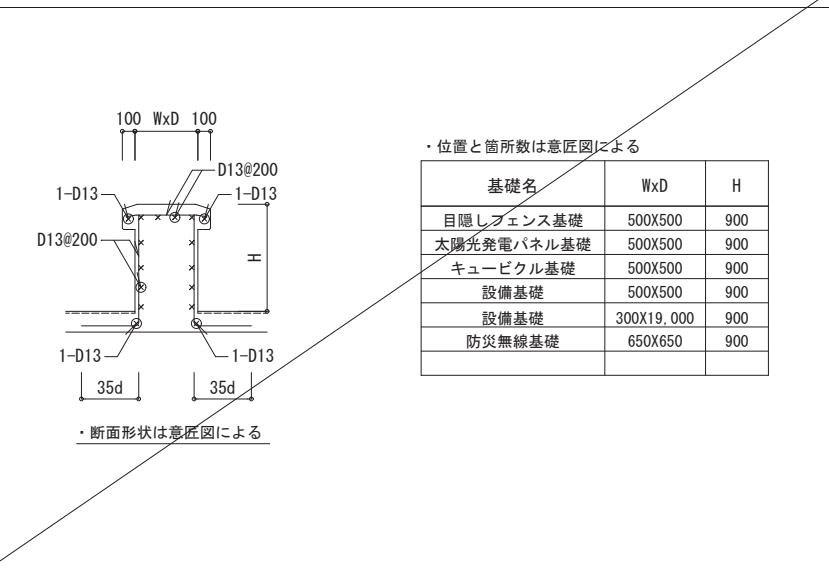


・断面形状は意匠図による

メンテナンス階段配筋詳細図(校舎棟)



設備基礎配筋要領図(校舎棟)

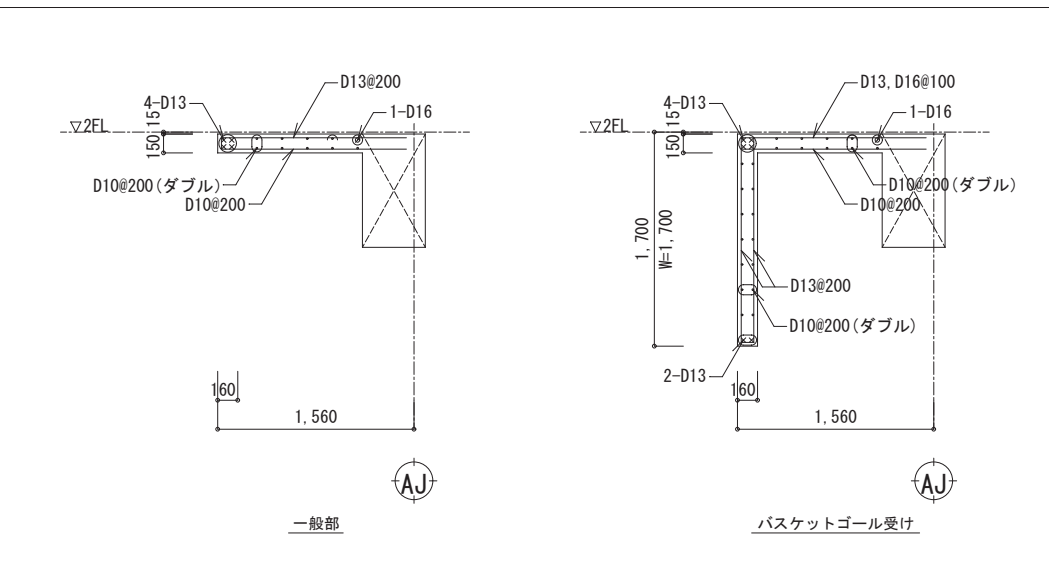


・位置と箇所数は意匠図による

基礎名	WxD	H
目隠しフェンス基礎	500X500	900
太陽光発電パネル基礎	500X500	900
キュービクル基礎	500X500	900
設備基礎	500X500	900
設備基礎	300X19,000	900
防災無線基礎	650X650	900

・断面形状は意匠図による

アリーナメンテ通路 配筋詳細図



一般部

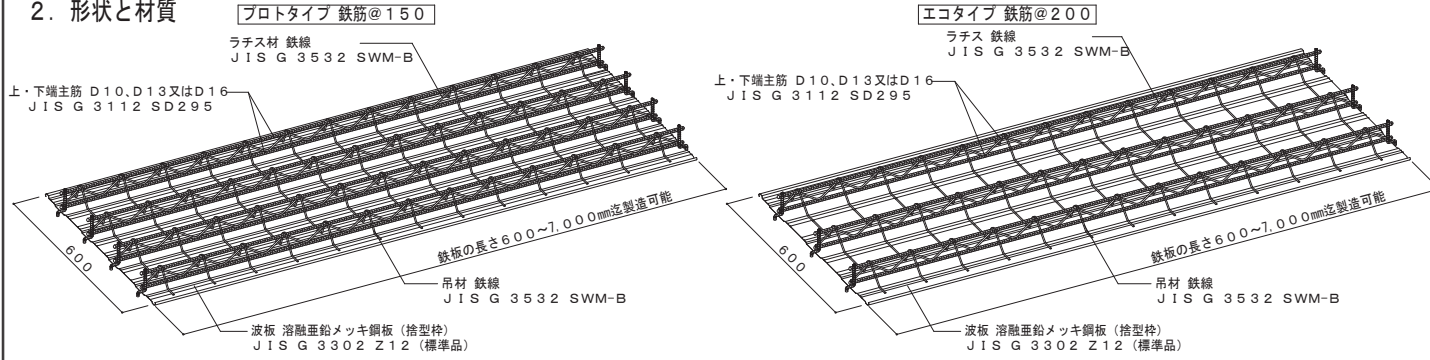
バスケットゴール受け

ニューフェローデッキ 設計標準仕様書 (鉄筋トラス付捨て型枠床版工法)

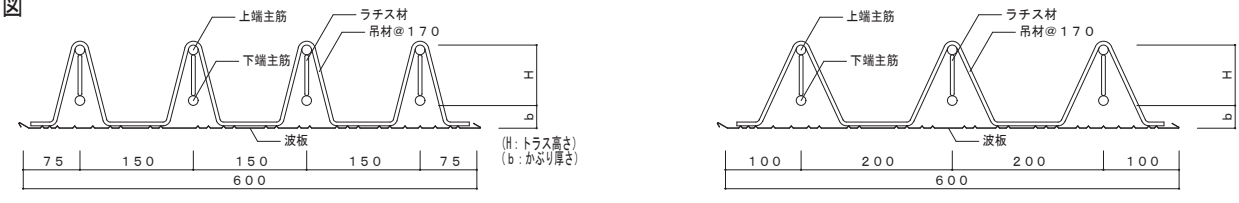
1. 工法の概要

本構造は、上端主筋と下端主筋の両者をつなぐラチス材および吊材、波板で構成するニューフェローデッキに、必要な現場施工材を設置し、コンクリートを打設することにより、コンクリート硬化後ニューフェローデッキの上端主筋および下端主筋とコンクリートが一体となるスラブである。
本工法特性：下端定着筋及び下端配力筋を設けない工法として日本建築センター評定を取得。
(日本建築センター評定取得 BCJ評定-RC0108)

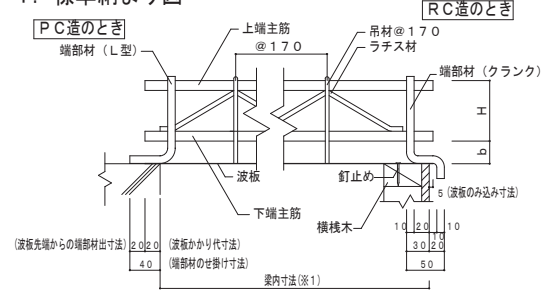
2. 形状と材質



3. 断面図



4. 標準納まり図



(※1) 仮設時・本設時許容スパンは、RC造・PCa造共に梁内～内間とする。
(※2) 構造躯体には増打ち含まれない。
(※3) PCa造・置きスラブ工法 (RC造) の波板のみ込みは、コンクリートのノロ流れ低減を考慮し、20mmの確保を推奨する。
20mmを確保するための手段については施工者と協議の上、決定する。
(施工例：梁増打、デッキ受けアングル取付、桱木取付等)

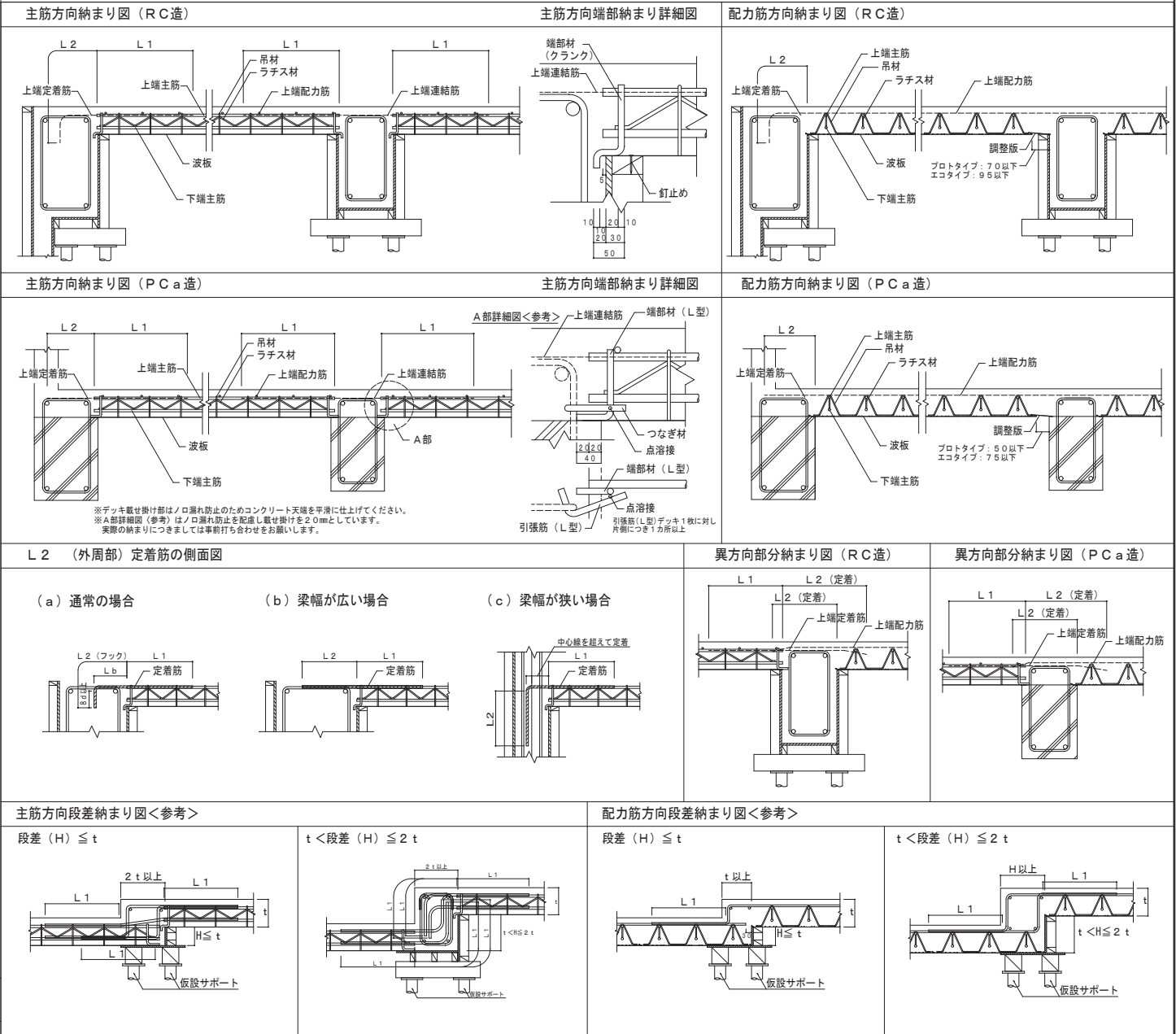
5. 施工手順及び留意事項

- 搬入・荷揚げ・仮置**
 - 搬入は、当該現場の工区、工程に応じて作成された荷姿図および合番図と、積荷を照合し、施工計画に従って行う。
 - 荷揚げは、現場クレーンに、専用の用具等を用いて4点吊りにて行うものとする。専用の用具には、トラックから地面に荷下ろしするものと、躯体(上部)に荷揚げするものがある。その際波板、吊材等ニューフェローデッキの部材を变形、破損させないよう注意する。
 - 仮置きする場合は、端部材のかり代を確保するとともに、風散養生を十分にを行い、ニューフェローデッキ梱包および副資材の落下を防止する。
 - 敷込み・加工・固定**
 - 敷込みは、割付け計画に従ってあらかじめ墨出しを行い、所定の位置に不陸を生じないように注意して敷込む。
 - 各構造のデッキのみ込み、かり代は以下の表に示す。
- | | RC造 | PCa造 |
|------------|---------|---------|
| 構造躯体(※2)への | 1.0mm以下 | 1.0mm以下 |
| 波板のみ込み | 標準設定 | 5mm |
| 施工安全上の | 標準設定 | 3.0mm以上 |
| 端部材かり代 | 標準設定 | 4.0mm |
- 留意事項**
 - トラス筋は施工時の支保工の役目を持つ構造材である為、部材の切断はしないこと。
 - 設備・配管工事の為、コン打以前に切断の必要がある場合は事前に対応策を設けること。
 - 開口部は、大きさに定められた補強筋を配筋すること。
 - 仮設時有効スパンを超える場合は、必ず適切な位置に仮設サポートを設けること。

ニューフェローデッキ使用部分スラブリスト

符号	デッキタイプ	スラブ厚	位置	現場配筋				備考
				短辺方向		長辺方向※1		
				デッキ主筋	追加補強主筋	端部	中央部	
DS41	EB80-110	150	上端筋	D13@200	D13@200	端部 Lx/4+15d	中央部 15d+(Ly-Lx/2)+15d	※1 長辺方向上端の配力筋については「通し配筋」を基本とする。 端部と中央部で鉄筋径・ピッチが異なる場合は『』内の配筋とする。
		0	下端筋	D13@200	-----	D10@200	D10@200	
DS42	EB80-110	150	上端筋	D13@200	D13@200	-----	-----	
		0	下端筋	D13@200	-----	-----	-----	
			上端筋	-----	-----	-----	-----	
			下端筋	-----	-----	-----	-----	
			上端筋	-----	-----	-----	-----	
			下端筋	-----	-----	-----	-----	
			上端筋	-----	-----	-----	-----	
			下端筋	-----	-----	-----	-----	

標準納まり図<RC造>



ニューフェローデッキ開口補強要領

補強を行わない開口
開口幅・スリーブが小さく、主筋・配力筋共に鉄筋の切断が無くかぶりを確保出来る場合は補強しない。ただし、吊り材は溶接部を含め、切断しないこと。吊り材・鉄筋を切断する場合は支保工を設置するなど、仮設計画を確実に行い、開口の形状に応じた補強を行うこと。

連続する開口の補強
(補強筋のかぶりを確保出来る場合)
主筋側補強筋 切断する鉄筋と同後・同量
配力筋側補強筋 切断する鉄筋と同後・同量

大開口の補強
開口幅・開口長さとも600を超える場合は、開口の位置大きさに各辺からの片持ちスラブ・3辺固定スラブとするなど、実状に応じた設計を行う。但し、配力方向下端に配筋する場合は、施工時の作業性や開口部周辺のトラスの損傷防止を考慮して、D13以下の径の鉄筋を使用すること。
開口部の施工
ニューフェローデッキは仮設時にも構造材として機能している。従って、トラスの切断は開口の大きさに問わず、開口部を箱抜きし、コンクリートの硬化後に行う。止むを得ずコンクリートの硬化前に切断する場合は、開口周辺を支保工等により補強し、切断及びコンクリートの打設を行うこととする。

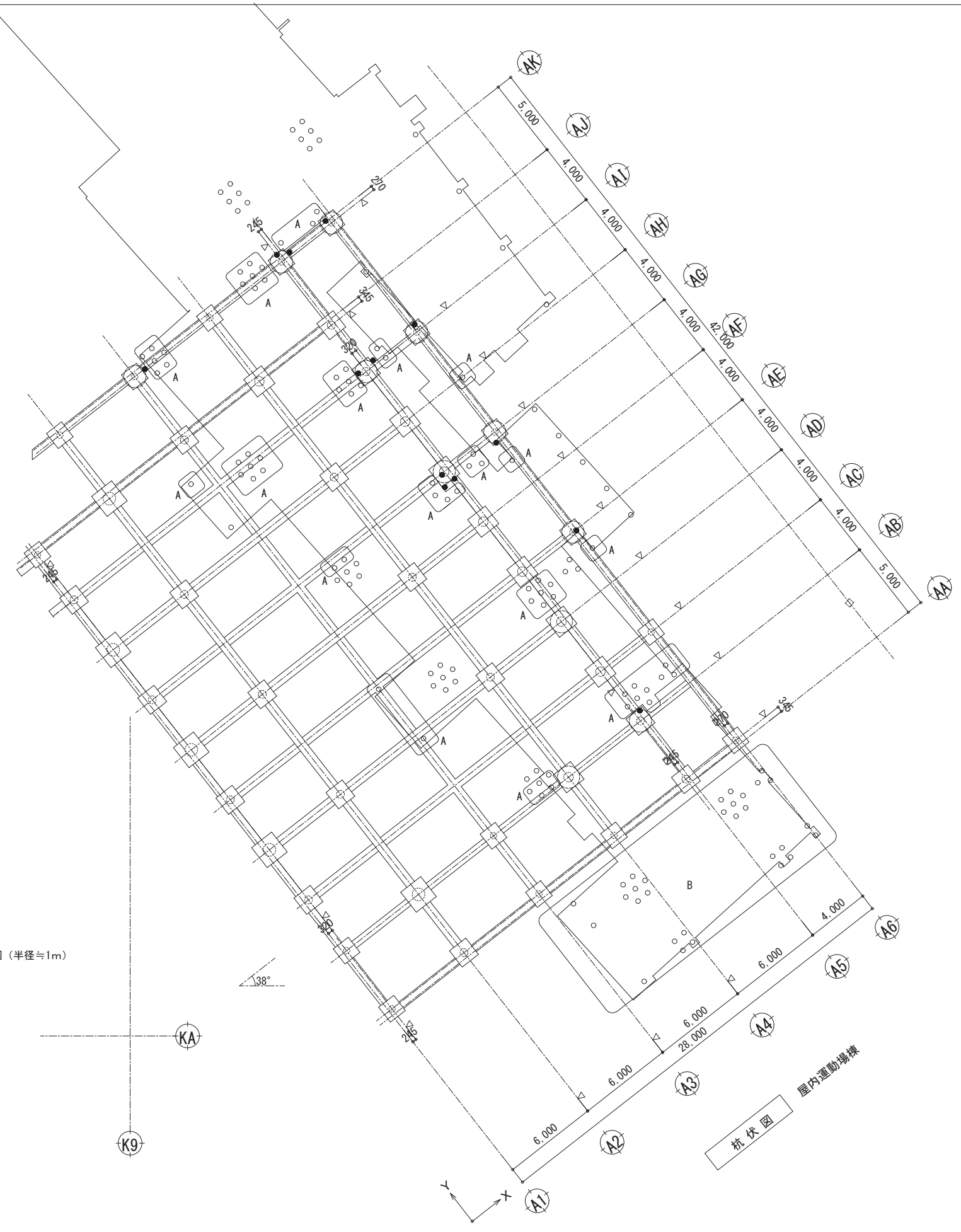
一般的な開口補強 (開口幅 ≤ 600)
(補強筋のかぶりを確保出来ない場合)
開口を包絡した大きさによって、600以下の開口に準じて補強を行う。

ニューフェローデッキの連結筋・定着筋の定着及び重ね継手長さ

鉄筋種類	コンクリートの設計標準強度	重ね継手長さ		定着長さ	
		L1	L2	L1	Lb
SD295	18	45d直線又は35dフック付き	40d	15d	
	21	40d直線又は30dフック付き	35d	15d	
	24~36	35d直線又は25dフック付き	30d	15d	
	39~60	30d直線又は20dフック付き	25d	15d	

※ただし、軽量コンクリートの場合は表の長さ+5dとする。
※(注) 本表は、「建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事 (2015年版)」に準拠したものであり、本物件の設計図書 (構造標準図、仕様書等) が上表と異なる場合は本物件の仕様を優先する。

※DS41からS41へ、DS42からS42へ変更してもよい。



既存杭撤去図

1. 本図面は参考図であり、現況の既存杭状況に応じて適宜対応すること。
2. 既存基礎躯体解体時、杭撤去計画の有無を問わず全ての既存杭位置を測定し、現況杭位置図 (CAD: DXF等) を作成する。現況杭位置図をもとに、本既存杭撤去図を参考に杭撤去計画を作成する。
3. 引抜き・上部カット・存置を明記した既存杭伏図を作成し、工事監理者及び監督員に承諾を得ること。
4. 既存杭引き抜き工法は、チャッキング工法 (同等工法) とする。
5. □ A~B は、杭上部カット位置を示す。
6. その他の既存杭は存置とする。

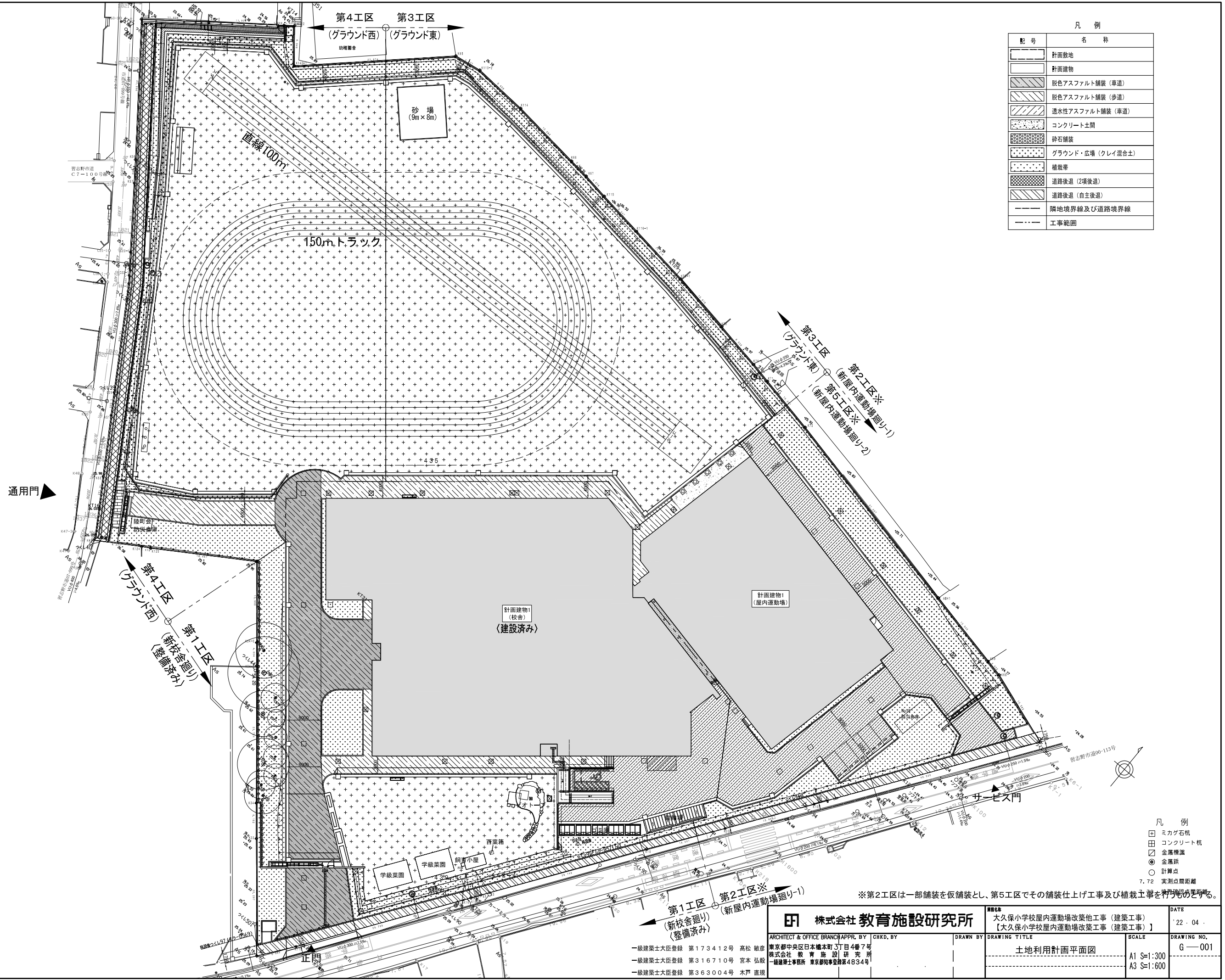
撤去杭 (引抜き)			杭上部カット		
● RC杭 既存校舎棟			○ RC杭 既存校舎棟		
300φ	L=8.0m	13本	A	300φ	カット=0.80m 67本
			B	300φ	カット=0.50m 30本

※1. 撤去杭孔は、流動化処理土または貧配合セメントミルク (一軸圧縮強度0.3N/mm²程度, 28日強度) で埋め戻す
 2. 本体工事のGL=H25.70mとする。
 3. 既存杭杭頭レベルは、GL-1.50m

屋内運動場棟
 杭伏図

株式会社 教育施設研究所

ARCHITECT & OFFICE BRANCH/PPR. BY	CHKD. BY	DRAWN BY	DRAWING TITLE	SCALE	DATE
一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦 株式会社 教育施設研究所 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号	東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号 株式会社 教育施設研究所 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号		既存校舎杭撤去図	A1 S=1:150 A3 S=1:300	'22.04 S-041



凡例

記号	名称
[Pattern]	計画敷地
[Pattern]	計画建物
[Pattern]	脱色アスファルト舗装 (車道)
[Pattern]	脱色アスファルト舗装 (歩道)
[Pattern]	透水性アスファルト舗装 (車道)
[Pattern]	コンクリート土間
[Pattern]	砕石舗装
[Pattern]	グラウンド・広場 (クレイ混合土)
[Pattern]	植栽帯
[Pattern]	道路後退 (2項後退)
[Pattern]	道路後退 (自主後退)
[Pattern]	隣地境界線及び道路境界線
[Pattern]	工事範囲

凡例

[Symbol]	ミカゲ石杭
[Symbol]	コンクリート杭
[Symbol]	金属標識
[Symbol]	金属旗
[Symbol]	計算点
[Symbol]	実測点間距離

※第2工区は一部舗装を仮舗装とし、第5工区でその舗装仕上げ工事及び植栽工事を行うものとする。

株式会社教育施設研究所

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
 [大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)]

DATE '22.04

一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
 一級建築士大臣登録 第316710号 宮本 弘毅
 一級建築士大臣登録 第363004号 木戸 直規

ARCHITECT & OFFICE BRANCH APPR. BY CHKD. BY
 東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
 株式会社教育施設研究所
 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

DRAWN BY

DRAWING TITLE

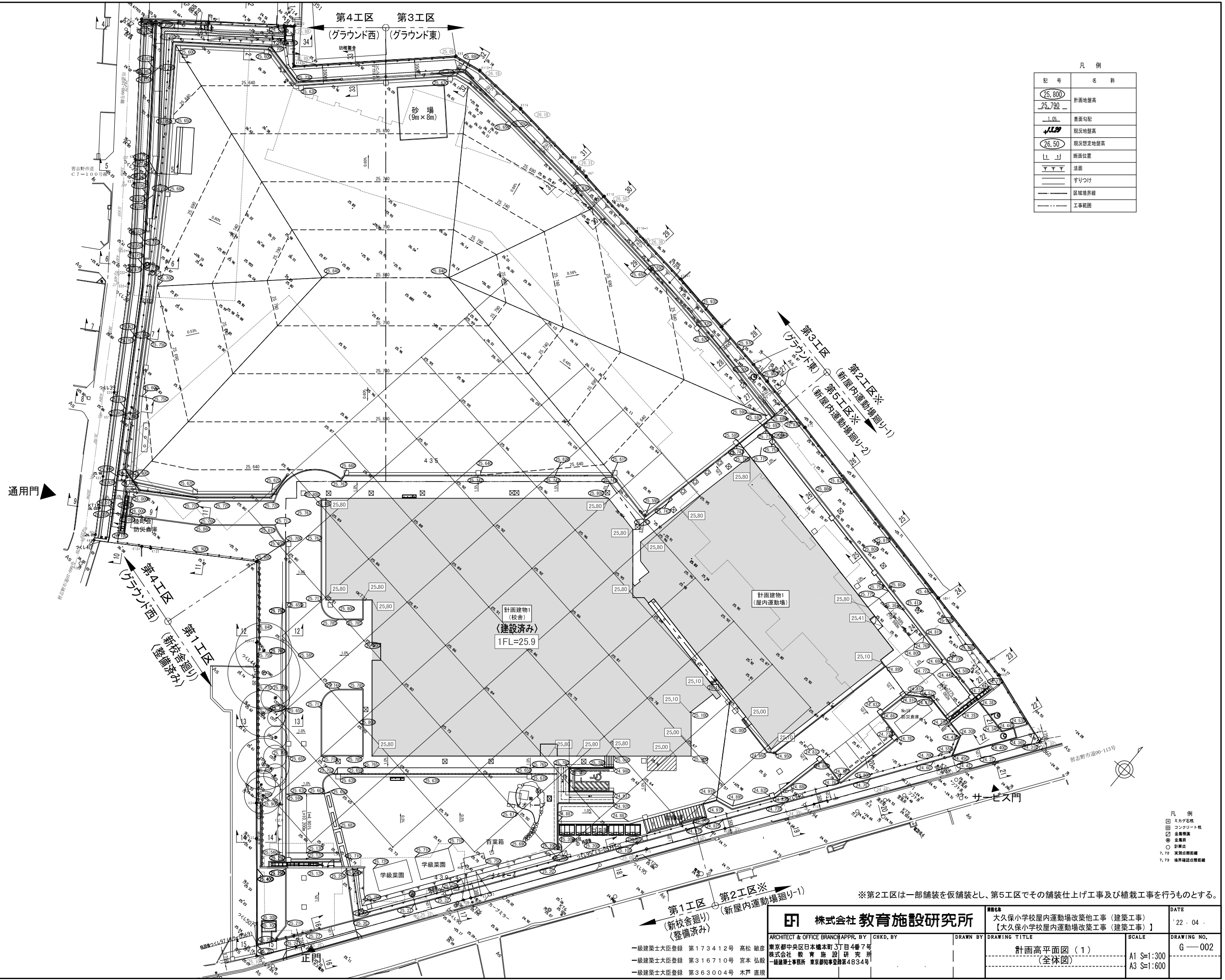
土地利用計画平面図

SCALE

A1 S=1:300
 A3 S=1:600

DRAWING NO.

G-001



記号	名称
25.80	計面地盤高
25.790	表面勾配
1.0%	表面勾配
26.50	現況想定地盤高
1.1	断面位置
---	法面
---	すりつけ
---	区域境界線
---	工事範囲

凡例
□ ミカグ石
□ コンクリート
□ 金属製
○ 計測点
7.72 実測点
7.73 境界線

※第2工区は一部舗装を仮舗装とし、第5工区でその舗装仕上げ工事及び植栽工事を行うものとする。

株式会社 教育施設研究所

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
 [大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)]

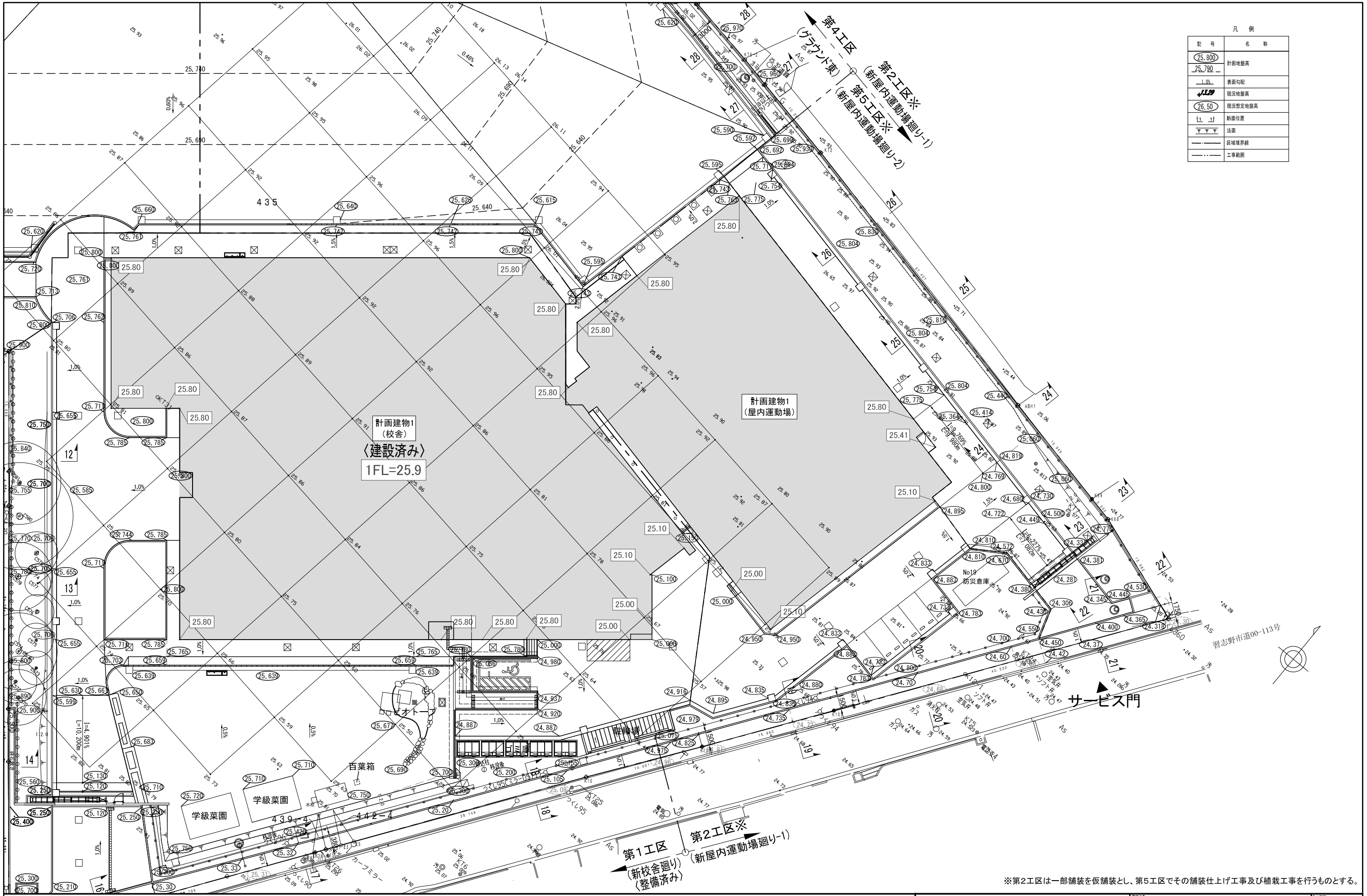
DATE '22.04

ARCHITECT & OFFICE BRANCH APPR. BY CHKD. BY
 株式会社 教育施設研究所
 一級建築士事務所 東京都台東区4834号

DRAWN BY

DRAWING TITLE
計画高平面図 (1)
 (全体図)
 SCALE
 A1 S=1:300
 A3 S=1:600
 DRAWING NO.
 G-002

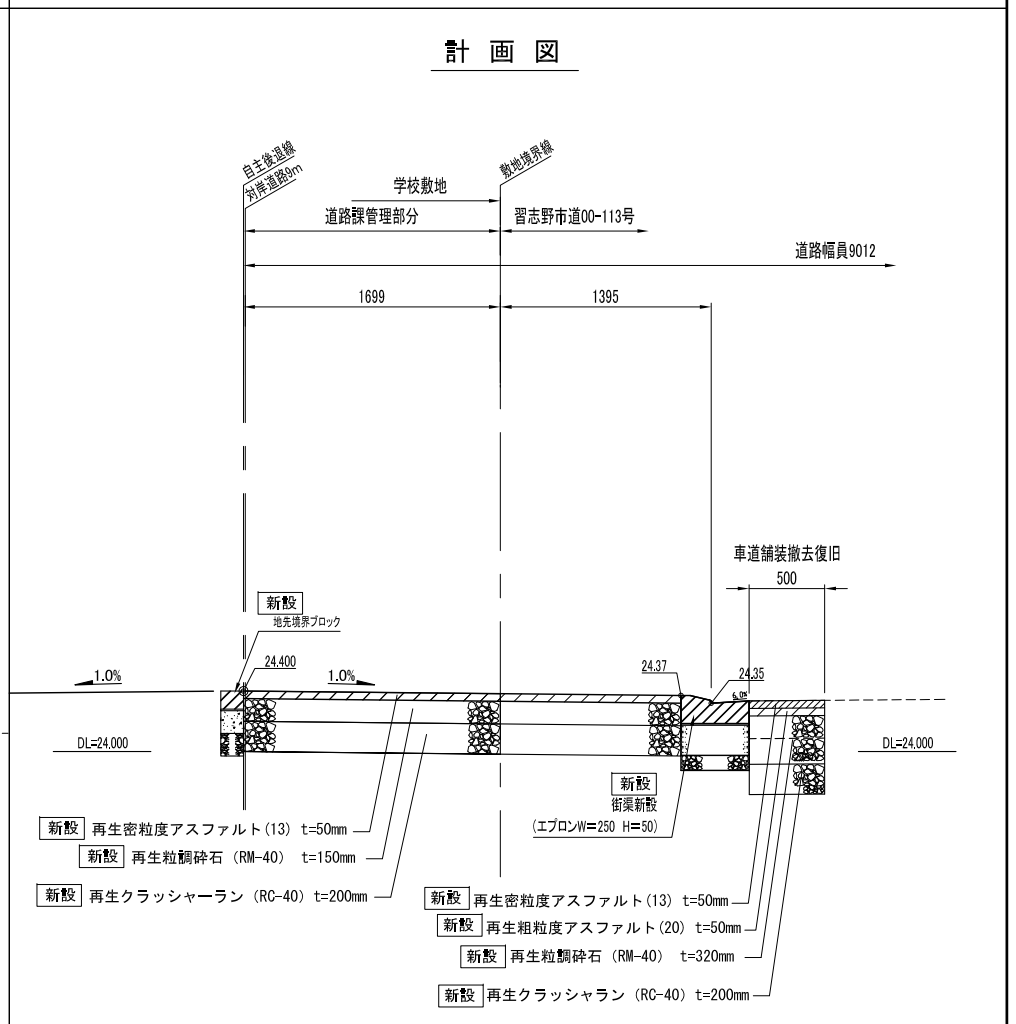
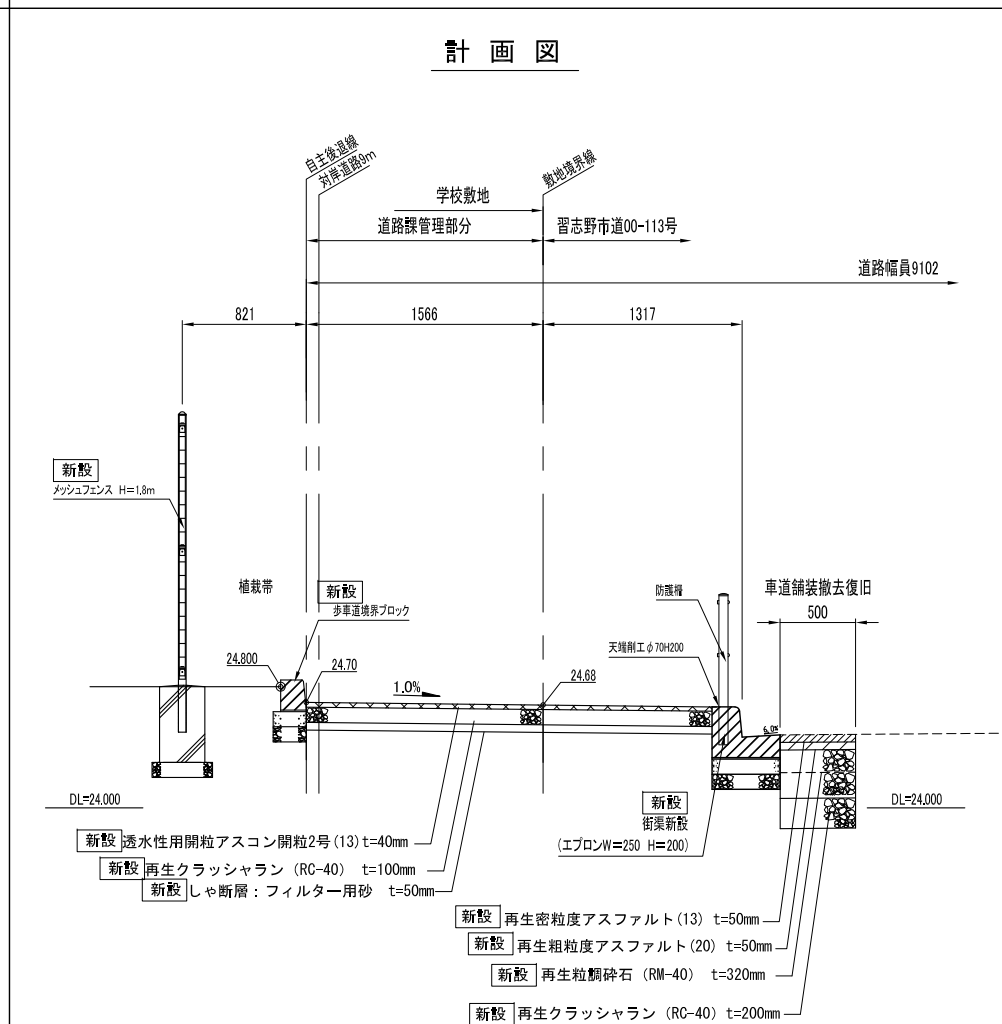
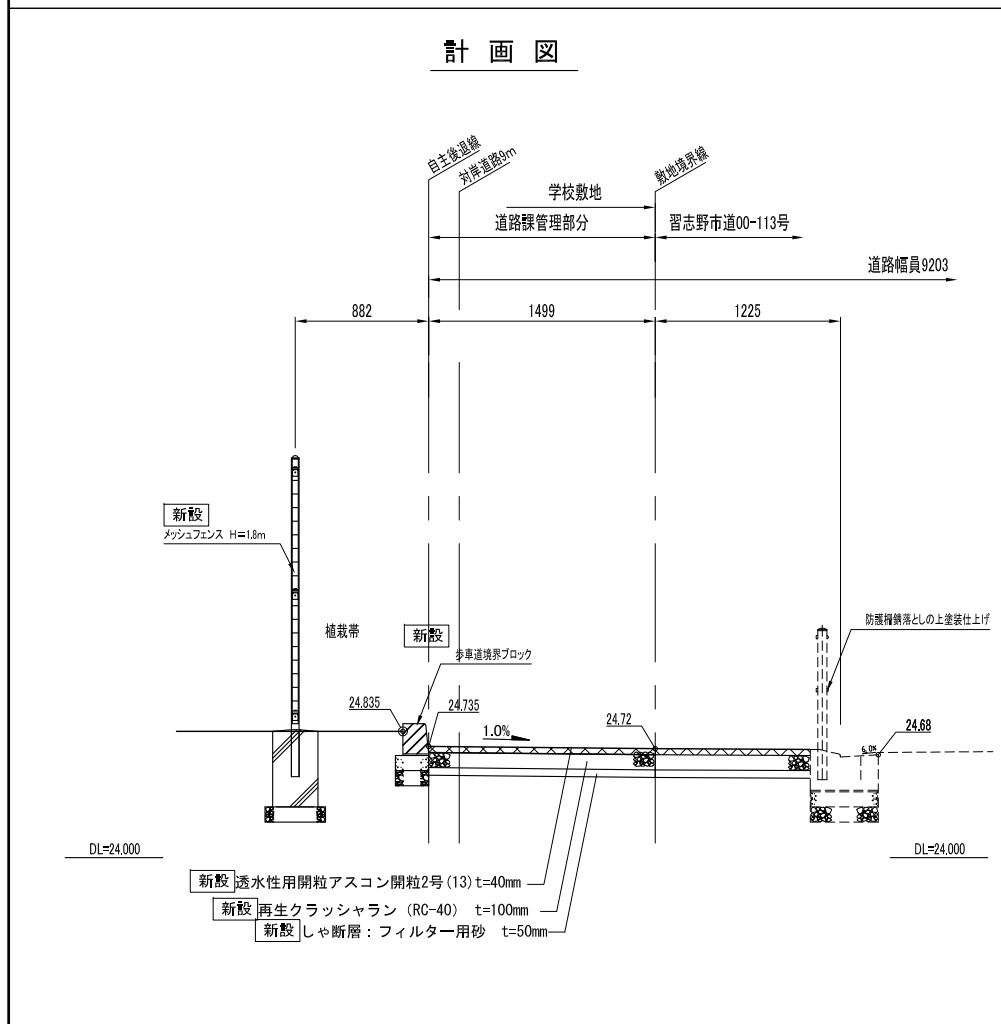
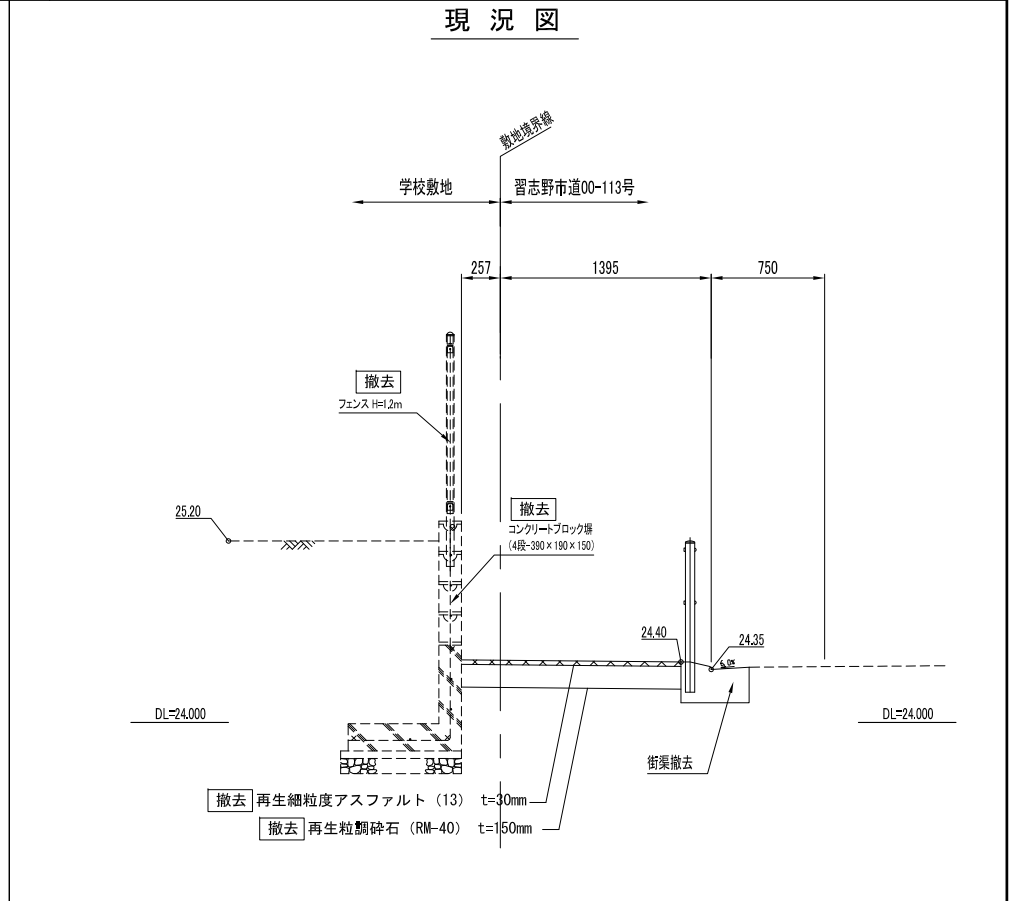
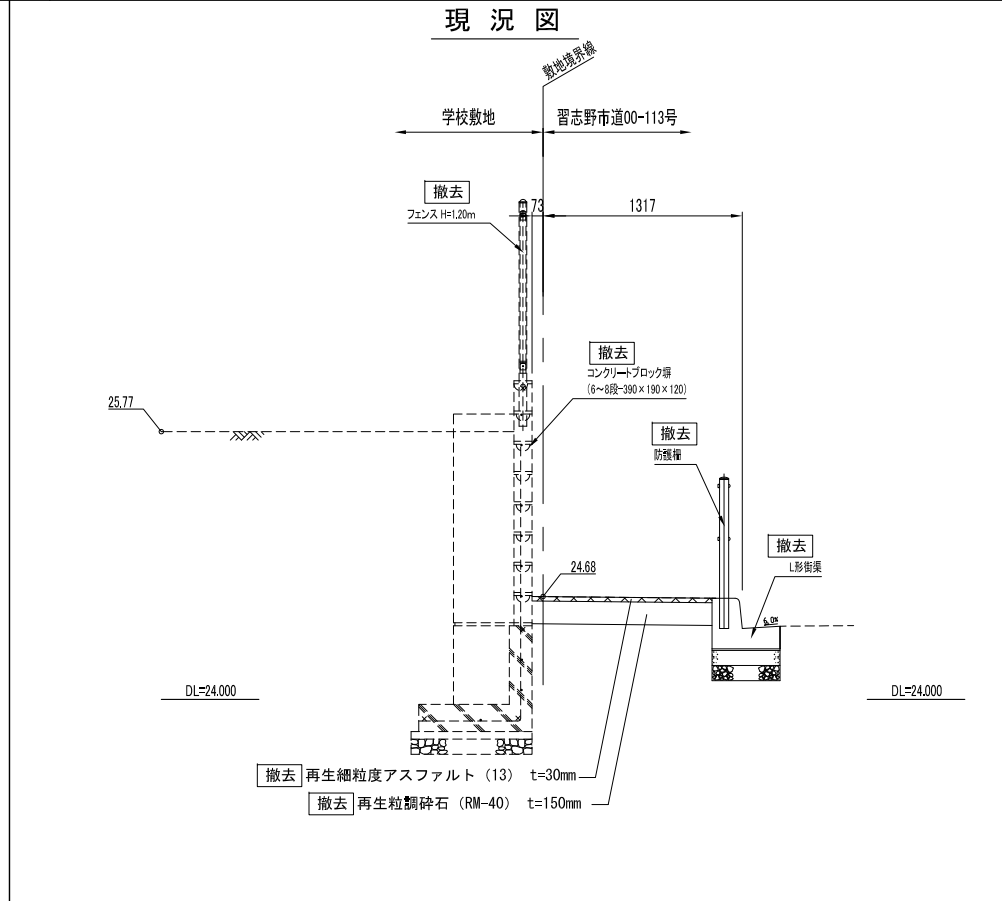
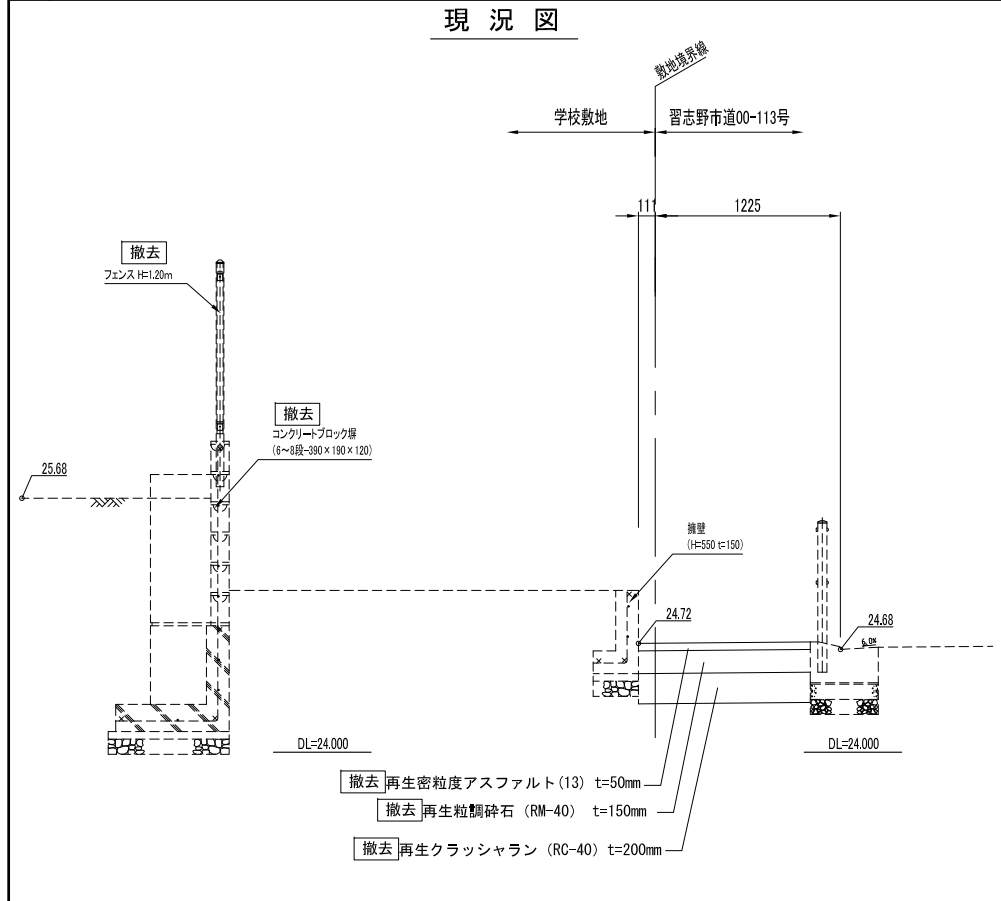
一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
 一級建築士大臣登録 第316710号 宮本 弘毅
 一級建築士大臣登録 第363004号 木戸 直規



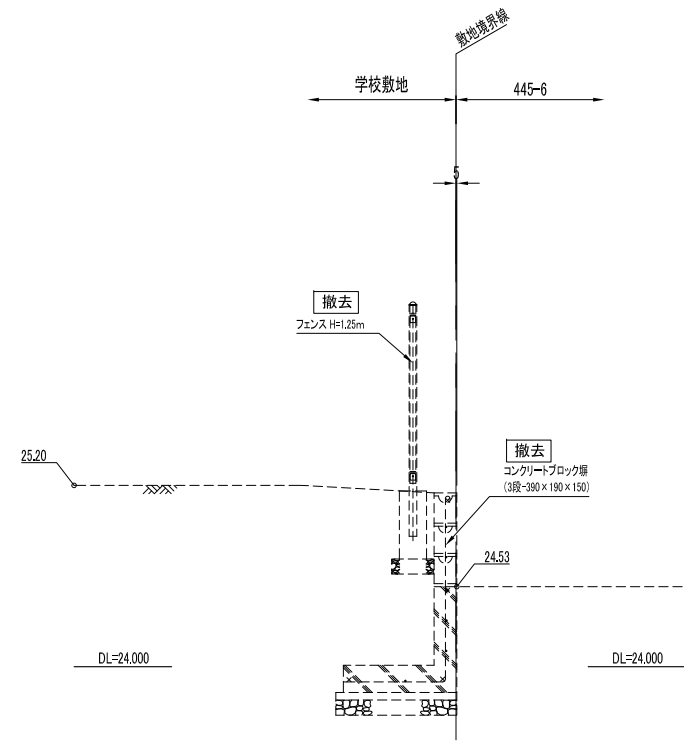
凡例	
記号	名称
25.800	計画地盤高
25.790	表面勾配
1.0%	表面勾配
26.50	現況地盤高
26.50	現況想定地盤高
L 1	断面位置
---	法面
---	区域境界線
---	工事範囲

※第2工区は一部舗装を仮舗装とし、第5工区でその舗装仕上げ工事及び植栽工事を行うものとする。

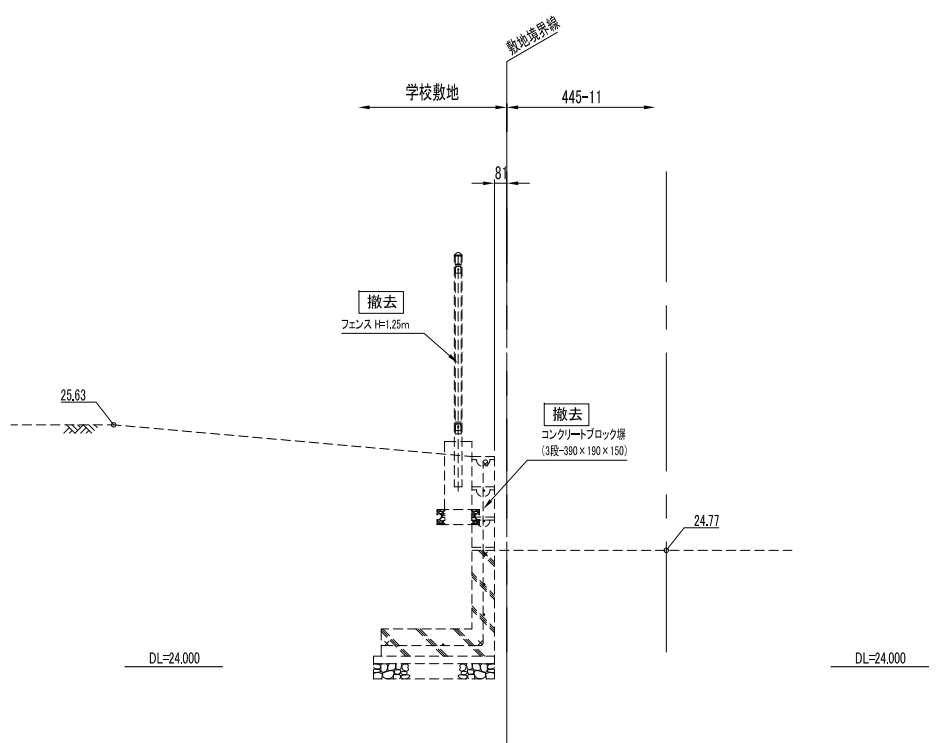
株式会社 教育施設研究所 ARCHITECT & OFFICE BRANCH APPR. BY CHKD. BY 一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦 一級建築士大臣登録 第316710号 宮本 弘毅 一級建築士大臣登録 第363004号 木戸 直規		大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事) [大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)] 計画高平面図 (2)		DATE '22.04. DRAWING NO. G-003
東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号 株式会社 教育施設研究所 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号		SCALE A1 S=1:200 A3 S=1:400		



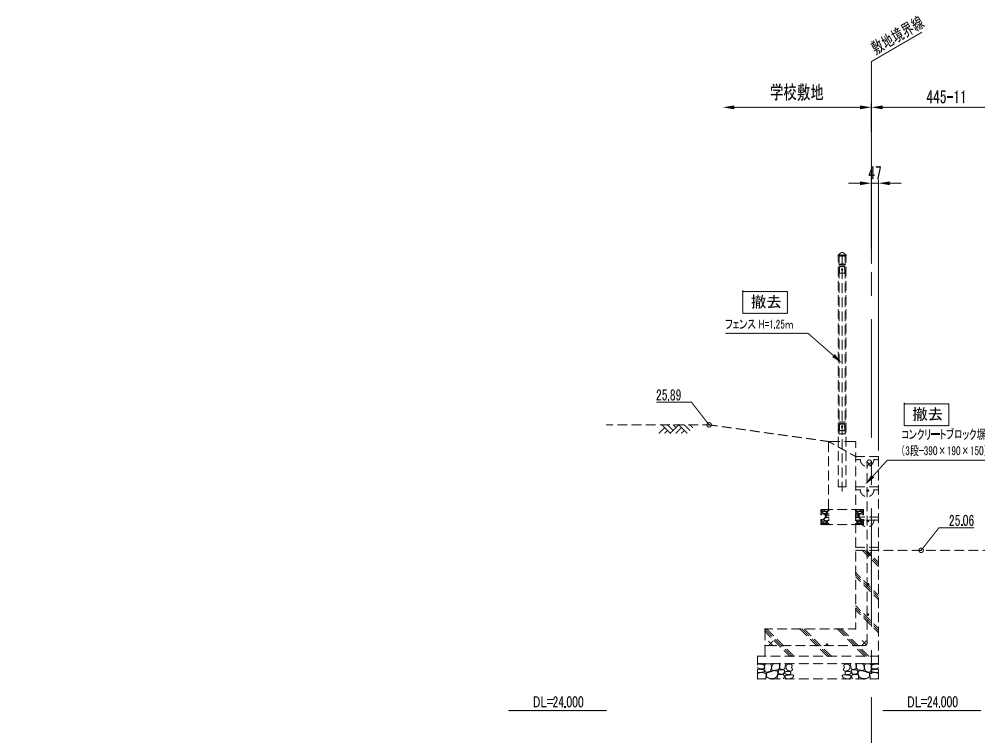
現況図



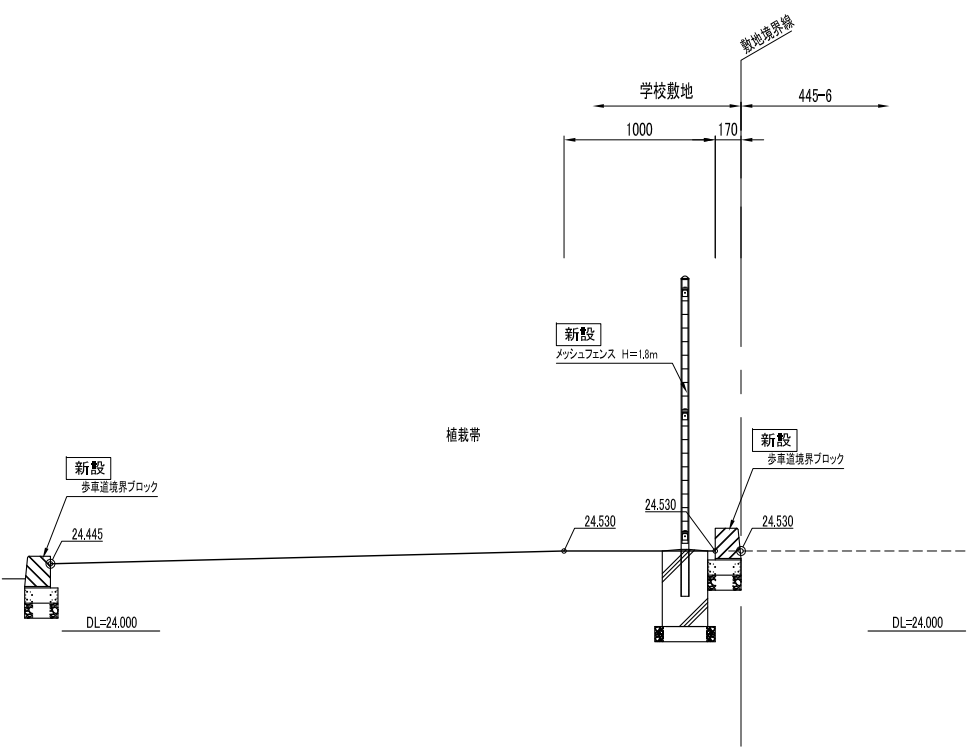
現況図



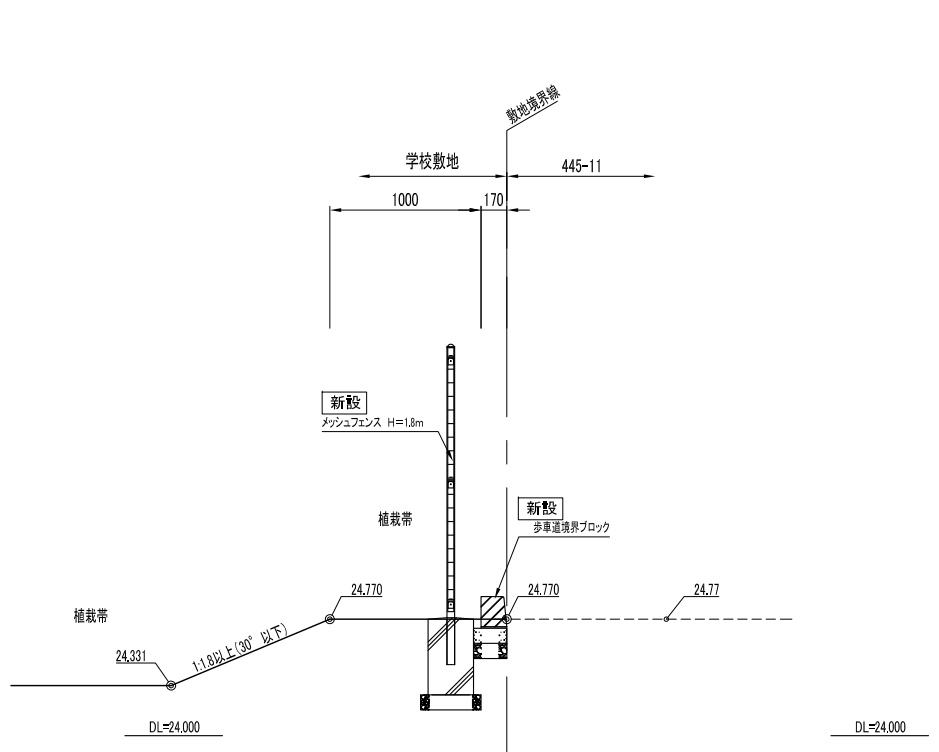
現況図



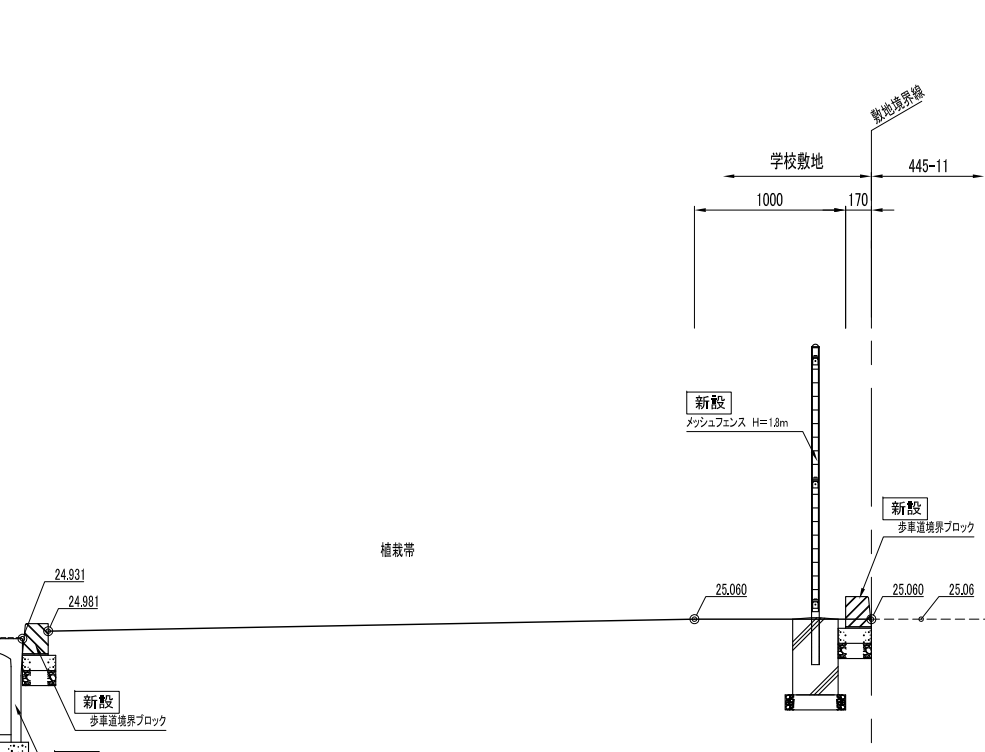
計画図



計画図



計画図



株式会社 教育施設

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】

DATE '22.04

ARCHITECT & OFFICE BRANCH APPR. BY CHKD. BY

DRAWN BY DRAWING TITLE

SCALE DRAWING NO.

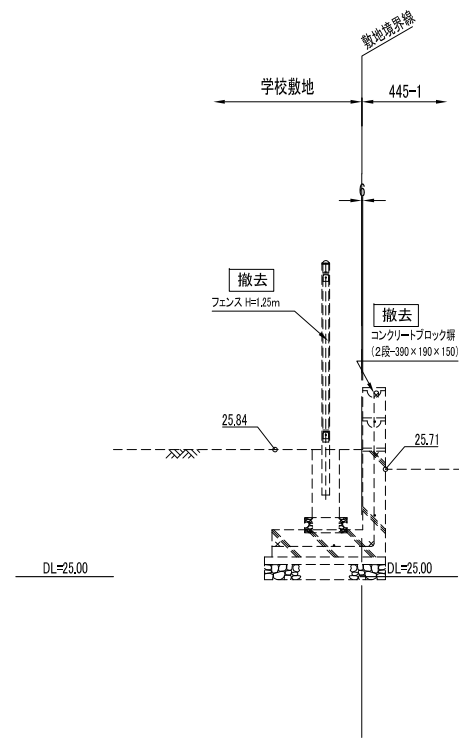
一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
一級建築士大臣登録 第316710号 宮本 弘毅
一級建築士大臣登録 第363004号 木戸 直規

東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
株式会社 教育施設 研究所
一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

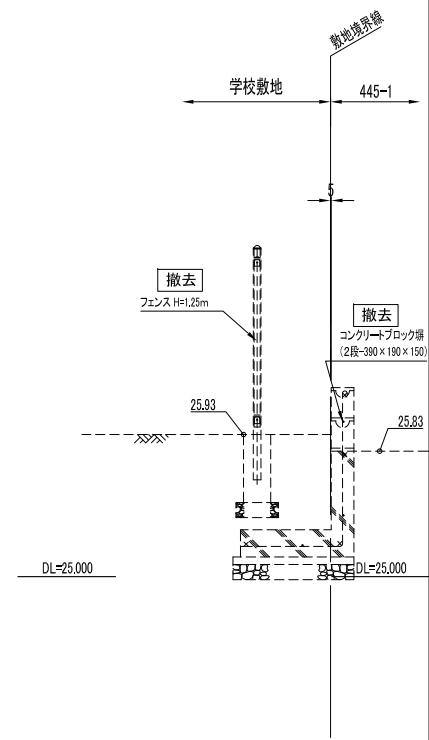
敷地部分断面図 (2)
(22-24断面)

A1 S=1:25
A3 S=1:50
G-005

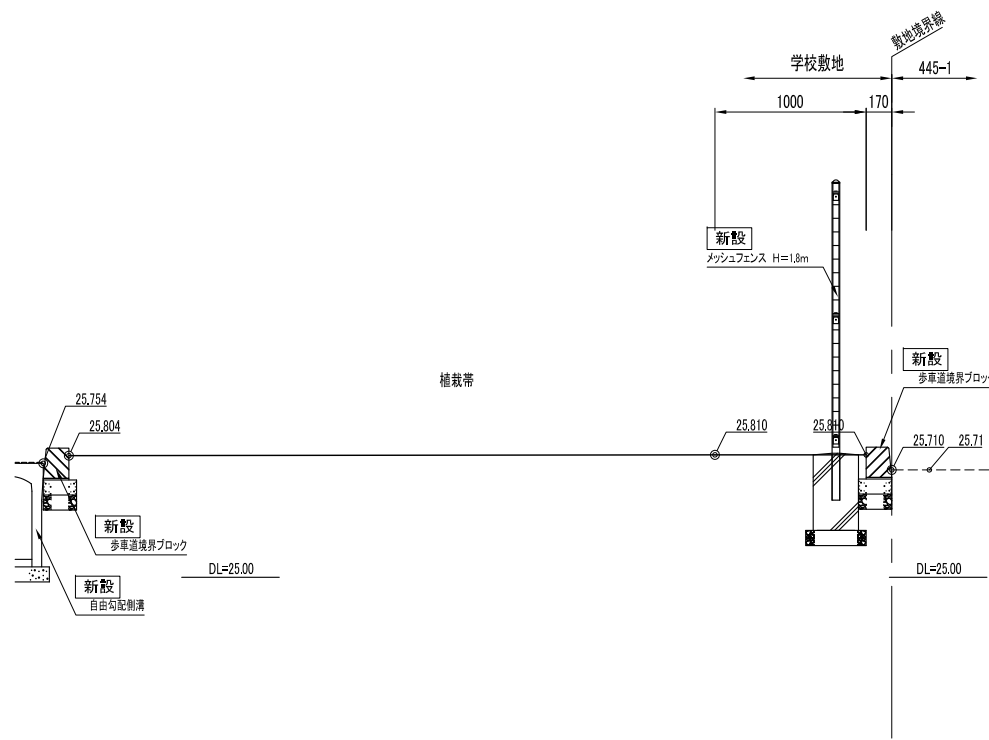
現況図



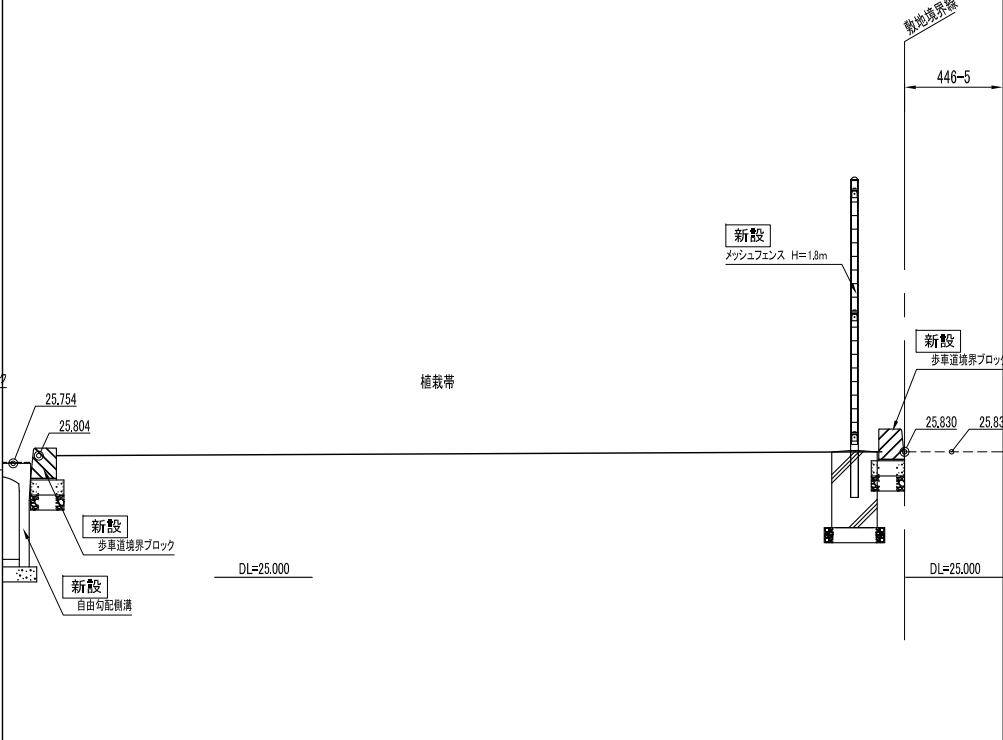
現況図



計画図



計画図



株式会社教育施設

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】

ARCHITECT & OFFICE BRANCH APPR. BY CHKD. BY

DRAWN BY DRAWING TITLE

SCALE DATE

一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
一級建築士大臣登録 第316710号 宮本 弘毅
一級建築士大臣登録 第363004号 木戸 直規

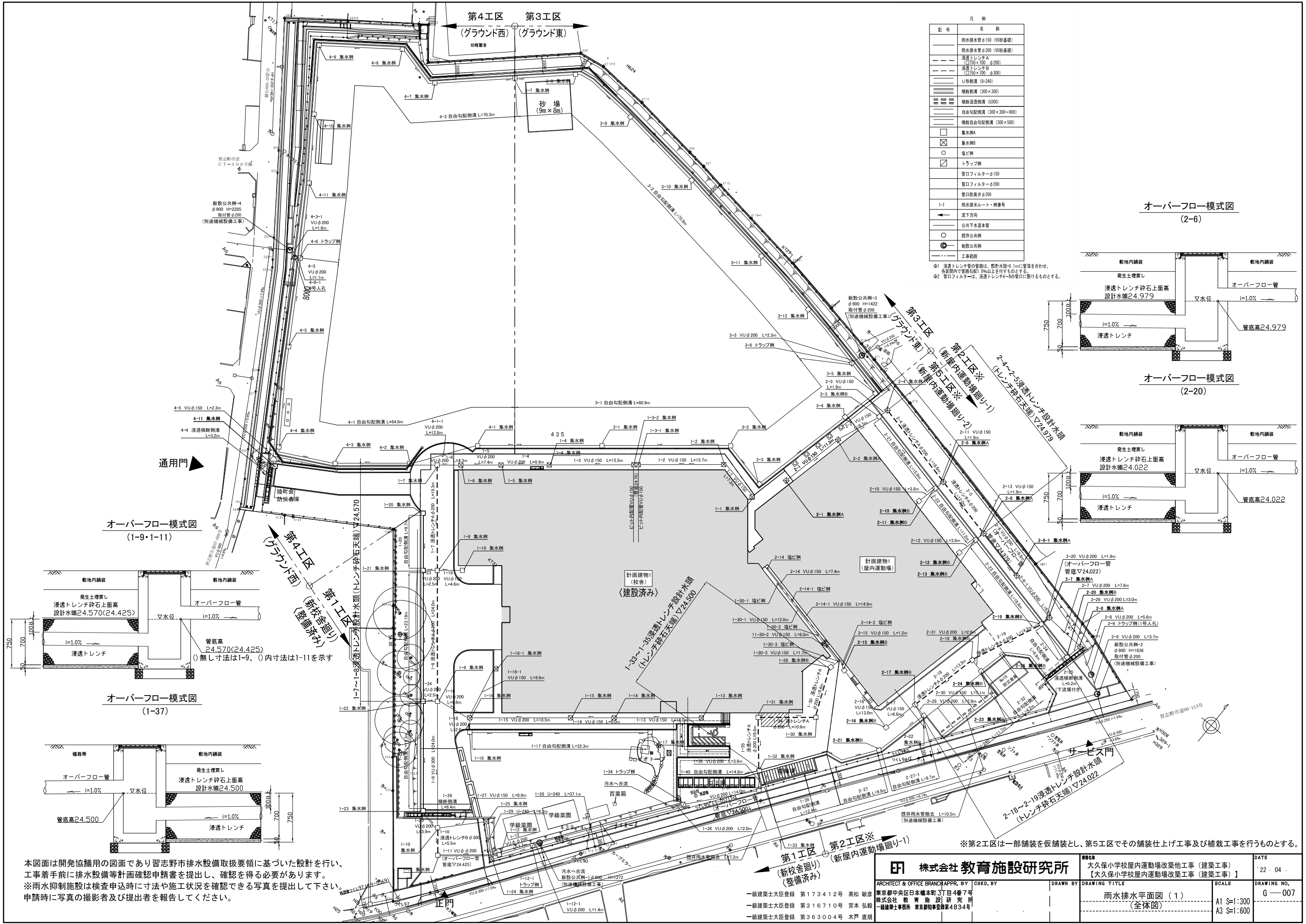
東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
株式会社教育施設研究所
一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

敷地部分断面図 (3)
(25-26断面)

A1 S=1:25
A3 S=1:50

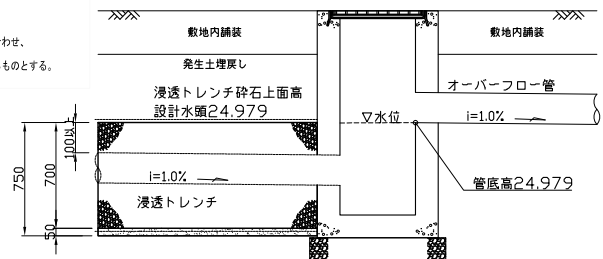
DRAWING NO.

G-006

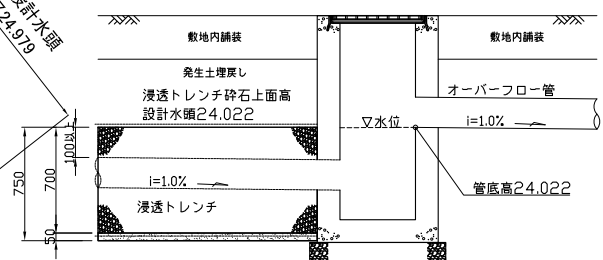


凡例	記号	名称
—	雨水排水管φ150 (VU砂基礎)	
—	雨水排水管φ200 (VU砂基礎)	
—	浸透トレンチA (150×100 φ200)	
—	浸透トレンチB (150×700 φ300)	
—	U形排水溝 (U-240)	
—	横断排水溝 (300×300)	
—	横断浸透排水溝 (U300)	
—	自由勾配排水溝 (300×300~300)	
—	横断自由勾配排水溝 (300×500)	
□	集水樹A	
○	集水樹B	
⊗	埋込樹	
⊠	トラップ樹	
○	管口フィルターφ150	
○	管口フィルターφ200	
○	管口防臭弁φ200	
I-1	雨水排水ルート・樹番号	
→	流下方向	
—	公共下水道本管	
○	既存公共樹	
○	新設公共樹	
—	工事範囲	

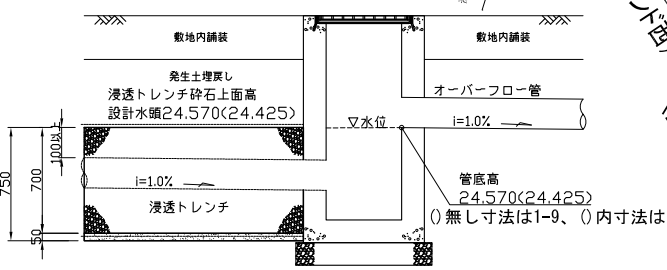
オーバーフロー模式図 (2-6)



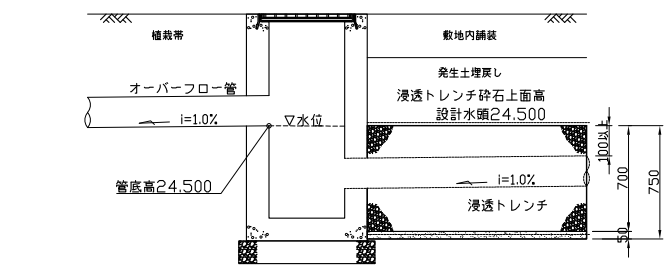
オーバーフロー模式図 (2-20)



オーバーフロー模式図 (1-9・1-11)



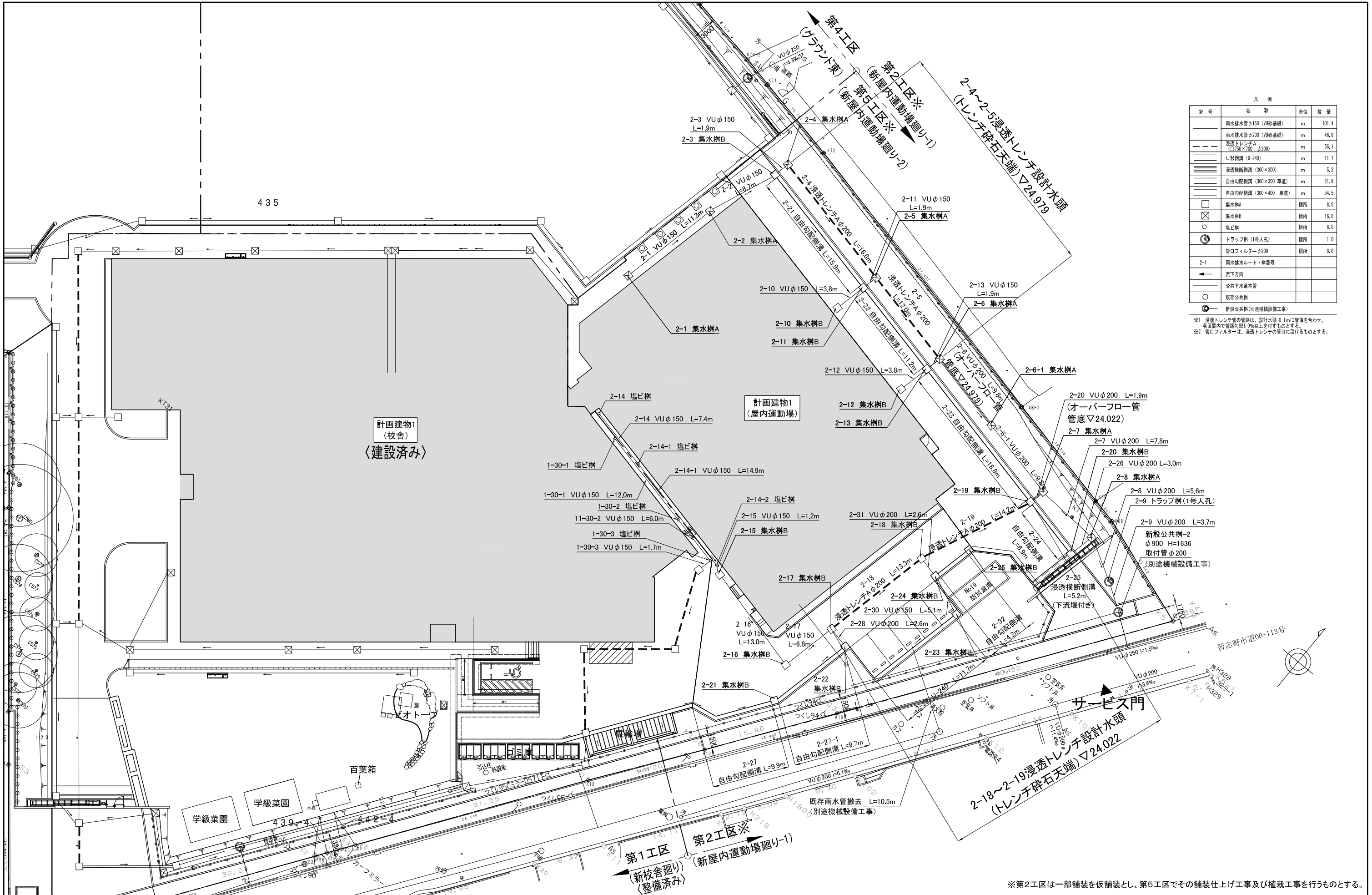
オーバーフロー模式図 (1-37)



本図面は開発協議用の図面であり習志野市排水設備取扱要領に基づいた設計を行い、工事着手前に排水設備等計画確認申請書を提出し、確認を得る必要があります。
 ※雨水抑制施設は検査申込時に寸法や施工状況を認める写真を提出して下さい。申請時に写真の撮影者及び提出者を報告してください。

※第2工区は一部舗装を仮舗装とし、第5工区でその舗装仕上げ工事及び植栽工事を行うものとする。

株式会社教育施設研究所 ARCHITECT & OFFICE BRANCH APPR. BY CHKD. BY 一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦 一級建築士大臣登録 第316710号 宮本 弘毅 一級建築士大臣登録 第363004号 木戸 直規		大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事) [大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)]	DATE '22.04
DRAWN BY 株式会社教育施設研究所 一級建築士事務所 東京都港区芝浦4丁目4番7号		DRAWING TITLE 雨水排水平面図 (1) (全体図)	SCALE A1 S=1:300 A3 S=1:600
DRAWING NO. G-007			



記号	名称	単位	数量
—	雨水排水管φ150 (VU砂基礎)	m	101.4
—	雨水排水管φ200 (VU砂基礎)	m	46.8
—	浸透トレンチA (□750×700 φ200)	m	56.1
—	U形側溝 (U-240)	m	11.7
—	浸透横断側溝 (300×300)	m	5.2
—	自由勾配側溝 (300×300 専道)	m	21.9
—	自由勾配側溝 (300×400 専道)	m	54.5
□	集水樹A	個所	8.0
⊗	集水樹B	個所	16.0
○	塩ビ樹	個所	6.0
⊙	トラップ樹 (1号人孔)	個所	1.0
○	管口フィルターφ200	個所	8.0
—	2-1 雨水排水ルート・樹番号		
—	流下方向		
—	公共下水道本管		
○	既存公共樹		
⊙	新設公共樹 (別途機械設備工事)		

※1 浸透トレンチ等の管径は、設計水深+0.1mに管頂を合わせ、各区間内で管底勾配1.0%以上を付すものとする。
 ※2 管口フィルターは、浸透トレンチの管口に設けるものとする。

※第2工区は一部舗装を仮舗装とし、第5工区でその舗装仕上げ工事及び植栽工事を行うものとする。

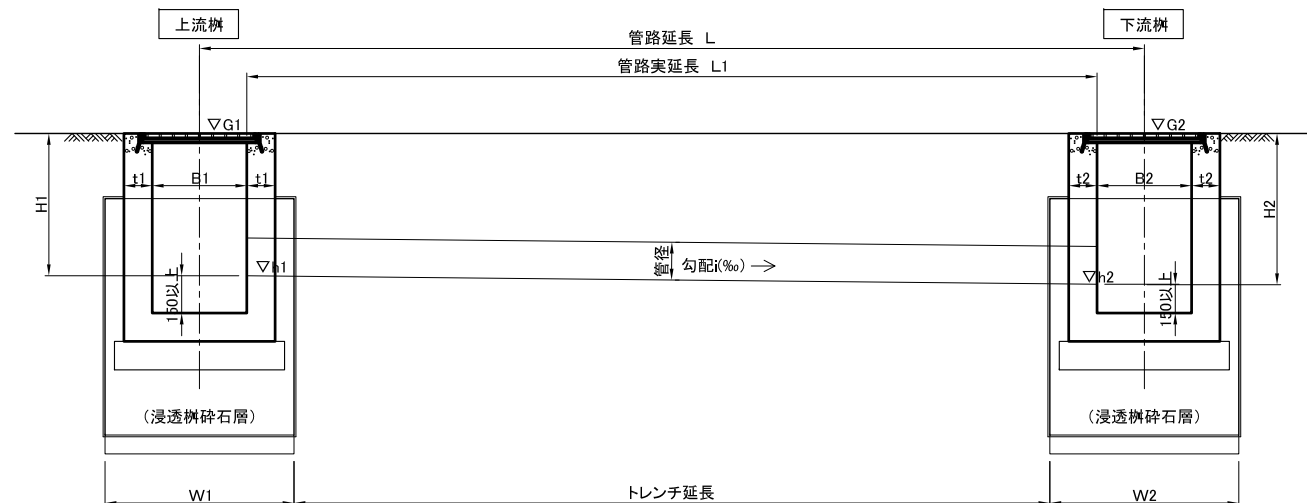
株式会社 教育施設研究所 ARCHITECT & OFFICE BRANCH APPR. BY CHKD. BY 東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号 株式会社 教育施設研究所 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号		大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事) [大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)]		DATE 22.04
DRAWN BY		DRAWING TITLE 雨水排水平面図 (2)		SCALE A1 S=1:200 A3 S=1:400
DRAWING NO. G-008				

1 雨水管路一覧表

管路一覧表(雨水流域-2 管路番号-2)

管路番号	水路種別	形状	管径	延長	実延長	トレンチ延長	勾配	上流樹番号	上流樹深さ	上流樹内寸	上流樹側壁厚	浸透樹碎石外寸	上流地盤高	上流管底高	上流トレンチ上面高	上流トレンチ下面高	下流樹番号	下流樹深さ	下流樹内寸	下流樹側壁厚	浸透樹碎石外寸	下流地盤高	下流管底高	下流トレンチ上面高	下流トレンチ下面高	
			(mm)	(m)	(m)	(m)			(%)	H1 = G1-h1	B1	t1	W1	G1	h1	(m)		(m)	H2 = G2-h2	B2	t2	W2	G2	h2	(m)	(m)
雨水流域-2 管路番号-2ルート																										
2-1	VU砂基礎		φ150	11.3	10.850		6.00	2-1	0.650	0.450	0.060		25.790	25.140			2-2	0.720	0.450	0.060		25.790	25.072			
2-2	VU砂基礎		φ150	8.7	8.225		6.00	2-2	0.750	0.450	0.060		25.790	25.040			2-3	0.770	0.500	0.150		25.754	24.987			
2-3	VU砂基礎		φ150	1.9	1.350		4.00	2-3	0.770	0.500	0.150		25.754	24.987			2-4	0.820	0.600	0.060		25.804	24.979			
2-4	浸透トレンチA		φ200	16.6	16.000	15.880	10.00	2-4	1.130	0.600	0.060		25.804	24.679	24.979	24.279	2-5	1.290	0.600	0.060		25.804	24.513	24.979	24.279	
2-5	浸透トレンチA		φ200	12.0	11.400	11.280	10.00	2-5	1.130	0.600	0.060		25.804	24.679	24.979	24.279	2-6	1.250	0.600	0.060		25.804	24.559	24.979	24.279	
2-6	VU砂基礎	オーバーフロー管	φ200	9.8	9.200		15.00	2-6	0.820	0.600	0.060		25.804	24.979			2-6-1	0.570	0.600	0.060		25.400	24.832			
2-6-1	VU砂基礎		φ200	9.8	9.200		10.00	2-6-1	1.300	0.600	0.060		25.400	24.096			2-7	0.730	0.600	0.060		24.730	23.998			
2-7	VU砂基礎		φ200	7.8	7.200		18.00	2-7	1.060	0.600	0.060		24.730	23.672			2-8	0.800	0.600	0.060		24.331	23.531			
2-8	VU砂基礎		φ200	5.6	5.000		18.00	2-8	0.800	0.600	0.060		24.331	23.531			2-9	0.970	0.600	0.060		24.400	23.430			
2-9	VU砂基礎		φ200	3.7	2.950		18.00	2-9	1.580	0.600	0.060		24.400	22.817			公共樹	1.620	0.900	0.075		24.366	22.750			
2-10	VU砂基礎	新設公共樹-2へ	φ150	3.8	3.350		6.00	2-10	0.650	0.450	0.150		25.794	25.144			2-11	0.670	0.450	0.150		25.794	25.121			
2-11	VU砂基礎		φ150	1.9	1.375		6.00	2-11	0.670	0.450	0.150		25.794	25.121			2-5	0.680	0.600	0.150		25.794	25.109			
2-12	VU砂基礎	2-5へ	φ150	3.8	3.350		6.00	2-12	0.650	0.450	0.150		25.794	25.144			2-13	0.670	0.450	0.150		25.794	25.121			
2-13	VU砂基礎		φ150	1.9	1.375		6.00	2-13	0.670	0.450	0.150		25.794	25.121			2-6	0.680	0.600	0.150		25.794	25.109			
2-14	VU砂基礎	2-5へ	φ150	3.5	3.200		6.00	2-14	0.450	0.300	0.000		25.150	24.700			1-2	0.470	0.300	0.000		25.150	24.679			
1-30	VU砂基礎		φ150	4.0	3.700		6.00	1-2	0.470	0.300	0.000		25.150	24.679			1-3	0.490	0.300	0.000		25.150	24.655			
1-31	VU砂基礎		φ150	8.0	7.700		6.00	1-3	0.490	0.300	0.000		25.150	24.655			1-4	0.540	0.300	0.000		25.150	24.607			
1-32	VU砂基礎		φ150	4.8	4.400		6.00	1-2	0.590	0.300	0.000		25.150	24.557			1-5	0.620	0.500	0.150		25.150	24.528			
2-15	VU砂基礎		φ150	2.0	1.500		6.00	1-5	0.790	0.500	0.150		25.150	24.362			2-15	0.750	0.500	0.150		25.100	24.350			
2-16	VU砂基礎		φ150	13.0	12.500		6.00	2-15	0.830	0.500	0.150		25.100	24.268			2-16	0.750	0.500	0.150		24.940	24.190			
2-17	VU砂基礎		φ150	6.8	6.250		6.00	2-16	0.750	0.500	0.150		24.940	24.190			2-17	0.790	0.600	0.150		24.940	24.149			
2-18	浸透トレンチA		φ200	13.3	12.700	12.400	10.00	2-17	1.220	0.600	0.150		24.940	23.722	24.022	23.322	2-18	1.350	0.600	0.150		24.940	23.589	24.022	23.322	
2-19	浸透トレンチA		φ200	14.2	13.600	13.300	10.00	2-18	1.220	0.600	0.150		24.940	23.722	24.022	23.322	2-19	1.100	0.600	0.150		24.680	23.580	24.022	23.322	
2-20	VU砂基礎	オーバーフロー管	φ200	1.9	1.300		10.00	2-19	0.660	0.600	0.150		24.680	24.022			2-7	0.730	0.600	0.150		24.730	24.003			
2-21	自由勾配側溝	H300×400		15.88			3.00	2-3	0.390	0.500	0.150		25.754	25.369			2-11	0.430	0.500	0.150		25.754	25.321			
2-22	自由勾配側溝	H300×400		11.20			3.00	2-11	0.430	0.500	0.150		25.754	25.321			2-13	0.470	0.500	0.150		25.754	25.287			
2-23	自由勾配側溝	H300×400		18.78			3.00	2-13	0.470	0.500	0.150		25.754	25.287			2-19	0.380	0.500	0.150		24.680	24.295			
2-24	自由勾配側溝	H300×400		6.88			3.00	2-19	0.380	0.500	0.150		24.680	24.295			2-20	0.380	0.500	0.150		24.281	23.896			
2-26	VU砂基礎		φ200	3.0	2.525		4.00	2-20	0.450	0.500	0.150		24.281	23.828			1-8	0.520	0.450	0.060		24.331	23.816			
2-25	浸透横断側溝	H300×300~330		5.20		5.200	3.00						24.281	23.981			2-20	0.320	0.500	0.150		24.281	23.965			
2-27	自由勾配側溝	H300×300		12.41			3.00						24.916	24.531			2-21	0.390	0.500	0.150		24.835	24.450			
2-27-1	自由勾配側溝	H300×300		22.14			3.00	2-21	0.390	0.500	0.150		24.835	24.450			2-22	0.410	0.500	0.150		24.833	24.421			
2-28	VU砂基礎		φ200	2.6	2.125		4.00	2-22	0.700	0.500	0.150		24.833	24.133			2-17	0.820	0.450	0.060		24.940	24.122			
2-29	U形側溝	U-240		11.70			3.00						24.733	24.493			2-23	0.240	0.500	0.150		24.733	24.493			
2-30	VU砂基礎		φ150	5.1	4.625		6.00	2-23	0.450	0.500	0.150		24.733	24.283			2-24	0.580	0.450	0.060		24.833	24.252			
2-32	自由勾配側溝	H300×400		4.20			3.00	2-25	0.380	0.500	0.150		24.810	24.425			2-24	0.420	0.500	0.150		24.833	24.412			
2-31	VU砂基礎		φ200	2.6	2.125		4.00	2-24	0.700	0.500	0.150		24.833	24.133			2-18	0.820	0.450	0.060		24.940	24.122			

管路一覧模式図



※トレンチ延長は、接続する樹が浸透樹の場合は管路延長より碎石層を控除する。L=(W1/2+W2/2)
 その他の樹の場合は管路延長より樹内径と樹側壁厚を控除する。L=(B1/2+t1+B2/2+t2)

注記
 設計GL: 25.6

株式会社 教育施設研究所

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
 【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】

DATE

'22.04

ARCHITECT & OFFICE BRANCH APPR. BY
 株式会社 教育施設研究所
 東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

CHKD. BY

DRAWN BY

DRAWING TITLE

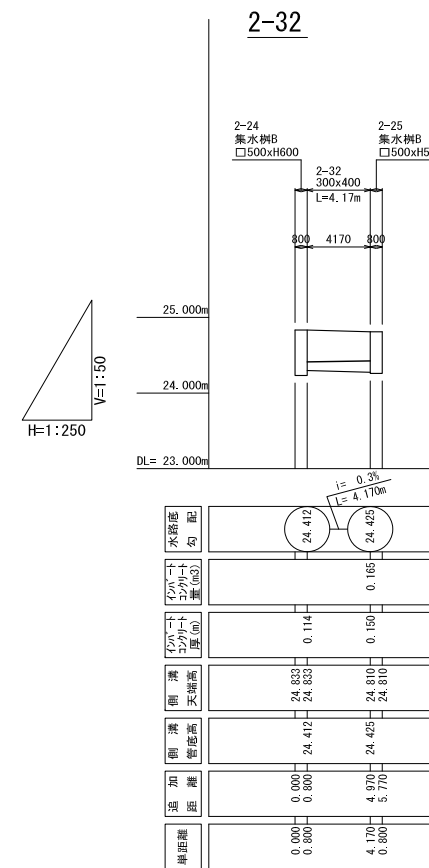
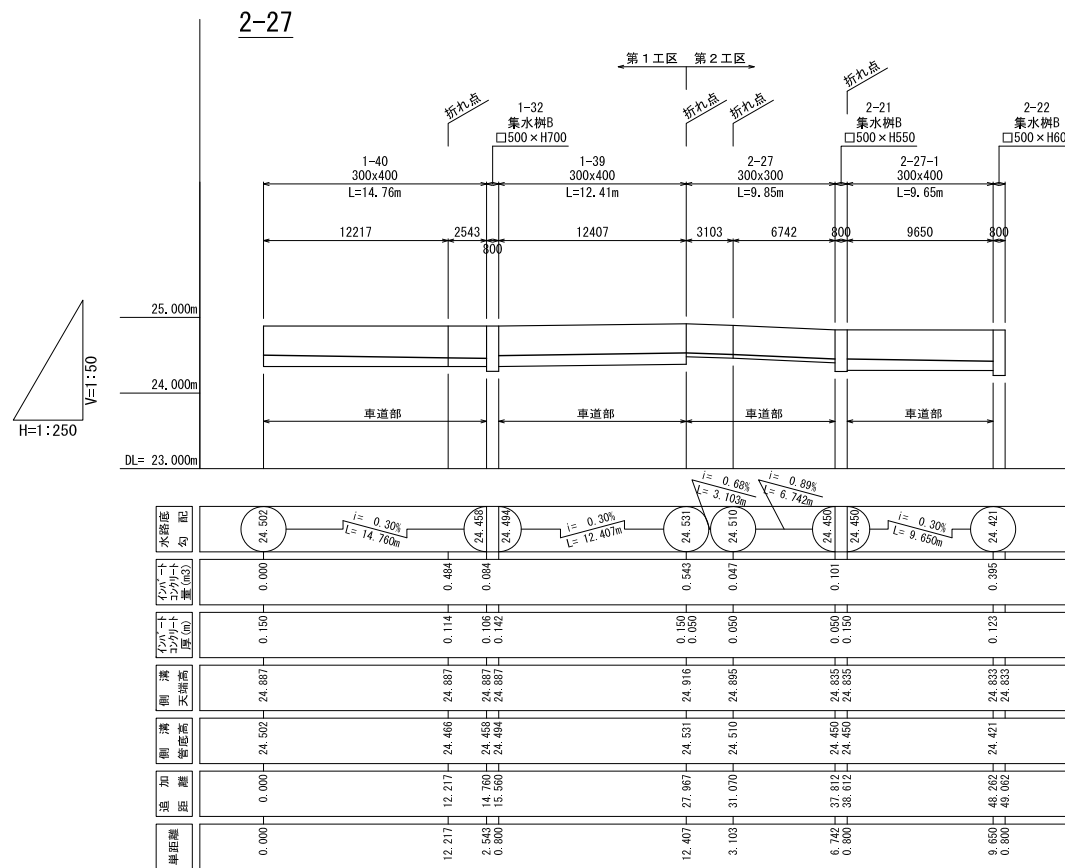
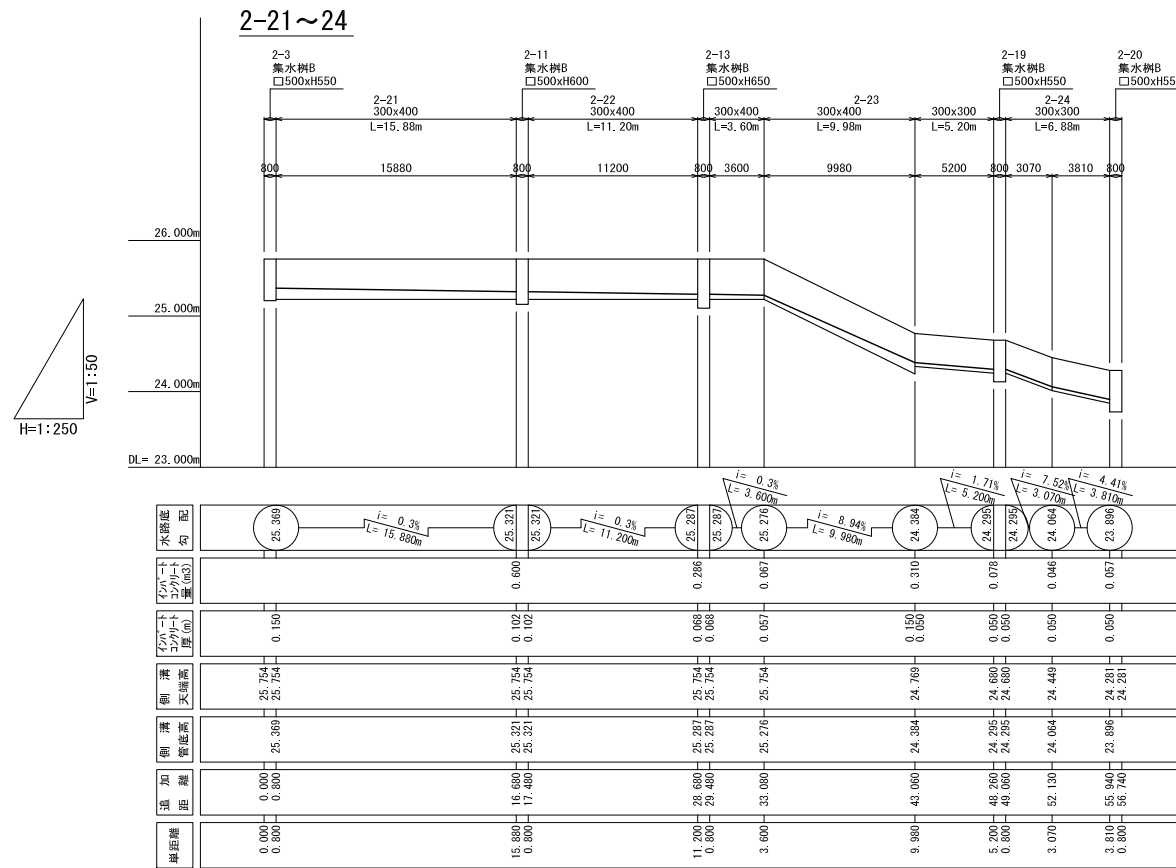
SCALE

DRAWING NO.

雨水管路一覧表

A1 -
 A3 -

G-009



株式会社教育施設研究所

大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)
[大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)]

DATE '22.04.

ARCHITECT & OFFICE BRANCH PR. BY CHKD. BY

DRAWN BY DRAWING TITLE

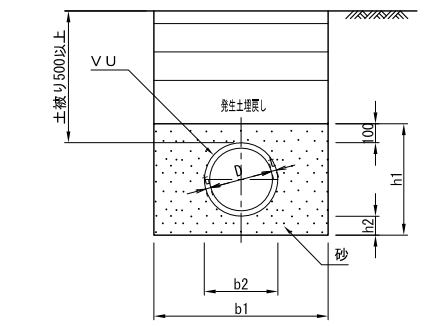
SCALE DRAWING NO.

一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦
一級建築士大臣登録 第316710号 宮本 弘毅
一級建築士大臣登録 第363004号 木戸 直規

東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号
株式会社教育施設研究所
一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号

自由勾配側溝縦断面図
A1 図示
A3 図示
G-010

1 排水管VU砂基礎 A1版S=1:20、A3版S=1:40

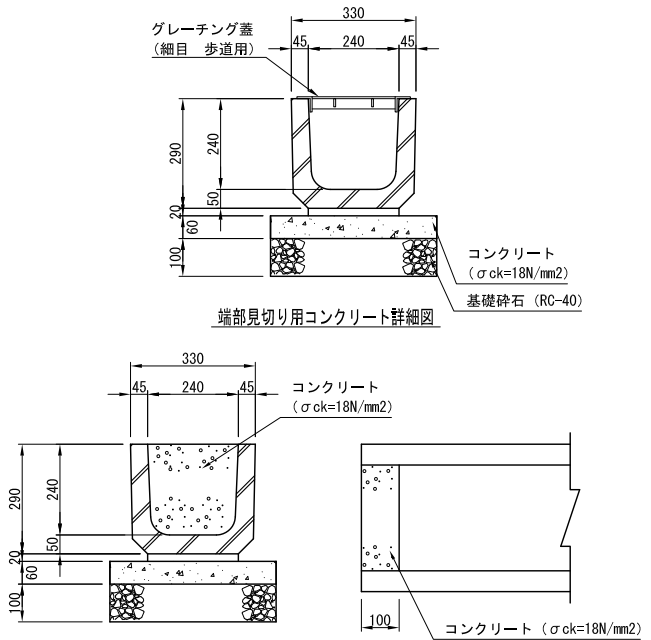


寸法表

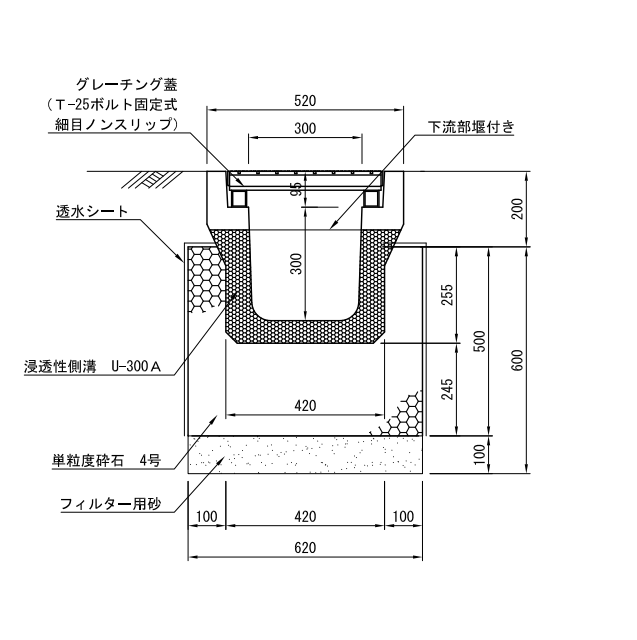
呼び名	寸法表 (単位mm)					
	D	t	b1	b2	h1	h2
D 150	150	5.1	600	165	365	100
D 200	200	6.5	700	216	416	100
D 250	250	7.8	800	267	517	150
D 300	300	9.2	850	318	568	150

※砂基礎は掘削断面に合わせること。
(H=1.0m以下直堀、H=1.0m以上1:0.5)

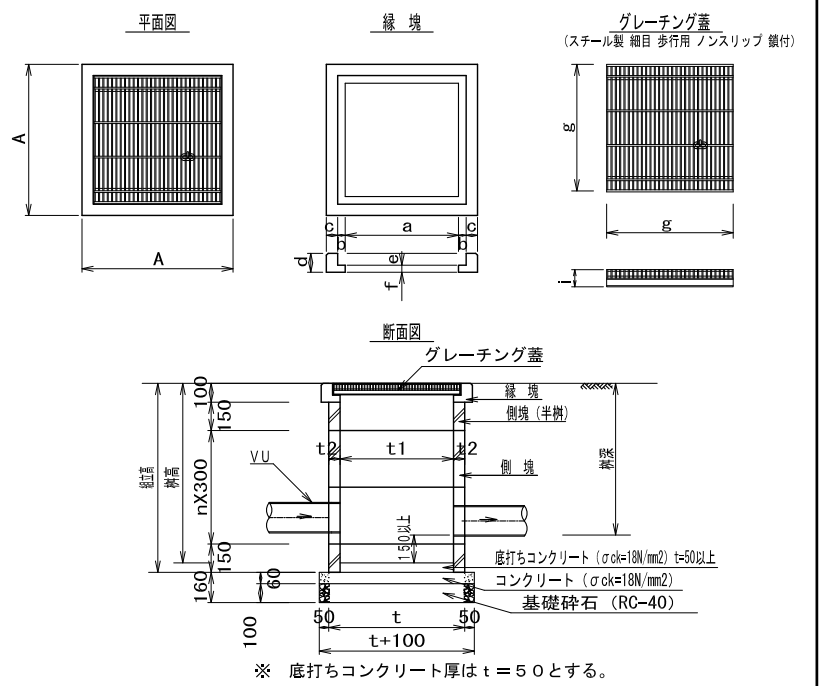
3 U形側溝 A1版S=1:10、A3版S=1:20



4 浸透横断側溝 A1版S=1:10、A3版S=1:20



6 集水枡 A1版S=1:10、A3版S=1:20



※ 底打ちコンクリート厚は t = 50 とする。

寸法表

呼び名	A	t	t1	t2	a	b	c	d	e	f	g	i
300	500	400	300	50	300	40	60	100	53	47	367	50
450	650	570	450	60	450	40	60	100	53	47	520	52
600	800	720	600	60	600	40	60	100	63	37	670	58

組立表

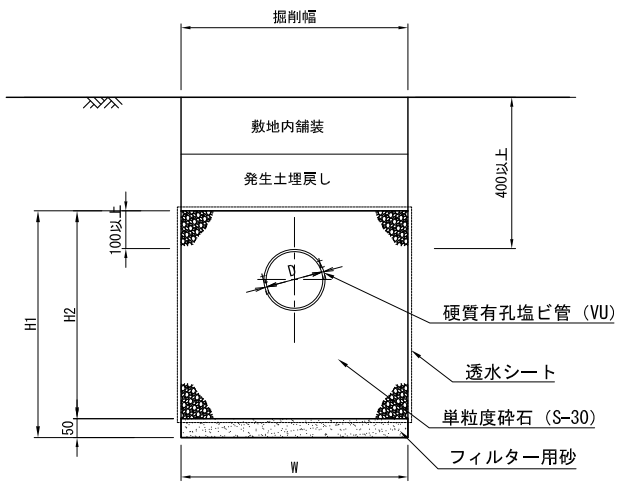
タイプ	縁塊 H=100	側塊 H=150	側塊 H=300	組立高
a	1	-	2	700
b	1	1	2	850
c	1	2	2	1000
d	1	1	3	1150
e	1	2	3	1300
f	1	1	4	1450
g	1	2	4	1600
h	1	1	5	1750
i	1	2	5	1900

一覧表

枡番号	枡内径 t1	枡深	枡高	組立高タイプ	グレーチング蓋
2-1	450	650	800	b	スチール製 細目 歩行用 ノンスリップ 鎖付
2-2	450	750	900	c	スチール製 細目 歩行用 ノンスリップ 鎖付
2-4	600	1130	1280	f	スチール製 細目 歩行用 ノンスリップ 鎖付
2-5	600	1130	1280	f	スチール製 細目 歩行用 ノンスリップ 鎖付
2-6	600	1250	1400	f	スチール製 細目 歩行用 ノンスリップ 鎖付
2-6-1	600	1300	1450	g	スチール製 細目 歩行用 ノンスリップ 鎖付
2-7	600	1060	1210	e	スチール製 細目 歩行用 ノンスリップ 鎖付
2-8	450	800	950	c	スチール製 細目 歩行用 ノンスリップ 鎖付

※1 グレーチング蓋は、スチール製溶融亜鉛メッキ、細目、歩道用、ノンスリップ、鎖付とする。
※2 組立高1000を超えるものは足掛金具を@300ピッチで設けること。

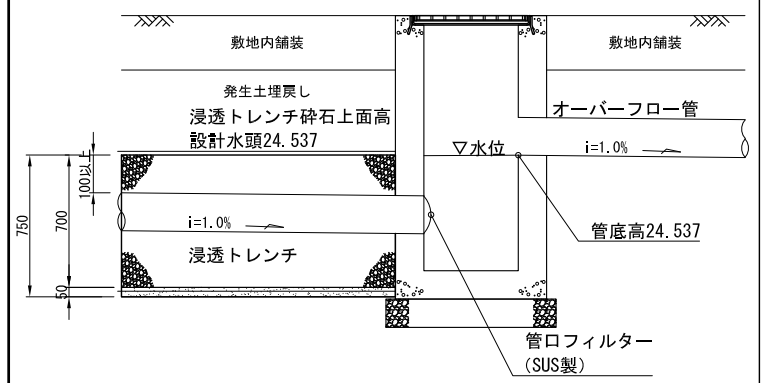
2 浸透トレンチ I 型・III 型 A1版S=1:10、A3版S=1:20



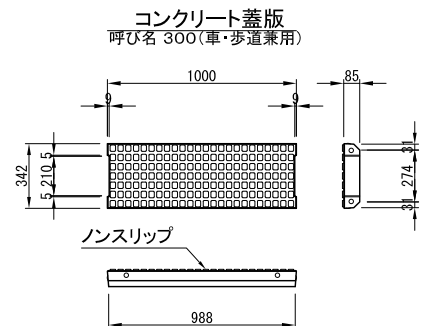
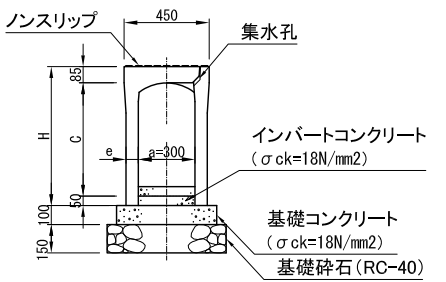
寸法表

呼び名	寸法表 (単位mm)				
	D	t	H1	H2	W
浸透トレンチA	200	6.5	750	700	750
浸透トレンチB	300	9.2	750	700	750

オーバーフロー標準図 (1-9-1-11)



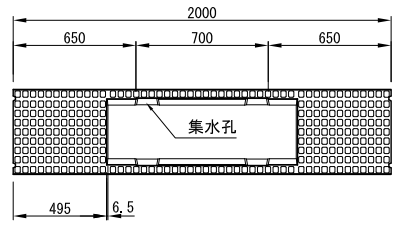
5 自由勾配側溝 A1版S=1:20、A3版S=1:40



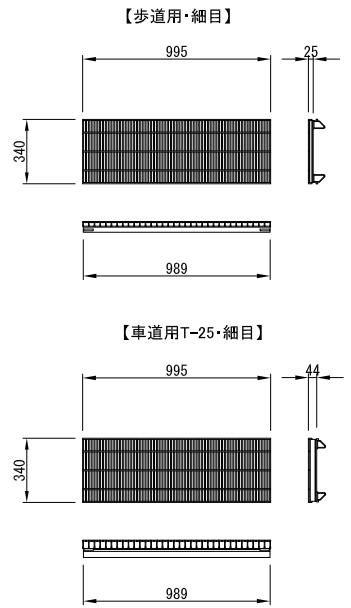
寸法表

呼び名 (a × c)	寸法 (mm)				
	H	e	B1	B2	B3
300 × 300	435	50	400	500	600
× 400	535	55	410	510	610

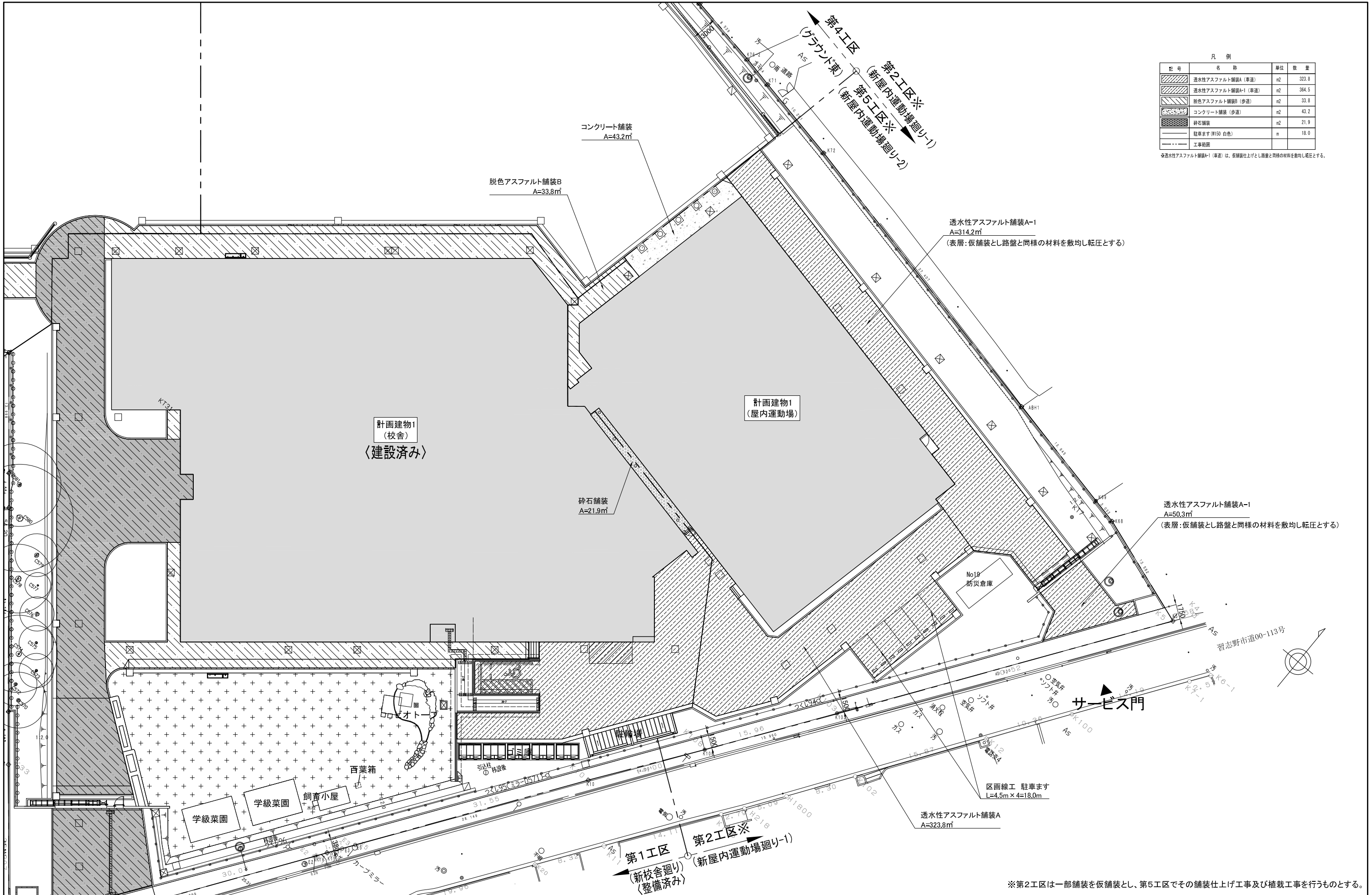
※ インパートコンクリートの最低厚さは50mm以上とする。



グレーチング蓋版 呼び名 300



※グレーチング蓋は10mに1枚設置とする。



凡例

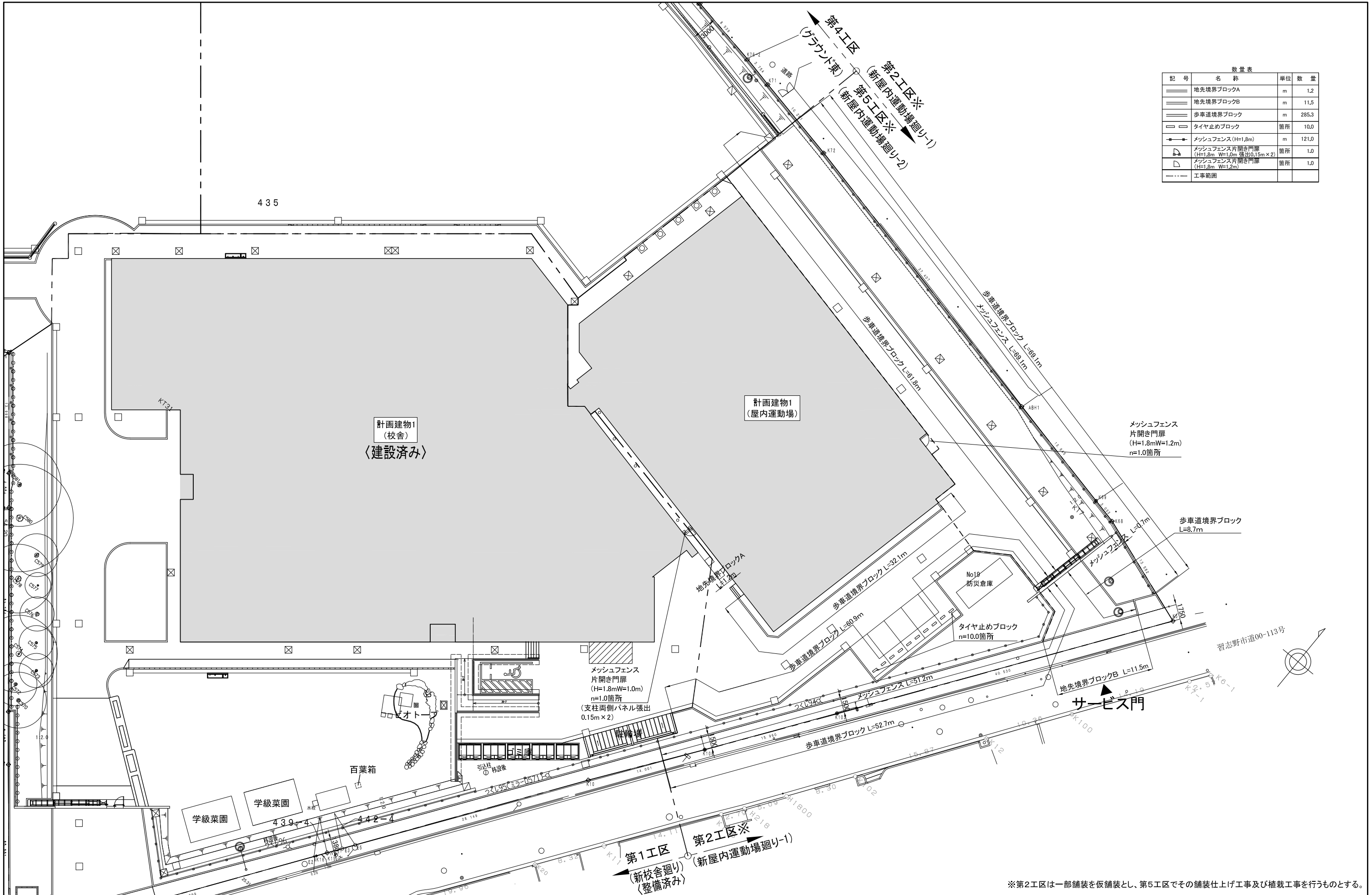
記号	名称	単位	数量
[Pattern]	透水性アスファルト舗装A (車道)	m ²	223.8
[Pattern]	透水性アスファルト舗装A-1 (車道)	m ²	364.5
[Pattern]	脱色アスファルト舗装B (歩道)	m ²	33.8
[Pattern]	コンクリート舗装 (歩道)	m ²	43.2
[Pattern]	砕石舗装	m ²	21.9
[Pattern]	駐車ます (M150 白色)	m	18.0
[Pattern]	工事範囲		

※透水性アスファルト舗装A-1 (車道) は、仮舗装仕上げとし路盤と同等の材料を敷均し転圧とする。

※第2工区は一部舗装を仮舗装とし、第5工区でその舗装仕上げ工事及び植栽工事を行うものとする。

<p>株式会社 教育施設研究所</p> <p>ARCHITECT & OFFICE BRANCH APPR. BY CHKD. BY</p> <p>一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦 一級建築士大臣登録 第316710号 宮本 弘毅 一級建築士大臣登録 第363004号 木戸 直規</p>		<p>大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事) [大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)]</p> <p>DRAWN BY DRAWING TITLE</p> <p>株式会社 教育施設研究所 一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号</p> <p>舗装平面図</p>		<p>DATE</p> <p>22.04</p>
<p>SCALE</p> <p>A1 S=1:200 A3 S=1:400</p>		<p>DRAWING NO.</p> <p>G-013</p>		

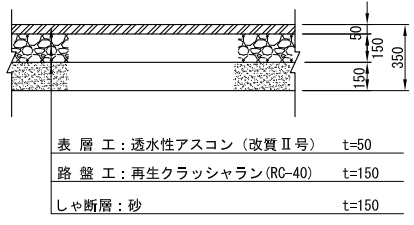
記号	名称	単位	数量
——	地先境界ブロックA	m	1.2
——	地先境界ブロックB	m	11.5
——	歩車道境界ブロック	m	285.3
□	タイヤ止めブロック	箇所	10.0
—●—	メッシュフェンス(H=1.8m)	m	121.0
⌋	メッシュフェンス片開き門扉 (H=1.8m W=1.0m 張出0.15m×2)	箇所	1.0
⌋	メッシュフェンス片開き門扉 (H=1.8m W=1.2m)	箇所	1.0
---	工事範囲		



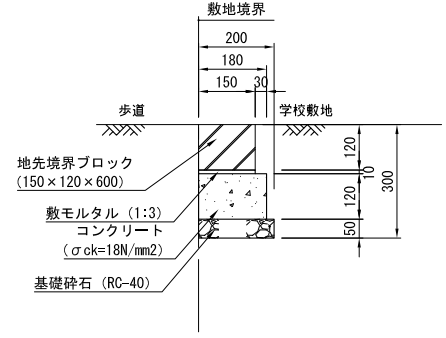
※第2工区は一部舗装を仮舗装とし、第5工区でその舗装仕上げ工事及び植栽工事を行うものとする。

株式会社 教育施設研究所 <small>ARCHITECT & OFFICE BRANCH APPR. BY CHKD. BY</small> <small>一級建築士大臣登録 第173412号 高松 敏彦</small> <small>一級建築士大臣登録 第316710号 宮本 弘毅</small> <small>一級建築士大臣登録 第363004号 木戸 直規</small>		<small>東京都中央区日本橋本町3丁目4番7号</small> <small>株式会社 教育施設研究所</small> <small>一級建築士事務所 東京都知事登録第4834号</small>		<small>大久保小学校屋内運動場改築他工事 (建築工事)</small> <small>【大久保小学校屋内運動場改築工事 (建築工事)】</small>	<small>DATE</small> '22.04
<small>DRAWN BY</small> 付帯施設平面図		<small>SCALE</small> A1 S=1:200 A3 S=1:400	<small>DRAWING NO.</small> G-014		

1 透水性アスファルト舗装A A1版S=1:20、A3版S=1:40

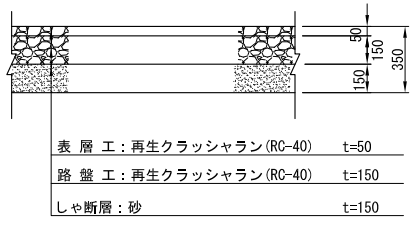


6 地先境界ブロックA(一般部) A1版S=1:10、A3版S=1:20

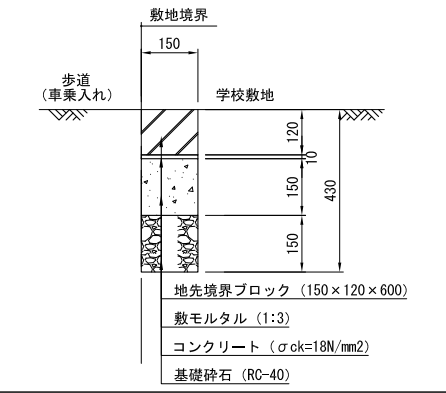


2 透水性アスファルト舗装A-1 A1版S=1:20、A3版S=1:40

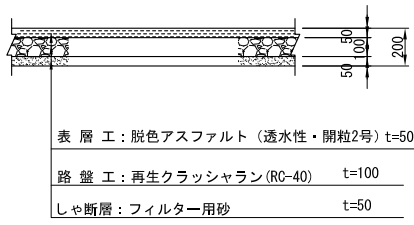
※表層透水性アスファルトは第五工区工事とし、表層部は路盤と同様の材料を敷均し転圧とする。



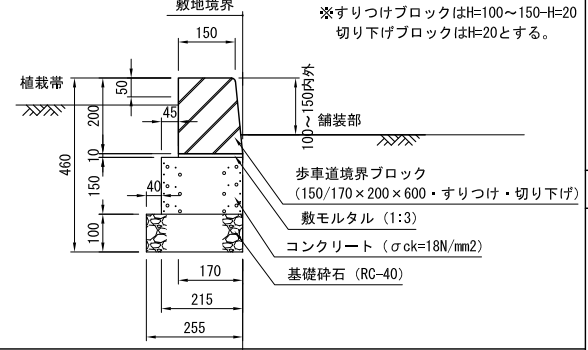
7 地先境界ブロックB(車両横断部) A1版S=1:10、A3版S=1:20



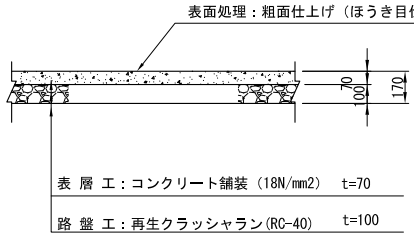
3 脱色アスファルト舗装B A1版S=1:20、A3版S=1:40



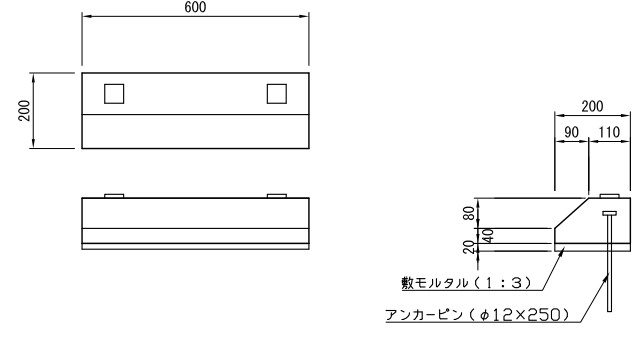
8 歩車道境界ブロック A1版S=1:10、A3版S=1:20



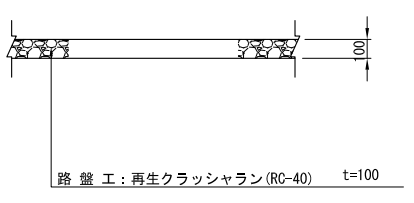
4 コンクリート舗装 A1版S=1:20、A3版S=1:40



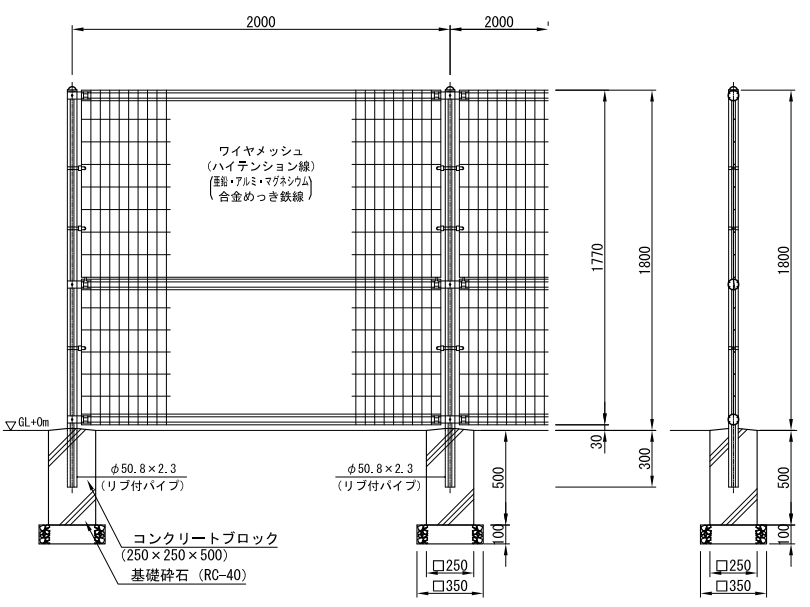
9 タイヤ止めブロック A1版S=1:10、A3版S=1:20



5 砕石舗装 A1版S=1:20、A3版S=1:40



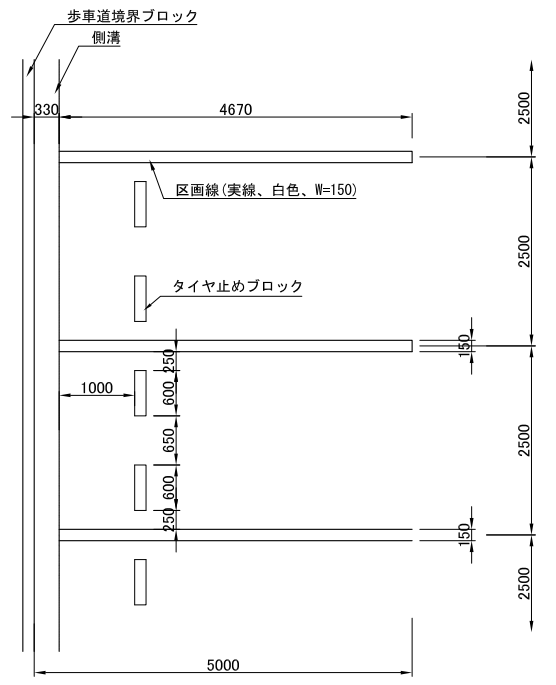
10 メッシュフェンス (H=1.8m) A1版S=1:20、A3版S=1:40



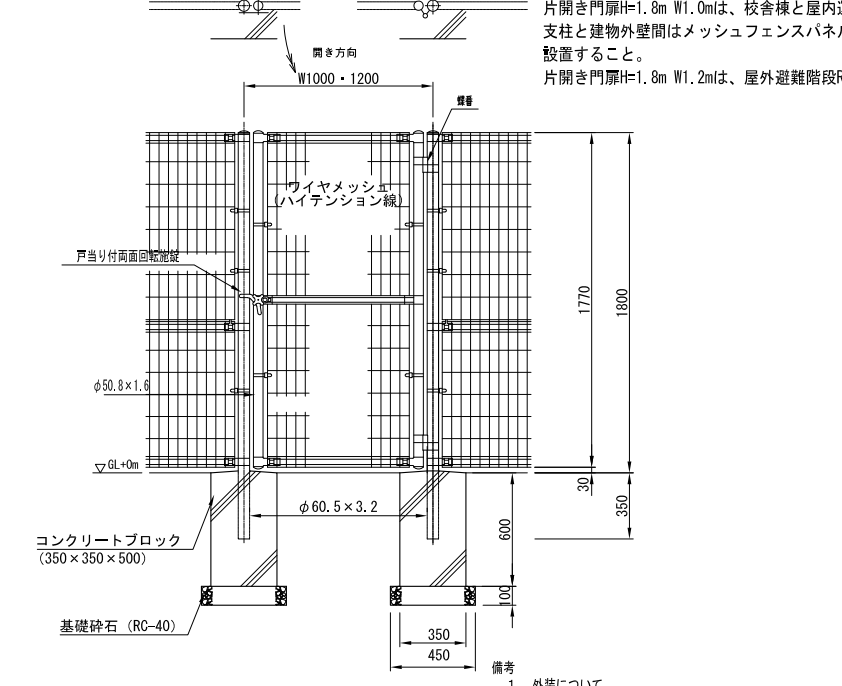
設計条件
 設計荷重・・・建築基準法・同施行令(平成12年6月)に基づく風圧力に依る。
 基準風速・・・3.6m/sec
 地表面粗度区分・・・Ⅲ
 基礎条件・・・長期許容地耐力 100kN/m²

備考
 1. 外装について
 ・主柱、ジョイント ・・・亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきの上高耐候性樹脂粉体塗装
 ・押え金具、ワイヤメッシュ ・・・亜鉛・アルミ合金めっきの上高耐候性樹脂粉体塗装
 ・バンド ・・・亜鉛・アルミ合金めっきの上高耐候性樹脂粉体塗装
 ・U型金具 ・・・亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきの上防錆着色処理
 ・ボルト、ナット ・・・溶融亜鉛めっきの上防錆着色処理
 ※朝日ステール工業(株) UN-A1800L-50同等品以上とする。

12 駐車ます標準図 A1版S=1:50、A3版S=1:100



11 メッシュフェンス片開き門扉 (H=1.8m W=1.0m・1.2m) A1版S=1:20、A3版S=1:40



片開き門扉 設計条件
 設計荷重・・・建築基準法・同施行令(平成12年6月)に基づく風圧力に依る。
 基準風速・・・3.6m/sec
 地表面粗度区分・・・Ⅲ
 基礎条件・・・長期許容地耐力 100kN/m²

備考
 1. 外装について
 ・門柱、枠体、パネル取付金具類 ・・・亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきの上高耐候性樹脂粉体塗装
 ・ワイヤメッシュ、網 ・・・亜鉛めっきの上高耐候性樹脂粉体塗装
 ・ボルト、ナット ・・・溶融亜鉛めっきの上防錆着色処理(SUS品を除く)
 ・戸当り付両面回転施設 ・・・溶融亜鉛めっきのみ
 2. 本図門扉は片側180°開きとする。

※朝日ステール工業(株) H1800-50xW1000同等品以上とする。